履修要項・シラバス

2022

札幌保健医療大学
保健医療学部　看護学科

目　次

Ⅰ　履修要項

Ⅰ－1 本学の教育理念 …… 2
Ⅰ－2 本学の教育目的 …… 2
Ⅰ－3 看護学科の教育目的 …… 2
Ⅰ－4 本学の教育目標 …… 3
Ⅰ－5 看護学科の教育目標 …… 3
Ⅰ－6 札幌保健医療大学の三方針
１）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） …… 4
２）看護学科カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針） …… 5
３）アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針） …… 6
Ⅰ－7 履修について
１）学期 …… 7
２）修業年限・在学年限 …… 7
３）単位制・学年制 …… 7
４）授業科目 …… 7
５）科目の履修および登録 …… 8
Ⅰ－8 授業について
１）授業時間 …… 9
２）休講・補講・集中講義 …… 9
３）欠席の取扱い …… 10
４）天候による非常事態への対応 …… 11
５）授業評価アンケート …… 11
Ⅰ－9 試験について
１）試験の種類・手続き …… 12
２）受験資格 …… 13
３）試験の方法 …… 13
４）試験時間 …… 13
５）受験心得 …… 14
６）不正行為 …… 14
Ⅰ－10 単位・成績について
１）単位について …… 15
２）単位修得に関する事項 …… 15
３）成績通知 …… 17

Ⅱ　看護学科

Ⅱ－１ 看護学科の履修用件（先修条件）

１）実習の先修条件 …… 20

２）臨地実習における追実習と再実習について …… 21

３）実習以外の科目の先修条件 …… 22

４）その他の履修要件について …… 22

Ⅱ－２ 看護学科の卒業要件・進級要件

１）卒業要件 …… 23

２）進級要件 …… 23

Ⅱ－３ 看護学科の資格の取得

１）看護師国家試験受験資格 …… 24

２）保健師国家試験受験資格（選抜制） …… 25

３）養護教諭二種免許 …… 26

Ⅱ－４ 教育目標とディプロマ・ポリシー …… 27

Ⅱ－５ 教育課程表（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧） …… 28

Ⅱ－６ 科目配置表 …… 32

Ⅱ－７ オフィスアワー …… 34

Ⅱ－８ 2022年度学事暦 …… 38

Ⅲ　シラバス

授業科目名と担当者一覧 …… 40

1年次 …… 43

2年次 …… 137

3年次 …… 215

4年次 …… 277

Ⅳ　規程（学則・教務に関する諸規程）

札幌保健医療大学学則 …… 318

札幌保健医療大学保健医療学部履修規程 …… 332

札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則 …… 337

札幌保健医療大学試験規程 …… 343

札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程 …… 345

札幌保健医療大学既修得単位認定規程 …… 349

Ⅰ　履修要項

Ⅰ－１ 本学の教育理念

本学は、吉田学園の建学の精神に込められた「豊かな人間性」と「職業人としての基礎能力」をもつ人財を育成する伝統を継承しています。

本学は、学生一人ひとりの人間力として、「豊かな感性」「高潔な精神」「確かな知力」を培い、これらの人間的調和と自己成長をはかるとともに、「他者と共存」できる医療人を育成します。

この教育理念の実現によって、社会から必要とされる人財を地域に輩出することで、保健医療福祉の充実・向上に貢献します。

◆本学の教育がめざす、人間力とは、
・豊かな感性：人の心に寄り添い、他者の思いや苦悩を汲み取る力
・高潔な精神：真・善を追求し、公共の使命と責任を全うする意志力
・確かな知力：人間的な判断と行動の知的拠り所となる力
・他者との共存：多様な文化や社会、個性ある互いを認め合い、他者と共に生きる力

Ⅰ－２ 本学の教育目的

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

Ⅰ－３ 看護学科の教育目的

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

Ⅰ－４ 本学の教育目標

（1）人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。
（2）生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。
（3）人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。
（4）保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度を有し、実践力のある人材を育成する。
（5）社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。
（6）保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。

Ⅰ－５ 看護学科の教育目標

（1）自己の良心と社会規範に従い、自己を統制し、責任ある行動のできる看護専門職者を育成する。
（2）目的に適った情報の収集と論理的な思考・判断を行い、適切に表現できる看護専門職者を育成する。
（3）生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる看護専門職者を育成する。
（4）人間・環境・健康を体系的に理解し、人間の生活と環境・健康の関係について社会的視点から多角的に捉えることのできる看護専門職者を育成する。
（5）看護の対象となる個人・家族・集団・地域社会の健康課題を多角的にその人らしい健康生活を送るための支援を考え、実践できる看護専門職者を育成する。
（6）社会と保健医療福祉分野での看護職の役割と責務を認識し、多職種および関係者と連携・協働できる看護専門職者を育成する。
（7）保健医療福祉の動向を捉え、看護の専門性を探求し、将来にわたり能力向上のために自己研鑽し続ける看護専門職者を育成する。

Ⅰ－６ 札幌保健医療大学の三方針

１）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学において卒業時に修得できる学位の名称は、次のとおりです。

学科	学位
看護学科	学士（看護学）
栄養学科	学士（栄養学）

本学の保健医療学部看護学科・栄養学科は、教育理念・目的をふまえ、学部教育目的の「人間と自然、多様な文化や社会に関する知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「専門分野の基礎知識・技術・態度」「多職種との連携協働力」「生涯学習力」の６つの資質・能力のもと、下記の到達目標に応じた看護師、管理栄養士の専門職業人としての人間的基盤の形成および、各専門的能力を修得するとともに各国家試験受験資格の要件となる単位を含む 129 単位以上（看護学科）の修得を求めます。これらの方針を満たした者は、看護学科においては学士（看護学）、栄養学科においては学士（栄養学）の学位を授与します。

【看護学科】

DP1-1 社会の一員として社会規範を守り、自己統制力及び責任ある行動力を身につけている。

DP1-2 情報収集力・論理的思考力・多様な表現力を総合的に身につけている。

DP2　生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる能力を身につけている。

DP3　人間・環境・健康に関する知識を活用し、人間の生活と環境・健康に関わる社会的な諸課題を多角的に捉える能力を身につけている。

DP4　地域に暮らす生活者を全人的に理解し、看護の対象となる個人・家族・集団・地域社会の健康課題を明らかにし、その解決を図るために必要な実践力の基礎を身につけている。

DP5　保健医療福祉を担う看護職の役割と責務に基づき、対象者の QOL の向上に向けて多職種及び関係者と連携・協働できる能力の基礎を身につけている。

DP6　保健医療福祉及び看護の発展を志向し、看護職としての専門的能力を継続的に向上させるために必要な能力を身につけている。

２）看護学科カリキュラム・ポリシー（教育課程の基本方針）

看護学科では、社会人としてまた看護職として必要な知識・技術・態度および専門的実践力を修得し、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力を身につけるために、次のような教育内容・教育方法・評価方法によってカリキュラムを編成し実施します。

＜教育内容＞

（１）教育課程（カリキュラム）を「基礎教育」と「専門教育」で編成します。

基礎教育では、「人間」と「環境（自然・社会・文化）」について広く学び、社会人としての基盤を形成するための科目を、看護学科・栄養学科の共通および合同科目として配置します。

専門教育では、看護職の専門分野において基礎となる知識・技術・態度および専門的実践力の基礎とその応用力を育成するため、「専門基礎科目」と「専門科目」の科目を配置します。

（２）学修の過程は、教育内容の専門性の深化を考え、「基礎教育科目」から「専門基礎科目」、「専門科目」へと、学生が学びやすい設定にします。

学年進行に合わせて学修の積み上げができるように、基礎教育科目を原則１～２年次に、専門基礎科目を主として２年次までに、専門科目を1～4 年次に配置します。

（３）大学での学修を支援するために本学独自の科目を配置し、主体的な学修と学業継続に必要なスキルを育成します。

学生が本学の教育理念を学び、大学生活に早期に適応でき、大学での主体的学修と学業継続の基礎となるソーシャル・スキルおよびアカデミック・スキルを高めることができるように、本学独自に栄養学科との合同科目「学びの理解」を配置します。

（４）保健医療福祉に関する社会活動への参画や協働体験をする科目を配置し、学生の主体性、社会性と責任感を育てます。

看護職を目指す学生が自ら考え行動し、社会活動に参画、協働する意欲、社会性、責任ある行動力を身につけ、専門科目を履修する際の基盤づくりができるように、保健医療福祉に関する活動で体験した多様な学びを単位として認定する選択科目「特別総合科目」を配置します。

（５）地域の保健医療福祉への理解を深める科目を配置し、地域に暮らす生活者の理解と健康生活を支援する関係職種の連携・協働力を育成します。

地域に暮らす人々の生活や健康を理解し、看護職として必要な支援を考える専門科目を１年次から配置します。また、各学年の学修進度に合わせ、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護職としての専門性や役割の理解を深めることができるように、看護職に必要な保健医療福祉の基礎科目や専門科目と並行し、１～４年次に栄養学科との合同科目として「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」を配置します。

（６）看護の専門性を追究する専門科目として複数の選択科目を配置し、看護職としてのキャリア形成を促します。

学生がキャリア形成について考える専門科目として、２年次に「スポーツと看護」、４年次に「クリティカル看護論」「慢性看護論」「国際看護論」「栄養サポートチーム論」などの選択科目を配置します。

＜教育方法＞

（1）各科目の特性によって、講義、演習、実習の授業形態を適切に取り入れ、学修効果の向上を図る教育を展開します。

（2）演習・実習科目において、1年次からさまざまなアクティブ・ラーニング手法を導入し、社会性や協調性、主体性、論理的思考を培い、コミュニケーション力の向上を図ります。

（3）専門教育の知識基盤となる初年次の理系科目では、基礎学力の向上を促進するため、入学前のプレ学習、入学直後の補習を行います。

（4）１～４年次を通して、学年担任を中心に適宜面談を行いながら、ポートフォリオの活用や継続的な学修指導を行い、学修の振り返りと課題の明確化を促し、学びの向上を支援します。

＜評価方法＞

（1）シラバスに記載されている各科目の明確な評価方法と基準に基づいて到達度を厳格に評価します。

（2）各科目とディプロマ・ポリシーとの関連を可視化し、学修成果の到達度を評価します。

（3）各年次終了時に、学則に定める進級制度により進級の可否を判断します。

（4）GPA(グレード・ポイントの設定)制度を導入し、学修状況の評価・判定を行います。

（5）学期ごとに授業評価アンケートを実施し、授業の評価とともに授業に対する学生の取り組み姿勢についての自己評価を行います。

3）アドミッション・ポリシー（入学者の受入れ方針）

求める学生像

（1）確かな学力を持った人

基礎学力を有し、学修意欲があり積極的に課題解決に取り組む人。入学後、真摯に積極的な態度で学修に取り組む人。

（2）保健医療への関心がある人

人々の健康と生活を支える看護学・栄養学に興味・関心を持っている人。入学後、広い視野から人々の健康生活に興味・関心を持てる人。

（3）豊かな社会性を備えている人

社会の一員として責任を持ち、相手の立場になって考え、様々な人と協力し合いながら行動できる人。入学後、積極的に他者とのコミュニケーションを通じて自分の立場を理解し、責任を持って行動できる人。

（4）強い向上心を持っている人

保健医療に携わる看護師、保健師、管理栄養士として地域に貢献する意欲を持ち、生涯にわたって学びを継続しようと努力する人。入学後、地域に対して何ができるかを考え、様々な問題の解決に向かって行動できる人。

Ⅰ－7 履修について

1）学期

学年を分けて、次の２学期とします。

前期	後期
４月１日～９月 30 日	10 月１日～３月 31 日

2）修業年限・在学年限

●修業年限：４年（学則第 14 条）
卒業に必要な単位数を修得しても４年以上在学しなければ卒業ができません。

●在学年限：８年（学則第 15 条）
８年を超えて在学することができません。８年で卒業できない場合は、除籍となります。

●休学期間：１年（学則第 34 条）
ただし、特別の理由がある場合は、１年を限度として休学期間の延長を認めることができます。通算して４年を超えることができません。

3）単位制・学年制

単位制の入学生 （看護学科のみ）	2015 年度（平成 27 年度）以前入学生
学年制の入学生	2016 年度（平成 28 年度）以降入学生

4）授業科目

授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目および教職に関する科目になります。また､所定の単位数と授業回数が定められており、以下のとおり区分されています。

●必修科目：
卒業までに単位を修得しなければならない科目です。

●選択科目：
卒業までに定められた各区分の必要単位数以上を修得しなければならない科目です。

●選択必修科目：
選択必修科目として指定された科目の中から、必要単位数を修得しなければならない科目です。

５）科目の履修および登録

●履修登録について

（１）履修をする科目は、履修登録をしなければなりません。各年次４月の履修登録期間内に１年分を本人が登録します。
（２）期間内に履修登録しなかった場合の履修は認められません。
（３）各学期の履修訂正期間に履修科目の変更（追加・取消）を行うことができます。
（４）在学する学年より上位学年に配当されている科目を履修登録することはできません。
（５）休学中または学費未納の学生は、履修登録および受講、試験の受験はできません。
（６）同一曜日で同一時限に２科目以上を重複して履修登録をすることはできません。
（７）前年度までに履修し、単位を修得した科目を再度履修登録することはできません。
（８）１年間で履修登録可能な単位数には、上限があります（ＣＡＰ制）。
（９）当該年度に単位を修得できず、翌年度以降に再度履修することを再履修といいます。

●ＣＡＰ制について

大学で学修する講義・演習・実習・実験などの各授業科目には単位数が定められており、単位を修得するためには、大学における授業に加えて予習・復習からなる自己学習が必要です（p. 14 を参照）。

本学では、学修すべき授業科目を精選して十分な学修時間を確保し、授業内容を深く修得できることを目的にＣＡＰ制を導入しています。ＣＡＰ制とは、各学年が履修できる一年間の総単位数に上限を設定することで、各学科のディプロマ・ポリシーを達成するための学修を計画的に進められるよう適切に授業科目を履修できることを目的とした制度です。１年間の履修科目登録単位の上限は、学科により異なります。また、４月に履修相談会を実施します。

なお、再履修科目はＣＡＰ制の対象外となります。

項目	看護学科
履修科目登録単位の上限（１年間）	**45 単位**
ＣＡＰ制対象外の科目	・再履修科目

※編入生、転学科した学生は、「ＣＡＰ制」の対象外になります。

Ⅰ－８ 授業について

１）授業時間

授業時間は、１時限９０分を原則としています。

時　　限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
授業時間	９:30～11:00	11:10～12:40	13:30～15:00	15:10～16:40	16:50～18:20

２）休講・補講・集中講義

休講、補講、講義変更等の連絡は、掲示板でお知らせします。

休　　講	担当教員等の都合により予定されていた授業が行われないことを「休講」といいます。
補　　講	休講等により授業時間が不足した場合、授業回数を補うために「補講」が行われます。
集中講義	科目によっては、通常の時間割以外のある一定期間（長期休業日等）に集中して授業を行います。これを「集中講義」といいます。

3）欠席の取扱い

（1）欠席により、授業への出席回数不足が生じると、失格となります。
（2）授業を欠席した場合は、欠席日を含めた原則５日以内に授業欠席届を学務課に提出してください。
（3）遅刻、早退などにより授業を 60 分以上受講しない場合は、欠席として取り扱います。
（4）下記の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った場合は、「大学が認める特段の理由」による欠席として扱われ、補講等の配慮を受けることができます。その際は、理由を明確にする証明書類を授業欠席届に添付のうえ、欠席日を含めた原則５日以内に学務課に提出してください。
（5）試験を欠席した場合は、p. 12 を確認してください。
（6）実習を欠席した場合は、p. 21 を確認してください。
（7）その他、疾病等のやむを得ない事由で長期欠席（連続７日以上欠席）する場合は、長期欠席届を学務課へ提出してください。
（8）「大学が認める特段の理由」以外の授業の欠席については、特段の指示がない限り病院等の診断書は不要です。

大学が認める特段の理由による欠席の適用範囲

欠席事由	許可日数		必要添付書類等
災害、公共交通機関の障害	当該日のみ		・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書
忌引き	配偶者	７日以内	・新聞の死亡欄又は葬儀礼状等 ・保護者による証明書（要押印）
	一親等 父母、子	７日以内	
	二親等 祖父母、兄弟姉妹	３日以内	
インフルエンザ等の感染症による出席停止（学生便覧参照）	医師の診断書により、出席停止を必要とされた期間に限る		・医師の診断書 ※病名、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要。 ・登校許可証明書（感染症用）等
その他教務委員会が認めた事由	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る		・欠席事由を証明できる書類等

【提出期限】
① 授業の場合：欠席日を含めた**原則５日以内**に**「授業欠席届」**に必要書類を添付し、学務課に提出してください。
② 試験の場合：**指定された日時**までに**「追試験受験願」**に必要書類を添付し、学務課に提出してください。

※新型コロナウイルス感染予防に関わる欠席は、大学 HP「新型コロナウイルス感染症への本学における対応について」を確認してください。

４）天候による非常事態への対応

悪天候が予想される場合は、必ず下記の時刻に天気予報を確認してください。なお、休講措置については、確認の意味から学生緊急メールに一斉送信します。メールが受信できない学生は、必ず事前に設定を行っておいてください。

（１）学生の休講措置の条件

午前７時および午前11時の時点で石狩中部（札幌市、江別市）または石狩全域に次のいずれかの特別警報または警報が発令された場合は、午前および午後の授業を休講にします。

確認時刻	休講する時限
午前７時	１・２時限の授業を休講にします。
午前11時	３・４・５時限の授業を休講にします。

（２）発令警報の種類

①「暴風特別警報」または「大雨特別警報」が発令されている場合
②「暴風警報」と「大雨警報」が同時発令されている場合
③「大雪特別警報」または「大雪警報」が発令されている場合
④「暴風雪特別警報」または「暴風雪警報」が発令されている場合

※１．注意報は該当しません。
※２．日本気象協会では、石狩全域を次の３つに分類しています。
・石狩北部【石狩市、当別町、新篠津村】
・石狩中部【札幌市、江別市】
・石狩南部【千歳市、恵庭市、北広島市】

（３）地震等の災害が発生した時に一斉に緊急メールを送信するので、その指示に従ってください。

５）授業評価アンケート

履修しているすべての科目について、授業評価アンケートを行います。アンケートの結果は、データ化して記述式回答とともに各科目担当者へフィードバックし、今後の授業改善および組織的教育改善に活用します。集計結果は、掲示および図書館にて開示します。

Ⅰ－９ 試験について

１）試験の種類・手続き

（１）定期試験

原則として、学期末（前期末と後期末）の指定された期間に実施する試験です。ただし、学期途中で終了した科目については、学期末以外の時期に実施することがあります。

（２）追試験

正当な理由によって、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を欠席した場合に実施する試験です。

評点の上限は、定期試験と同様の扱いとします。届け出をし、教務委員会に認められた場合、各科目１回限り受験することができます。

【追試験受験手続きの流れ】

①「大学が認める特段の理由」による欠席（p. 10 の欠席事由に該当）

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出	➡	教務委員会で認められた場合	無料で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

②「やむを得ない事由」による欠席

理由を明らかにする証明書類を「追試験受験願」に添付のうえ、指定された日時までに本人が学務課に提出	➡	教務委員会で認められた場合	１科目 300 円で受験できます
		教務委員会で認められなかった場合	追試験を受験できません

※体調不良で定期試験を欠席した場合は、必ず病院等を受診し、診断書を追試験受験願に添付のうえ、学務課へ届け出てください。

診断書には、病名のほか、受診日および出席停止期間（自宅療養に要する日数または出席停止解除日）の記載が必要です。

受診日と診断結果、病名のみの診断書、また病院等を受診せず、市販薬の領収書等を添付しても証明書としては認められません。

（３）再試験

定期試験において不合格となり、再試験の該当となった場合は、指定された日時までに学務課窓口にて、本人が受験手続を行ってください。

受験料は１科目 2,000 円です。

再試験は、原則として各科目１回限り受験することができます。

なお、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）を正当な理由なく欠席した場合は、再試験を受験することはできません。

２）受験資格

以下のすべてに該当しなければ試験を受けることはできません。受験資格のない者が試験を受けても単位は与えられません。

（１）履修登録をしていること。

（２）講義、演習、実習および実技における授業出席時間数が、その授業実施時間数の３分の２以上であること。

授業で失格になる欠席回数	
８回実施科目の場合	４回の欠席で受験資格を失います。
15 回実施科目の場合	６回の欠席で受験資格を失います。
30 回実施科目の場合	11 回の欠席で受験資格を失います。

（３）授業料その他納付金を納めていること。また、追・再試験の場合は、必要な手続きをしていること。

（４）学生証を提示していること。また、追・再試験の場合は、受験許可書または受験票とともに提示すること。

３）試験の方法

試験は、以下のいずれかの方法で行います。

試験形式	①筆記試験、②口述試験、③レポート試験、④実技試験 ※各科目の試験方法は、シラバスの「評価方法・基準」にて確認してください。

４）試験時間

試験の時間割は、必ず掲示で確認してください。

試験時間は、原則１時限 60 分ですが、科目によっては 90 分の場合もあります。なお、天候等により試験時間の開始時間が遅くなる場合があります。

時　　限	１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
試験時間	９:30～10:30	11:00～12:00	13:00～14:00	14:30～15:30	16:00～17:00

５）受験心得

受験にあたっては、下記の注意事項に十分留意のうえ、試験に臨んでください。
また、体調管理を行い、早めに登校するよう心がけてください。特に冬は交通機関の乱れが予想されますので注意が必要です。

（１）受験者は、必ず学生証を携行し、試験の際は、試験監督者の見やすい通路側の机上に提示しなければなりません。
　また、追・再試験の場合は、それぞれの受験許可書または受験票も必ず提示してください。
（２）学生証を紛失または忘れた場合は、学務課で仮学生証を発行します。仮学生証は、発行当日のみ有効で発行手数料は、300 円です。
（３）指定された座席で受験してください。教室に座席表が貼られるので確認のうえ着席してください。
（４）試験開始10分前には着席してください。
（５）試験開始後20分以上遅刻した者は、受験を認めません。遅刻による試験時間の延長も行いません。
（６）試験開始後30分が経過するまでは、退室を認めません。
（７）試験場における物品の賃借および私語を禁じます。
（８）答案用紙は、原則として再配付しません。
（９）机上には、学生証(追・再試験受験票）、シャープペンシル、替え芯、鉛筆、消しゴム、時計（時計機能だけのもの）、ハンカチ、目薬、特に持ち込みを許可されたものを置くことができ、ティッシュペーパーの使用は、申し出があった場合のみ、中身だけを机上に置くことができます。それ以外の持ち物は、すべて椅子の下に置いてください。
　※それ以外に必要なものがある場合は必ず申し出てください。
(10) 携帯電話や音の出る機器は、電源を切り、かばんに入れてください。
(11) 答案用紙を提出する場合は、試験監督者の指示する場所に提出してください。
(12) 体調不良、トイレに行きたい場合などは、挙手をして試験監督者に申し出てください。ただし、原則再入室はできません。
(13) その他、試験場においては、すべて試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、不正行為と同様に扱います。
(14) 解答用紙には、必ず学籍番号と氏名を記載してください。

６）不正行為

不正行為または疑わしい行為（試験監督者の指示に従わない者も含む）は、即時退室を命じ、それ以降の受験を停止するとともに、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第46条により、懲戒処分を行います。

Ⅰ-10 単位・成績について

1）単位について

単位とは、科目を修得するために必要な学習量を示すもので、単位の計算方法は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとしています。例えば、１単位の講義の単位を修得するためには、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習の自己学習が伴った45時間の学修をし、授業実施時間数の３分の２以上出席して試験等の評価を受けて合格した場合に授与されます。本学では90分の授業で２時間相当の授業時間とみなしており、90分の講義に対して２時間の予習と２時間の復習が必要です。授業時間だけではなく、自学自習時間として、予習・復習を行う必要がありますので、以下に例を記載します。

（１）授業形態ごとの単位の計算方法

単位数は、各授業科目に定められており、授業形態によって必要な学習時間が異なります。本学では、次の基準により計算しています（学則第24条）。

講義・演習	講義と演習は、15時間から30時間の範囲内で定める時間の授業をもって１単位とします。
実験・実習・実技	実験・実習および実技は、45時間をもって１単位とします。
卒業研究等	卒業研究等の授業科目は、その学修の成果を考慮して単位数を定めます。

（２）単位と自学自習時間について

区分	具体例	必要学修時間	授業時間	授業時間以外の自学自習時間
講義	２単位の講義科目を修得するための学修時間	90時間 （45時間×２単位）	30時間 （２時間×15回）	60時間 （４時間×15回）
演習	１単位の演習科目を修得するための学修時間	45時間 （45時間×１単位）	30時間 （２時間×15回）	15時間 （１時間×15回）
実習	１単位の実習科目を修得するための学修時間	45時間 （45時間×１単位）	45時間 （３時間×15回）	―

2）単位修得に関する事項

（１）成績評価

① 成績評点は100点満点とし、60点以上を合格、60点未満を不合格とします。

② 成績は、秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（60点未満）で表示され、可以上を合格とします。

③ 追試験の評価は１００点満点とし、再試験の評価上限は６０点とします。

④ 修得した科目（単位）の成績評価は、成績表に記載されます。成績表には、過去に修得したすべての科目の成績が記載されています。

（２）ＧＰＡ制度

本学はＧＰＡ制度を導入しています。ＧＰＡ制度とは、学生が履修登録した全科目の成績評価、評定に対して点数（グレード・ポイント（以下ＧＰ）を設定し、履修登録科目単位数を基に平均値を算出し、履修計画や学修指導、保健師国家試験受験資格希望者選抜、就職活動の際の学校推薦者選抜などに役立てるものです。

ＧＰＡの最高値は「4.00」、最低値は「0.00」となります。

① 成績評価とＧＰ

評価区分	評定（英語表記）	付加するＧＰ
100～90 点	秀（S）	4
89～80 点	優（A）	3
79～70 点	良（B）	2
69～60 点	可（C）	1
60 点未満（59～０点）	不可（D）	0
出席時間数の ２／３に満たない者	失格（P）	0
学期途中での休学、退学	評定不能（W）	0
既修得単位認定科目	認定（N）	ＧＰＡの対象としない

② ＧＰＡの算出方法

上表の「付加するＧＰ」を基に計算を行います。

$$\mathrm{GPA}=\frac{(\text{「秀」の単位数}\times 4+\text{「優」の単位数}\times 3+\text{「良」の単位数}\times 2+\text{「可」の単位数}\times 1)}{\text{総履修登録単位数}}$$

※算出された数値の小数点第３位以下は切り捨てる。

③ ＧＰＡに関する注意事項

ａ）転学科（栄養学科）については、単位認定した科目の成績は「認定」となることから、ＧＰＡ算出の対象になりません。

ｂ）履修訂正期間内に取り消し手続きを行わなかった場合や履修放棄した場合などは、不合格科目もＧＰＡの算出に含まれます。履修をやめた科目や不必要な科目は、必ず履修登録の訂正期間に取り消しの手続きを行ってください。

ｃ）累積成績に基づくＧＰＡを算出する際に、再履修科目が合格した場合は、当該科目を履修する以前に不合格となった科目（単位数）は計算式（分母）から除きます。

ｄ）入学前に修得した単位のうち、本学で既修得単位と認定した科目は、ＧＰＡの対象にはなりません。

（３）他大学等における科目の履修等（学則第26条参照）

① 教育上有益と認める時は、他大学等との協議に基づき、当該他大学等の科目を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認められる場合があります。

② 入学前の既修得単位の認定（学則第28条参照）

入学する前の大学または短期大学等において修得した単位について、審査を受け承認されると本学の科目として単位が認定されます。なお、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えることはできません。詳細は、「既修得単位認定規程」をご覧ください。

（４）転学科における科目の履修等

転学科前に在籍していた学科で履修した科目の単位認定は、該当科目において行われます。２年次以降の科目の履修については、担任または学務課で相談してください。

3）成績通知

最終評価が記載された成績表は、学期末の試験終了後に学生および保護者に通知します。

保護者への送付時期
- ●前期：９月下旬
- ●後期：３月下旬

Ⅱ　看 護 学 科

Ⅱ－１ 看護学科の履修要件（先修条件）

１）実習の先修条件

臨地実習に係る科目を履修するためには、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目があり、**『先修条件』**として次のとおり細則で定めています。

臨地実習を受講する際は、各実習のオリエンテーションで「実習要項」を配付しますので、熟読して臨んでください。臨地実習先（病院など）や時期は、科目によって異なります。

【2022 年度以降の入学生に適用】

先修条件のほか、専門基礎科目の必修科目については、その科目の開講年度に単位を修得していなければ、次年度開講科目の履修ができません。

科　　目	先修条件 （単位を修得していなければならない科目）
看護基礎実習Ⅱ	２年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護技術論Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	３年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	３年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習Ⅰ	３年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	母性看護実習Ⅱ、小児看護実習、精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び４年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護対象論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論、公衆衛生看護管理論）「保健医療福祉行政論」「疫学」「健康政策論Ⅰ」「保健統計学Ⅱ」のすべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

2）臨地実習における追実習と再実習について

（追実習）
　臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいいます。

・追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後５日以内に学務課に提出してください。
・所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目１回限り実習することができます。
・追実習は履修登録した年度の当該科目の開講期間内に追実習期間を設定し実施します。
・追実習は当該科目の単位認定に必要な日数分すべて行います。
・単位認定のためには、原則３分の２以上の出席が必要です。
・評価は、通常の単位認定評価と同様とします。

（再実習）
　臨地実習における再実習とは、不合格（60 点未満）となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいいます。

・看護学科の再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできません。
・当該実習科目は、次年度に再度履修登録を行い実習に臨まなければなりません。
・単位認定のためには、原則３分の２以上の出席が必要です。
・再実習の評価の上限は可（60 点）とします。ただし、次年度に再度履修登録した科目の評価は通常の単位認定と同様とします。

3）実習以外の科目の先修条件

また、下記の科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得または修得見込みでなければなりません。

科　　目	先修条件 （単位を修得していなければならない科目）
成人看護活動論Ⅱ	成人看護活動論Ⅰ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護活動論Ⅱ
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護支援論Ⅰ	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護対象論Ⅰ	
公衆衛生看護対象論Ⅱ	
公衆衛生看護展開論	
公衆衛生看護管理論	
公衆衛生看護支援論Ⅱ	公衆衛生看護支援論Ⅰ
	公衆衛生看護対象論Ⅰ
	公衆衛生看護対象論Ⅱ
	公衆衛生看護展開論
	公衆衛生看護管理論
健康政策論Ⅱ	健康政策論Ⅰ
	公衆衛生看護実習Ⅰ
	公衆衛生看護実習Ⅱ
	公衆衛生看護実習Ⅲ

4）その他の履修要件について

（1）「実践総合演習」の履修は、看護総合実習が不合格又は未履修の場合、履修することができない。

Ⅱ－２ 看護学科の卒業要件・進級要件

１）卒業要件

４年以上在学し、卒業に必要な単位数を修得していることが必要です。

科目区分	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目	小計
必修単位	15 単位	24 単位	73 単位	112 単位
選択単位	９単位以上	３単位以上	４単位以上	17 単位以上
選択必修単位　※	―	―	「クリティカル看護論」 「慢性看護論」 「リハビリテーション看護論Ⅱ」 から１単位	
小　　計	24 単位以上	27 単位以上	78 単位以上	129 単位以上
合　　計	129 単位以上			

※選択必修科目を２科目以上選択した場合は、２科目目から選択科目に振り替えることができる。

２）進級要件

上級学年に進級するためには、次の要件を満たしていることが必要です。

●２年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
１年以上	―	１年次に配当されている必修科目のすべてを修得	１年次に配当されている必修科目のすべてを修得

●３年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
２年以上	配当されている必修科目のすべてを修得 選択科目７単位以上	２年次に配当されている必修科目のすべてを修得	２年次に配当されている必修科目のすべてを修得

●４年次進級

在学期間	基礎教育科目	専門基礎科目	専門科目
３年以上	―	―	３年次に配当されている必修科目のすべてを修得

Ⅱ－３ 看護学科の資格の取得

１）看護師国家試験受験資格

本学保健医療学部看護学科を卒業した者は、看護師の国家試験受験資格を取得することができます。

（１）国家試験申請手続きの流れ

時期（予定）	内　容
11 月	国家試験ガイダンスの実施
12 月	大学から願書を一括提出
２月	受験票配付と免許申請ガイダンスの実施
２月	保健師・看護師国家試験
２月	卒業判定会議で卒業の認定
３月	国家試験合格発表

（２）免許申請について

国家試験合格後の免許の申請は、各自で行ってください。

２）保健師国家試験受験資格（選抜制）

本学保健医療学部看護学科が指定する科目を修得して卒業した者は、保健師の国家試験受験資格を取得することができます。定員は 20 名です。

保健師国家試験受験資格取得を希望する学生は、公衆衛生看護学履修生審査会の審査が必要なため、次の選抜基準を満たしたうえで、申請書類を提出してください。

（１）選抜基準

① 保健師への興味・関心及び学習意欲が認められること。
② ２年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。
③ ２年次までの専門科目（必修）の全科目成績評価において、ＧＰＡが原則として２．５以上であること。
④ ２年次の公衆衛生看護学概論の成績評価が「良」以上で単位を修得していること。

（２）提出書類

① 履修申請書
② 志望理由書

（３）審査方法

公衆衛生看護学履修生審査会（以下、『審査会』といいます。）において、提出書類及び専門科目の成績や学習活動状況等について、公正かつ客観的に総合的に審査し選抜します。

●第一次審査：履修申請書及び志望理由書等の書類審査
●第二次審査：面接審査を実施

（４）提出方法及び提出期限（手続きの流れ）

選抜方法については、１年次の入学ガイダンスから説明を開始します。

年　次	時期（予定）	内　容
３年次	４月	一次審査：履修申請書、志望理由書提出
	５月	二次審査：申請者への面接実施（成績確認）
	５月	最終審査：審査会による総合審査
	６月	掲示にて審査結果を発表
	10 月～	対象科目受講

（５）保健師国家試験受験資格取得要件

卒業要件とあわせて次表の科目を修得していることが必要です。

科目区分	科目名	単位数
専門基礎科目	疫学	２単位
	保健医療福祉行政論	１単位
	健康政策論Ⅰ	１単位
	健康政策論Ⅱ	１単位
	保健統計学Ⅱ	１単位

科目区分	科目名	単位数
専門科目	公衆衛生看護学概論	１単位
	公衆衛生看護支援論Ⅰ	２単位
	公衆衛生看護支援論Ⅱ	２単位
	公衆衛生看護対象論Ⅰ	２単位
	公衆衛生看護対象論Ⅱ	１単位
	公衆衛生看護展開論	２単位
	公衆衛生看護管理論	２単位
	公衆衛生看護実習Ⅰ	２単位
	公衆衛生看護実習Ⅱ	２単位
	公衆衛生看護実習Ⅲ	１単位

３）養護教諭二種免許

下記の科目の必要単位数を修得し、かつ保健師免許を取得したうえで、各都道府県教育委員会に申請することによって、養護教諭二種免許を取得することができます。

保健師免許を取得する予定で、養護教諭二種免許も申請しようとする場合は、下記の必要科目の単位を修得してください。養護教諭二種免許取得申請に必要な科目は、次表のとおりです。

教職免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目		本学の授業科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
日本国憲法	２単位	法と人権	２単位
体育	２単位	スポーツ科学と運動	１単位
		スポーツ理論	１単位
外国語コミュニケーション	２単位	英語Ⅰ（基礎）	１単位
		英語Ⅱ（会話）	１単位
情報機器の操作	２単位	情報処理	１単位
		情報リテラシー	１単位

●免許状申請について

卒業後、保健師免許を取得したうえで、養護教諭二種免許の申請をする場合は、本学で「学力に関する証明書」（上記科目単位の取得を証明するもの）の発行を受けてください。１通 300 円になります。

北海道で申請する場合は、北海道教育委員会に確認し、各自で申請してください。

必要書類等は、北海道教育委員会のホームページで確認できます。

Ⅱ－４　教育目標とディプロマ・ポリシー

2022 年度以降入学生

看護学科

本学の教育目標	学科の教育目標	学科ディプロマ・ポリシー
１．人間力を涵養し、社会の一員としての社会的態度と行動をとることができる人材を育成する。	１．自己の良心と社会規範に従い、自己を統制し、責任ある行動のできる看護専門職者を育成する。	DP1-1 社会の一員として社会規範を守り、自己統制力および責任ある行動力を身につけている。
	２．目的に適った情報の収集と論理的な思考・判断を行い、適切に表現できる看護専門職者を育成する。	DP1-2 情報収集力・論理的思考力・多様な表現力を総合的に身につけている。
２．生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳と多様な価値観を尊重できる人材を育成する。	生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる看護専門職者を育成する。	DP2 生命への畏敬の念を抱き、人間の尊厳を守り、人々の多様な価値観を尊重できる能力を身につけている。
３．人間と環境と健康の相互作用を理解し、健康を社会的視点から捉えることができる人材を育成する。	人間・環境・健康を体系的に理解し、人間の生活と環境・健康の関係について社会的視点から多角的に捉えることのできる看護専門職者を育成する。	DP3 人間・環境・健康に関する知識を活用し、人間の生活と環境・健康に関わる社会的な諸課題を多角的に捉える能力を身につけている。
４．保健医療の専門職として求められる知識・技術・態度等を有し、実践力のある人材を育成する。	看護の対象となる個人・家族・集団・地域社会の健康課題を多角的にその人らしい健康生活を送るための支援を考え、実践できる看護専門職者を育成する。	DP4 地域に暮らす生活者を全人的に理解し、看護の対象となる個人・家族・集団・地域社会の健康課題を明らかにし、その解決を図るために必要な実践力の基礎を身につけている。
５．社会生活や保健医療福祉で関わる人々との連携および協働できる人材を育成する。	社会と保健医療福祉分野での看護職の役割と責務を認識し、多職種および関係者と連携・協働できる看護専門職者を育成する。	DP5 保健医療福祉を担う看護職の役割と責務に基づき、対象者の QOL の向上に向けて多職種および関係者と連携・協働できる能力の基礎を身につけている。
６．保健医療福祉の諸課題への探求心を持ち、将来にわたり学修し、成長し続ける人材を育成する。	保健医療福祉の動向を捉え、看護の専門性を探求し、将来にわたり能力向上のために自己研鑽し続ける看護専門職者を育成する。	DP6 保健医療福祉および看護の発展を志向し、看護職としての専門的能力を継続的に向上させるために必要な能力を身につけている。

Ⅱ－５ 教育課程表

（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

2022年度以降入学生　看護学科

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭二種免許希望者	卒業必要単位数
						1年		2年		3年		4年					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	看護師のみ	保健師希望者		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	講義	1		15								●	●	●	【基礎教育科目】 必修科目15単位 選択科目9単位以上 計24単位以上修得
		生物学	講義		1	15											
		化学	講義		1	15											
		論理的思考	講義	2		30								●	●	●	
		情報処理	演習	1		30								●	●	●	
		統計分析法	演習	1			30							●	●	●	
		情報リテラシー	演習	1			30							●	●	●	
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	演習	1		30								●	●	●	
		英語Ⅱ（会話）	演習	1			30							●	●	●	
		英語Ⅲ（読解）	演習		1			30									
		英語Ⅳ（総合）	演習		1				30								
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	演習	1		30								●	●	●	
		表現技法Ⅱ（討議・発表）	演習	1			30							●	●	●	
	人間と社会	心理学	講義	2		30								●	●	●	
		倫理学	講義	1		15								●	●	●	
		現代社会論	講義	2		30								●	●	●	
		生態学	講義		1	15											
		生活環境論	講義		2			30									
		教育学	講義		1				15								
		文学と人間	講義		1				15								
		スポーツ科学と運動	演習		1	30										●	
		スポーツ理論	講義		1		15									●	
		法と人権	講義		2		30									●	
		地域社会文化論	講義		2		30										
		国際社会論	講義		1				15								
		社会貢献と活動	演習		1			30									
	小　計（26科目）			**15**	**17**												
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	講義	2		30								●	●	●	【専門基礎科目】 必修科目24単位 選択科目3単位以上 計27単位以上修得 ※保健師国家試験 受験資格取得 希望者のみ履修可
		形態機能学Ⅱ	講義	2			30							●	●	●	
		感染免疫学	講義	2			30							●	●	●	
		病態学	講義	2			30							●	●	●	
		薬理学	講義	2				30						●	●	●	
		栄養代謝学	講義	2			30							●	●	●	
		臨床栄養学	講義		1					15							
		生涯発達論	講義	1		15								●	●	●	
		臨床心理学	講義	1				15						●	●	●	
		疾病治療論Ⅰ	講義	2				30						●	●	●	
		疾病治療論Ⅱ	講義	2					30					●	●	●	
	社会と健康	環境保健論	講義	1			15							●	●	●	
		社会福祉論	講義	2					30					●	●	●	
		疫学	講義		2					30					●	●	
		関係法規	講義	1			15							●	●	●	
		保健医療福祉行政論	講義		1					15					●	●	
		健康政策論Ⅰ※	演習		1							30			●	●	
		健康政策論Ⅱ※	講義		1								15		●	●	
		保健統計学Ⅰ	講義	1							15			●	●	●	
		保健統計学Ⅱ※	講義		1							15			●	●	
		生命倫理	講義	1				15						●	●	●	
		特別総合科目	演習		1		30										
	小　計（22科目）			**24**	**8**												

科目区分		授業科目の名称	学科ディプロマ・ポリシー ◎：強く関連するディプロマ・ポリシー、○：関連するディプロマ・ポリシー						
			DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	◎	○	○	○		○	○
		生物学			◎	○			
		化学			◎	○			
		論理的思考		◎					
		情報処理		◎					
		統計分析法		◎					
		情報リテラシー	○	◎					
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	○	◎	○				
		英語Ⅱ（会話）	○	◎	○				
		英語Ⅲ（読解）		◎					
		英語Ⅳ（総合）		◎					
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	○	◎					
		表現技法Ⅱ（討議・発表）	○	◎					
	人間と社会	心理学	○	○	◎	○			
		倫理学	◎	○		○			
		現代社会論	○	○	◎	○			
		生態学		○	○	◎			
		生活環境論	○	○	◎				
		教育学	◎	○	○				
		文学と人間	○	○	◎				
		スポーツ科学と運動	◎	○		○			
		スポーツ理論		○		◎			
		法と人権	◎	○	○	○			
		地域社会文化論		○	◎	○			
		国際社会論	○	○	◎	○			
		社会貢献と活動	◎	○	○				
	小　計（26科目）								
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ			○	◎			
		形態機能学Ⅱ			○	◎			
		感染免疫学			○	◎			
		病態学			○	◎			
		薬理学			○	◎			
		栄養代謝学			○	◎			
		臨床栄養学			○	◎			
		生涯発達論			◎	○			
		臨床心理学		○	◎	○			
		疾病治療論Ⅰ			○	◎			
		疾病治療論Ⅱ			○	◎			
	社会と健康	環境保健論			○	◎			
		社会福祉論			○	◎			
		疫学		○		○	◎		○
		関係法規				○		◎	
		保健医療福祉行政論				○	○	◎	○
		健康政策論Ⅰ※							
		健康政策論Ⅱ※							
		保健統計学Ⅰ		○		◎	○		○
		保健統計学Ⅱ※							
		生命倫理			◎	○			
		特別総合科目	◎	○	○	○		○	
	小　計（22科目）								

教育課程表

（卒業までに必要な授業科目と単位数の一覧）

●看護師・保健師国家試験受験資格および養護教諭二種免許希望者必修科目

科目区分		授業科目の名称	授業形態	単位数		開講年次・時間数								卒業認定に必要な科目		養護教諭二種免許希望者	卒業必要単位数
				必修	選択	1年		2年		3年		4年		看護師のみ	保健師希望者		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門科目	看護の基本	看護学概論	講義	2		30								●	●	●	【専門科目】 必修科目73単位 選択必修科目 「クリティカル看護論」 「慢性看護論」 「リハビリテーション看護論Ⅱ」 から1単位、 ならびに 選択科目4単位以上 計78単位以上修得
		看護技術総論	演習	1		30								●	●	●	
		援助関係論	演習	1		30								●	●	●	
		看護技術論Ⅰ	演習	2			60							●	●	●	
		看護技術論Ⅱ	演習	2				60						●	●	●	
		看護技術論Ⅲ	演習	1					30					●	●	●	
		健康教育論	講義	1					15					●	●	●	
		家族看護学	講義	1					15					●	●	●	
		看護倫理	講義	1					15					●	●	●	
		看護理論	講義	1					15					●	●	●	
		看護基礎実習Ⅰ	実習	1		45								●	●	●	
		看護基礎実習Ⅱ	実習	2					90					●	●	●	
		地域看護学概論	講義	1			15							●	●	●	
		地域看護実習	実習	2					90					●	●	●	
	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論	講義	1			15							●	●	●	
		成人看護活動論Ⅰ	講義	2				30						●	●	●	
		成人看護活動論Ⅱ	演習	1					30					●	●	●	
		成人看護活動論Ⅲ	演習	1						30				●	●	●	
		外来看護実習	実習	1						45				●	●	●	
		成人看護実習Ⅰ	実習	2							90			●	●	●	
		成人看護実習Ⅱ	実習	2							90			●	●	●	
		高齢者看護学概論Ⅰ	講義	1			15							●	●	●	
		高齢者看護学概論Ⅱ	講義	1				15						●	●	●	
		高齢者看護活動論Ⅰ	演習	1					30					●	●	●	
		高齢者看護活動論Ⅱ	演習	1						30				●	●	●	
		高齢者看護実習	実習	3							135			●	●	●	
		小児看護学概論	講義	2					30					●	●	●	
		小児看護活動論Ⅰ	演習	1						30				●	●	●	
		小児看護活動論Ⅱ	演習	1							30			●	●	●	
		小児看護実習	実習	2								90		●	●	●	
		母性看護学概論	講義	2				30						●	●	●	
		母性看護活動論Ⅰ	演習	1					30					●	●	●	
		母性看護活動論Ⅱ	演習	1						30				●	●	●	
		母性看護実習Ⅰ	実習	1							45			●	●	●	
		母性看護実習Ⅱ	実習	1								45		●	●	●	
		精神看護学概論	講義	2					30					●	●	●	
		精神看護活動論Ⅰ	演習	1						30				●	●	●	
		精神看護活動論Ⅱ	講義	1							15			●	●	●	
		精神看護実習	実習	2								90		●	●	●	
	看護の統合と探求	在宅看護学概論	講義	1						15				●	●	●	
		在宅看護論Ⅰ	講義	1							15			●	●	●	
		在宅看護論Ⅱ	演習	1							30			●	●	●	
		在宅看護実習	実習	2								90		●	●	●	
		医療安全論	講義	1						15				●	●	●	
		災害看護論	講義		1							15					
		看護学研究法	講義	2							30			●	●	●	
		看護課題研究	演習	2								60		●	●	●	
		クリティカル看護論	講義		△1							15		▲	▲	▲	
		慢性看護論	講義		△1							15		▲	▲	▲	
		リハビリテーション看護論Ⅰ	講義	1				15						●	●	●	
		リハビリテーション看護論Ⅱ	講義		△1							15		▲	▲	▲	
		スポーツと看護	講義		1				15								
		国際看護論	講義		1							15					
		看護管理論	講義	1							15			●	●	●	
		看護教育論	講義		1							15					
		看護総合実習	実習	2								90		●	●	●	
		実践総合演習	演習	1									30	●	●	●	
		栄養サポートチーム論	講義		1								15				
		地域連携ケア論Ⅰ	講義	1			15							●	●	●	
		地域連携ケア論Ⅱ	講義	1				15						●	●	●	
		地域連携ケア論Ⅲ	講義	1						15				●	●	●	
		地域連携ケア論Ⅳ	講義	1									15	●	●	●	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	講義		1				15						●	●	※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
		公衆衛生看護支援論Ⅰ※	講義		2						30				●	●	
		公衆衛生看護支援論Ⅱ※	演習		2							60			●	●	
		公衆衛生看護対象論Ⅰ※	講義		2						30				●	●	
		公衆衛生看護対象論Ⅱ※	講義		1						15				●	●	
		公衆衛生看護展開論※	講義		2						30				●	●	
		公衆衛生看護管理論※	講義		2						30				●	●	
		公衆衛生看護実習Ⅰ※	実習		2								90		●	●	
		公衆衛生看護実習Ⅱ※	実習		2								90		●	●	
		公衆衛生看護実習Ⅲ※	実習		1								45		●	●	
	小　計　（72科目）			73	25												
合　計　（120科目）				112	50										148単位以上		合計129単位以上

教育課程表　2022年度以降入学生

科目区分		授業科目の名称	学科ディプロマ・ポリシー						
			◎：強く関連するディプロマ・ポリシー、○：関連するディプロマ・ポリシー						
			DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
専門科目	看護の基本	看護学概論			○	○	◎	○	
		看護技術総論			○	○	◎		
		援助関係論			○	○	◎		
		看護技術論Ⅰ			○	○	◎		
		看護技術論Ⅱ			○	○	◎		
		看護技術論Ⅲ			○	○	◎		
		健康教育論			○	◎	○		
		家族看護学			○	○	◎		
		看護倫理			○	○	◎		
		看護理論			○	○	◎		
		看護基礎実習Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		看護基礎実習Ⅱ	○	○	○	○	◎	○	
		地域看護学概論	○	○	○	○	◎	○	
		地域看護実習	○	○	○	○	◎	○	
	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論	○	○	○	○	◎	○	
		成人看護活動論Ⅰ	○	○	○	○	◎		
		成人看護活動論Ⅱ	○	○	○	○	◎		
		成人看護活動論Ⅲ	○	○	○	○	◎		
		外来看護実習	○	○	○	○	◎	○	
		成人看護実習Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		成人看護実習Ⅱ	○	○	○	○	◎	○	
		高齢者看護学概論Ⅰ	○	○	○	○	◎		
		高齢者看護学概論Ⅱ	○	○	○	○	◎	○	
		高齢者看護活動論Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		高齢者看護活動論Ⅱ	○	○	○	○	◎	○	
		高齢者看護実習	○	○	○	○	◎	○	
		小児看護学概論	○	○	○	○	◎	○	
		小児看護活動論Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		小児看護活動論Ⅱ	○	○	○	○	◎		
		小児看護実習	○	○	○	○	◎	○	
		母性看護学概論	○	○	○	○	◎		
		母性看護活動論Ⅰ	○	○	○	○	◎		
		母性看護活動論Ⅱ	○	○	○	○	◎		
		母性看護実習Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		母性看護実習Ⅱ	○	○	○	○	◎	○	
		精神看護学概論	○	○	○	○	◎		
		精神看護活動論Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		精神看護活動論Ⅱ	○	○	○	○	◎		
		精神看護実習	○	○	○	○	◎	○	
	看護の統合と探求	在宅看護学概論	○	○	○	○	◎	○	
		在宅看護論Ⅰ	○	○	○	○	◎	○	
		在宅看護論Ⅱ	○	○	○	○	◎		
		在宅看護実習	○	○	○	○	◎	○	○
		医療安全論				◎	○		
		災害看護論						○	◎
		看護学研究法	○	○	○	○			◎
		看護課題研究	○	○	○	○			◎
		クリティカル看護論						○	◎
		慢性看護論						○	◎
		リハビリテーション看護論Ⅰ					◎	○	
		リハビリテーション看護論Ⅱ						○	◎
		スポーツと看護						○	◎
		国際看護論			○				◎
		看護管理論					○	○	◎
		看護教育論							◎
		看護総合実習	○	○	○	○	○	○	◎
		実践総合演習					○		◎
		栄養サポートチーム論	○	○	○	○	○	◎	
		地域連携ケア論Ⅰ	○	○	○	○	○	◎	
		地域連携ケア論Ⅱ	○	○	○	○	○	◎	
		地域連携ケア論Ⅲ	○	○	○	○	○	◎	
		地域連携ケア論Ⅳ	○	○	○	○	○	◎	
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論			○	◎		○	
		公衆衛生看護支援論Ⅰ※							
		公衆衛生看護支援論Ⅱ※							
		公衆衛生看護対象論Ⅰ※							
		公衆衛生看護対象論Ⅱ※							
		公衆衛生看護展開論※							
		公衆衛生看護管理論※							
		公衆衛生看護実習Ⅰ※							
		公衆衛生看護実習Ⅱ※							
		公衆衛生看護実習Ⅲ※							
	小　計　（72科目）								
合　計　（120科目）									

卒業要件及び履修方法

［卒業要件］

基礎教育科目では24単位以上（必修科目15単位および選択科目9単位以上）、専門基礎科目27単位以上（必修科目24単位および選択科目3単位以上）、専門科目78単位以上（必修73単位、選択必修科目「クリティカル看護論」「慢性看護論」「リハビリテーション看護論Ⅱ」から1単位、選択科目4単位以上）を履修し、合計129単位以上を修得していること。

保健師国家試験受験資格希望者は、卒業要件（129単位）の他に、保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修できる全ての授業科目（※）および「疫学」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学概論」を修得し、合計148単位以上を修得していること。

（履修科目の登録の上限：45単位（年間））

専門科目の単位数に△がついた科目は、いずれか1科目を必ず修得すること。2科目以上選択した場合は、2科目目から選択科目に振り替えることができる。

授業科目の名称に※のついている科目は、保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修できる。

養護教諭二種免許取得申請希望者は、保健師国家試験の受験に必要な科目のほかに養護教諭免許取得申請に必要な科目となる「法と人権」「スポーツ科学と運動」「スポーツ理論」の単位を必ず修得していること。

Ⅱ－６ 科目配置表

2022年度以降入学生　看護学科

区分		1年次				2年次			
		前 期	単位	後 期	単位	前 期	単位	後 期	単位
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	1	統計分析法	1				
		生物学	(1)	情報リテラシー	1				
		化学	(1)						
		論理的思考	2						
		情報処理	1						
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）	1	英語Ⅱ（会話）	1	英語Ⅲ（読解）	(1)	英語Ⅳ（総合）	(1)
		表現技法Ⅰ（読解・分析）	1	表現技法Ⅱ（討議・発表）	1				
	人間と社会	心理学	2	スポーツ理論　＊	(1)	生活環境論	(2)	教育学	(1)
		倫理学	1	法と人権　＊	(2)	社会貢献と活動	(1)	文学と人間	(1)
		現代社会論	2	地域社会文化論	(2)			国際社会論	(1)
		生態学	(1)						
		スポーツ科学と運動　＊	(1)						
小　計（内選択科目計）		12科目（選択4科目）	15 (4)	7科目（選択3科目）	9 (5)	3科目（選択3科目）	4 (4)	4科目（選択4科目）	4 (4)
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	2	形態機能学Ⅱ	2	薬理学	2	疾病治療論Ⅱ	2
		生涯発達論	1	感染免疫学	2	臨床心理学	1		
				病態学	2	疾病治療論Ⅰ	2		
				栄養代謝学	2				
	社会と健康	特別総合科目【通年】		特別総合科目【通年】	(1)	生命倫理	1	社会福祉論	2
				環境保健論	1				
				関係法規	1				
小　計（内選択科目計）		3科目	3	7科目（選択1科目）	11 (1)	4科目	6	2科目	4
専門科目	看護の基本	看護学概論	2	看護技術論Ⅰ	2	看護技術論Ⅱ	2	看護技術論Ⅲ	1
		看護技術総論	1	地域看護学概論	1			健康教育論	1
		援助関係論	1					家族看護学	1
		看護基礎実習Ⅰ	1					看護倫理	1
								看護理論	1
								看護基礎実習Ⅱ	2
								地域看護実習	2
	人間の発達段階と看護活動			成人看護学概論	1	成人看護活動論Ⅰ	2	成人看護活動論Ⅱ	1
				高齢者看護学概論Ⅰ	1	高齢者看護学概論Ⅱ	1	高齢者看護活動論Ⅰ	1
						母性看護学概論	2	小児看護学概論	2
								母性看護活動論Ⅰ	1
								精神看護学概論	2
	看護の統合と探究			地域連携ケア論Ⅰ	1	リハビリテーション看護論Ⅰ	1	スポーツと看護	(1)
						地域連携ケア論Ⅱ	1		
	公衆衛生看護学							公衆衛生看護学概論	(1)
小　計（内選択科目計）		4科目	5	5科目	6	6科目	9	14科目（選択2科目）	18 (2)
合　計（内選択科目計）		19科目（選択4科目）	23 (4)	19科目（選択4科目）	26 (6)	13科目（選択3科目）	19 (4)	20科目（選択6科目）	26 (6)

1. 単位の欄の数字は単位数で、単位の（数字）は選択科目の単位数である。
2. 科目名の最後に【通年】が記載されている科目は通年科目であり、単位数は当該年次の後期に単位数を記載している。
3. 科目名の最後に（※）が記載されている科目は、公衆衛生看護学履修生のみが選択できる科目である。
4. 科目名の最後に△が記載されている「クリティカル看護論」、「慢性看護論」、「リハビリテーション看護論Ⅱ」は、選択必修科目である。
   2科目以上選択した場合は、2科目目から選択科目に振り替えることができる。
5. 科目名の最後に＊が記載されている「法と人権」「スポーツ科学と運動」「スポーツ理論」は養護教諭二種免許取得に必要な科目である。
   ほかに保健師国家試験受験に必要な科目も修得しなければならない。

科目配置表　2022年度以降入学生

区分		3年次				4年次				単位計 (内選択計)
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
基礎教育科目	学習と思考力									8 (2)
	言語と表現力									6 (2)
	人間と社会									18 (13)
小計 (内選択科目計)										32 (17)
専門基礎科目	個人と健康	臨床栄養学	(1)							19 (1)
	社会と健康	疫学	(2)	保健統計学Ⅰ	1	健康政策論Ⅰ　(※)	(1)	健康政策論Ⅱ　(※)	(1)	13
		保健医療福祉行政論	(1)			保健統計学Ⅱ　(※)	(1)			(選択
小計 (内選択科目計)		3科目 (選択3科目)	4 (4)	1科目	1	2科目 (選択2科目)	2 (2)	1科目 (選択1科目)	1 (1)	32 (8)
専門科目	看護の基本									19
	人間の発達段階と看護活動	成人看護活動論Ⅲ	1	成人看護実習Ⅰ	2	小児看護実習	2			35
		外来看護実習	1	成人看護実習Ⅱ	2	母性看護実習Ⅱ	1			
		高齢者看護活動論Ⅱ	1	高齢者看護実習	3	精神看護実習	2			
		小児看護活動論Ⅰ	1	小児看護活動論Ⅱ	1					
		母性看護活動論Ⅱ	1	母性看護実習Ⅰ	1					
		精神看護活動論Ⅰ	1	精神看護活動論Ⅱ	1					
	看護の統合と探究	在宅看護学概論	1	在宅看護論Ⅰ	1	在宅看護実習	2			27 (8)
		医療安全論	1	在宅看護論Ⅱ	1	災害看護論	(1)			
		地域連携ケア論Ⅲ	1	看護学研究法	2	看護課題研究【通年】		看護課題研究【通年】	2	
				看護管理論	1	クリティカル看護論　△	(1)	実践総合演習	1	
						慢性看護論　△	(1)	栄養サポートチーム論	(1)	
						リハビリテーション看護論Ⅱ　△	(1)	地域連携ケア論Ⅳ	1	
						国際看護論	(1)			
						看護教育論	(1)			
						看護総合実習	2			
	公衆衛生看護学			公衆衛生看護支援論Ⅰ　(※)	(2)	公衆衛生看護支援論Ⅱ　(※)	(2)	公衆衛生看護実習Ⅰ　(※)	(2)	17 (17)
				公衆衛生看護対象論Ⅰ　(※)	(2)			公衆衛生看護実習Ⅱ　(※)	(2)	
				公衆衛生看護対象論Ⅱ　(※)	(1)			公衆衛生看護実習Ⅲ　(※)	(1)	
				公衆衛生看護展開論　(※)	(2)					
				公衆衛生看護管理論　(※)	(2)					
小計 (内選択科目計)		9科目	9	15科目 (選択5科目)	24 (9)	13科目 (選択7科目)	17 (8)	7科目 (選択4科目)	10 (6)	98 (25)
合計 (内選択科目計)		12科目 (選択3科目)	13 (4)	16科目 (選択5科目)	25 (9)	15科目 (選択9科目)	19 (10)	8科目 (選択5科目)	11 (7)	162 (50)

Ⅱ－7 オフィスアワー

教員が特定の曜日・時間を定め、学生からの授業や学生生活全般に関する質問、相談に応じるシステムです。

面接を希望する学生は、各教員の実施方法を確認のうえ、面談希望教員と連絡を取り面談日を調整してください。

未決定の教員は、決定後、掲示にてお知らせします。

時間帯（①②方式）

①１週間のうち、一定期間を教員の個々のスケジュールにより決定しています。

②特に時間を設定していません。

面談方式（ab 方式）

a オープン方式：学生は自由に教員を訪問することができます。

b アポイント方式：学生が各教員とアポイントを取ったうえで訪問することができます。
（メールアドレスを参考にしてください。）

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
専門基礎分野	教授（学長）	コバヤシ　セイイチ 小林　清一	月～金	②	b	koba@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	4101
基礎教育分野	教授（図書館長）	マツオ　フミコ 松尾　文子	月～金	②	b	fmatsuo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1221
	教授	スエミツ　アツオ 末光　厚夫	月～金	②	a	sue@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1314
基礎看護学分野	教授	オオヒナタ　テルミ 大日向　輝美	指定曜日	②	a	oohinata.t@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1318
	教授	コジマ　エツコ 小島　悦子	月～金	②	a	e_kojima@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1216
	准教授	シュドウ　エリカ 首藤　英里香				eshudo@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1217
	講師	モトヨシ　アケミ 本吉　明美	月～金	②	a	a-motoyoshi@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1215
	講師	ソノダ　ノリコ 園田　典子	月～金	②	b	sonoda@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1214
	助教	カシワクラ　ダイサク 柏倉　大作	月・火・金	10:00～16:00	a	kashiwakura@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同研究室
	助教	ヨコヤマ　ケイコ 横山　桂子	月～金	②	a	yokoyama@sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同研究室

オフィスアワー

看護学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
成人看護学分野	教授	サトウ イクエ 佐藤 郁恵	月～金	②	a	ikue_sato @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1315
	准教授	オノ ヨシアキ 小野 善昭	月～金	②	b	ono-y @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1321
	講師	カトウ タカトシ 加藤 剛寿	月～金	②	b	kato-t @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1322
	講師	イトウ マドカ 伊藤 円	月～金	②	a	m-ito @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1323
	助教	イケノ コウヘイ 池野 航平				ikeno @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
	助教	イマイズミ リエ 今泉 里絵				imaizumi @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
高齢者看護学分野	准教授	ナカタ マイ 中田 真依	月～金	②	a	mainakata @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1319
母性看護学分野	教授	サイトウ サカエ 齋藤 早香枝	月～金	②	a	sasai @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1218
	准教授	サワダ ユウミ 澤田 優美	月～金	②	b	sawada @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1213
	助教	ノザキ ユキコ 野崎 由希子	月～金	②	a	nozaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
小児看護学分野	教授	カワサキ カズコ 河崎 和子	月	16:00 ～17:30	b	kawasaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1313
	助教	ササキ メグミ 佐々木 めぐみ	月～金	②	a	sasaki @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
精神看護学分野	准教授	ハラダ ユカ 原田 由香	月～金	②	a	harada @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1312
	助教	タカハシ マサキ 高橋 正樹	月～金	②	b	masaki-ta @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1325 共同 研究室
総合看護学分野	教授	キヅ ユミコ 木津 由美子	月	12:40 ～13:30	a	kizu @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1316
	講師	ヨシダ ユウコ 吉田 祐子	月～金	②	b	yuko-y @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1317
地域・在宅看護学分野	教授 （看護学科長）	ハリガネ カヨコ 針金 佳代子	月～金	②	b	harigane @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1311
公衆衛生看護学分野	教授	コンドウ アキヨ 近藤 明代	月～金	②	a	kondoh @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1220
	講師	アンドウ ヨウコ 安藤 陽子	月～金	②	a	ando @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1219
	講師	オガワ カツコ 小川 克子	月～金	②	a	k.ogawa @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	1222

オフィスアワー

栄養学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
社会・環境と健康	教授	ハマオカ　ナオヒロ 濱岡　直裕	月～金	②	b	hamaoka @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5308
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	教授	ちば　ヒトシ 千葉　仁志	月～金	②	b	chiba-h @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5302
	准教授	キンタカ　ユリ 金髙　有里	月～金	②	b	kintaka @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5307
	講師	ツクイ　タカユキ 津久井　隆行	月～金	②	b	tsukui @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5103
食べ物と健康	教授 (学部長)	アラカワ　ヨシヒト 荒川　義人	月～金	②	a	arakawa @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5303
	教授	サカモト　メグミ 坂本　恵	月～金	②	a	sakamoto @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5105
基礎栄養学	准教授	マツカワ　ノリコ 松川　典子	月～金	②	a	matsukawa @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5310
応用栄養学	教授	チバ　マサキ 千葉　昌樹	月～金	②	a	machi @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5309
栄養教育論	教授	モモセ　イヅミ 百々瀬　いづみ	月～金	②	a	momose @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5311
臨床栄養学	教授	オカモト　トモコ 岡本　智子	月～金	②	b	okamoto @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5306
	講師	ウジケ　シノ 氏家　志乃	月～金	②	a	ujike @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5305
公衆栄養学	准教授	ツチモト　コウジ 槌本　浩司	月～金	②	b	tsutimoto @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5106
給食経営管理論	教授 (栄養学科長)	ヤマベ　シュウコ 山部　秀子	月～金	②	a	yamabe @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5107
	講師	ワタナベ　イツミ 渡辺　いつみ	月～金	②	a	watanabe @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5104
教職課程	教授	アンネン　ヤスマサ 安念　保昌	月～金	②	b	dpforest @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5304
	教授	カトウ　タカシ 加藤　隆	月～金	②	a	takashi-k @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5312

栄養学科

分野	職位	氏名	曜日	時間帯	面談方式	メールアドレス	研究室
	助教	アビコ　ヒロミ 安彦　裕実	月～金	②	a	abiko @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101 共同 研究室
	助教	イワベ　マイコ 岩部　万衣子	月～金	②	a	iwabe @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5102 研究室
	助教	ムラオ　サト 村尾　咲音	月～金	②	a	murao @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101 共同 研究室
	助教	ヨネタ　ミオ 米田　実央	月～金	②	a	yoneta @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5102 研究室
	助手	ヒダ　マユミ 樋田　真弓	月～金	②	a	abe-m @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101 研究室
	助手	ホリタ　アヤカ 堀田　愛花	月～金	②	a	horita @sapporo-hokeniryou-u.ac.jp	5101 共同 研究室

※助手　樋田真弓は、2022 年 9 月 30 日まで休業のため不在となります。

助手　堀田愛花は、2022 年 10 月 1 日以降、不在となります。

Ⅱ－８ 2022年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土	看護学科　1年次	看護学科　2年次	看護学科　3年次	看護学科　4年次	全学行事
4月						1	2	4/4～8 新入生ガイダンス	3/31 前期ガイダンス	3/31 前期ガイダンス	3/31 前期ガイダンス	4/2 入学式
	3	4	5	6	7	8	9	4/11 前期授業開始	4/1 前期授業開始	4/1 前期授業開始	4/1 前期授業開始	
	10	11	12	13	14	15	16	4/11 健康診断	4/12 健康診断	4/11 健康診断	4/12 健康診断	
	17	18	19	20	21	22	23					
	24	25	26	27	28	29	30					
5月	1	2	3	4	5	6	7			5/30～11/4	5/23～10/14	5/1 創立記念日
	8	9	10	11	12	13	14			領域別臨地実習	領域別臨地実習	
	15	16	17	18	19	20	21					
	22	23	24	25	26	27	28					
	29	30	31									
6月				1	2	3	4					
	5	6	7	8	9	10	11					
	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30							
7月						1	2	①7/25～29	7/26～29 前期定期試験			
	3	4	5	6	7	8	9	看護基礎実習Ⅰ				
	10	11	12	13	14	15	16	②8/1～5				
	17	18	19	20	21	22	23	看護基礎実習Ⅰ				
	24	25	26	27	28	29	30					
	31											
8月		1	2	3	4	5	6	8/22～26 前期定期試験	8/22～26 前期定期試験			
	7	8	9	10	11	12	13	8/30～9/2 前期追試験	8/30～9/2 前期追試験			
	14	15	16	17	18	19	20	9/6～8 前期再試験	9/6～8 前期再試験			
	21	22	23	24	25	26	27					
	28	29	30	31								
9月					1	2	3	9/30 後期ガイダンス	9/30 後期ガイダンス			9/12～29 夏期休業
	4	5	6	7	8	9	10					※学年によって異なる
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					9月予定
	25	26	27	28	29	30						前期学位授与式
10月							1	10/3 後期授業開始	10/3 後期授業開始		10/17 後期ガイダンス	10月予定 大学祭準備
	2	3	4	5	6	7	8				10/17 後期授業開始	10月予定 大学祭
	9	10	11	12	13	14	15					
	16	17	18	19	20	21	22					
	23	24	25	26	27	28	29					
	30	31										
11月			1	2	3	4	5		11/5 ｸﾞﾛｰｱｯﾌﾟ ｾﾚﾓﾆｰ	11/7 後期ガイダンス		11/5 ｸﾞﾛｰｱｯﾌﾟ ｾﾚﾓﾆｰ
	6	7	8	9	10	11	12		11/21～12/2（予定）	11/7 後期授業開始		
	13	14	15	16	17	18	19		看護基礎実習Ⅱ			
	20	21	22	23	24	25	26					
	27	28	29	30								
12月					1	2	3					12/26～1/6 冬期休業
	4	5	6	7	8	9	10					
	11	12	13	14	15	16	17					
	18	19	20	21	22	23	24					
	25	26	27	28	29	30	31					
1月	1	2	3	4	5	6	7					
	8	9	10	11	12	13	14					
	15	16	17	18	19	20	21					
	22	23	24	25	26	27	28					
	29	30	31									
2月				1	2	3	4	2/20～22,24 後期定期試験	2/20～22,24 後期定期試験	2/20～22,24 後期定期試験		
	5	6	7	8	9	10	11	2/28～3/3 後期追試験	2/28～3/3 後期追試験	2/28～3/3 後期追試験		
	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28									
3月				1	2	3	4	3/7,8,10 後期再試験	3/7,8,10 後期再試験	3/7,8,10 後期再試験	3/8 学位記授与式	3/8 学位記授与式
	5	6	7	8	9	10	11					3/13～31 春期休業
	12	13	14	15	16	17	18					
	19	20	21	22	23	24	25					
	26	27	28	29	30	31						

この他に全学行事として避難訓練。　本学入学試験日は入構できません。

※学事暦の日程は、一部変更することがあります。

Ⅲ　シ ラ バ ス

2022年度以降入学生

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	ページ
				必修	選択		
学びの理解	講義	1	前	1		○木津　由美子、山部　秀子、飯田　直弘	43
生物学A・B	講義	1	前		1	津久井　隆行 松川　典子	45
化学	講義	1	前		1	森山　隆則	47
論理的思考	講義	1	前	2		崔　昌鳳	49
情報処理	演習	1	前	1		末光　厚夫	51
統計分析法	演習	1	後	1		末光　厚夫	53
情報リテラシー	演習	1	後	1		末光　厚夫	55
英語Ⅰ（基礎）A	演習	1	前	1		松尾　文子	57
英語Ⅰ（基礎）B	演習	1	前	1		大西　三佳子	59
英語Ⅰ（基礎）C	演習	1	前	1		大西　三佳子	62
英語Ⅰ（基礎）D	演習	1	前	1		松尾　文子	65
英語Ⅱ（会話）	演習	1	後	1		David　Flenner Peter Reemst	67
表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C	演習	1	前	1		高木　維	69
表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D	演習	1	前	1		安永　立子	71
表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C	演習	1	後	1		高木　維	74
表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D	演習	1	後	1		安永　立子	76
心理学	講義	1	前	2		安念　保昌	79
倫理学	講義	1	前	1		村上　友一	81
現代社会論	講義	1	前	2		翁 康健	83
生態学	講義	1	前		1	立澤　史郎	86
スポーツ科学と運動	演習	1	前		1	岡野　なお子	88
スポーツ理論	講義	1	後		1	平間　康充	90
法と人権	講義	1	後		2	神元　隆賢	92
地域社会文化論	講義	1	後		2	澤井　玄	94
形態機能学Ⅰ	講義	1	前	2		○小林　清一	96
形態機能学Ⅱ	講義	1	後	2		○千葉　仁志	98
感染免疫学	講義	1	後	2		○小林　清一	100
病態学	講義	1	後	2		○小林　清一	102
栄養代謝学	講義	1	後	2		渡辺　いつみ、金髙　有里、岡本　智子	104
生涯発達論	講義	1	前	1		安念　保昌	106
環境保健論	講義	1	後	1		濱岡　直裕、森田　直樹	108
関係法規	講義	1	後	1		○小川　克子、○近藤　明代、○安藤　陽子	110
特別総合科目	演習	1	通年		1	○針金　佳代子、他	112
看護学概論	講義	1	前	2		○小島　悦子	113
看護技術総論	演習	1	前	1		○本吉　明美、○園田　典子、○大日向　輝美、○首藤　英里香、 ○柏倉　大作、○横山　桂子、○小島　悦子	116
援助関係論	演習	1	前	1		○木津　由美子、○吉田　祐子	119
看護技術論Ⅰ	演習	1	後	2		○首藤　英里香、○園田　典子、○本吉　明美、○柏倉　大作、 ○横山　桂子、○小島　悦子	121
看護基礎実習Ⅰ	実習	1	前	1		○小島　悦子、○首藤　英里香、○本吉　明美、○園田　典子、 ○柏倉　大作、○横山　桂子	126
地域看護学概論	講義	1	後	1		○針金　佳代子	127
成人看護学概論	講義	1	後	1		○佐藤　郁恵	130
高齢者看護学概論Ⅰ	講義	1	後	1		服部　ユカリ、○中田　真依	132
地域連携ケア論Ⅰ	講義	1	後	1		○針金　佳代子、槌本　浩司、百々瀬　いづみ、○小川　克子	134
英語Ⅲ（読解）	演習	2	前		1	松尾　文子	137
英語Ⅳ（総合）	演習	2	後		1	松尾　文子	139
生活環境論	講義	2	前		2	江本　匡	141
教育学	講義	2	後		1	加藤　隆	144
文学と人間	講義	2	後		1	畠山　瑞樹	146
国際社会論	講義	2	後		1	翁 康健	148
社会貢献と活動	演習	2	前		1	神内　秀之介	150
薬理学	講義	2	前	2		町田　拓自	152
臨床心理学	講義	2	前	1		松岡　紘史	155
疾病治療論Ⅰ	講義	2	前	2		○千葉　仁志、○小林　清一	157
疾病治療論Ⅱ	講義	2	後	2		深井　原	160

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	
				必修	選択		
社会福祉論	講義	2	後	2		吉田　竜平	162
生命倫理	講義	2	前	1		森口　眞衣	164
看護技術論Ⅱ	演習	2	前	2		○小島　悦子、○首藤　英里香、○本吉　明美、○園田　典子、 ○柏倉　大作、○横山　桂子	166
看護技術論Ⅲ	演習	2	後	1		○小島　悦子、○首藤　英里香、○柏倉　大作、○本吉　明美、 ○園田　典子、○横山　桂子	171
健康教育論	講義	2	後	1		○近藤　明代	174
家族看護学	講義	2	後	1		○針金　佳代子	176
看護倫理	講義	2	後	1		○大日向　輝美、○園田　典子	178
看護理論	講義	2	後	1		○木津　由美子、○本吉　明美	180
看護基礎実習Ⅱ	実習	2	後	2		○小島　悦子、○首藤　英里香、○本吉　明美、○園田　典子、 ○柏倉　大作、○横山　桂子、他	182
地域看護実習	実習	2	後	2		○針金　佳代子、他	183
成人看護活動論Ⅰ	講義	2	前	2		○佐藤　郁恵、○小野　善昭、○加藤　剛寿、○伊藤　円	184
成人看護活動論Ⅱ	演習	2	後	1		○小野　善昭、○加藤　剛寿、○伊藤　円、○池野　航平、 ○今泉　里絵、○佐藤　郁恵	187
高齢者看護学概論Ⅱ	講義	2	前	1		服部　ユカリ、○中田　真依	190
高齢者看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○中田　真依	192
小児看護学概論	講義	2	後	2		○河崎　和子、松木　由理	195
母性看護学概論	講義	2	前	2		○齋藤　早香枝	198
母性看護活動論Ⅰ	演習	2	後	1		○齋藤　早香枝、○野崎　由希子	201
精神看護学概論	講義	2	後	2		吉野　淳一、○原田　由香	204
リハビリテーション看護論Ⅰ	講義	2	前	1		○小野　義昭、○河崎　和子、○原田　由香	206
スポーツと看護	講義	2	後		1	○中田　真依、槌本　浩司、今北　雄太、三上　剛人	208
地域連携ケア論Ⅱ	講義	2	前	1		○針金　佳代子、槌本　浩司、千葉　昌樹、○小川　克子	210
公衆衛生看護学概論	講義	2	後		1	○近藤　明代	212
臨床栄養学	講義	3	前		1	岡本　智子	215
疫学	講義	3	前		2	濱岡　直裕、福士　勝	217
保健医療福祉行政論	講義	3	前		1	○近藤　明代、○安藤　陽子、○小川　克子	219
保健統計学Ⅰ	講義	3	後	1		志渡　晃一、米田　龍大	221
成人看護活動論Ⅲ	演習	3	前	1		○加藤　剛寿、○伊藤　円、○小野　善昭、○池野　航平、 ○今泉　里絵、○佐藤　郁恵	223
外来看護実習	実習	3	前	1		○小野　善昭、○佐藤　郁恵、○加藤　剛寿、○伊藤　円、 ○池野　航平、○今泉　里絵	226
成人看護実習Ⅰ	実習	3	後	2		○小野　善昭、○佐藤　郁恵、○加藤　剛寿、○伊藤　円、 ○池野　航平、○今泉　里絵	227
成人看護実習Ⅱ	実習	3	後	2		○佐藤　郁恵、○伊藤　円、○加藤　剛寿、○池野　航平、 ○今泉　里絵、○小野　善昭	228
高齢者看護活動論Ⅱ	演習	3	前	1		○中田　真依	229
高齢者看護実習	実習	3	後	3		○中田　真依	232
小児看護活動論Ⅰ	演習	3	前	1		○河崎　和子、○佐々木　めぐみ	233
小児看護活動論Ⅱ	演習	3	後	1		○河崎　和子、○佐々木　めぐみ	236
母性看護活動論Ⅱ	演習	3	前	1		○齋藤　早香枝、○野崎　由希子	239
母性看護実習Ⅰ	実習	3	後	1		○齋藤　早香枝、○野崎　由希子	242
精神看護活動論Ⅰ	演習	3	前	1		○原田　由香、○高橋　正樹	243
精神看護活動論Ⅱ	講義	3	後	1		○原田　由香、○高橋　正樹	246
在宅看護学概論	講義	3	前	1		○針金　佳代子	248
在宅看護論Ⅰ	講義	3	後	1		○針金　佳代子、他	251
在宅看護論Ⅱ	演習	3	後	1		○針金　佳代子、他	253
医療安全論	講義	3	前	1		○吉田　祐子、他	255
看護学研究法	講義	3	後	2		○木津　由美子、末光　厚夫、○吉田　祐子	257
看護管理論	講義	3	後	1		○吉田　祐子、他	260
地域連携ケア論Ⅲ	講義	3	前	1		○針金　佳代子、槌本　浩司、岡本　智子、○小川　克子	262
公衆衛生看護支援論Ⅰ　※	講義	3	後		2	○安藤　陽子、○小川　克子	264
公衆衛生看護対象論Ⅰ　※	講義	3	後		2	○小川　克子、○近藤　明代	267
公衆衛生看護対象論Ⅱ　※	講義	3	後		1	○安藤　陽子	269
公衆衛生看護展開論　※	講義	3	後		2	○小川　克子、○安藤　陽子、○近藤　明代	271
公衆衛生看護管理論　※	講義	3	後		2	○安藤　陽子、○近藤　明代	274
健康政策論Ⅰ　※	演習	4	前		1	○小川　克子、○安藤　陽子、○近藤　明代	277
健康政策論Ⅱ　※	講義	4	後		1	○近藤　明代、○安藤　陽子、○小川　克子	279

科目名	授業形態	受講年次	学期	単位		科目担当者	
				必修	選択		
保健統計学Ⅱ　※	講義	4	前		1	志渡　晃一、米田　龍大	281
小児看護実習	実習	4	前	2		○河崎　和子、○佐々木　めぐみ	283
母性看護実習Ⅱ	実習	4	前	1		○齋藤　早香枝、○野崎　由希子	284
精神看護実習	実習	4	前	2		○原田　由香、○高橋　正樹	285
在宅看護実習	実習	4	前	2		○針金　佳代子、他	286
災害看護論	講義	4	前		1	○針金　佳代子、葛西　陽子	287
看護課題研究	演習	4	通年	2		○木津　由美子　○吉田　祐子、他	289
クリティカル看護論	講義	4	前		△1	○小野　善昭	292
慢性看護論	講義	4	前		△1	○加藤　剛寿、○伊藤　円、渡辺　美和、○小島　悦子	294
リハビリテーション看護論Ⅱ	講義	4	前		△1	○小野　善昭	296
国際看護論	講義	4	前		1	大野　夏代、鈴木　幹子	298
看護教育論	講義	4	前		1	○大日向　輝美	300
看護総合実習	実習	4	前	2		○木津　由美子、○吉田　祐子、他	302
実践総合演習	演習	4	後	1		○木津　由美子、○吉田　祐子、全看護教員	303
栄養サポートチーム論	講義	4	後		1	岡本　智子、氏家　志乃、看護学科教員	306
地域連携ケア論Ⅳ	講義	4	後	1		○針金　佳代子、槌本　浩司、岡本　智子、百々瀬　いづみ、 ○小川　克子、他	308
公衆衛生看護支援論Ⅱ　※	演習	4	前		2	○安藤　陽子、○小川　克子、○近藤　明代	310
公衆衛生看護実習Ⅰ　※	実習	4	後		2	○近藤　明代、○安藤　陽子、○小川　克子	313
公衆衛生看護実習Ⅱ　※	実習	4	後		2	○近藤　明代、○安藤　陽子、○小川　克子	314
公衆衛生看護実習Ⅲ　※	実習	4	後		1	○近藤　明代、○安藤　陽子、○小川　克子	315

（注）1．各科目の責任者は科目担当者の先頭記載者

2．○印は学科所属の専任教員で医師、看護師、保健師を経験している実務経験者

3．△印は選択必修科目

4．※印は保健師国家試験受験資格希望者のみ履修できる科目

2022 年度以降入学生対象

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level			担当教員	木津　由美子、山部　秀子、飯田　直弘		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○	○		○	○
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。						
到達目標	1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理力と自律的な学習態度を培う。 2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。 3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。 4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。 5. 4 年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。 6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。 7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。						
テキスト	なし						
参考書	なし						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を提出物および授業参加態度等により総合的に評価する。最終の評価点数は、各教員の評定を総合して行う。
	レポート	80	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	参考文献は随時、提示する。 レポートの課題と提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。
実務経験を活かした教育内容	医療職と大学教育の講義の際は、実務経験者の立場から、看護師・管理栄養士の教員の経験談を織り交ぜながら、どのような専門職をめざすのか具体的なイメージができるように授業をします。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （木津）	学習の主題	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項についての説明 大学での学び方
		授業内容	1. 大学（高等教育）教育の目的と共通能力「学士力」の育成 2. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」
		事前・事後学習	事前：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（1 時間）。事後：本日の授業内容をノートに整理をする（2 時間）。
	2 （木津）	学習の主題	学士力と本学教育理念「人間力」
		授業内容	・人間力とは ・社会人・医療人に求められる資質・能力とは ・学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」
		事前・事後学習	事前：大学で学ぶ意味について自分の考えをまとめる（2 時間）。事後：「本学で学ぶ意義」について A6 版用紙 250 字程度にまとめる（2 時間）。
	3 （木津）	学習の主題	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」
		授業内容	・DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」の視聴 ・個別学習：・DVD 内容について「感じたこと」「考えたこと」 ・グループ学習：「表現する」「伝える」「共有する」
		事前・事後学習	事前：大学で必要な能力について自分の考えをまとめる（2 時間）。事後：「いのち」「人が社会で生きること」に関して、自己の学びを指定用紙にまとめる（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（1）
		授業内容	・コミュニケーション・スキルとは ・論理的思考力とは ・問題解決力とは
		事前・事後学習	事前：高校までの自己の学修方法について振り返りまとめる（2時間)。事後：高校と大学の学びはどのような点が違うのかを考えまとめる（2時間)。
	5 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（2）
		授業内容	・汎用的スキルの活用について
		事前・事後学習	事前：汎用的スキルとは何か調べてノートにまとめる（2時間)。事後：前回の授業で学んだことを復習し、将来汎用的スキルを活用する場面をシミュ レーションする（2時間)。
	6 (山部)	学習の主題	医療職と大学教育（1）
		授業内容	・保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 ・管理栄養士の役割
		事前・事後学習	事前：管理栄養士について調べてノートにまとめる（2時間)。事後：医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる（2時間)。
	7 (木津) (山部)	学習の主題	医療職と大学教育（2）
		授業内容	・看護職の役割 ・グループ学習：看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違性、同じ大学で学ぶ意義 ・グループ発表
		事前・事後学習	事前：看護職について調べてノートにまとめる（2時間)。事後：医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる（2時間)。
	8 (木津) (山部)	学習の主題	大学で学ぶ目標と課題の共有
		授業内容	グループ学習 ・学びの目標をもつ：どんな看護職・管理栄養士になりたいか ・目標実現のために為すべきこと、大切にすること グループ発表
		事前・事後学習	事前：どんな看護職・管理栄養士になりたいか自分の考えをノートにまとめる（2時間）事後：グループ学習からの学びをまとめ指定用紙に記載する（2時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	生物学 A・B Biology			担当教員	津久井　隆行、松川　典子 ※担当教員は、クラス別		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○			
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。						
到達目標	1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生体内における情報伝達について学修し、生体内恒常性について理解する。 4. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、配偶子が形成される過程について理解する。						
テキスト	齊藤省吾「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」（メヂカルフレンド社）						
参考書	P. レーヴン／G. ジョンソン　他「レーヴン／ジョンソン　生物学」上・下（培風館）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 ①小テスト（30 点） ・講義開始時に前回実施した講義内容に関する小テストを実施し、学修内容に対する理解度を評価する。 ②定期試験（70 点） ・到達目標に関する定期試験を実施し、学修到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	細胞に関する基礎知識
		授業内容	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能　・細胞の増殖（細胞分裂） 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間）
	2	学習の主題	個体の成り立ち－分化 生体内の物質の流れと働き（1）
		授業内容	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素　・栄養素　・消化のみちすじ
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	3	学習の主題	生体内の物質の流れと働き（2）
		授業内容	生命活動における異化のしくみついて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換　・腎臓の構造と働き（尿の生成）
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	4	学習の主題	からだの恒常性の維持（1）
		授業内容	内部環境としての体液の働きについて理解する。
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。（各 1 時間） 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	からだの恒常性の維持 (2)
		授業内容	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き　・内分泌系とその働き
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各１時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	6	学習の主題	外的刺激の受容
		授業内容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応　・感覚器とその働き（視覚と聴覚）
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各１時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	7	学習の主題	生殖と発生
		授業内容	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・配偶子の形成－減数分裂 ヒトの発生と再生医療について理解する。
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各１時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	8	学習の主題	遺伝
		授業内容	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくられ、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在　・ＤＮＡの構造　・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素　・伴性遺伝　・染色体異常
		事前・事後学習	教科書や配布資料を用いて授業内容の予習・復習をする。(各１時間) 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	化学 Chemistry			担当教員	森山　隆則		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○			
授業目的	化学は、全ての自然科学の中心にありそれらを学ぶ基礎となるが、本講ではとりわけ看護学に不可欠な化学的基礎知識を抽出し学修する。具体的には国際単位の表示方法、水溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法と浸透圧の考え方、pH の考え方と血液の pH、大気圧と血圧の単位、生体（食品）成分である糖質・脂質・蛋白質・核酸などについて学修する。また、尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について学修する。						
到達目標	1. 医療に不可欠な国際単位系について理解し単位換算ができる。 2. 水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。 3. pH の定義が理解でき血液の pH の恒常性について説明できる。 4. 血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。 5. 糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分についての概略について説明できる。 6. 尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。						
テキスト	教員が作成する配布資料						
参考書	平田雅子「ベッドサイドを科学するー看護に生かす物理学」（学研） 松野一彦、他「一目でわかる臨床検査」（メディカル・サイエンス・インターナショナル）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	70	目標の到達状況を定期試験（70%）、その他（30%）で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
	その他	30					
履修上の留意事項	必ず予習・復習して下さい。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験の立場から、医療過誤の具体例などを講義に織り混ぜながら，臨床に役立つ化学について分かりやすく授業を行います。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	基礎化学に不可欠な国際単位について説明でき単位換算できる。				
		授業内容	様々な国際単位について説明し単位換算について解説する。				
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。				
	2	学習の主題	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。				
		授業内容	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）と考え方について解説する。				
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。				
	3	学習の主題	pH の定義が理解でき血液の pH について説明できる。				
		授業内容	酸とアルカリを決める pH の定義を解説し血液の pH の恒常性について解説する。				
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。				
	4	学習の主題	血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。				
		授業内容	血圧について概略を説明し表示単位の意味するところを解説する。				
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2.5 時間）。				
	5	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。				
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。				
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。
	7	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	臨床検査の検体条件と尿検査、血球検査、生化学検査の項目を示しそれらの臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（1.5 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2 時間）。
	8	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	肝機能検査を中心とした生化学検査の項目を示し臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	事前：プリント内容を予習する（2 時間）。事後：授業内容を整理し演習内容をまとめる（2.5 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic	担当教員	崔　昌鳳
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					

授業目的	本科目は、学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。
到達目標	1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。
テキスト	必要に応じて資料を配付する。
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」（NHK 出版） 野矢茂樹「新版　論理トレーニング」（ 産業図書 ）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	目標への到達状況についての総合的な判断に基づき評価する。判断材料となるのは各回の提出物と定期試験結果である。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。演習はフォームを利用して行う。そのため、毎回 PC を持参してくるように。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	授業概要　-「論理的思考とはなにか」
		授業内容	授業内容及び成績評価法について概説する。
		事前・事後学習	（2 時間）講義内容をノートにまとめておくこと。
	2	学習の主題	主張と根拠---情報の取捨選択
		授業内容	資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。
		事前・事後学習	（5 時間）講義中に指示した条件を守った文章をフォームで提出すること。締め切りは次回の前日までとする。
	3	学習の主題	主張と根拠---筋道を明確に
		授業内容	第 2 回で作成した文章を題材に、筋道が明確にわかるような文章を書くために必要な事柄について講義する。明確な筋道をもつ文章を書く技術は、論理的思考を身につける上で大前提となる必須スキルである。
		事前・事後学習	（5 時間）講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげてくること。
	4	学習の主題	論理パズル　その 1
		授業内容	講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をフォームで提出してもらう（提出は次回まで）。講義時間中は、 4 ～ 5 名の学生でグループを構成し、グループ内での議論を通じて正解にたどり着くことを目標としてもらう。
		事前・事後学習	（4 時間）演習問題の解答を作成し、次回までにフォームで提出すること。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	論理パズル　その２
		授業内容	第 4 回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。
		事前・事後学習	（４時間）講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。
	6	学習の主題	事実判断と価値判断
		授業内容	事実判断と価値判断の違いについて概説する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	7	学習の主題	価値判断詳論
		授業内容	諸々の価値判断（道徳判断、美的判断など）の特徴について詳説する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	8	学習の主題	事実と意見
		授業内容	事実と意見の違いとこれらの関係について講義する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	9	学習の主題	事実と意見　　その 2
		授業内容	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	10	学習の主題	演繹詳論　その１　- 意味・真理値・真理表
		授業内容	論理定項（「かつ」、「または」、「ならば」等）の意味について、真理表を用いて規定する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	11	学習の主題	演繹詳論　その２　- 推論規則
		授業内容	代表的な推論規則を取り上げ、真理表を用いてそれらの妥当性を確認する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	12	学習の主題	演繹詳論　その３ - 量化論理
		授業内容	量化論理の重要性について、日常的な推論をもとに解説する。
		事前・事後学習	（４時間）復習用演習問題（講義後にフォームの URL を提示）への回答を次回までに提出すること。
	13	学習の主題	演繹と推測
		授業内容	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。
		事前・事後学習	（４時間）仮説形成型の推測事例を最低三つ自分で構成し、フォームで提出すること。
	14	学習の主題	知識と論理
		授業内容	以下のトピックについて講義を行う。 1.「真であることを信じること」と「知っていること」の違い 2. 知識論理パズル
		事前・事後学習	（4 時間）知識論理パズルの解答を作成し、次回、提出すること。
	15	学習の主題	総合演習
		授業内容	第 1 回から第 14 回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題 演習を課す。
		事前・事後学習	（５時間）各回で扱った話題について、各自で復習すること。

2022 年度以前入学生対象

授業科目	情報処理 Information Processing			担当教員	末光　厚夫		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	本科目では、基礎的なコンピュータリテラシーを習得し、専門科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。						
到達目標	1. PC の基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPoint の基本的操作を習得する。						
テキスト	授業時に資料を配付する。						
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」（FOM 出版）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		4 回のレポート（100%）で PC の基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPoint の基本的操作が習得できているか評価する。
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	PC の基礎的な使い方
		授業内容	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。 授業で使用する PC の基礎的な操作方法（PC の起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など）を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
	2	学習の主題	電子メールの利用とタイピング
		授業内容	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	3	学習の主題	インターネットの活用とマナー
		授業内容	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	4	学習の主題	Word の基本（1）
		授業内容	1. Word の基礎知識を習得する。 2. 文字入力の仕方を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	5	学習の主題	Word の基本（2）
		授業内容	文書作成における基本的操作（文字のコピー・移動、配置、装飾、書式）を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	Word の基本（3）
		授業内容	グラフィック機能（オンライン画像、図、図形、ワードアート）を使用した文書作成の仕方を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	7	学習の主題	Word の基本（4）
		授業内容	1. 表を使用した文書作成の仕方を理解する。 2. 学習した Word の機能を活用して文書を作成する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	8	学習の主題	Excel の基本（1）
		授業内容	1. Excel の基礎知識を習得する。 2. データ入力の仕方を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	9	学習の主題	Excel の基本（2）
		授業内容	1. 表の作成の仕方を理解する。 2. 表計算機能（四則計算、関数など）を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	10	学習の主題	Excel の基本（3）
		授業内容	グラフ（棒グラフ、円グラフなど）の作成の仕方を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	11	学習の主題	Excel の基本（4）
		授業内容	1. データベース機能を理解する。 2. 学習した Excel の機能を活用してデータ処理を行う。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	12	学習の主題	PowerPoint の基本（1）
		授業内容	1. PowerPoint の基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	13	学習の主題	PowerPoint の基本（2）
		授業内容	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArt を使用したスライドの作成の仕方を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	14	学習の主題	PowerPoint の基本（3）
		授業内容	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	15	学習の主題	PowerPoint の基本（4）
		授業内容	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習した PowerPoint の機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method	担当教員	末光　厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					

授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。
到達目標	1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。 2. 記述統計学の基礎を理解し、Excel を使用した統計処理方法を習得する。 3. 推測統計学の基礎を理解し、Excel を使用した統計処理方法を習得する。 4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。
テキスト	授業時に資料を配付する。
参考書	1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」（日本評論社） 2. 菅民郎「Excel で学ぶ統計解析入門」（オーム社） 3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」（東京図書） 4. 上田拓治「44 の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」（オーム社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物（40%）として、演習課題を課す。定期試験（60%）では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excel を使用した統計処理方法の習熟度も評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	統計分析法の学習と Excel を使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	統計学とは
		授業内容	本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
	2	学習の主題	記述統計学の基礎（1）
		授業内容	各種調査で収集したデータの種類を理解し、それらの性質について学ぶ。Excel を使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	3	学習の主題	記述統計学の基礎（2）
		授業内容	分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excel を使用した計算方法も習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	4	学習の主題	記述統計学の基礎（3）
		授業内容	変動係数、Z スコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excel の分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	推測統計学への準備（1）
		授業内容	統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excel を使用した計算方法を習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	6	学習の主題	推測統計学への準備（2）
		授業内容	重要な確率分布（二項分布、正規分布、標準正規分布、t 分布、χ^2 分布、F 分布など）の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	7	学習の主題	推測統計学への準備（3）
		授業内容	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	8	学習の主題	統計的推定の基礎（1）
		授業内容	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	9	学習の主題	統計的推定の基礎（2）
		授業内容	正規母集団の母平均の推定（母分散既知／未知）、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excel を使用した推定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	10	学習の主題	統計的検定の基礎（1）
		授業内容	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、 p 値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	11	学習の主題	統計的検定の基礎（2）
		授業内容	第 I 種の過誤と第 II 種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	12	学習の主題	統計的検定の基礎（3）
		授業内容	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	13	学習の主題	相関分析
		授業内容	2 変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラーメルの連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	14	学習の主題	調査データの集計と分析
		授業内容	Excel を使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	15	学習の主題	SPSS 統計パッケージの活用
		授業内容	Excel に入力されたデータを SPSS 統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	情報リテラシー Information Literacy	担当教員	末光　厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					

授業目的	ICT（情報通信技術）を利活用して、情報化社会に適応するための基礎を学ぶ。情報倫理、情報セキュリティ、コンピュータ、情報通信ネットワーク、Web、及び身近な ICT に関する基礎知識を習得し、情報の加工、発信、収集・分析を行うための基礎能力を身につけることを目的とする。
到達目標	1. 情報倫理の基礎知識を説明できる。 2. 情報セキュリティの基礎知識を説明できる。 3. 主な ICT の基礎知識を説明できる。 4. 情報加工の基礎を実行することができる。 5. 情報発信の基礎を実行することができる。 6. 情報収集・分析の基礎を実行することができる。
テキスト	授業時に資料を配付する。
参考書	1. 大内東編「文系学生がまなぶ情報学」（コロナ社） 2. 岡本敏雄監「改訂新版よくわかる情報リテラシー」（技術評論社） 3. 富士通エフ・オー・エム「情報モラル ＆ セキュリティ〈改訂版〉」（FOM 出版） 4. 千貫りこ「これからはじめる HTML ＆ CSS」（技術評論社） 5. 豊田秀樹「紙を使わないアンケート調査入門」（東京図書）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で総合的に評価する。 レポート：本講義で学んだ基礎知識を問う課題により理解度を評価する。 提出物：情報発信、加工を行う演習課題によりスキルの習得度を評価する。 その他：アンケートの作成、実施、収集・分析、結果報告の取り組み内容により講義内容の理解度とスキルの習得度を評価する。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他	30	

履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容が十分な理解となるように復習しておくこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	情報リテラシーについて
		授業内容	本科目の目的と構成、そして各回の位置づけを説明する。続いて、情報化社会の概要について解説する。
		事前・事後学習	事前：シラバスを確認する（0.5 時間）。事後：講義内容を復習する（0.5 時間）。
	2	学習の主題	情報倫理
		授業内容	情報や情報機器を正しく取り扱う上で遵守すべきルールやマナーについて解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	3	学習の主題	コンピュータ
		授業内容	コンピュータの機能と仕組みの基礎を説明し、ハードウェアとソフトウェア、情報の表現について解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	4	学習の主題	デジタルデータの加工・編集
		授業内容	デジタルデータの種類について説明し、画像や音などのデータを加工・編集する方法の基礎を解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	Web ページの作成（1）HTML
		授業内容	HTML の基礎について説明し、Web ページを作成するための HTML の書き方の基礎を解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	6	学習の主題	Web ページの作成（2）CSS
		授業内容	色やサイズ、レイアウトなど Web ページの見栄え（スタイル）を指定するためのスタイルシート（CSS）の書き方の基礎を解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	7	学習の主題	Web システムと Web サービス
		授業内容	インターネットでの Web ページ利用の基盤となる Web システムの仕組みについて解説する。また、SNS などのコミュニケーション系 Web サービスについても解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	8	学習の主題	情報通信ネットワーク
		授業内容	情報通信ネットワークの成り立ちと、インターネットを実現する情報通信技術の基礎を解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	9	学習の主題	情報セキュリティ
		授業内容	情報を管理する際や、PC やスマートフォンなどの情報機器を利用する際に起こりうる脅威とその対策について解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	10	学習の主題	ビッグデータとクラウド
		授業内容	ビッグデータとクラウドに関わる情報通信技術の基礎と、それらの技術が用いられているサービスについて解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	11	学習の主題	医療と ICT
		授業内容	医療において活用されている情報通信技術について解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。
	12	学習の主題	情報収集・分析の実践（1）Web アンケート調査
		授業内容	アンケート調査の基礎について説明する。また、Web 上で利用できるアンケートページの作成方法と、Web アンケートで収集した回答結果を PC に取り込む方法を解説する。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	13	学習の主題	情報収集・分析の実践（2）アンケートの作成
		授業内容	調査したいテーマを決めて、アンケートの Web ページを作成してもらう。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	14	学習の主題	情報収集・分析の実践（3）アンケートの実施と集計・分析
		授業内容	作成した Web アンケートページを用いて、実際にアンケート調査を行ってもらう。続いて、回答結果を PC に取り込み、集計および分析を行い、結果報告のためのプレゼン資料を作成してもらう。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習し、課題を完成して提出する（1 時間）。
	15	学習の主題	情報収集・分析の実践（4）アンケート結果の報告
		授業内容	作成したプレゼン資料を用いて、実施したアンケート調査の結果報告を行ってもらう。
		事前・事後学習	事後：講義内容を復習する（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語 I（基礎）A English I			担当教員	松尾　文子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
テキスト	Yasuko Onjohji, et al. “Mindfulness”.（南雲堂, 2021）						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で 70%、授業で行うリスニング小テストで 20%、授業の取り組み姿勢の 10%で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等について説明する。/ vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	2	学習の主題	Chapter 2: Lose Weight and Stay Active
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	3	学習の主題	Chapter 3: Dangers of Internet Addiction
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	4	学習の主題	Chapter 4: Before It Is Late
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	5	学習の主題	Chapter 5: Global Water Problem
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	Chapter 6: Global Cooperation to Prevent Dementia
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	7	学習の主題	Chapter 7: Battle against the Ebola Virus
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：中間試験の準備を 30 分以上する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤の確認を 30 分間する。
	9	学習の主題	Chapter 8: Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	10	学習の主題	Chapter 9: Angelina’s Decision
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	11	学習の主題	Chapter 10: Ethical Implications of Prenatal Testing
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	12	学習の主題	Chapter 11: ES Cells and iPS Cells
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	13	学習の主題	Chapter 12: Mindfulness n Today’s Multitasking Culture
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	。事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	14	学習の主題	Chapter 13: Preventing Child Abuse
		授業内容	vocabulary, reading, grammar, listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を 30 分間復習する。 事後：期末試験の勉強を 30 分以上する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語 I（基礎）B English I			担当教員	大西　三佳子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
テキスト	Akihiko Higuchi and John Tremarco「First Aid!」（KINSEIDO, 2021）						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他（以上で 50%）及び定期試験（50%）の結果から総合的に判断します。 その他：授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢等を評価します。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	20	
	その他	10	

履修上の留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。
実務経験を活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら、教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。
		事前・事後学習	事前：テキストの内容を確認　（0.5 時間） 事後：テキスト次週分の予習　（0.5 時間）
	2	学習の主題	Unit 1　First Visit to a Hospital
		授業内容	1. reading（来院） 2. grammar（前置詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）
	3	学習の主題	Unit 2　How to Fill in a Registration Form
		授業内容	1. reading（初診受付） 2. grammar（受動態） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）
	4	学習の主題	Unit 3　Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities
		授業内容	1. reading（生活習慣を聞く） 2. grammar（比較級・最上級） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	Unit 4　Mr. Brown's Symptoms
		授業内容	1. reading（問診(1)） 2. grammar（動名詞・分詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	6	学習の主題	Unit 5　Medical Checkup 1
		授業内容	1. reading（脈拍・血圧・体重の測定） 2. grammar（不定詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストとグループ発表の準備　(0.5 時間)
	7	学習の主題	PRESENTATION 1
		授業内容	グループで学習した事を発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ発表の準備　(0.5 時間) 事後：中間復習ドリルの準備　(0.5 時間)
	8	学習の主題	中間復習ドリル（Unit1～Unit5）
		授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間復習ドリルの準備　(0.5 時間) 事後：次の課の準備　(0.5 時間)
	9	学習の主題	Unit 6　Medical Checkup 2
		授業内容	1. reading（採血・採尿） 2. grammar（助動詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	10	学習の主題	Unit 9　Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms
		授業内容	1. reading（症状をより詳しく聞く） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	11	学習の主題	Unit 10　Explaining Blood Test Results
		授業内容	1. reading（診断(2)） 2. grammar（完了形） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	12	学習の主題	Unit14　Recommending an Operation
		授業内容	1. reading（手術を勧める） 2. grammar（関係代名詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	13	学習の主題	Unit 15　Post-operative Care
		授業内容	1. reading（術後のコミュニケーション） 2. grammar（名詞・冠詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストとグループ発表の準備　(0.5 時間)
	14	学習の主題	PRESENTATION 2
		授業内容	グループで学習した事を発表する。
		事前・事後学習	事前：クループ毎に発表の準備　(0.5 時間) 事後：期末復習ドリルの準備　(0.5 時間)

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	期末復習ドリル（Units 6,9,10,14,15）
		授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末復習ドリルの学習　（0.5 時間） 事後：今まで学習したことを復習し、期末テストの準備　（0.5 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語 I（基礎）C English I			担当教員	大西　三佳子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
テキスト	Akihiko Higuchi and John Tremarco「First Aid!」（KINSEIDO, 2021）						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他（以上で 50%）及び定期試験（50%）の結果から総合的に判断します。 その他：授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢等を評価します。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	20	
	その他	10	

履修上の留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。
実務経験を活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら、教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容と学習方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。
		事前・事後学習	事前：テキストの内容を確認　（0.5 時間） 事後：テキスト次週分の予習　（0.5 時間）
	2	学習の主題	Unit 1　First Visit to a Hospital
		授業内容	1. reading（来院） 2. grammar（前置詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）
	3	学習の主題	Unit 2　How to Fill in a Registration Form
		授業内容	1. reading（初診受付） 2. grammar（受動態） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）
	4	学習の主題	Unit 3　Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities
		授業内容	1. reading（生活習慣を聞く） 2. grammar（比較級・最上級） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　（0.5 時間） 事後：小テストと次の課の準備　（0.5 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	Unit 4　Mr. Brown's Symptoms
		授業内容	1. reading（問診(1)） 2. grammar（動名詞・分詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	6	学習の主題	Unit 5　Medical Checkup 1
		授業内容	1. reading（脈拍・血圧・体重の測定） 2. grammar（不定詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストとグループ発表の準備　(0.5 時間)
	7	学習の主題	PRESENTATION 1
		授業内容	グループで学習した事を発表する。
		事前・事後学習	事前：グループ発表の準備　(0.5 時間) 事後：中間復習ドリルの準備　(0.5 時間)
	8	学習の主題	中間復習ドリル（Unit1〜Unit5）
		授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間復習ドリルの準備　(0.5 時間) 事後：次の課の準備　(0.5 時間)
	9	学習の主題	Unit 6　Medical Checkup 2
		授業内容	1. reading（採血・採尿） 2. grammar（助動詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	10	学習の主題	Unit 9　Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms
		授業内容	1. reading（症状をより詳しく聞く） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	11	学習の主題	Unit 10　Explaining Blood Test Results
		授業内容	1. reading（診断(2)） 2. grammar（完了形） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	12	学習の主題	Unit14　Recommending an Operation
		授業内容	1. reading（手術を勧める） 2. grammar（関係代名詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストと次の課の準備　(0.5 時間)
	13	学習の主題	Unit 15　Post-operative Care
		授業内容	1. reading（術後のコミュニケーション） 2. grammar（名詞・冠詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習　(0.5 時間) 事後：小テストとグループ発表の準備　(0.5 時間)
	14	学習の主題	PRESENTATION 2
		授業内容	グループで学習した事を発表する。
		事前・事後学習	事前：クループ毎に発表の準備　(0.5 時間) 事後：期末復習ドリルの準備　(0.5 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	期末復習ドリル（Units 6,9,10,14,15）
		授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
		事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末復習ドリルの学習　（0.5 時間） 事後：今まで学習したことを復習し、期末テストの準備　（0.5 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語 I（基礎）D English I			担当教員	松尾　文子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な 4 技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。						
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。						
テキスト	Robert Hickling “English Contrasts”（金星堂, 2022）						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で 70%、授業で行うリスニング小テストで 20%、授業の取り組み姿勢の 10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: See You Soon pp.11〜14
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。/ conversation, grammar, short conversations（現在形と現在進行形）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	2	学習の主題	Unit 1: See You Soon pp.15〜16 / Unit 2: Welcome to Japan ! p.17
		授業内容	Unit 1: short reading, all Write / Unit 2: conversation（可算・不可算名詞）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	3	学習の主題	Unit 2: Welcome to Japan ! pp.18〜22（可算・不可算名詞）
		授業内容	grammar, short conversations, short reading, all write
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	4	学習の主題	Unit 3: Sandy’s First Sushi pp.23-26（代名詞）
		授業内容	conversation, grammar, short conversations
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	5	学習の主題	Unit 3: Sandy’s First Sushi pp.27-28 / Unit 4 Festival Fun p.29（形容詞・副詞）
		授業内容	Unit 3] short reading, all write / Unit 4: conversation
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	Unit 4: Festival Fun pp.30-34（形容詞・副詞）
		授業内容	grammar, short conversations, short reading, all write
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	7	学習の主題	Unit 5: Play Ball ! pp.35-38（前置詞）
		授業内容	conversation, grammar, short conversations
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	8	学習の主題	Unit 5: Play Ball ! pp.39-40 / Unit 6: Lucky Cats p.41（疑問文）
		授業内容	Unit 5: short reading, all write / Unit 6: conversation
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	9	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：中間試験の準備を 30 分以上する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤の確認を 30 分間行う
	10	学習の主題	Unit 6: Lucy Cats pp.42-46（疑問文）
		授業内容	grammar, short conversations, short reading, all write
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	11	学習の主題	Unit 7: No One Sings Like Brian pp.47-50（他動詞と自動詞）
		授業内容	conversation, gramma. short conversations
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	12	学習の主題	Unit 7: No One sings Like Brian pp.51-52 / Unit 8: Youi’s Cooking Class p.53（不定詞と動名詞）
		授業内容	Unit 7: short reading, all write / Unit 8: conversation
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	13	学習の主題	Unit 8: Unit 8: Youi’s Cooking Class pp.54-58（不定詞と動名詞）
		授業内容	grammar, short conversations, short reading, all write
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	14	学習の主題	Unit 9: Where’s Sandy ? pp.59-62（過去形・過去進行形・現在完了形）
		授業内容	conversation, grammar, short conversations
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	15	学習の主題	Unit 9: Where’s Sandy? pp.63-64 / これまでの授業振り返り
		授業内容	Unit 9: short reading, all write /これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：テキストの予習とこれまでの授業内容を 30 分間復習する。 事後：期末試験の勉強を 30 分間以上する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語 II （会話） English II (Conversation)	担当教員	David　Flenner / Peter Reemst ※担当教員は、クラス別
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate communicative skills for a clinical setting.		

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎	○				

到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients in English 2. Improving students' knowledge of language used in a clinical setting 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients
テキスト	Simon Capper 「Bedside Manner Beginner (New Edition)」 (Perceptia Press)
参考書	なし

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		The assesment standards of academic achievement are as follows. 1. Worksheets　30% 2. Class Participation (Attendance and Question Response)　10% 3. Mid-Term Test　30% 4. Final Test　30%
	レポート		
	小テスト	60	
	提出物	30	
	その他	10	

履修上の留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises.
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	Orientation
		授業内容	Classroom Language and Instruction
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 1　(1hour)
	2	学習の主題	Unit 1
		授業内容	Meeting a New Patient
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 2　(1hour)
	3	学習の主題	Unit 2
		授業内容	Talking About Symptoms
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 3　(1hour)
	4	学習の主題	Unit 3
		授業内容	In-Patient Orientation
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 4　(1hour)
	5	学習の主題	Unit 4
		授業内容	Doing the Rounds
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 5　(1hour)
	6	学習の主題	Unit 5
		授業内容	Explaining Medication
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 6　(1hour)
	7	学習の主題	Unit 6
		授業内容	More Symptoms
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 7　(1hour)
	8	学習の主題	Unit 7
		授業内容	Review / Test 1: Units 1-6
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 8　(1hour)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	9	学習の主題	Unit 8
		授業内容	Accidents and Injuries
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 9　(1hour)
	10	学習の主題	Unit 9
		授業内容	Patient Examination
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 10　(1hour)
	11	学習の主題	Unit 10
		授業内容	Taking a Medical History
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 11　(1hour)
	12	学習の主題	Unit 11
		授業内容	Lifestyle and Diet
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 12　(1hour)
	13	学習の主題	Unit 12
		授業内容	Explaining Hospital Tests
		事前・事後学習	Homework-Review Sheet　(1hour)
	14	学習の主題	Unit 13
		授業内容	Review
		事前・事後学習	Study for Review Test　(2hour)
	15	学習の主題	Review/Test 2
		授業内容	Units 8-12
		事前・事後学習	Not Applicable

2022 年度以降入学生対象

授業科目	表現技法 I （読解・分析）A・C Presentation SkillsI （Reading Comprehension and Analyses）	担当教員	高木　維
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					

授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。
到達目標	1. レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。 2. 他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。 3. 三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。 4. レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。
テキスト	なし
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。 ※提出していないレポートがある場合は評価の対象とはならない ・レポート（50%）：中間レポート・期末レポートの得点 ・提出物（30%）：提出課題①②、期末レポートのアウトラインへの取り組み ・授業態度（20%）：講義内活動への取り組みの姿勢
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他	20	

履修上の留意事項	講義内活動を踏まえてレポートを執筆していくため、一度の欠席によって課題への取り組みが困難になることが予想される。そのため、欠席した場合は、TEAMS にアップロードされた講義資料・講義スライドを利用したフォローアップが不可欠である。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス／文体
		授業内容	・本科目の目的、評価基準 ・レポート（論説文）にふさわしい文体
		事前・事後学習	・事後：「レポートの文体」について復習し、宿題に取り組む（1 時間）
	2	学習の主題	段落構成①／論説文の語彙
		授業内容	・段落構成の概要と、例示・対比の段落 ・レポートにおいて避けるべき表現
		事前・事後学習	・事後：「段落の構成」について復習し、宿題に取り組む（1 時間）
	3	学習の主題	段落構成②／文法ミス
		授業内容	・意見・論述の段落 ・レポートにおいて頻出する文法ミス
		事前・事後学習	・事後：提出課題①「適切な文章表現と段落構成」に取り組む（1 時間）
	4	学習の主題	引用文①
		授業内容	・引用文献欄の書きかた ・引用文の示しかた
		事前・事後学習	・事後：「引用文と引用文献欄」について復習し、宿題に取り組む（1 時間）
	5	学習の主題	引用文②
		授業内容	・文献の内容を短くまとめる方法 ・複数の資料を、1 つの段落にまとめる活動
		事前・事後学習	・事後：提出課題②「引用文と引用文献欄」に取り組む（1 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	報告型レポート／読解
		授業内容	・文献の内容紹介が目的となるレポートの構成 ・資料読解と引用文の作成
		事前・事後学習	・事後：配布された資料読解をすすめ、宿題に取り組む（1 時間）
	7	学習の主題	アウトライン／表記
		授業内容	・レポート執筆の準備に必要なアウトラインの作成 ・レポートにおいて避けるべき文字遣い（漢字・数字・記号）
		事前・事後学習	・事後：中間レポートを執筆し、完成させる（1 時間）
	8	学習の主題	論述型レポート／文献調査
		授業内容	・中間レポートを提出する ・事実に基づいて意見を提示するレポートの構成 ・期末レポートのテーマ告知と配布資料の読解
		事前・事後学習	・事後：配布された資料読解をすすめ、宿題に取り組む（1 時間）
	9	学習の主題	論点
		授業内容	・論点（何について論じるのか）の説明に必要となるもの ・他人の意見の使いかた
		事前・事後学習	・事後：ワークノートを用いて、文献調査・論点の整理を進める（1 時間）
	10	学習の主題	考察
		授業内容	・自説の正しさを論証するために必要となるもの ・ゴールを設定するときの考えかた
		事前・事後学習	・事後：ワークノートを用いて考察を進め、アウトラインを作成する（1 時間）
	11	学習の主題	個人相談①／結論
		授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの結論の書きかた
		事前・事後学習	・事後：アウトラインを完成させる（1 時間）
	12	学習の主題	個人相談②／序論
		授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの序論の書きかた
		事前・事後学習	・事後：期末レポート（初稿）を執筆し、完成させる（1 時間）
	13	学習の主題	推敲
		授業内容	・批判的にレポートを読むための演習 ・期末レポート（初稿）の推敲
		事前・事後学習	・事後：期末レポート（初稿）を改訂し、TEAMS より提出する（1 時間）
	14	学習の主題	さまざまな構成
		授業内容	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定する
		事前・事後学習	・事後：「レポートの構成」について復習し、宿題に取り組む（1 時間）
	15	学習の主題	総括
		授業内容	・期末レポート（最終稿）の読み合い ・後期に執筆するレポートのテーマ発表と、簡単な文献調査の方法
		事前・事後学習	・事後：後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める（1 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	表現技法 I （読解・分析）B・D Presentation Skills I （Reading Comprehension and Analyses）			担当教員	安永　立子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。						
到達目標	1. 言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適宜応用できる。						
テキスト	なし						
参考書	授業時間内にその都度紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3 分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す 3 回の実作レポートを 2 回以上提出できなかった場合は評価の対象としない。
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他	30	

履修上の留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	オリエンテーション／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ
		授業内容	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。「非文」「悪文」の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく(30 分)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。また、指定された家庭学習を行う(30 分)。
	2	学習の主題	論文の文体を理解する
		授業内容	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。また、指定された家庭学習を行う(1 時間)。
	3	学習の主題	説明的文章の方法（1）
		授業内容	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること（1 時間)。
	4	学習の主題	説明的文章の方法（2）／説明文の製作
		授業内容	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとに説明文を書く。
		事前・事後学習	授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること（評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	レポートの基本的構成／発想から文章へ （1）
		授業内容	レポートの基本構成とレポートの種類について学ぶ。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	6	学習の主題	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」を組み立てる
		授業内容	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート 内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の構成を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	7	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導
		授業内容	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を作成し、提出する(1 時間)。
	8	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ（2）／賛否両論を想定する
		授業内容	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。
		事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。 提出できなかった場合は次週提出すること（評価は下がるが、採点対象とする)。 授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	9	学習の主題	論文の構造／賛否両方の論を書いてみる
		授業内容	ある論題に対して、賛否両方の視点から文章を構成してみることで、論理の骨格を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	10	学習の主題	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文
		授業内容	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	11	学習の主題	レポート実作③「主張文」の作成に向けての個人指導
		授業内容	レポート実作③「主張文」の作成に向けて、個人指導を行う。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を作成し、提出する(1 時間)。
	12	学習の主題	レポート実作③「主張文」の提出／他人の文章に対する批判を構築する
		授業内容	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。
		事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を提出する。提出できなかった場合は次週提出すること（評価は下がるが、採点対象とする)。授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	13	学習の主題	論理的文章の基本
		授業内容	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。
	14	学習の主題	情報を整理する
		授業内容	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること(1 時間)。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	敬語と手紙・メール文の基本
		授業内容	日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。その運用例として、手紙、またはメール文を書いてみる。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。 前期の授業全体を振り返り、論理的な文章を書く際の注意点について確認しておく(1 時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	表現技法 II（討議・発表）A・C Presentation Skills II （Academic　Presentation）	担当教員	高木　維
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					

授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。レポート執筆の過程では討議を行い、他者の見解・批判を取り込んで更に考察を進める。最終的に、レポートの口頭発表会を体験することによって、分かりやすいスピーチ・資料とはどういったものかを理解する。
到達目標	1. 討議において、肯定的・批判的意見を出す技能を身に付ける。 2. レポートの内容を短くまとめ、発表する技能を身に付ける。 3. レポートとは異なる、発表時の配布資料を作成する技能を身に付ける。
テキスト	なし
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」（学術図書出版） 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」（慶應義塾大学出版会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート・討議の報告書・発表により総合的に評価する。 ※レポート提出がない、発表ができていない場合は評価の対象とはならない ・レポート（40%）：レポートの得点 ・提出物（30%）：提出課題①・討議報告書・アウトラインへの取り組み ・授業態度（30%）：発表の得点、討議会・発表会への取り組みの姿勢
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他	40	

履修上の留意事項	講義内活動を踏まえてレポート執筆・討議・発表の準備を進めていくため、一度の欠席によって課題への取り組みが困難になることが予想される。そのため、欠席した場合は、TEAMS にアップロードされた講義資料・講義スライドを利用したフォローアップが不可欠である。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス／文献調査
		授業内容	・本科目の目的、評価基準 ・図書館・ネットを利用した情報の調べかた
		事前・事後学習	・事前：夏休み中に情報を収集し、大まかにテーマを選んでおく ・事後：ワークノートを利用し、文献調査を進める（計 1 時間）
	2	学習の主題	問いづくり／図表の利用
		授業内容	・リサーチクエスチョンの考えかた・絞り込みかた ・レポートにおける図表の利用のしかた
		事前・事後学習	・事後：文献調査を進める。提出課題①「図表の利用」に取り組む（1 時間）
	3	学習の主題	討議資料の作成
		授業内容	・討議会で利用する、配布資料の構成 ・リサーチクエスチョンと、現段階での調査結果のまとめかた
		事前・事後学習	・事後：文献調査を進め、調査結果を資料にまとめる（1 時間）
	4	学習の主題	討議の概要
		授業内容	・一般的な討議の流れ ・討議の練習
		事前・事後学習	・事後：討議で配布する資料の作成をつづける（1 時間）
	5	学習の主題	討議会①
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議する
		事前・事後学習	・事前：討議会で配布する資料を完成させる ・事後：討議の終わった学生は、結果を討議報告書にまとめる（計 1 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	討議会②
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議する
		事前・事後学習	・事前：討議会で配布する資料を完成させる ・事後：討議の終わった学生は、結果を討議報告書にまとめる（計 1 時間）
	7	学習の主題	アウトラインの作成／個人相談①
		授業内容	・アウトライン作成のしかた ・アウトラインにかんする、個人相談・教員のチェック
		事前・事後学習	・事前：ワークノートを用いて考察を進め、アウトラインを作成する ・事後：アウトラインを完成させる（1 時間）
	8	学習の主題	序論・結論／個人相談②
		授業内容	・レポートの序論・結論の書きかた（復習） ・アウトラインにかんする、個人相談・教員のチェック
		事前・事後学習	・事後：レポートを執筆し、完成させる（1 時間）
	9	学習の主題	発表の概要／原稿作成
		授業内容	・発表の役割と注意点 ・発表時間内に収まる原稿作成
		事前・事後学習	・事後：レポートを利用して発表原稿を作成する（1 時間）
	10	学習の主題	発表資料の作成／質疑応答
		授業内容	・発表会で利用する、配布資料の構成 ・発表会における一般的な質問のしかた、回答のしかた
		事前・事後学習	・事後：発表資料を作成する（1 時間）
	11	学習の主題	発表会①
		授業内容	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・事前：締切までに発表資料を提出し、発表の練習を行う（1 時間）
	12	学習の主題	発表会②
		授業内容	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・事前：締切までに発表資料を提出し、発表の練習を行う（1 時間）
	13	学習の主題	発表会③
		授業内容	・発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・事前：発表の練習を行う。他者の資料に予め目を通して質疑に備える（1 時間）
	14	学習の主題	発表会④
		授業内容	・発表時間 5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
		事前・事後学習	・事前：発表の練習を行う。他者の資料に予め目を通して質疑に備える（1 時間）
	15	学習の主題	総括
		授業内容	・レポート・発表資料の返却、前期・後期の総括 ・講義内容を復習する練習問題
		事前・事後学習	・事後：返却されたレポート・発表の評価やコメントをもとに、今後の学生生活で経験する執筆・発表をよりよくするための改善点を確認する（1 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	表現技法 II（討議・発表）B・D Presentation Skills II （Academic Presentation）			担当教員	安永　立子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	◎					
授業目的	様々な場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。						
到達目標	1. 日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2. 発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3. 複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。						
テキスト	なし						
参考書	授業時間内にその都度紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 毎回の講義への積極的な参加に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す 3 回の口頭発表のうち、2 回以上実施できなかった場合は評価の対象としない。 その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40	
	その他	60	

履修上の留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	「口頭発表」について学ぶ。
		授業内容	ガイダンス：本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 口頭による発表の特徴と留意点について学習する。次回のスピーチ原稿を作成する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく(30 分)。 引き続きスピーチ原稿を作成し、発表に向けてリハーサルをする（30 分)。
	2	学習の主題	実践（A）3 分間スピーチ（1）
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝達したいメッセージを相手に伝える工夫を考える。
		事前・事後学習	発表者はクラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考え振り返りシートを作成する。担当者は次週のスピーチのリハーサルをしておく（1 時間)。
	3	学習の主題	実践（A）3 分間スピーチ（2）
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝達したいメッセージを相手に伝える工夫を考える。
		事前・事後学習	発表者はクラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考え振り返りシートを作成する。プレゼンテーションを行う発表主題を決める（1 時間)。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	「プレゼンテーション」について学ぶ。 プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成。
		授業内容	プレゼンテーションの方法と留意点について学習する。 自分が行う発表に必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する(1 時間)。
	5	学習の主題	プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成。 スピーチのまとめと反省。
		授業内容	スピーチについての個人講評を返却。次回以降の発表における注意点を学ぶ。 プレゼンテーションの方法と留意点について理解する。 自分が行う発表に必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 次週発表者はリハーサルをしておくこと(1 時間)。
	6	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（1）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 次週発表者はリハーサルをしておくこと(1 時間)。
	7	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（2）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと(1 時間)。
	8	学習の主題	実践（B）プレゼンテーション（3）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと(1 時間)。
	9	学習の主題	実践 （B） プレゼンテーション （4）
		授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
		事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 担当するディベート論題について知識を蓄積する(1 時間)。
	10	学習の主題	「ディベート」について学ぶ／ディベート論題についての情報収集
		授業内容	ディベートについての基本的な知識を学習し、実践に向けての計画を立てる。 チームごとに、役割分担を決定し、ディベート論題についての情報収集を行う。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	ディベートチーム内で作業を分担し、必要な調査を行う。 ディベートチーム内で分担し、立論や反対尋問等を作成する(1 時間)。
	11	学習の主題	ディベートの構築／プレゼンテーションのまとめと反省
		授業内容	プレゼンテーションについての個人講評を返却。次回以降の発表における注意点を学ぶ。 チームごとに、論点の整理、全体の原稿作成、役割分担の確認、などを行う。 ＊パソコンを持参すること。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、リハーサルをしておく(1 時間)。
	12	学習の主題	実践（C）ディベート（1）
		授業内容	２チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、リハーサルをしておく(1 時間)。
	13	学習の主題	実践（C）ディベート（2）
		授業内容	２チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、リハーサルをしておく(1 時間)。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14	学習の主題	実践（C）ディベート（3）
		授業内容	２チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、リハーサルをしておく(1 時間)。
	15	学習の主題	実践（C）ディベート（4） ディベートのまとめと反省
		授業内容	２チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。 ディベートの講評を返却。論争における注意点を理解する。
		事前・事後学習	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておく(1 時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	心理学 Psychology			担当教員	安念 保昌		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎	○			
授業目的	人が関わるところのすべてに、様々な心理学が存在している。心理学の歴史や基礎から始まって、人の行動や心理を科学的な視点で構造化する多様な心理学を紹介していく。そして、だんだんと、医療現場に関わる心理学を展開していく。看護職は、厳格に医学的な治療と、病気で不安を抱えている患者の間を取り持つ重要な立場にあるが、とりわけ、患者の気持ちを受容し、不安な心に寄り添うことが求められる。そういったことに役立てられるような心理学を目指す。						
到達目標	心のメカニズムを客観的な方法によって知ることの重要性を理解し、看護場面における応用について学ぶ。1）心理学の基本的なものの考え方を理解すること。2）それぞれの領域の中で、行動や心がどの様に捉えられているのか理解すること。3）毎回の内容に関するワークシートや、Whiteboard を利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解すること。4）それを簡潔なレポートにまとめることができること。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。						
テキスト	使用しない。						
参考書	適宜紹介する。 下山晴彦,他(編著)「心理学事典」(誠心書房） 2014 長田久雄(編著)「看護学生のための心理学（第 2 版)」(医学書院）2015						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	40	毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、期末試験を行う。それらを 6:4 で評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	60					
	その他						
履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3 色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。ノート点検があることも。						
実務経験を活かした教育内容							
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	心理学は何のために学ぶのか				
		授業内容	心理学の基礎、研究対象・領域				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				
	2	学習の主題	心理学の歴史的変遷				
		授業内容	心身二元論、内観法、精神分析、ゲシュタルト、行動主義、認知科学				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				
	3	学習の主題	心理学の研究法				
		授業内容	進化、哲学、化学、臨床、社会、工学的アプローチ				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				
	4	学習の主題	学習心理学				
		授業内容	学習の意味、学習の基本形				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				
	5	学習の主題	感情心理学				
		授業内容	生理説、認知説、動機・欲求				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				
	6	学習の主題	発達心理学				
		授業内容	発達原理、発達段階、発達の諸相				
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	社会心理学
		授業内容	社会的認知、認知的不協和理論、態度と説得、リーダーシップ
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	8	学習の主題	性格心理学（1）
		授業内容	性格研究の歴史、類型論と特性論
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	9	学習の主題	性格心理学（2）
		授業内容	パーソナリティ障害、バーナム効果、知能
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	10	学習の主題	臨床心理学の基礎
		授業内容	心理的援助の構造、場、時間、面接の技法
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	11	学習の主題	心理アセスメント
		授業内容	精神症状、パーソナリティ障害、認知機能のアセスメント
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	12	学習の主題	カウンセリング（1）
		授業内容	精神分析学、来談者中心療法、交流分析
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	13	学習の主題	カウンセリング（2）
		授業内容	認知行動療法、家族療法、システムズアプローチ
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	14	学習の主題	健康心理学
		授業内容	ストレス、学習性無力症、自己効力感、バーンアウト
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	15	学習の主題	医療心理学
		授業内容	医師と患者の心理、看護職者の心理、受療行動
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	倫理学 Ethics			担当教員	村上　友一		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○					
授業目的	社会の一員として責任ある行動をとりうる自己を形成するために、倫理的な思考力を形成する。また、将来的に直面しうる諸問題に対応するための情報収集力・論理的思考力を養うとともに、そうした問題を言語化しうるだけの表現力を身につける。						
到達目標	1. 決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2. 倫理的な問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3. 自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。						
テキスト	特に指定しない。						
参考書	授業内で紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他 25%によって評価する。 なお、その他には、「事前学習・事後学習」が含まれる。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	25	
	その他	25	

履修上の留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける（上記、提出物）。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。
		事前・事後学習	事前学習：自己決定権について自らの見識を言語化しておく。（1 時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3 時間）
	2	学習の主題	自由主義の帰結
		授業内容	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。
		事前・事後学習	事前学習：自由主義について自らの見識を言語化しておく。（1 時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3 時間）
	3	学習の主題	自由主義と臓器売買
		授業内容	リバタリアニズムの立場からは容認されてしまう臓器売買、その実態を見ることにより、自由主義の負の側面を考察する。
		事前・事後学習	事前学習：臓器売買について自らの見識を言語化しておく。（1 時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	カントのリバタリアニズム批判
		授業内容	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。
		事前・事後学習	事前学習：哲学者カントについて調べる（理解は求めない）（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
	5	学習の主題	自由をめぐる実践的考察
		授業内容	リバタリアニズムやカント主義のように極端に走るのではなく、われわれの生活実践から自由主義を再構築する。
		事前・事後学習	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
	6	学習の主題	自己決定の成立基盤としての平等
		授業内容	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。
		事前・事後学習	事前学習：とくに求めない。他の科目を1時間多く勉強してください。 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
	7	学習の主題	平等概念の再検討
		授業内容	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理する。また、いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。
		事前・事後学習	事前学習：平等について自分がどのようなイメージを抱いているかを言語化しておく。（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）
	8	学習の主題	自己と共同体の関係を問い直す
		授業内容	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ解明していく。インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。
		事前・事後学習	事前学習：「自己形成」「アイデンティティ」について調べ、講義に備える（1時間） 事後学習：講義で扱った問題について理解を深めるために学習課題を提示する。受講者は自ら情報収集・考察し、一定の字数にまとめなければならない。（3時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society			担当教員	翁　康健		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎	○			
授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。						
到達目標	1. 現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2. 地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3. 現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。						
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	定期試験（60%）と講義内で実施するミニ・レポート（40%）から目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	「社会学」の概観と社会調査
		授業内容	・講義の概要、方法、評価の説明 ・現代社会の捉え方（社会学的な視点） ・社会調査倫理
		事前・事後学習	・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：社会学の中で関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）
	2	学習の主題	人間の行為と相互行為を理解する
		授業内容	・アイデンティティと役割 ・社会構造と社会的行為 ・逸脱行動と社会変動
		事前・事後学習	・事前学習：第 2 回講義資料「人間の行為と相互行為を理解する」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：人間の行為と相互行為のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
	3	学習の主題	家族：家族関係の変容
		授業内容	・家族の制度と形態 ・家族の機能と役割 ・現代家族の課題と包摂の可能性
		事前・事後学習	・事前学習：第 3 回講義資料「家族：家族関係の変容」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：家族関係の類型および変容について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	教育：学歴社会と文化的再生産
		授業内容	・学校教育の機能 ・文化的再生産 ・「平等」と教育
		事前・事後学習	・事前学習：第 4 回講義資料「教育：学歴社会と文化的再生産」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：社会学の視点から教育を説明してみること（2 時間）
	5	学習の主題	労働：非正規雇用と若者の就職問題
		授業内容	・雇用労働の成立と生き方の変容 ・職場で経験する労働の諸側面 ・企業構造転換とグローバリゼーションの中の労働
		事前・事後学習	・事前学習：第 5 回講義資料「労働：非正規雇用と若者の就職問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：労働が関わる問題の例を考え、まとめること（2 時間）
	6	学習の主題	階層と階級：格差と社会的排除
		授業内容	・人間社会の歴史と身分・階級・階層 ・日本の社会階層 ・貧困と社会的公正
		事前・事後学習	・事前学習：第 6 回講義資料「階層と階級：格差と社会的排除」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：階層と階級の相違点を説明してみること（2 時間）
	7	学習の主題	ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT
		授業内容	・ジェンダー、セクシュアリティのはたらき ・フェミニズムと LGBT ・社会生活の維持と再生産―ケアとリプロダクション
		事前・事後学習	・事前学習：第 7 回講義資料「ジェンダーとセクシャリティ：フェミニズムと LGBT」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：セクシュアルマイノリティが直面している問題の例を考え、まとめること（2 時間）
	8	学習の主題	政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ
		授業内容	・誰が、なぜ運動を起こすのか? ・社会運動研究の歴史 ・社会運動のいろいろ
		事前・事後学習	・事前学習：第 8 回講義資料「政治と社会運動：受益圏・受苦圏のジレンマ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：政治と社会運動のメカニズムについて、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
	9	学習の主題	グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ
		授業内容	・グローバリゼーションと国民国家 ・グローバリゼーションと社会変容―経済・政治・文化 ・グローバル化時代を生き抜くために
		事前・事後学習	・事前学習：第 9 回講義資料「グローバリゼーション：トランスナショナリズムとエスニシティ」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル化のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）
	10	学習の主題	メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影
		授業内容	・メディアとは何か ・メディアで読み解く現代社会 ・ネット誹謗中傷とインスタ映え
		事前・事後学習	・事前学習：第 10 回講義資料「メディアとコミュニケーション：情報社会の光と影」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：メディア社会のメリットとデメリットを考え、まとめること（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	11	学習の主題	宗教：宗教の社会貢献
		授業内容	・宗教とは ・さまざまな宗教 ・宗教と社会
		事前・事後学習	・事前学習：第 11 回講義資料「宗教：宗教の社会貢献」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：宗教の社会的役割について、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
	12	学習の主題	少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護
		授業内容	・少子高齢社会の実像 ・少子高齢化と保健・医療・福祉 ・これからの地域戦略
		事前・事後学習	・事前学習：第 12 回講義資料「少子高齢社会：子育て支援と高齢者介護」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：少子高齢社会の問題点を、考えてまとめること（2 時間）
	13	学習の主題	社会福祉：医療と社会保障
		授業内容	・福祉国家の成立 ・福祉国家の危機 ・多様な福祉モデルの展開
		事前・事後学習	・事前学習：第 13 回講義資料「社会福祉：医療と社会保障」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：日本の社会福祉の特徴を整理し、まとめること（2 時間）
	14	学習の主題	地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型
		授業内容	・地域コミュニティの必要性と可能性 ・都市的生活様式 ・健康・医療・コミュニティとソーシャル・キャピタル
		事前・事後学習	・事前学習：第 14 回講義資料「地域社会とソーシャル・キャピタル：結束型と橋渡し型」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：地域社会づくりの設計について、考えてみること（2 時間）
	15	学習の主題	全体のまとめ
		授業内容	・全体のまとめ ・期末試験の概要
		事前・事後学習	・事前学習：第 15 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：15 回分の講義資料を確認し、全体の復習を行うこと（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	生態学 Ecology			担当教員	立澤　史郎		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	○	◎			
授業目的	ヒトを含む生物と環境の関係や、様々な環境問題を、科学的・客観的に理解するために、生態学の基本的概念と身近な事例を学ぶ。						
到達目標	・「２つの自然」「３つの生態学」について理解し説明できる。 ・関心のある地球環境問題について生態学的観点から説明することができる。						
テキスト	ありません						
参考書	1. 日本生態学会編「生態学入門［第 2 版］（東京化学同人） 2. 鷲谷いづみ，矢原徹一著「保全生態学入門ー遺伝子から景観まで」（文一総合出版） 3. 大塚柳太郎ほか著「人類生態学［第 2 版］」（東京大学出版会）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。 レポート 40% 提出物 40%：コメントペーパー その他 20%：受講状況など
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他	20	

履修上の留意事項	・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。 ・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。
実務経験を活かした教育内容	国際会議・国際 NPO 事務局等の実務経験から、国内外で地域住民・野生生物・生態系の one-health をめざし行っているプロジェクトの内容を紹介します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	暮らしと生態学（ナチュラルヒストリー基礎）
		授業内容	ヒトを含め生物が環境との相互作用の中で生きていること、それゆえ人・生物・環境の三者のバランス（one-health）が重要であることを理解する。生物の生きざま（生活史）を知る手法として生活痕跡（フィールドサイン）の見方を学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。（3〜4 時間）
	2	学習の主題	鹿学（かがく）入門（ナチュラルヒストリー応用）
		授業内容	生物が環境といかにかかわりあいながら生活しているか、その結果としてどのように多様化しているか、“シカ”を例に学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りで「野生動物」についてどのようなニュースがあるか調べてみること。（3〜4 時間）
	3	学習の主題	個体群生態学 1（基礎）
		授業内容	個体数の変動過程やその要因に関する基礎概念を学ぶ。またそれが、人口問題の理解や鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする人口問題に関係する記事・ニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）
	4	学習の主題	個体群生態学 2（応用）
		授業内容	個体群生態学（個体数変動）の研究例を学ぶ。また応用事例として、人口問題や鳥獣害問題について学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害被害に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	群集生態学 1（基礎）
		授業内容	生物群集（種数）の変化や生物多様性に関する基礎概念を学ぶ。またそれらが外来種問題と関係していることを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生物多様性に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）
	6	学習の主題	群集生態学 2（応用：生物多様性と外来種問題）
		授業内容	群集生態学の応用事例として、生物多様性保全の問題と外来種問題について学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする外来生物に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）
	7	学習の主題	生態系生態学 1（基礎）
		授業内容	生態系における物質やエネルギーの循環について学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と関わることを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする生態系に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）
	8	学習の主題	生態系生態学 2（応用：食物連鎖と生態濃縮）
		授業内容	生態系生態学の応用事例として、食物連鎖と生態濃縮について学ぶ。またそれらの視点を持つことで、人類が自らの生存環境にどのような影響を与えてきたか理解する。
		事前・事後学習	事前学習：身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関係するニュースをよく読んでおくこと。（3〜4 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise	担当教員	岡野　なお子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○		○			

授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。
テキスト	特になし
参考書	特になし

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価と技能評価を総合して評価する。(70%）また課題を期限内に提出する事とする。(30%)
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
	その他	70	

履修上の留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。感染防止対策として、マスクの着用。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。
実務経験を活かした教育内容	各時間、予習復習時間は 60 分程度。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス レクリエーション
		授業内容	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。
		事前・事後学習	シラバスを読む。 実技授業に参加できるだけの基礎体力づくりと健康管理を日頃から心がける。 軽い運動が出来るような服装をすること。
	2	学習の主題	ソフトバレーボール①
		授業内容	基本ルールについて ボール操作とコントロール
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習
	3	学習の主題	ソフトバレーボール②
		授業内容	基本練習～攻撃編
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出①）
	4	学習の主題	ソフトバレーボール③
		授業内容	基本練習～守備編
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出②）
	5	学習の主題	ソフトバレーボール④
		授業内容	リーグ戦①
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出③）
	6	学習の主題	ソフトバレーボール⑤
		授業内容	リーグ戦②
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出④）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	ソフトバレーボール⑥
		授業内容	リーグ戦③
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑤）
	8	学習の主題	バドミントン①
		授業内容	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	9	学習の主題	バドミントン②
		授業内容	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑥）
	10	学習の主題	バドミントン③
		授業内容	ルールの説明 ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑦）
	11	学習の主題	バドミントン④
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで復習（課題提出⑧）
	12	学習の主題	バドミントン⑤／生涯スポーツ（ボッチャ①）
		授業内容	生涯スポーツについて説明、ボッチャのルール説明
		事前・事後学習	文献やインターネットなどで予習
	13	学習の主題	バドミントン⑥／ボッチャ②
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンとボッチャについて文献やインターネットなどで復習 （課題提出⑨）
	14	学習の主題	バドミントン⑦／ボッチャ③
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンとボッチャについて文献やインターネットなどで復習 （課題提出⑩）
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム
		事前・事後学習	半期で実施した各実技種目等の復習

2022 年度以降入学生対象

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory			担当教員	平間　康允		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		◎			
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は，患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者の QOL に大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけで なく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。						
到達目標	1. 「健康とスポーツ（ 体力 ）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディションのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。						
テキスト	プリントを配布						
参考書	1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガ ジン社） 3. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガ ジン社）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	100	目標の到達状況を受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、筆記試験にて 100%評価する。				
	レポート						
	小テスト						
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外 は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な 議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。						
実務経験を活かした教育内容							
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	・ガイダンス ・「こころとからだ」のつながり				
		授業内容	講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。				
		事前・事後学習	シラバスを読む。（1 時間）				
	2	学習の主題	・スポーツと動機づけについて				
		授業内容	いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習 する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。				
		事前・事後学習	「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。（3〜4 時間）				
	3	学習の主題	・フィードバックについて				
		授業内容	運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。				
		事前・事後学習	フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。（3〜4 時間）				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	・コーチングについて
		授業内容	コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。
		事前・事後学習	学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。（3〜4 時間）
	5	学習の主題	・コンディショニングの基本について
		授業内容	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。
		事前・事後学習	自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。（3〜4 時間）
	6	学習の主題	・トレーニング理論と運動処方について
		授業内容	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。
		事前・事後学習	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。（3〜4 時間）
	7	学習の主題	・各年代の体力特性および適正な運動処方について
		授業内容	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。
		事前・事後学習	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。（3〜4 時間）
	8	学習の主題	・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括
		授業内容	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56 年ぶりの自国開催となった「東京五輪 2020」を振り返りながら考察する。
		事前・事後学習	オリンピックの歴史やスポーツ界の闇について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。（3〜4 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	法と人権 Law and Human Rights	担当教員	神元　隆賢
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○	○			

授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第 1 ～ 11 回では人権保障に関する問題をとりあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第 12 ～ 14 回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、医療人として必要な法知識を身につけることを目的とする。
到達目標	1. 日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2. 医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第 6 版）」（有斐閣アルマ、2020 年）
参考書	1. 芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第 7 版）」（岩波書店、2019 年） 2. 戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015 年）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍により困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業期間中にコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。評価基準は、試験・レポートでは、文章の完成度と、私見を理論立てて論述できるかという理論構成力を重視する。小テストでは、人権にかかる基本的知識の習得度を重視する。 【対面授業】授業への 2/3 以上への出席を必要条件とし、宿題型のレポート、授業 15 回目に実施する小テスト、学期末の試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は実施するが、レポート・小テストの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。 【オンライン授業】授業 15 回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ(100%)で評価する。レポートの提出延長はコロナ隔離等の特段の事情がなければ認めない。
	レポート	20	
	小テスト	20	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	【対面授業】PowerPoint と教科書を併用して行い、冒頭で PowerPoint データをエクスポートした印刷物も配布する。過去の印刷物の再配布は行わない。ただし、下記メールアドレスまで、学籍番号、氏名、第何回の印刷物が欲しいかを明記したうえでメールしてもらえれば、該当する PDF データを添付して返信する。kanmoto@hgu.jp 【オンライン授業】MP4 動画と印刷用 PDF 文書ファイルを Microsoft Teams で配布して行う。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、法学入門（1）
		授業内容	・授業の概要、方法、成績評価方法の説明　・法とは何か
		事前・事後学習	事前：シラバスを読んでおく（1 時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（3 時間）。
	2	学習の主題	法学入門（2）
		授業内容	・憲法、民法、刑法の機能　・判例と学説
		事前・事後学習	事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（4 時間）。
	3	学習の主題	外国人の権利
		授業内容	・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme2」を読む（2 時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	プライバシー権
		授業内容	・プライバシー権保護の重要性　・名誉毀損とは　・「宴のあと」事件
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme3」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	5	学習の主題	表現の自由（1）プライバシー権との調和
		授業内容	・名誉毀損における真実性の証明による不処罰
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme3」と前回のレジュメ・ノートを読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	6	学習の主題	表現の自由（2）ポルノの権利
		授業内容	・わいせつ文書等頒布罪　・許容される性表現の限界
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme8」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	7	学習の主題	法の下の平等
		授業内容	・平等権の意味　・尊属殺人罪違憲判決事件
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme5,6」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	8	学習の主題	信教の自由
		授業内容	・神戸高専剣道実技拒否事件　・オウム真理教解散命令事件
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme7」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	9	学習の主題	生存権
		授業内容	・「健康で文化的な最低限度の生活」とは
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme11」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	10	学習の主題	教育権
		授業内容	・家永教科書裁判　・旭川学テ事件
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme12」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	11	学習の主題	死刑制度
		授業内容	・死刑存置論　・死刑廃止論
		事前・事後学習	事前：テキストの「Theme13」を読む（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	12	学習の主題	人の始期・終期
		授業内容	・胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・人はいつから「人」として法的に保護されるか
		事前・事後学習	事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（4時間）。
	13	学習の主題	自己決定権（1）被害者の同意
		授業内容	・自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・医療行為と傷害
		事前・事後学習	事前：とくになし。事後：自分の考えをノートにまとめる（4時間）。
	14	学習の主題	自己決定権（2）安楽死・尊厳死
		授業内容	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか
		事前・事後学習	事前：前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく（2時間）。事後：自分の考えをノートにまとめる（2時間）。
	15	学習の主題	授業のまとめ
		授業内容	・これまでの総括　・学期末試験に向けて　・小テスト
		事前・事後学習	事前：授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく（2時間）。事後：学期末試験に向けてこれまでのノートをまとめて考えを整理する（2時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory			担当教員	澤井　玄		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○			
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することなどを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。						
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、「正しい」こと、「当たり前」のことは不変ではないことを理解する。						
テキスト	特にない、毎回資料を配布する。						
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ！？北海道学』池田貴夫著（北海道新聞社 2013 年）を見ておくとよい。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞（web ではなく紙の）にできるだけ毎日、目を通すこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	50	目標への到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。講義に取り上げる事項に関わるアンケートを複数回実施する。これは提出物として評価するので誠実かつできるだけ詳細に回答すること。欠席回数が授業回数の 1/3 を超えた場合は試験の受験資格を失う。定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とならない。 ＜遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する＞				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40					
	その他	10					
履修上の留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。 上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。						
実務経験を活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特色も聞き出しながら授業展開を行っていく。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	イントロダクション				
		授業内容	・私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例：「命は唯一無二」なのか。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 ・『地球の食卓』（TOTO 出版）から世界の食生活を垣間見る。 ・初回アンケート（生活の中でのカルチャーショック）				
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 4.5 時間）				
	2	学習の主題	地域・文化で異なる「当たり前」				
		授業内容	・『世界の食卓』続き。 ・増加する在日外国人。習慣の違い。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 ・地域・文化に関するアンケート。				
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 4.5 時間）				
	3	学習の主題	命は「唯一無二」のものか？				
		授業内容	・前回アンケート結果報告。 ・ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 ・世界各地・各時代の人口抑制（堕胎・間引き）。				
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）				
	4	学習の主題	親子・家族とは何か				
		授業内容	・生物学的な親子と社会学的な親子。　・様々な親子のあり方。 ・どこまでが家族か。　・「家族」に関するアンケート。				
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 4.5 時間）				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	日本の家族像
		授業内容	・江戸時代～現代の日本の家族像の変化。 ・「我が子」か「神の子」か。 ・誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	6	学習の主題	家族・家庭とは何か
		授業内容	・家族団欒（だんらん）の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ・ちびまる子ちゃん、そして現代。 ・家庭内教育の場としての食卓・団欒。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	7	学習の主題	現代の家族と食卓
		授業内容	・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』（岩村暢子・新潮社）にみる孤食・個食・勝手食い・バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	8	学習の主題	日本人の身体観
		授業内容	・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 3.5 時間）
	9	学習の主題	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療
		授業内容	・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 4.5 時間）
	10	学習の主題	方言と意思疎通
		授業内容	・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅）ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	11	学習の主題	北海道の自然と歴史
		授業内容	・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	12	学習の主題	明治から現代の北海道
		授業内容	・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	13	学習の主題	北海道に住む人々の習慣・考え方
		授業内容	・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など・節分の風習アンケート
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。アンケートに回答すること。（計 4.5 時間）
	14	学習の主題	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴
		授業内容	・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。（計 3.5 時間）
	15	学習の主題	講義のまとめ
		授業内容	・これまでの講義のまとめ。
		事前・事後学習	第 14 回までの配付資料を復習しておくこと。（計 6 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	形態機能学 I Anatomy and Physiology I	担当教員	小林　清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			

授業目的	形態機能学 II とともに、人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学などの基礎を支える科目とする。ここでは、形態機能学の基礎知識、呼吸と血液の働きに関する呼吸器系及び血液系、血液の循環とその調節に関する循環器系、体温維持に関する体温調節機構、身体機能の防御と適応に関する生体防御系、身体の支持・運動に関わる骨格系と筋系について正常の構造・形態と機能を学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。
到達目標	1. 人体の各部位の名称や解剖学用語を説明できる。 2. 人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の特徴と機能を説明できる。 3. 呼吸器の構造を機能と関連づけて説明できる。 4. 循環器の構造を機能と関連づけて説明できる。 5. 体温とその調節の仕組みを説明できる。 6. 血液の組成、血液型を機能と関連づけて説明できる。 7. 生体防御機構の概要を機能と関連づけて説明できる。 8. 運動器の構造を機能と関連づけて説明できる。
テキスト	1. 高松　研、堀内ふき「生体のしくみ標準テキスト第 3 版　新しい解剖生理」（医学映像教育センター） 2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」（サイオ出版）
参考書	ナーシングサプリ編集委員会 編「イメージできる解剖生理学」（メディカ出版）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。 提出物：サブテキストの「ステップアップ解剖生理学ノート」の別冊である「カラーリングブック解剖学ノート」の指定部分を色塗りして提出を求め、カラーリングの丁寧性や色彩及び名称記載の正確性などを評価します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	教員が作成したパワーポイントの講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された復習問題やサブテキストの問題を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態機能学的知識について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス/形態機能学総論
		授業内容	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・ヒトの体の最小単位と系統　・人体の基準平面　・体を構成する 4 つの組織
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	2	学習の主題	呼吸器の構造と機能（1）
		授業内容	・呼吸器系の概略　・鼻腔、咽頭、喉頭の構造と発声のしくみ ・気管と気管支の構造と特徴　・肺の構造と区分、胸部 X 線写真の見方
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	3	学習の主題	呼吸器の構造と機能（2）
		授業内容	・縦隔の区分　・胸膜腔の構造と呼吸運動　・呼吸ガス交換とガス運搬 ・呼吸運動の調節　・呼吸機能検査
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	循環器の構造と機能（1）
		授業内容	・血管の構造と種類　・心臓の構造と機能　・心臓収縮と心電図　・血圧
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	5	学習の主題	循環器の構造と機能（2）
		授業内容	・毛細血管における体液移動　・静脈系の特徴と静脈還流の調節 ・リンパ循環のしくみ　・胎生期循環の特徴
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	6	学習の主題	体温調節機構
		授業内容	・熱産生と熱放散のしくみ　・体温の意義と測定法　・体温調節のしくみ ・発熱パターン　・高体温と低体温における身体の反応
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	7	学習の主題	血液の成分と機能
		授業内容	・血液の組成と機能　・赤血球の産生と機能　・白血球の種類と機能 ・血小板の産生と機能　・血液凝固と線溶系
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	8	学習の主題	血液型の種類と意義
		授業内容	・ABO 血液型　・Rh 血液型　・その他の血液型　・血液型と輸血
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	9	学習の主題	生体防御系の構成と機能
		授業内容	・生体防御系の種類　・免疫系の種類と構成成分　・免疫細胞の種類と機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	10	学習の主題	骨格系の構造と機能（1）
		授業内容	・人体の骨格系　・骨の形態と構造　・骨の組織と組成　・骨の生理機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	11	学習の主題	骨格系の構造と機能（2）
		授業内容	・骨の連結の種類　・関節の種類と機能　・不動性連結の種類と機能 ・骨格筋の構造と作用
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	12	学習の主題	体幹の骨格と筋
		授業内容	・脊柱と胸郭　・頭頸部の骨格と筋　・胸部、背部、腹部の筋
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	13	学習の主題	上肢の骨格と筋
		授業内容	・上肢帯の骨格と筋群　・自由上肢の骨格と筋群　・上肢の運動
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	14	学習の主題	下肢の骨格と筋
		授業内容	・下肢帯の骨格と筋群　・自由下肢の骨格と筋群　・下肢の運動
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	15	学習の主題	筋収縮のしくみ/まとめ
		授業内容	・随意筋の収縮機構　・遅筋と速筋の特徴　・不随意筋収縮の特徴 ・まとめ/定期試験について
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	形態機能学 II Anatomy and Physiology II			担当教員	千葉　仁志		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	形態機能学 I とともに人体の構造と機能を生活行動と連動させながら系統的に学習し、これから学ぶ病態学、疾病治療論、看護学の基礎を支える科目とする。ここでは食物の消化と栄養素の吸収に関わる消化器系、体液の調節と尿の生成に関わる泌尿器系、内臓機能の調節に関わる内分泌系、情報の受容と処理に関わる神経系と感覚器系、生殖器の正常な形態と機能について学び、ヒトの「生きる仕組み」の基本を理解する。						
到達目標	1. 上部消化管と下部消化管の構造を機能と関連づけて説明できる。 2. 肝臓・胆嚢・膵臓の構造を機能と関連づけて説明できる。 3. 泌尿器の構造を尿の生成機構および排尿調節機構と関連づけて説明できる。 4. 体液、電解質および酸塩基平衡について構成と機能を関連づけて説明できる。 5. 内分泌器官の構造を内分泌による内臓機能の調節に関連づけて説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の構造を機能と関連づけて説明できる。 7. 感覚器の構造を機能と関連づけて説明できる。 8. 生殖器の構造を機能と関連づけて説明できる。						
テキスト	1. 高松　研、堀内ふき「生体のしくみ標準テキスト第 3 版　新しい解剖生理」（医学映像教育センター） 2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」（サイオ出版）						
参考書	ナーシングサプリ編集委員会 編「イメージできる解剖生理学」（メディカ出版）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価します。 提出物：サブテキストの「ステップアップ解剖生理学ノート」の別冊「カラーリングブック解剖学ノート」の指定部分を色塗りして提出を求めます。カラーリングの丁寧さや色彩及び名称記載の正確性などを評価します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	教員が作成したパワーポイントの講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された復習問題やサブテキストの問題を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者（医師）の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態機能学的知識について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス/消化管の構造と機能（1）
		授業内容	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・口腔と咽頭の構造と咀嚼および嚥下機能　・上部消化管の構造と機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	2	学習の主題	消化管の構造と機能（2）
		授業内容	・下部消化管の構造と機能　・栄養素の消化と吸収　・消化管ホルモン
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	3	学習の主題	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能
		授業内容	・肝臓の区分と多様な機能　・胆嚢の構造と機能　・膵臓の構造と機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	4	学習の主題	腎臓の構造と機能
		授業内容	・腎臓と排尿路の構造　・尿の生成と調節機構　・排尿調節機構
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	体液の調節機構
		授業内容	・水分の調節　・電解質の調節　・酸塩基平衡のしくみ
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	6	学習の主題	内分泌系の構造と機能（1）
		授業内容	・ホルモンの種類と化学構造　・ホルモン分泌の調節 ・視床下部―下垂体系　・甲状腺
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	7	学習の主題	内分泌系の構造と機能（2）
		授業内容	・副甲状腺　・副腎　・膵島　・副腎　・性腺
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	8	学習の主題	神経系の構造と機能（1）
		授業内容	・神経系の細胞の種類と機能　・神経細胞の構造と興奮のしくみ ・神経筋接合部の構造と興奮の伝達
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	9	学習の主題	神経系の構造と機能（2）
		授業内容	・脳の構造と機能　・脳室と髄膜　・脳脊髄液の生成と循環
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	10	学習の主題	神経系の構造と機能（3）
		授業内容	・脊髄の構造と機能　・脳神経と脊髄神経の構造と機能 ・神経伝導路
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	11	学習の主題	神経系の構造と機能（4）
		授業内容	・自律神経系の種類と機能　・脳の高次機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	12	学習の主題	感覚器の構造と機能（1）
		授業内容	・眼球と眼球付属器の構造と視覚機能　・対光反射と遠近調節 ・眼球運動と神経支配
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	13	学習の主題	感覚器の構造と機能（2）
		授業内容	・耳の構造と聴覚および平衡覚　・舌の構造と味覚　・嗅上皮と嗅覚 ・体性感覚の種類　・皮膚の構造と機能　・疼痛の分類
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	14	学習の主題	生殖器の構造と機能（1）
		授業内容	・性分化のしくみ　・男性生殖器の構造と生殖機能
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。
	15	学習の主題	生殖器の構造と機能（2）/まとめ/定期試験ガイダンス
		授業内容	・女性生殖器の構造と生殖機能　・受精のしくみ ・まとめ/定期試験について
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	感染免疫学 Infectious Diseases and Immunology			担当教員	小林　清一		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	種々の病原微生物に関する生物学的知識と生体側の感染防御機構である免疫のしくみの基本を学び、個々の病原体による感染の成立から発病に至る病態生理に関する理解を深める。さらに新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する予防対策の基本概念であるスタンダード・プリコーションについて学習する。						
到達目標	1. 感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）の主要なものについて各々が起こす疾病と病原性の特徴および感染経路を概説できる。 2. 感染症の治療（抗菌薬、抗ウイルス薬）、と予防（ワクチン）について概説できる。 3. 日和見感染について、院内感染や多剤耐性菌との関連性を考えながら説明できる。 4. 院内感染防止の観点からスタンダード・プリコーションについて説明できる。 5. 消毒法・滅菌法の原理を理解し、適切な方法を選択できる。 6. 感染症に対するヒトの免疫機構と免疫検査について概説できる。						
テキスト	藤本秀士 編著「わかる！身につく！病原体・感染・免疫　改訂 3 版」（南山堂）						
参考書	矢野久子、安田陽子 編「ナーシング・グラフィカ　臨床微生物・医動物」（メディカ出版）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	感染症に関わるニュース、新聞などのメディア情報に日頃から注意を向け、何が問題となっているかを常に意識して本講義に臨むこと。教員が作成したパワーポイントの講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された復習問題を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な感染免疫学的知識について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 感染症とは何か
		授業内容	・講義スケジュール　・感染症の歴史　・感染と感染症の違い
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	2	学習の主題	感染症の現状と感染症法
		授業内容	・新興感染症と再興感染症　・感染症法の成立経過と内容　・感染症情報
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	3	学習の主題	感染様式の種類、病原体の種類と生物学的特徴
		授業内容	・感染様式の種類と特徴　・人獣共通感染症　・感染症の成立要因 ・細菌、真菌、ウイルスの生物学的な特徴
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	4	学習の主題	感染経路
		授業内容	・水平感染と垂直感染とその対策　・接触感染、飛沫感染と空気感染 ・その他、糞口感染、性行為感染、医原性感染、節足動物媒介感染など
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	感染免疫のしくみ（1）
		授業内容	・自然免疫と獲得免疫の違い・獲得免疫における液性免疫と細胞性免疫 ・抗原の種類と抗原性を発揮するための条件
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	6	学習の主題	感染免疫のしくみ（2）
		授業内容	・液性免疫の担い手である抗体の種類と役割 ・感染症の診断における免疫検査の基本
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	7	学習の主題	感染症の予防（1）
		授業内容	・ワクチンの意義と種類、定期接種と任意接種 ・スタンダード・プリコーションと感染経路別対策
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	8	学習の主題	感染症の予防（2）
		授業内容	・滅菌と消毒　・滅菌法と消毒法の具体例とそれらの適切な選択法。
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	9	学習の主題	細菌感染症の治療と細菌感染症（1）
		授業内容	・抗菌薬の作用機序別分類と副作用、抗菌薬に対する細菌の耐性機構 ・ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、ナイセリア属の菌の特徴と代表的疾患
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	10	学習の主題	細菌感染症（2）
		授業内容	腸内細菌科、ビブリオ属、グラム陰性好気性菌（緑膿菌、レジオネラ菌、百日咳菌）、リステリア菌、ジフテリア菌などの特徴と代表的疾患
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	11	学習の主題	細菌感染症（3）
		授業内容	抗酸菌(結核菌)、らせん菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴と代表的疾患
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	12	学習の主題	ウイルス感染症（1）
		授業内容	ウイルス学総論 DNA ウイルス：ヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス他
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	13	学習の主題	ウイルス感染症（2）
		授業内容	RNA ウイルス：オルトミクソウイルスなど全ての RNA ウイルス
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	14	学習の主題	ウイルス感染症（3）、真菌感染症、寄生虫感染症
		授業内容	肝炎ウイルス、真菌（カンジダ、アスペルギルス、ニューモシスチスなど） 寄生虫：内部寄生虫（原虫類、蠕虫類）、外部寄生虫
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	15	学習の主題	まとめ / 定期試験ガイダンス
		授業内容	感染症トピックス / 定期試験ガイダンス、復習問題模範解答解説集、定期試験過去問集(解答付き)を配付する。
		事前・事後学習	復習問題の実施状況を確認し、模範解答により自己採点する。解説を熟読し理解する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	病態学 Pathology	担当教員	小林　清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			

授業目的	看護を含む最適な医療を提供するためには、対象となる各種疾患の特徴を正しく理解する必要がある。本科目では様々な病変がなぜ、どのように発生・経過し、治療によってどのように変化するのか？といったことを形態的、機能的な視点などから学習し、理論に基づいた看護を実践するための基礎知識の理解と習得（堅固な土台作り）を目的とする。
到達目標	1. 病理総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を理解する。 1）疾患を大別できる。　2）病名から疾患の概要を推察できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的変化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。
テキスト	編/深山正久「はじめの一歩の病理学 第 2 版」（羊土社）
参考書	1. 田中越郎「系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進②　病態生理学」（医学書院） 2. 小林正伸「なるほどなっとく病理学　病態形成の基本的な仕組み（改訂 2 版）」（南山堂）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	20	

履修上の留意事項	病変の特徴、発症機序などを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるため、形態機能学 Ⅰ及びⅡでの学習内容を再確認したうえで受講すること。教員が作成したパワーポイントの講義資料を中心に講義を行います。予め Web 上に公開された講義資料とテキストの関連部分を必ず予習すると共に、講義資料に添付された復習問題を自ら解答して事後学習を行うことが必要です。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病態病理学的知識について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 病態学概論～病態学とは何か。
		授業内容	・講義スケジュール　　・病態学と病理学の異同 ・病理診断の役割と各種病理検査の概要　・病気の種類と発症要因
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	2	学習の主題	退行性病変（1）
		授業内容	・変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	3	学習の主題	退行性病変（2）
		授業内容	・萎縮の種類、萎縮と低形成の違い　　・萎縮と肥大の対比 ・壊死とアポトーシスの違い
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	4	学習の主題	進行性病変（1）
		授業内容	・分化と増殖の対比　　・肥大の分類　　・過形成の具体例
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	進行性病変（2）
		授業内容	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・再生　・肉芽組織　・創傷治癒　・異物処理　・化生の種類
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	6	学習の主題	循環障害（1）
		授業内容	・高血圧と低血圧　・ショック　・充血とうっ血　・虚血
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	7	学習の主題	循環障害（2）
		授業内容	・側副循環　・出血　・血栓症と塞栓症
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	8	学習の主題	炎症（1）
		授業内容	・炎症の定義　・炎症の四（五）大徴候　・急性炎症　・炎症マーカー
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	9	学習の主題	炎症（2）
		授業内容	・慢性炎症発症の機序　・慢性炎症における肉芽組織の役割 ・急性炎症と慢性炎症の対比　・特異性炎の定義と代表的な疾患
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	10	学習の主題	免疫（1）
		授業内容	・免疫の歴史　・免疫学発展の画期的事項とは〜その 1 とその 2 ・フローサイトメトリーの発展　・モノクローナル抗体と CD 分類
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	11	学習の主題	免疫（2）
		授業内容	・免疫系を構成する免疫細胞の機能　・免疫疾患の種類 ・免疫不全　・アレルギー　・自己免疫疾患と膠原病　・移植免疫
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	12	学習の主題	腫瘍（1）
		授業内容	・腫瘍の分類　・良性腫瘍と悪性腫瘍　・癌腫と肉腫　・転移
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	13	学習の主題	腫瘍（2）
		授業内容	・癌の進行度　・癌原遺伝子と癌遺伝子　・発癌物質　・腫瘍マーカー
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	14	学習の主題	先天異常
		授業内容	・遺伝疾患の分類と遺伝様式 ・代表的な先天異常についての要因や発生機序 ・代表的な染色体異常と出生前診断
		事前・事後学習	事前：該当部分を講義資料やテキストで予習する（2 時間）。 事後：講義内容を整理し、復習問題にて確認する（2 時間）。
	15	学習の主題	病態学トピックス/定期試験ガイダンス
		授業内容	病態学に関連するトピックスや話題。看護師国家試験における病態学関連問題の分析と定期試験ガイダンスを行う。 復習問題模範解答＆解説集、定期試験過去問集（解答付）を配付する。
		事前・事後学習	復習問題の模範解答により自己採点する。 解説を熟読し理解する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	栄養代謝学 Nutrition and Metabolism			担当教員	渡辺　いつみ、金髙　有里、岡本　智子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	栄養に関する知識を習得、看護業務にとっての栄養学を学ぶ意義や大切さを知る。						
到達目標	栄養学・食品学・代謝・消化吸収などの基礎知識と最新の臨床栄養、栄養ケアマネジメントなどを習得し、栄養問題に対する対処方法を学習する。						
テキスト	津田とみ「よくわかる専門基礎講座 栄養学」（金原出版）						
参考書	なし						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	91	到達目標の達成度を定期試験（91%）・提出物（9%）の結果により総合的に評価する。 各担当の評価割合は以下の通り。 渡辺 40%：定期試験 34% 提出物 6% 金髙 47%：定期試験 44% 提出物 3% 岡本 13%：定期試験 13%
	レポート		
	小テスト		
	提出物	9	
	その他		

履修上の留意事項	人間栄養学と看護の関連性を認識してほしい。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（渡辺）	学習の主題	ガイダンス・栄養管理とは
		授業内容	ガイダンス、健常者と傷病者の栄養管理、保険制度と栄養・食事
		事前・事後学習	事前：教科書第 7 章を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)
	2（金髙）	学習の主題	体の構成と食事栄養
		授業内容	人体の構成成分、食品の栄養素、代謝、酵素、エネルギー、食事摂取基準
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)
	3（金髙）	学習の主題	糖質の消化・吸収・代謝
		授業内容	糖質の構造、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)
	4（金髙）	学習の主題	脂質の消化・吸収・代謝
		授業内容	脂質の構造、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)
	5（金髙）	学習の主題	蛋白質の消化・吸収・代謝
		授業内容	蛋白質とアミノ酸、消化、吸収、代謝
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)
	6（金髙）	学習の主題	エネルギー代謝
		授業内容	食事エネルギー、エネルギー消費、体内エネルギー貯蔵、肥満と痩せ
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。(2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。(2 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7（金高）	学習の主題	水と電解質、ビタミン
		授業内容	水と血液、pH、ミネラル、ビタミン
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	8（金高）	学習の主題	代謝の調節と異常
		授業内容	遺伝子、ホルモン、神経、代謝病（メタボリックシンドローム）
		事前・事後学習	事前：教科書を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	9（渡辺）	学習の主題	ライフサイクルと栄養
		授業内容	乳幼児期、学童期、思春期、青年期、妊娠期、老年期
		事前・事後学習	事前：教科書第 4 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	10（渡辺）	学習の主題	栄養管理の実際 1
		授業内容	栄養ケアとは、臨床および介護における栄養ケアと食事、日本人の食事摂取基準
		事前・事後学習	事前：教科書第 6 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	11（渡辺）	学習の主題	栄養管理の実際 2
		授業内容	栄養評価方法（ スクリーニング・アセスメント ）と栄養計画
		事前・事後学習	事前：教科書第 8 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	12（岡本）	学習の主題	栄養投与方法
		授業内容	経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養
		事前・事後学習	事前：教科書第 9 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	13（岡本）	学習の主題	チーム医療
		授業内容	栄養管理とチーム医療の実際
		事前・事後学習	事前：教科書第 11 章、ならびに配布資料を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	14（渡辺）	学習の主題	疾患と栄養 1
		授業内容	内分泌疾患、腎疾患、消化器疾患の栄養管理
		事前・事後学習	事前：教科書第 10 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）
	15（渡辺）	学習の主題	疾患と栄養 2、まとめ
		授業内容	低栄養、その他の疾患の栄養管理
		事前・事後学習	事前：教科書第 10 章を読んでおくこと。（2 時間）事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる。（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development				担当教員	安念 保昌		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			◎	○				
授業目的	「個体発生は、系統発生を繰り返す」とエルンスト・ヘッケルの反復説にあるように、長い進化の中で生物はそれぞれの種で生まれては死んでゆくことを繰り返してきた。発達心理学は、その言葉通りで言えば生まれて、成長していくことに焦点を当ててきたが、世界で最先端の少子高齢化が進む日本で、心身共に成長を過ぎて、老齢期そして死を迎えるまでの人の一生をとらえる生涯発達心理学に変わってきている。子育てを通じての親子関係が、孫育ての関係に替わっていくことで、人は長寿社会を構成するようになった。こうした世代間関係の在り方をライフサイクル、世代間発達を学修する。							
到達目標	1）発達心理学の基礎を理解する。2）発生から成熟までの変化を理解する。3）青年期から成人期までの変化を理解する。4）中年期から老いへの対応を理解する。5）毎回の内容に関するワークシートや、Whiteboard を利用したグループワークや簡単な実験調査などを通して体験的に理解すること。6）それを簡潔なレポートにまとめることができること。復習は、この簡潔なレポートを作成することにある。							
テキスト	使用しない。							
参考書	適宜紹介する。 西村純一・平野真理（編著）「生涯発達心理学」（ナカニシヤ出版）2019 高橋一公・中川佳子（編著）「生涯発達心理学１５講」（北大路書房）2014							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		毎回復習として課されるワークシートにて、授業内容のエッセンスを自分のエピソード記憶と融合させ、文章化し提出してもらう。またその総まとめとして、期末試験を行う。それらを 6:4 で評価する。
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物	60	
	その他		

履修上の留意事項	前もって配信される授業資料に、授業前に目を通して、授業中は、3 色ボールペンを使ってノートを取ること。主な授業内容は黒、重要な点は赤、自分で思いついた点は青で書く。ノート点検があることも。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	生涯発達心理学の基礎
		授業内容	発達原理、遺伝と環境、人間発達の特殊性、初期経験、ライフサイクル論
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	2	学習の主題	成長・成熟の過程
		授業内容	学習理論からみた発達、ピアジェの認知発達理論、比較行動学による発達理論
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	3	学習の主題	個体発生と乳児期の発達
		授業内容	胎生期、新生児の特徴、新生児微笑、乳児期の認知的発達、愛着形成
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	4	学習の主題	幼児期の機能と発達
		授業内容	ことばの発達、幼児期の認知発達、社会性の発達、心の理論、社会脳
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	5	学習の主題	児童期の発達
		授業内容	思考と道徳性の発達、遊びと対人関係、発達障害、ASD
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）
	6	学習の主題	疾風怒濤の時代
		授業内容	アイデンティティの獲得と危機、精神病理、キャリア発達理論
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。（4 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	家族の形成と発達
		授業内容	家族理論、母性と父性、世代間の連鎖
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)
	8	学習の主題	中年期から老年期へ
		授業内容	ライフサイクル論、中年期の課題と危機、老年期の不適応と障害
		事前・事後学習	配信される授業資料を予習し、授業後ワークシートにて復習を行う。(4 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	環境保健論 Environmental Medicine	担当教員	濱岡　直裕、森田　直樹
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			

授業目的	身のまわりの物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は、われわれの健康に影響に及ぼしている。健康とは何か、健康問題とは何かについて、自然・社会・文化的環境及び生活習慣から理解し、疾病の予防を通じて、公衆衛生の必要性を理解する。
到達目標	1. 環境と人とのかかわり、環境の評価方法について理解する。 2. 物理的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 3. 化学的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 4. 生物的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。
テキスト	辻一郎、小山洋編「シンプル衛生公衆衛生学」（南江堂）
参考書	適宜紹介する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、授業への参加状況、態度）などにより、目標の到達状況を総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	・講義に関連した国家試験の過去問題などを小テストとして各講義の最後に実施する。 ・日頃から身のまわりにある健康に影響する出来事（ニュースなど）に注目することが望ましい。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（濱岡）	学習の主題	健康と公衆衛生について
		授業内容	環境保健とは何か。健康とは何か。 地球環境による健康影響とは何か。どのような健康被害となるか。
		事前・事後学習	テキストの第 6 章の該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。
	2（濱岡）	学習の主題	物理的環境要因について
		授業内容	物理的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。 量反応関係とは何か。どのように予防するか。
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。
	3（濱岡）	学習の主題	化学的環境要因について
		授業内容	化学的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。 量反応関係とは何か。どのように予防するか。
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。
	4（濱岡）	学習の主題	生物学的環境要因について（1）
		授業内容	感染症とは何か。どのような健康被害となるか。どのように予防するか。
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。
	5（濱岡）	学習の主題	生物学的環境要因について（2）
		授業内容	食による影響は何か。どのような健康被害となり、どのように予防するか。
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。
	6（森田）	学習の主題	生活環境と健康影響トピック（1）
		授業内容	食による健康の維持増進について
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 (森田)	学習の主題	生活環境と健康影響トピック（2）
		授業内容	食による健康の維持増進について
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間)。
	8 (濱岡)	学習の主題	食品と健康について
		授業内容	近年注目される食品と健康問題にはどのようなことがあるか。
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する（3〜4 時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	関係法規 Law and Regulation	担当教員	小川　克子、近藤　明代、安藤　陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				○		◎	

授業目的	保健医療業務は人間の生命や健康に直接関係する業務であるため、業務従事者の資格や業務内容及び国民への業務の提供システムが多くの法規によって規制されていることを学ぶ。さらに、関係する保健医療従事者との連携・協働も法規で求められていることや、関係法規の体系や内容を理解することは、看護職として自身の役割や責任を果たすうえでは欠かすことのできないことを学ぶ。
到達目標	1. 保健医療活動を行う上で必要な関係法規を理解するための基本的知識を習得する。 2. 保健師助産師看護師法をはじめとする保健医療従事者に関する法規を理解する。 3. 医事と薬務に関する主要な法規を理解する。 4. 主要な保健衛生法規を理解する。 5. 関係法規を学ぶことは看護職としての役割や責任を果たす上で重要であること理解する。
テキスト	1. Basic&Practice 看護学テキスト専門基礎分野　看護・医療を学ぶ人のためのよくわかる関係法規 （学研メディカル秀潤社）
参考書	必要に応じプリントを配布する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	・定期試験（70 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・講義内で小テスト（3 回目以降全 6 回）を実施し、講義内容の理解について確認する。
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・授業内容について事前にテキストを確認し予習をしましょう。 ・疑問点は先延ばしせずに、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を織り交ぜながら、関係法規を理解するために必要な知識を理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （小川）	学習の主題	関係法規を理解するための基礎知識
		授業内容	1. 法規の概要 ・法の概念　・法の種類　・法規の効力の優劣 ・その他の法規に関する事項 2. 法律の読み方
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	2 （近藤）	学習の主題	看護法
		授業内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の促進に関する法律
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	3 （小川）	学習の主題	医療法、看護法以外の保健医療従事者に関する法律
		授業内容	1．医療法 2．医療従事者の資格・業務に関する基本的な考え方 3．医師法・歯科医師法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (小川)	学習の主題	薬事法
		授業内容	1．医薬品医療機器等法 2．麻薬及び抗精神薬取締法 3．大麻取締法、覚せい剤取締法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	5 (安藤)	学習の主題	保健衛生法規①
		授業内容	1. 感染症法 2. 予防接種法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	6 (小川)	学習の主題	保健衛生法規②
		授業内容	1. 地域保健法 2. 健康増進法 3. がん対策基本法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	7 (近藤)	学習の主題	保健衛生法規③
		授業内容	1. 母子保健法 2. 母体保護法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。
	8 (小川)	学習の主題	保健衛生法規④
		授業内容	1．学校保健安全法 2．労働基準法、労働安全衛生法 小テスト
		事前・事後学習	事前：テキスト、配付プリントで予習する（1 時間）。 事後：プリントの＜学習のポイント＞を中心に復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	特別総合科目 Study with Extracurricular Activities	担当教員	針金　佳代子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年・通年	選択・必修	選択
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○	○		○	

授業目的	本学は、人間力を根幹とした医療人の育成という教育理念に基づき、専門職業人としての資質の向上を目指している。本科目では、学生自らが健康、社会・環境、栄養、保健医療福祉に関する課題を掲げ、課外活動に積極的に参加、学修を積み重ねることで看護師としての専門科目を履修する際の基盤をつくることをねらいとする。
到達目標	1）自己の人間力を育成しかつ専門職業人としての資質向上につながる活動に計画的・主体的に参加することができる。 2）活動内容と学びを保健医療福祉の視点から記述できる。 3）活動を通して、専門職業人（看護師）の役割について考えることができる。
テキスト	なし
参考書	なし

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		評価のためには、以下の 3 点が必要となる。 1）学習のねらいに合致した自主的活動が授業の 30 時間相当あること。2）活動がポートフォリオにまとめられていること。 3）各活動の学びがレポートにまとめられていること。 提出されたポートフォリオ（上記 3 点含む）から総合的に評価する。 詳細は、ガイダンスで説明する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	・必ずガイダンスを受講してください。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス
		授業内容	①学修のねらいと学修の進め方 ②単位認定の方法
		事前・事後学習	
	2〜15	学習の主題	自主的活動
		授業内容	各種活動とポートフォリオの作成
		事前・事後学習	

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護学概論 Introduction to Nursing	担当教員	小島　悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎	○	

授業目的	本科目では、看護の歴史的変遷から専門職としての発展過程、および看護学を構成している看護、人間、健康、環境の基本的概念と関係性について学ぶ。また、看護実践の基盤となる法や制度、看護実践の根幹となる倫理、看護実践の概要、他職種の役割と保健医療福祉チームにおける連携・協働について学び、看護の本質、看護の専門性、看護の目的や役割機能について理解する。これらの学びを通して、看護学への関心を高め、看護観を育むことをねらいとする。
到達目標	1. 看護の歴史的変遷を概観しながら近代看護以前と以降の看護の特徴について説明できる。 2. 看護について説明できる。 3. 看護の対象となる人間について説明できる。 4. 人間と環境の関係について説明できる。 5. 健康の概念について説明できる。 6. 看護職を規定する法律や関連法規について説明できる。 7. 看護実践のプロセスについて説明できる。 8. 保健医療福祉システムにおける看護の役割について説明できる。
テキスト	1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂) 2. V. ヘンダーソン、湯槇ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 3. F. ナイチンゲール、湯槇ます他訳「看護覚え書」(現代社)
参考書	1. 看護史研究会編「看護学生のための世界看護史」(医学書院) 2. 舟島なをみ「看護のための人間発達学　第 3 版」(医学書院) 3. 鷹野和美編「チーム医療論」(医歯薬出版) 4. 小山眞理子「看護学基礎テキスト　第 4 巻　看護の機能と方法」(日本看護協会出版会) 5. 手島恵 監修「看護者の基本的責務」(日本看護協会出版会)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	講義中・後に所定の用紙に授業内容に関連した意見、考え、感想をまとめた提出物（30%)、看護観に関するレポート(10%)、試験（60%）で評価する。 到達目標をどの程度達成したかを基準として評価する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	1. 質問や意見を述べるなど授業に積極的に参加し、提出物は期限を守って提出しましょう。 2. 学習の主題・内容について事前にテキストを読み、授業資料等は経時的にファイリングしましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス 看護とは（1)
		授業内容	1. 自分と看護職との接点について考え、クラスメイトと共有する 2. 看護、ケアの語源から看護の意味について考える
		事前・事後学習	事後学習：学習の主題に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	2	学習の主題	看護とは（2)
		授業内容	医療や看護の歴史をもとに看護について考える
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：近代看護以前と以後の看護の特徴についてまとめる(2 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3	学習の主題	看護とは（3）
		授業内容	さまざまな看護の定義をもとに看護について考える
		事前・事後学習	事前学習：看護理論家の定義を確認し、看護について自分なりに考える(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べ、まとめる(2 時間)
	4	学習の主題	看護とは（4）
		授業内容	ナイチンゲール看護覚え書をもとに看護について考える
		事前・事後学習	事前学習：ナイチンゲール看護覚え書の「序章」p13-20 と「補章」p227-250 を読み、自分の考えをまとめる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	5	学習の主題	看護の対象となる人間（1）
		授業内容	1.　人間の身体・心理社会的・スピリチュアルな側面 2.　人間の成長・発達
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	6	学習の主題	看護の対象となる人間（2）
		授業内容	1. 人間の基本的欲求 2. 環境への適応 3. 統合体としての人間
		事前・事後学習	事前学習：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」p8-33 を読み、人間の基本的欲求について自分の考えをまとめる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	7	学習の主題	人間と環境の関係
		授業内容	1. 環境とは 2. 生活と環境
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	8	学習の主題	看護における健康
		授業内容	1.　健康とは：WHO の健康の定義、アルマ・アタ宣言、オタワ憲章など 2.　ライフスタイルと健康
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	9	学習の主題	看護と法
		授業内容	1.　保健師助産師看護師法 2.　医療法 3.　看護に関わる法律や行政のしくみ
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	10	学習の主題	看護実践のプロセス（1）
		授業内容	看護実践における技術
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	11	学習の主題	看護実践のプロセス（2）
		授業内容	看護実践と倫理：ニュルンベルグ綱領、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言、看護者の倫理綱領など
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	12	学習の主題	看護実践のプロセス（3）
		授業内容	さまざまな健康レベルにある対象への看護実践
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13	学習の主題	看護実践のプロセス（4）
		授業内容	事例をもとに看護実践について考える
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	14	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割（1）
		授業内容	1. 保健、医療、福祉とは 2. 保健医療福祉の提供システム
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題に関して自分なりにまとめる(2 時間)
	15	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割（2）
		授業内容	1. チーム医療とは 2. 各職種の役割 3. 多職種連携と協働
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関して自分なりに調べる(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関して自分なりにまとめる(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護技術総論 Introduction to Nursing Arts	担当教員	本吉　明美、園田　典子、大日向　輝美、 首藤　英里香、柏倉　大作、横山　桂子、 小島　悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		

授業目的	看護実践に必要な看護技術の概念と特性について学び、看護実践における看護技術の意義を理解する。また、看護技術における安全性、安楽性、自立性の基本原則、および看護技術を提供する際に必要となる能力や態度を理解する。さらに、看護共通技術である感染予防技術、バイタルサインズの観察技術、ボディメカニクスの基本原理、環境調整技術の基本について根拠をもとに学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育むとともに、内省力を高めることをねらいとする。
到達目標	1. 看護技術の定義が意味するものを説明できる。 2. 看護技術における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる。 3. 感染予防策の概要と感染経路対策を説明できる。 4. ボディメカニクスの具体的な活用法を説明できる。 5. 対象者の安全・安楽を考えた生活環境を整える意義を説明できる。 6. バイタルサインズを観察する意義と観察方法を説明できる。 7. 感染予防、環境調整、バイタルサインズに関する基本的な看護技術を根拠に基づき実施し、評価できる。
テキスト	1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子他「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子他「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 4. ヘンダーソン、湯槇ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 5. ナイチンゲール、湯槇ます他訳「看護覚え書」(現代社)
参考書	1. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	試験では、到達目標の達成度を評価する（50%）。 小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する（20%）。 提出物では、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する（30%）。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は 2 または 3 クラス編制で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録を所定の用紙に記載し、指定された提出期限までに提出してください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （大日向）	学習の主題	看護技術とは何か
		授業内容	看護実践における看護技術の意味を理解する
		事前・事後学習	事後学習：配付資料、テキストを熟読し、復習をする(2 時間)
	2 （本吉）	学習の主題	感染予防の基礎技術（1）
		授業内容	1. 感染とは 2. 感染予防策 3. 感染予防における看護師の役割 4. 感染予防の技術 【小テスト】感染と感染予防に関する知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3（全担当教員）	学習の主題	感染予防の基礎技術（2）（演習）
		授業内容	手指衛生と個人防護具の取扱いに関する看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	4（本吉）	学習の主題	環境調整の技術（1）
		授業内容	1. 病床環境を整える意義を理解する 2. 病床環境のアセスメントの視点を理解する 【小テスト】病床環境とボディメカニクスに関する知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	5（本吉）	学習の主題	環境調整の技術（2）
		授業内容	1. 看護におけるボディメカニクスの意義と原則を理解する 2. 病床環境を安全・安楽に整える方法（ベッドメーキング、環境整備）を理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	6（全担当教員）	学習の主題	環境調整の技術（3）（演習）
		授業内容	ボディメカニクスを活用したベッドメーキングと病床環境を整える技術演習を行い、看護の基本となる技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	7（本吉）	学習の主題	環境調整の技術（4）
		授業内容	病床環境を安全・安楽に整える方法（リネン交換、環境整備）について理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	8（全担当教員）	学習の主題	環境調整の技術（5）（演習）
		授業内容	ボディメカニクスを活用したリネン交換の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	9（園田）	学習の主題	バイタルサインズの観察（1）
		授業内容	1. バイタルサインズとは 2. バイタルサインズを観察する意義 3. バイタルサインズの変動要因 【小テスト】バイタルサインズに関する知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	10（全担当教員）	学習の主題	バイタルサインズの観察（2）（演習）
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	11（園田）	学習の主題	バイタルサインズの観察（3）
		授業内容	バイタルサインズの観察方法と留意点を理解する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	12（全担当教員）	学習の主題	バイタルサインズの観察（4）（演習）
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察（5）（演習）
		授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	14 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する （1）（演習）
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	15 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する （2）（演習）
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	援助関係論 Supportive Relationship for Nursing			担当教員	木津　由美子、吉田　祐子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	看護職として質の高いケアを提供するためには、対象者との援助関係・信頼関係が重要であることから、対象者を深く理解し、人間関係を構築するためのコミュニケーションを中心とした基礎的な知識を理解する。						
到達目標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 援助的な対人関係がイメージできる。 3. コミュニケーション技術を習得する。						
テキスト	石川ひろの編「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」第 3 版（医学書院）2018						
参考書	篠崎 恵美子著「看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング」（医学書院）2015 山蔦圭輔・本田周二著「メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論」（南江堂）2021						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	筆記試験、演習時の参加状況、課題レポートにより評価する（詳細はガイダンスにて説明する）。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	・積極的に演習に参加すること。 ・提示されたテキストのページに沿って予習復習をすること。 ・ワークシートを整理（追記・修正など）すること。
実務経験を活かした教育内容	看護師として病棟勤務の経験を踏まえて、患者-看護師やチームとしての人間関係の重要性を、事例を用いてわかりやすい授業を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（木津）	学習の主題	ガイダンス（科目の目的・目標・評価方法） 人間関係における自己と他者
		授業内容	・人間関係とは ・自己とは ・他者とは ・コミュニケーションとは
		事前・事後学習	（事前）：シラバスを読み、学習内容を確認しておく（1 時間）。 （事後）：テキストの該当ページと配布資料で復習しノートに整理をする（2 時間）。
	2（木津）	学習の主題	人間関係をつくる理論と技法①：コミュニケーション技法①
		授業内容	・コミュニケーションとは ・対人コミュニケーション ・言語的コミュニケーション ・非言語的コミュニケーション ・傾聴と共感 ・開かれた質問と閉ざされた質問
		事前・事後学習	（事前）：テキストの該当ページを読み、予習をする（2 時間）。 （事後）：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2 時間）。
	3（木津）	学習の主題	対人関係と役割
		授業内容	・対人関係の成立 ・対人関係の維持と崩壊 ・対人葛藤と対処 ・社会的役割
		事前・事後学習	（事前）：テキストの該当ページを読み、予習をする（2 時間）。 （事後）：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4・5 (木津) (吉田)	学習の主題	演習：人間関係をつくるコミュニケーション
		授業内容	・人間関係構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習し、ワークシートに学びをまとめる（2時間)。
	6 (木津)	学習の主題	集団と個人
		授業内容	・集団の特性 ・集団での課題遂行・問題解決・意思決定 ・リーダーシップ
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しワークシートにまとめる（2時間)。
	7 (木津)	学習の主題	自己理解・他者理解
		授業内容	・自分を理解するということ ・交流分析 ・カウンセリング・心理療法
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しワークシートにまとめる（2時間)。
	8 (木津)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法②
		授業内容	・アサーションの理論とスキル
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2時間)。
	9 (木津)	学習の主題	保健医療チームの人間関係
		授業内容	・医療におけるチームと看護師の役割 ・チームワークとチームエラー ・チームにおけるコミュニケーション
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しワークシートにまとめる（2時間)。
	10 (木津)	学習の主題	患者を支える人間関係
		授業内容	・リフレクション ・プロセスレコード
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しワークシートにまとめる（2時間)。
	11・12 (木津) (吉田)	学習の主題	演習：看護学生としてのコミュニケーション
		授業内容	・看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習する
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しワークシートにまとめる（2時間)。
	13 (木津)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法③：コーチング
		授業内容	・コーチングの理論とスキル
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2時間)。
	14 (木津)	学習の主題	様々な看護場面における人間関係
		授業内容	・クリティカルな状況の患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者を支える人間関係 ・死に向かう患者を支える人間関係
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2時間)。
	15 (木津)	学習の主題	まとめ
		授業内容	・第1回～14回までの総復習
		事前・事後学習	(事前)：テキストの該当ページを読み、予習をする（2時間)。 (事後)：テキストと配布資料にて復習しノートに整理をする（2時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護技術論 I Fundamentals of Nursing Skill I	担当教員	首藤　英里香、園田　典子、本吉　明美 柏倉　大作、横山　桂子、小島　悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		

授業目的	既習の知識を活用しながら対象者の生活上のニーズを考え、健康の回復、維持・増進を支援するための日常生活援助技術の基本を学ぶ。生活における食事、排泄、清潔、活動、睡眠の意義を理解し、それらのニーズを充足するための看護技術について根拠をもとに学ぶとともに、対象者の個別性に合わせた支援を考え、実施する。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な知識・技術・態度を育むとともに、内省力を高めることをねらいとする。
到達目標	1. 看護職が日常生活を支援することの意義を説明できる。 2. 人間にとって活動と運動の意義、活動と運動に関する支援について説明できる。 3. 人間にとって睡眠と休息の意義、睡眠と休息に関する支援について説明できる。 4. 人間にとって安楽の意義、安楽を促進する支援について説明できる。 5. 人間にとって衣生活の意義、衣生活に関する支援について説明できる。 6. 人間にとって清潔の意義、清潔に関する支援について説明できる 7. 人間にとって排泄の意義、排泄に関する支援について説明できる。 8. 人間にとって食事・栄養摂取の意義、食事・栄養摂取に関する支援について説明できる。 9. 日常生活を支援するための基本的な看護技術を実施できる。
テキスト	1. 深井喜代子他「基礎看護学② 基礎看護技術 I 」(メヂカルフレンド社) 2. 深井喜代子他「基礎看護学③ 基礎看護技術 II 」(メヂカルフレンド社) 3. 新しい食生活を考える会編「食品解説つき新ビジュアル 食品成分表 新訂第二版」(大修館書店)
参考書	1. ナイチンゲール、湯槇ます他訳「看護覚え書」(現代社) 2. ヘンダーソン、湯槇ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する（30%)。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。 1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。 2. 演習は 2 または 3 クラス編成で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。 3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。 4. 各技術演習後は、演習後記録に取り組み、指定された提出期限までに提出してください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（首藤）	学習の主題	ガイダンス・生活援助技術とは
		授業内容	1. 生活援助技術とは 2. 生活援助技術と看護過程
		事前・事後学習	事後学習：配付資料を熟読し、復習をする(2 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	2（首藤）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（1）
		授業内容	1. 日常生活における活動・運動／睡眠・休息の意義 2. 活動・運動／睡眠・休息に関するアセスメントの視点 3. 活動・運動／睡眠・休息の支援方法 【小テスト】活動・運動／休息・睡眠のメカニズムについて
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	3（首藤）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（2）
		授業内容	1. 安全・安楽な体位保持・体位変換・移乗・移送の看護技術 【小テスト】ポジショニング、体位変換、移乗・移送に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	4（全担当教員）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（3）（演習）
		授業内容	1. 安全で安楽な体位変換の看護技術を実施し、評価する 2. 安全で安楽なポジショニングの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、 課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	5（全担当教員）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（5）（演習）
		授業内容	安全・安楽な車椅子の移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	6（本吉）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（4）
		授業内容	1. 安楽促進の意義 2. 安楽に関する支援方法とそのメカニズム 【小テスト】温罨法・冷罨法に関する知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	7（全担当教員）	学習の主題	活動・運動／睡眠・休息に関する看護（6）（演習）
		授業内容	温罨法、冷罨法の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	8（園田）	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（1）
		授業内容	1. 清潔、衣生活の意義 2. 衣生活に関する支援方法 【小テスト】清潔・衣生活の看護に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	9（全担当教員）	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（2）（演習）
		授業内容	寝衣交換の看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	10（園田）	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（3）
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な足浴ケアの根拠と方法 【小テスト】足浴ケアに必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（4）（演習）
		授業内容	根拠に基づき足浴ケアの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	12 (本吉)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（5）
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な全身清拭のケアの根拠と方法 【小テスト】清拭のケアに必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	13 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（6）（演習）
		授業内容	全身清拭の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	14 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（7）
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な洗髪ケアの根拠と方法 【小テスト】洗髪ケアに必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	15 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（8）（演習）
		授業内容	洗髪の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
	16 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（9）
		授業内容	1. 事前学習の確認テスト 2. 清潔に関するアセスメントの視点 3. 整容・口腔ケア・爪切りの意義、根拠と方法(2 時間)
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	17 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護（10）（演習）
		授業内容	根拠に基づき整容・口腔ケアの看護技術を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	18 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護（1）
		授業内容	1. 排泄の意義 2. 排泄に関するアセスメントの視点 3. 排泄に関する支援方法 【小テスト】排泄の支援に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	19 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護（2）（演習）
		授業内容	尿器・便器を使用した看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	20 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護（3）
		授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な陰部の清潔を保持する支援方法 【小テスト】陰部洗浄に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	21（全担当教員）	学習の主題	排泄に関する看護（4）（演習）
		授業内容	陰部洗浄の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)
	22（横山）	学習の主題	排泄に関する看護(4)
		授業内容	浣腸の種類と適応、根拠に基づく浣腸の方法 【小テスト】浣腸に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)く
	23（全担当教員）	学習の主題	排泄に関する看護（5）（演習）
		授業内容	便秘のある患者に対しグリセリン浣腸を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	24（柏倉）	学習の主題	食事・栄養に関する看護（1）
		授業内容	1.　食事・栄養摂取の意義 2.　食事・栄養摂取のメカニズム 3.　食事・栄養摂取に関するアセスメントの視点 【小テスト】食事・栄養のアセスメントに必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストの予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	25（全担当教員）	学習の主題	食事・栄養に関する看護（2）（演習）
		授業内容	1.　食事・栄養に関する情報収集(学生同士) 2.　収集した情報をもとに、食事・栄養の適切性について考える 3.　不足情報の収集 4.　食事・栄養の適切性について再検討 5.　グループで共有し、改善策を考える
		事前・事後学習	事前学習：食事・栄養のアセスメントに必要な知識の復習(2 時間) 事後学習：グループワークの学びの復習(2 時間)
	26（柏倉）	学習の主題	食事・栄養に関する看護（3）
		授業内容	1．グループワークで話し合った内容を発表・ディスカッションを通し、適切な食事・栄養について学びを共有する
		事前・事後学習	事前学習：食事・栄養のアセスメントに必要な知識の確認(2 時間) 事後学習：食事・栄養のアセスメントに必要な知識の復習(2 時間)
	27（柏倉）	学習の主題	食事・栄養に関する看護（4）
		授業内容	1．健康障害を持つ対象の食事・栄養について 2．健康障害を持つ対象の食事の支援方法 3．嚥下障害のある対象の経口摂取の支援方法 【小テスト】健康障害をもつ対象の食事支援に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	28（全担当教員）	学習の主題	食事・栄養に関する看護（5）（演習）
		授業内容	1．自力で食事摂取が困難な対象の食事介助 2．嚥下障害のある対象の水分摂取の介助
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	29 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護（6）
		授業内容	1. 経口摂取が困難な対象の支援方法 2. 非経口栄養法の適応と方法 【小テスト】非経口栄養法に関する知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを予習(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	30 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護（7）（演習）
		授業内容	経管栄養法の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護基礎実習 I Clinical Practicum of Fundamental Nursing I	担当教員	小島　悦子、首藤　英里香、本吉　明美 園田　典子、柏倉　大作、横山　桂子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

ねらい	病院の環境および入院している対象者の療養生活や個別性について、看護師の看護実践の見学および、対象者とのコミュニケーションや療養環境の整備を通して理解する。また、学生間で実習における気づきの共有を通して、看護の役割機能に関する理解を深める。これらの学びを通して、看護学生に求められる基本的な態度を理解するとともに、看護学への関心や内省力を高め、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。
実習目標	1. 対象者の療養生活を理解できる。 2. 看護実践の見学・体験を通して看護の役割を理解できる。 3. 看護職に必要な基本的な態度を身につける。 4. 実習体験をもとに看護の専門性について考え、今後の自己課題を明確にできる。
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	実習要項に記載	100	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。

履修上の留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 実習オリエンテーション時に配布する「臨地実習共通要項」および「看護基礎実習 I 実習要項」は実習開始までによく読み、理解した上で実習に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。
実習方法	1. グループごとに配置された病院および病棟で実習を行う。 2. 実習期間：以下のいずれかの期間となる ① 2022 年 7 月 25 日（月）～ 7 月 29 日（金） ② 2022 年 8 月　1 日（月）～ 8 月　5 日（金） 3. 実習 1 日目は、病院・病棟オリエンテーションを受け、看護実践の見学・実施を行う。 4. 実習 2 日目からは病棟の実習指導者と行動を共にしながら、看護実践の見学・実施を通して看護の役割について理解を深める。 5. 学生が実施できる看護技術は、環境整備、ベッドメーキング、シーツ交換、バイタルサインズの観察である。 6. 毎日、実習指導者と行動調整をしてから実習を開始し、終了前に振り返りを行い、学びを整理する。 7. 最終日に学内でグループワークと全体報告会を行い、学びを共有する。
実習施設	KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌山の上病院、手稲渓仁会病院、斗南病院、北海道内科リウマチ科病院

2022 年度以降入学生対象

授業科目	地域看護学概論 Introduction to Community Health Nursing			担当教員	針金　佳代子		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	地域の特性を、自然や歴史、文化、経済、政治・行政、産業構造、教育や交通、コミュニケーション等から知る方法を学び、地域のさまざまな環境が、人々の生活そして健康にどのように影響を与えるかを理解する。地域において人々の健康そして質の高い生活を維持していくために支援する地域看護について学ぶ。地域のさまざまな場で機能する看護職が連携を取りながら、地域の人々の健康と質の高い生活の維持・向上のために、住民そして多職種と協働で地域包括ケアシステムの構築、そして推進していくことの必要性について理解できる。						
到達目標	1．地域の特性を、自然や歴史、文化、経済、政治・行政、産業構造、教育や交通、コミュニケーション等から知る方法を理解できる。 2．地域のさまざまな環境が、人々の生活そして健康にどのように影響を与えるかを理解できる。 3．地域において人々の健康そして質の高い生活を維持していくために支援する、地域看護の特徴について理解する。 4．地域の多様な場で機能する看護職の特徴を理解し、相互に連携して地域住民の健康や生活を支援していることを理解できる。 5．地域において人々が、人生の最後まで自分の望む生き方を目指して、看護職として地域の住民や専門機関・職種と連携・協働して地域包括ケアシステムを形成していく必要性を理解できる。						
テキスト	講義の時に資料を配布する。						
参考書	1．厚生労働統計協会「国民衛生の動向・厚生の指標　増刊　2021/2022」（厚生労働統計局） 2．真舩拓子、杉本正子他編集「看護師教育のための地域看護概説」（ヌーヴェルヒロカワ） 3．豊島泰子著「看護師のための地域看護学」（PILAR）						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験		テーマ「地域と人々の健康と生活との関係について」 記述するレポートによって目標の達成状況を判断します。				
	レポート	100					
	小テスト						
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	私たちが日々健康に生きていくことができるのはなぜなのかを、地域のさまざまな環境などと関連させて考えてみましょう。各授業前・後に、予習・復習を 1〜2 時間必要とする。						
実務経験を活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である地域の人々の生活と健康の関連、それを支える看護職と看護活動に関する基本的な考え方を伝えます。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	地域とは				
		授業内容	「北海道」という地域の特性を考えてみてください。 自然、歴史（アイヌ文化との出会いを含む）、文化、経済、政治と行政、教育、交通・安全、コミュニケーション・情報、レクリエーション、保健医療と社会福祉などの地域を分析する項目から北海道を考える。				
		事前・事後学習	事前学習：高校までに学んできた歴史や、政治、経済、行政などの知識を活用して、北海道について改めて考えてみてください。 事後学習：看護職が何故「地域とは何か」を考える必要性があるのかを、考えてみてください。				
	2	学習の主題	自分が育ってきた地域の特性				
		授業内容	・個別学習：北海道を分析した項目を参考に、自分の育ってきた地域を調べ、どのような地域の特性があるのかをまとめる。				
		事前・事後学習	事前学習：地域を分析する視点を踏まえて、自分の育った地域を思い出してみてください。 事後学習：まとめた結果を、グループメンバーに報告する準備をしてください。				

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3	学習の主題	健康なまちとは
		授業内容	・グループ学習 テーマ：地域と生活と健康は、どのような関係があるのか。 ・自分の成長してきた地域をグループメンバーに報告する。 ・地域の特性と毎日の生活とは関連があるのか。 ・その地域で健康な生活を続けていくことができるのだろうか。 1．地域の環境と生活そして健康との関連 2．健康なまちとは
		事前・事後学習	事前学習：自分の育ってきた地域でこれからも生活していく場合、健康を維持できるだろうかをイメージしてみてください。 事後学習：グループ学習などを基に、自分の育ってきた地域は健康なまちなのかを、考えてみてください。
	4	学習の主題	地域を基盤とした看護とは
		授業内容	1．地域看護の定義 2．地域看護の対象 3．地域看護の目的
		事前・事後学習	事前学習：地域で生活する人々と看護の関係についてイメージしてみてください。 事後学習：地域で生活する人々や環境を看護するとはどのようなことかを、自分の育った地域を例に考えてみてください。
	5	学習の主題	地域の多様の場で機能する看護職
		授業内容	1．地域における看護職 職種の定義、支援の基盤となる考え方(理念)、目的、対象、専門性（機能と役割)、支援方法、働く場など
		事前・事後学習	事前学習：地域で働く看護職について調べてください。 事後学習：地域で働く看護職の専門性の違いや共通性について考え、各々の特徴を生かすことの必要性と意味について考えをまとめてみてください。
	6	学習の主題	地域の看護職が支援する時に、共通して大切にしていること
		授業内容	1．地域看護活動とは ・ＤＶＤ　「地域看護活動とヘルスプロモーション」の視聴 ・グループ学習 テーマ：地域で生活する人々が主体的に健康な生活を築くために目指す予防的な支援とは何か。
		事前・事後学習	事前学習：地域の人々が健康になるためには、どのようなことが必要なのかを考えてみてください。 事後学習：何故、地域全体で健康になるために予防をしていくことが大切なのかの理由について考え、自分の育った地域について考えてみてください。
	7	学習の主題	地域の人々の健康そして生活の質を向上することを目指す、地域包括ケアシステム
		授業内容	1．自助・互助・共助・公助とは 2．わが国の社会保障制度の特性 3．地域包括ケアシステムとは (1)高齢者や疾病や抱える人々を対象とした地域包括ケアシステム (2)子育てをしている家族・親子を対象とした地域包括ケアシステム (3)精神障がい者を対象とした地域包括ケアシステム 4．地域包括ケアシステムを構築してくための地域の看護職間の連携
		事前・事後学習	事前学習：これからのわが国が進んでいく方向性について、高校までの学習を生かして考えてみてください。 事後学習：これからのわが国の社会保障制度の課題から、地域の人々が支え合って健康に生きていくためには、地域において包括的なケアシステムが必要な理由について考えてみてください。その上で、看護職間の連携の意味について考えをまとめる。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8	学習の主題	地域包括ケアを推進していくための看護職と住民そして多職種との連携・協働
		授業内容	1．川崎市の取り組みから学ぶ「地域包括ケアシステム」 「川崎市　地域包括ケアシステム構築の軌跡」を視聴 ・グループ学習 テーマ①：・住民と専門職とのパートナーシップとエンパワメント ・地域包括ケアシステムと看護の役割 テーマ②：・この授業で、学んだこと
		事前・事後学習	事前学習：先駆的に地域包括ケアシステムを構築している自治体とは、どのような条件がそろっていたのかを、イメージしてください。 事後学習：地域で生活する人々と専門職とのパートナーシップが、これからのも住民が健康に生きていくためには不可欠な意味ついて自分の考えをまとめる。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing	担当教員	佐藤　郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

授業目的	ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期にある人の特徴を学ぶ。また、成人を取り巻く健康課題と成人看護の役割、成人期にある人を看護するための有用な概念や理論について学ぶ。なお、本科目は成人看護活動論と成人看護実習の基礎となる科目である。
到達目標	1．ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期の発達段階と成人各期の特徴を説明できる。 2．成人期に特徴的な健康問題について説明できる。 3．成人期にある人の健康課題を理解・解決するために有用な理論について説明できる。 4．成人期の看護実践に必要な多職種連携とチーム医療について説明できる。
テキスト	林直子他編集「看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 3 版」（南江堂）
参考書	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標達成状況を課題レポート（10 点）・提出物（10 点）と定期試験（80 点）で評価します。 課題レポートのテーマと提出物については、講義時に知らせます。 レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	10	
	その他		

履修上の留意事項	本科目は専門基礎科目や他の専門科目とも関連づけて学んで下さい。受講に際しては事前事後の学習を行い主体的に学んで下さい。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜3 時間の時間を要します。
実務経験を活かした教育内容	臨床での経験や事例を織り交ぜながら、概念や理論が理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、ライフサイクルにおける成人の位置づけ
		授業内容	1．成人とは、成人各期の発達段階と発達課題 2．成人各期の発達上の危機と支援
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	2	学習の主題	成人期にある人の健康課題
		授業内容	1．成人期にある人の健康状態の指標 2．成人期にある人の特徴的な健康課題
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	3	学習の主題	成人期にある人の生活と健康障害
		授業内容	1．生活習慣に関連した健康障害 2．職業・ストレスに関連した健康障害
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	4	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論（1）
		授業内容	1．セルフケアの概念・理論 2．セルフマネジメントを促す支援
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	5	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論（2）
		授業内容	1．成人期にある人への学習支援・アンドラゴジー 2．自己効力理論（セルフ・エフィカシー） 3．コンプライアンスとアドヒアランス
		事前・事後学習	事後学習：課題レポートを講義時に提示します

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論（3）
		授業内容	1．病みの軌跡 2．慢性疾患を抱える患者の看護
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	7	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論（4）
		授業内容	1．危機理論 2．急性疾患を抱える患者の看護
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	8	学習の主題	保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割
		授業内容	1．継続看護とは、継続看護の場と役割 2．チーム医療における看護師の役割
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる

2022 年度以降入学生対象

授業科目	高齢者看護学概論 I Introduction to Gerontological Nursing			担当教員	服部　ユカリ、中田　真依		
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	わが国の高齢化の特徴をふまえ、ライフサイクルの中の老年期の特徴を理解し、高齢者看護の目的、機能と役割について学ぶ。高齢者とその家族を総合的にとらえるため、加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴および老年期の発達課題を理解する。高齢者に特徴的な健康課題である老年症候群、ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイルの基礎的知識を学ぶ。また、高齢者の特徴を考慮したコミュニケーションの基礎を学ぶ。						
到達目標	1. 加齢による身体的、心理・社会的な特徴、および老年期の発達課題について説明できる。 2. 高齢者を取り巻く社会の動向や高齢者の地域での生活を支援する地域包括ケアシステムについて説明できる。 3. 高齢者の生活やそれを支える職種について説明できる。 4. 高齢者とのコミュニケーション方法について説明できる。 5. ライフストーリーの意義について説明できる。						
テキスト	北川公子編「系統看護学講座　専門分野 II　老年看護学」(医学書院)						
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標の到達状況を筆記試験 80%、レポート 20%、合計 100%にて評価する。
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	予習・復習を行い、高齢者看護学概論 II、高齢者看護活動論 I・II、高齢者看護実習につながるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めること。
実務経験を活かした教育内容	看護の経験や事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（中田）	学習の主題	ガイダンス “老い”、高齢者看護とは
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・老いのイメージの変遷とスティグマ・エイジズム ・高齢者看護の理念
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（1 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	2（中田）	学習の主題	加齢変化と健康①
		授業内容	・加齢による身体的変化
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	3（中田）	学習の主題	加齢変化と健康②
		授業内容	・加齢による心理・精神的変化、社会的変化 ・ライフステージと老年期の発達課題
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （服部）	学習の主題	高齢者を取り巻く社会①
		授業内容	・超高齢社会の統計的輪郭 ・高齢化率の変遷、平均寿命と健康寿命、フレイル、ロコモティブシンドローム
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	5 （服部）	学習の主題	高齢者を取り巻く社会②
		授業内容	・高齢者と家族（世帯構造） ・高齢者の健康（有訴者率、受療状況、要介護高齢者） ・高齢者の死亡（死亡率と死因）
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	6 （服部）	学習の主題	高齢者を取り巻く社会③
		授業内容	・地域包括ケアシステム
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 【課題】身近な地域での保健医療機関を調べて授業に臨む 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	7 （服部）	学習の主題	高齢者を取り巻く社会④
		授業内容	・高齢者の暮らし（家計、住まい、社会活動） ・高齢者の生活を支える職種とは
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	8 （中田）	学習の主題	高齢者とのコミュニケーション
		授業内容	・高齢者と良いコミュニケーションを図るには ・ライフストーリー
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題】ライフストーリーに関するレポート作成

授業科目	地域連携ケア論Ⅰ Theory of Community-based Care Ⅰ	担当教員	針金　佳代子、槌本　浩司、 百々瀬　いづみ、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・1 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	

授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4 年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護職の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、1 年次の本科目では、地域で生活するさまざまな健康レベル、発達段階にある人々に話を聞く、または関わることから、地域で生活する人々が持つ個別性や多様性を理解する。同時に、その人々の生活にどの様なことが影響を及ぼしているかを社会的要因も含めて考える。
到達目標	・生活や地域の捉え方を学び、地域で生活する人々の個別性や多様性を理解する。 ・地域で生活する人々の健康や生活には、地域の自然環境や文化・社会的な要素が影響していることを理解する。 ・地域で生活する人々が抱える生活や健康上の課題を地域の特性と関連づけて理解できる。
テキスト	適宜、開講時に提示する
参考書	開講時に提示する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（40%）する。 詳細は授業の中で説明する。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	自分の生活と結びつけながら理解すること。各授業前・後に、予習・復習を 1～2 時間必要とする。
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開する。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	授業ガイダンス
		授業内容	ガイダンス。「生活」とは。 自分が生まれ、そして生活してきた地域（市町村）について関心をもつ。
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。
	2（針金）	学習の主題	生活者とは　Ⅰ
		授業内容	地域との関係から生活を構造的に見てみる（自分を知る、家族を知る）。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	3（小川）	学習の主題	生活者とは　Ⅱ
		授業内容	「健康な生活の成立要件」について知る。
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	4（百々瀬）	学習の主題	地域で暮らす住民からの講話　Ⅰ
		授業内容	町内会長から見た、町内で暮らす人の生活と課題
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	5（百々瀬）	学習の主題	地域で暮らす住民からの講話　Ⅱ
		授業内容	地域における生活者（子育て中、就業者、障がい者等）による町内での生活や課題
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (槌本)	学習の主題	健康な生活に影響を及ぼす社会的要因とは　Ⅰ
		授業内容	地域で健康に暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有（その１）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7 (小川)	学習の主題	生活に影響を及ぼす社会的要因とは　Ⅱ
		授業内容	地域で健康に暮らし続けるために必要な要件について気づきの共有（その２）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8 (槌本)	学習の主題	生活に影響を及ぼす社会的要因とは　Ⅲ
		授業内容	地域で暮らす生活者の生活と健康との関係について気づきの共有
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語Ⅲ（読解） English Ⅲ			担当教員	松尾　文子		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	1. 一般的な英語表現形式の確認を行い、読解能力を強化する。 2. 医療・看護・福祉分野の文献を読む。 3. 本文を通して、今日的なテーマに対する興味を持つ。						
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握する。 2. テキストを通じて英語の表現力を高める。 3. テキストを通じて語彙力を高める。						
テキスト	Toshiaki Nishihara, et al. “English for Medicine”（金星堂. 2022）						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で 70%、授業で行うリスニングの小テストで 20%、授業の取り組み姿勢の 10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1：Polio and Vaccination pp.1-4
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。/ ポリオに関する理解を深める。受診時の英語のやり取り。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	2	学習の主題	Chapter 1：Polio and Vaccination pp.4-5 / Chapter 2：A Doctor’s Prescription pp.6-7
		授業内容	Chapter 1：ポリオに関する理解を深める。受診時の英語のやり取り。 Chapter 2：処方箋の理解を深める。診察時の英語のやり取り。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	3	学習の主題	Chapter 2：A Doctor’s Prescription pp.8-10/ Chapter 3：Barometric Pressure and Migraines p.11
		授業内容	Chapter 2：処方箋の理解を深める。診察時の英語のやり取り。 Chapter 3：片頭痛への対処
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	4	学習の主題	Chapter 3：Barometric Pressure and Migraines pp.12-15
		授業内容	片頭痛への対処
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	5	学習の主題	Chapter 4：Internal Medical Exam pp.16-19
		授業内容	薬の説明文についての理解を深める。内科受診時の英語のやり取り。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	Chapter 4：Internal Medical Exam pp.19-20 / Chapter 5：Colon Polyps pp.21-22
		授業内容	Chapter 4：薬の説明文についての理解を深める。内科受診時の英語のやり取り。/ Chapter 5：大腸がんに関する理解を深める。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	7	学習の主題	Chapter 5：Colon Polyps pp.23-25： Chapter 6： Respiratory Symptoms p.26
		授業内容	Chapter 5：大腸がんに関する理解を深める。 Chapter 6：SARS についての理解を深める。気管支鏡を用いた検査に関わる英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	8	学習の主題	Chapter 6：Respiratory Symptoms pp.27-30
		授業内容	SARS についての理解を深める。気管支鏡を用いた検査に関わる英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	9	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：中間試験の準備を 30 分以上する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤の確認を 30 分間行う。
	10	学習の主題	Chapter 7： Diabetes pp.35-38
		授業内容	II 型糖尿病のリスクに関する理解を深める。II 型糖尿病のリスクに関する英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	11	学習の主題	Chapter 7：Diabetes pp.38-39 / Chapter 8：Coronary Arterial Problems pp.40-41
		授業内容	Chapter 7：II 型糖尿病のリスクに関する理解を深める。II 型糖尿病のリスクに関する英語表現。 Chapter 8：動脈疾患に関する理解を深める。定期検査関連の英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	12	学習の主題	Chapter 8：Coronary Arterial Problems pp.42-44 / Chapter 9： A Single Doctor’s Office Visit and Health Insurance p.45
		授業内容	Chapter 8：動脈疾患に関する理解を深める。定期検査関連の英語表現。 Chapter 9：アメリカの健康保険とホームドクターのやり取りの理解と、関連する英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	13	学習の主題	Chapter 9：A Single Doctor’s Office Visit and Health Insurance pp.46-49
		授業内容	アメリカの健康保険とホームドクターのやり取りの理解と、関連する英語表現。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	14	学習の主題	Chapter 10： Allergic Reactions pp.50-53
		授業内容	アレルギー反応を抑える物質に関する理解を深める。
		事前・事後学習	事前：練習問題を解いて予習を 30 分間する。 事後：授業で扱われた内容の確認を 30 分間行う。
	15	学習の主題	Chapter 10：Allergic Reactions pp.53-54 /これまでの授業の振り返り
		授業内容	アレルギー反応を抑える物質に関する理解を深める。
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容の確認を 30 分間行う。 事後：期末試験の勉強を 30 分間以上する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	英語IV（総合） English IV			担当教員	松尾　文子		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		◎					
授業目的	1. 英語の 4 技能を含む総合的な語学能力の向上を目指す。 2. 英語のプレゼンテーションを通じて、英語の運用能力の向上を目指す。						
到達目標	1. 英文の内容を正確に把握できる。 2. 専門領域の文献を読むことができる。 3. 自分の考えをまとめて英語で口頭発表できるようにする。						
テキスト	Paul Stapleton “Food: Some Deeper Insights into What We Eat”（センゲージラーニング　2018）						
参考書	授業中に指示する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験 70%、Unit ごとの Pre-reading activity の提出物 20%、授業の取り組み姿勢 10%で評価する。 定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他	10	

履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。また，テキスト（授業中に配布する資料）で取り上げるトピックに関して、自らの視点で考える。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1: Understanding the True Cost of Food
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点等を説明する。/ 本テキストが編まれた背景を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	2	学習の主題	Chapter 2: The Modern vs. the Stone Age Diet
		授業内容	現代の食と石器時代の食を比較する。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	3	学習の主題	Chapter 3: Agriculture
		授業内容	食と農業の関係を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	4	学習の主題	Chapter4: Animal Domestication
		授業内容	人間が食料にするために家畜化した動物の問題を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	5	学習の主題	Chapter 5: Life on the Farm
		授業内容	動物を単なる肉の供給源と考えることの問題点を知る。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	Chapter 6: The Kill
		授業内容	安価な肉を手に入れることができることに関連する道徳的な代償を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	7	学習の主題	Chapter 7: Case Study I: Meat
		授業内容	体が必要とする以上に食べることによって生じる問題を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだことの定着度を測る。
		事前・事後学習	事前：試験勉強を 30 分間以上行う。 事後：可能な範囲で試験の解答の確認を 30 分間行う。
	9	学習の主題	Chapter 8: Case Study II: Corn
		授業内容	とうもろこしの栽培を通して、食の問題を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	10	学習の主題	Chapter 9: Case Study III: Food from the Sea
		授業内容	海産物を通して、食の問題を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	11	学習の主題	Chapter 10: Preservatives and Culture
		授業内容	それぞれの国や地域の食と文化の関係を考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	12	学習の主題	Chapter 11: Plant Domestication
		授業内容	遺伝子組み換え食品について考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	13	学習の主題	Chapter 12: The Complexity of Taste
		授業内容	味覚の複雑さについて考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	14	学習の主題	Chapter 13: Eating Oil
		授業内容	食と石油の関係について考える。
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を 30 分間行う。 事後：学んだ内容の確認を 30 分間行う。
	15	学習の主題	これまでの授業の振り返り
		授業内容	これまで学んだ内容の確認
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容の復習を 30 分間行う。 事後：期末試験の勉強を 30 分間以上する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	生活環境論 Environmental Life Science			担当教員	江本　匡		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎				
授業目的	人間を取り巻く自然および社会・文化的な環境をシステムという視点から再考し、それらの相互関係を深く認識するとともに、現在、システムで進行している様々な問題点を深く理解し、人の健康と生活の充実、健全な 社会の発展という面から、課題に柔軟に対応できる能力の涵養を目的とする。						
到達目標	1. 自然環境、生活環境と健康との関わりの概略を説明できる。 2. 生活全般をカテゴリー化した構造をもとにヘルスプロモーションの概念を説明できる。 3. ストレスと免疫低下、病気との関係が概説できる。 4. 生活習慣病を生体リズムの乱れ、後天性の代謝障害の面からも理解できる。 5. 情報の収集・利活用と健康の関わりが説明できる。 6. 地球温暖化の危険性、環境保全の重要性を認識し、保全活動を実践できる。						
テキスト	佐々木胤則編著「変化する環境と健康　改訂版」(三共出版)						
参考書	テキストの章末を参照する。最新の文献は講義中に適時提示する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	目標の到達状況を、授業での小テストと期末試験により評価し、それぞれの評価割合は、小テスト(4 回予定)40%、定期試験 60%とする。なお、評価は 5 段階評価とし、総合で 60%以上を単位認定の基準とする。
	レポート		
	小テスト	40	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	授業の中で小テストを 4 回実施する。1 回目(第 1 章～第 5 章)、2 回目(第 6 章～第 7 章)、3 回目(第 8 章～第 10 章)、4 回目(第 11 章～第 14 章)
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに具体的な事例、最新の事例を示しながら理解を深めてもらいたいと考えています。

学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	環境科学としての生活環境と健康について
		授業内容	自然環境は生命活動が加わって時間と共に相互にゆっくりと変化してきたが、有史からは人間活動の影響を受けて、急速に変化した健康への考え方について概要する。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。 文明・近代史を環境と人との相互関係から捉え、文明発祥地の盛衰理由を考える。(第 1 章)　(4 時間)
	2	学習の主題	生活環境と健康の構造、ヘルスプロモーションについて
		授業内容	健康に関わる社会・生活環境を 7 つの領域に、さらに公的責任分野と自己責任分野に分けて構造化し、ヘルスプロモーションの基礎的概念について概説する。
		事前・事後学習	総論の健康の捉え方を読み、WHO がこの数十年に取り組んできた活動を整理する。(第 1 章、第 2 章)　(4 時間)
	3	学習の主題	環境と健康に関わる近年の動向
		授業内容	健康に関わる事項として、感染症との戦い、増え続ける生活習慣病、環境破壊による健康被害、増大する心の病、困窮する健康福祉体制の現在に至る状況を整理し、今後の方向を探る。
		事前・事後学習	第 2 章「環境と健康」に関する近年の動向を読み、将来につながる問題点をあげる。　(4 時間)

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	環境に対する調節・適応とストレス刺激
		授業内容	環境刺激に対する調節・適応という事象を調節の局面から取り上げ、調節・適応の負の作用として、生活習慣病やアレルギー疾患増大について考える。
		事前・事後学習	生活環境における具体的なストレス場面を分類して記述してみる。（第３章）（4 時間）
	5	学習の主題	生活環境におけるストレスとメンタルヘルス
		授業内容	構成概念とされるストレスとストレス刺激の違いを明確にし、刺激に対する脳のホメオスタシス機能からメンタルヘルスについて解説する。
		事前・事後学習	心理学で提唱されている心の構造と脳機能との関係を調べる。（第 3 章）　（4 時間）
	6	学習の主題	水・空気の汚染と健康問題の変遷
		授業内容	生命にとっての水や空気の役割を改めて解説し、近代産業によって引き起こされた環境汚染と健康被害の実情を取り上げ、自然との調和という面から生活環境整備を考える。
		事前・事後学習	近年の公害問題の経緯と問題点をまとめる。（第４章）　（4 時間）
	7	学習の主題	生活環境におけるリスクとリスクマネジメント
		授業内容	日常生活におけるリスク、特に化学物質による環境汚染を健康リスク、福利リスクの面からとらえ、安全管理の手法を基に対策を探る。（1 回目の小テスト）
		事前・事後学習	リスクアセスメントについて調べる。（第５章）　（4 時間）
	8	学習の主題	感染症と生体防御、免疫システムについて
		授業内容	非自己から自己を守る免疫を生体防御システムとして概説し、ストレスを免疫システムのバランスを崩す因子ととらえ、病気との関連を考察する。
		事前・事後学習	最近のがんの免疫療法研究について調べる。（第６章）　（4 時間）
	9	学習の主題	生活のグローバル化と新興感染症について
		授業内容	グローバル化に伴って拡大する重篤な感染症、特に新興感染症について特性を概説し、予防や対策について考える。（第７章）（2 回目小テスト）
		事前・事後学習	新型インフルエンザの発生から現在に至る状況を調べる。（4 時間）
	10	学習の主題	放射線の特性と健康影響について
		授業内容	放射線の特性とその健康影響の概要を理解して、放射性物質の管理について考える。
		事前・事後学習	放射線によるヒトへの影響について調べる。（第８章）　（4 時間）
	11	学習の主題	生活環境の変化とアレルギーについて
		授業内容	文明病とされるアレルギーについて、アトピー素因と生活環境の変化、アレルギー発症のメカニズムから論説する。
		事前・事後学習	アレルギーの発症メカニズムと化学物質過敏症について調べる。（第９章）　（4 時間）
	12	学習の主題	生活リズムと生体リズム、生活習慣病について
		授業内容	からだのリズムと生体リズム、生活リズムとの関連をとらえ、代謝リズムの破綻として生活習慣病を再考する。（3 回目小テスト）
		事前・事後学習	好ましい生活習慣の各項目について理由を研究成果から説明する。（第１０章）（4 時間）
	13	学習の主題	生活環境における癒しと植物や風景
		授業内容	人の生活圏の拡大、大規模開発によって生物種が急速に減少して多様性を失うことの問題点を解説し、それらを保護・保全しようという活動につながる癒しとビオトープについて考える。
		事前・事後学習	生物多様性を失うことの問題点を調べる。（第１１章）　（4 時間）
	14	学習の主題	社会・生活環境における情報の利活用と予防原則について考える。
		授業内容	社会活動の拡大や生活環境の整備には、情報の共有が大きな役割を果たしている。情報伝達の歪みや不均衡、錯誤は QOL や心身の健康にも関連していることを概説し、利活用の方向を探る。 予防原則の考え方を理解する。（4 回目小テスト）
		事前・事後学習	OA 機器とメンタルヘルスとの関係を調べる。（第１２章） 予防原則の適用事例について調べる。（第１３章）　（4 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	地球温暖化の進行と健康問題について
		授業内容	人為活動による地球温暖化が急速に進んでいることの観測データや今後の推測を紹介し、気候変動に伴う生活環境の変化が人の健康に与える影響を検討し、対応を提案する。また、リスクへの対応について考え方を理解する。
		事前・事後学習	地球シミュレーションが行っている温暖化予測と生物種への影響についてまとめる。(第１４章)　(4 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	教育学 Education			担当教員	加藤　隆		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○				
授業目的	人間の可能性と社会における教育の役割について歴史と現状から知見を提供するとともに、生涯学習社会における家庭教育や学校教育及び市民教育の課題と解決方向についてヒントを示す。						
到達目標	受講者自身が今後経験する生涯学習の場面において自立した学習者として成長していく手がかりを得ること。						
テキスト	使用しない。適宜、プリント資料を配布する。						
参考書	なし						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		学校教育と家庭教育、生涯教育、地域生活における現状と課題を中心に、中間と講義末にレポート提出を課す。その論証度と構成力による。(70%) 授業態度及びレポート時や講義後の感想文などを「その他」対象とし、理解の努力を評価する。(30%)
	レポート	70	
	小テスト		
	提出物		
	その他	30	

履修上の留意事項	授業中または復習により生じた疑問はその都度担当教員に質問すること（出席カード余白の利用も可）
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、学校現場での事例を織り交ぜながら、今日の家庭教育や学校教育について理解しやすいように授業を行う。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	近代の教育思想（1）
		授業内容	ルソーの「子供の発見」、発達の思想、充実した生涯の提起
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：近代の教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
	2	学習の主題	近代の教育思想（2）
		授業内容	市民革命とコンドルセの家庭観・学校観・学問観。
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：コンドルセの教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
	3	学習の主題	「新教育」の思想
		授業内容	学びの転換：デューイの思想と実験。子供研究の始まり
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：学びの転換となったデューイの思想について考察も交えてレポート作成する（2 時間）
	4	学習の主題	近代学校のあゆみ
		授業内容	ルターの義務就学論。アダム・スミスの公教育観。国家の学校政策関与
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：取り上げた教育思想について内容を整理し、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)
	5	学習の主題	日本の文明化と教育
		授業内容	西洋からの学び。福沢諭吉の一身独立の思想
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：明治期の教育状況についてまとめる。紹介した参考図書に目を通す（2 時間）
	6	学習の主題	日本の学校制度の成立
		授業内容	森有礼の啓蒙と国家主義。鑑三の諭吉批判。ルソーと大正自由教育
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：授業で触れた三つのテーマについて、考察を交えてノートにまとめる(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	戦後日本の教育
		授業内容	「真の個人主義」、「高度成長」と競争教育、市民育成棚上げ
		事前・事後学習	事前：新聞記事などからテーマの資料に目を通す（2 時間）事後：自身の経験も踏まえて、講義で取り上げた内容についてノートにまとめる(2 時間)
	8	学習の主題	教育環境の変化と青年
		授業内容	「冷戦」以後の世界と青年。能力観・学校観の転換への期待
		事前・事後学習	事前：事前配布した教育資料に目を通しておく（2 時間）事後：これまでの講義で取り上げたテーマから一つを選び、自身の見方の変化も含めてレポートにまとめる。（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	文学と人間 Literature and Humanity	担当教員	畠山　瑞樹
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎				

授業目的	文学は、長い間残り続け愛され続けている、人間社会の財産です。多様な文学作品をひもとき、自らの考えを深めることは、他を受容し自己の感性を高め、豊かな人間性を育むことに繋がります。 この講義では、日本の伝統的な文学や文化を通して、人間・社会・時代を構成する要素についてテーマ毎に考察します。日本人に馴染み深い昔話や魅力的な古典文学作品を対象に、多くの作品の読解を通じ、体系的に基礎的な知識や教養を身に付けるとともに、自ら考え表現する力の基礎を培うことを目的とします。
到達目標	1．日本の文学や伝統文化についての、基礎的な知識・教養を身に付けることができる。 2．文学・文化と人間との関わりについて、自ら考え表現することができる。
テキスト	なし（プリント配布）
参考書	講義時適宜紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		レポート 50%＋各回提出小レポート 50%。最終レポート未提出の場合は評価対象としない。小レポートは、①講義内容の整理と確認②自らの考察の表現化のため、随時実施する。 評価の観点は到達目標に示した 2 点。講義内容を理解し、日本の文学や伝統文化に関する知識をどれだけ身に付けることができているか、それらを基に自らの考察を深め意見を表現できているかを評価する。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	1．古典文学作品を多く読むことになるため留意すること。資料は事前に配布する。 2．進度により、講義で扱う作品および扱う回を変更する場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス　／　古典文学読解①　中古の文学作品を読む
		授業内容	継子いじめについて考える（『落窪物語』）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
	2	学習の主題	日本人と昔話 I　中古・中世の文学作品を読む
		授業内容	小さ子について考える（「かぐや姫」「一寸法師」）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
	3	学習の主題	古典文学読解②　上代の文学作品を読む
		授業内容	身体観、死生観、穢れについて考える（『古事記』）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
	4	学習の主題	古典文学読解③　中古・中世の文学作品を読む
		授業内容	病について考える（『大鏡』『平家物語』）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
	5	学習の主題	古典文学読解④　中古の文学作品を読む
		授業内容	男と女、個性、規範について考える（『堤中納言物語』『とりかへばや』）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）
	6	学習の主題	日本人と昔話 II　上代・中世・近世・近代の文学作品を読む
		授業内容	享受について考える（「浦島太郎」）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2 時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2 時間）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	日本人と昔話III　上代・中世の文学作品を読む
		授業内容	日本の文化と伝統について考える（牽牛織女伝説）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）
	8	学習の主題	日本人と昔話IV　中古・中世の文学作品を読む
		授業内容	日本の歴史と伝説について考える（義経伝説）
		事前・事後学習	事前：配布資料を通読のうえ、本時の対象作品を予習する。（2時間） 事後：ワークシートで講義内容を整理し理解を深める。（2時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	国際社会論 International Sociology			担当教員	翁　康健		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	◎	○			
授業目的	世界の地理や文化を理解するとともに、急変していく世界の情勢や社会、経済の中での国際的視野の拡大を図ることを目的とする。具体的には主権国家の意味について考え、異文化間、民族間、文明間の社会問題を理解し、国家間のマネジメント・コミュニケーションと交渉力の重要性について考える。また、グローバリゼーションの進展のなかで、人々の生活に与える影響や保健医療の問題などについて国際的な視点で考え、国際活動と共存のあり方について学習する。						
到達目標	国際的な時事問題を理解できる社会人を目指す。						
テキスト	適宜指示をする。また、時事問題に関しては、視聴覚教材を利用する予定。						
参考書	なし						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		定期試験（50%）と講義内で実施するミニ・レポート（50%）から目標の到達状況を評価する。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	・講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じる可能性がある。 ・講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	オリエンテーション・グローバリゼーション
		授業内容	・グローバリゼーション ・トランスナショナリズム
		事前・事後学習	・事前学習：シラバスを確認し、授業の全体の内容を把握すること（2 時間） ・事後学習：関心のある話題や、授業で学びたいテーマを考えてみること（2 時間）
	2	学習の主題	国境を越える人――移民と無国籍者の問題
		授業内容	・「移民」とはだれか ・移民・国際移動を議論する枠組み
		事前・事後学習	・事前学習：第 2 回講義資料「国境を越える人――移民と無国籍者の問題」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：移民と無国籍者の問題について、自分なりに説明をしてみること（2 時間）
	3	学習の主題	グローバル化時代の難民・国内避難民①
		授業内容	・「難民」とはだれか ・グローバル化時代の難民
		事前・事後学習	・事前学習：第 3 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民①」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	グローバル化時代の難民・国内避難民②
		授業内容	・難民の越境化をめぐる議論 ・日本における難民問題
		事前・事後学習	・事前学習：第 4 回講義資料「グローバル化時代の難民・国内避難民②」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：難民・国内避難民のことについて、講義から理解したことをまとめること（2 時間）
	5	学習の主題	グローバル化・国境・観光・メディア
		授業内容	・グローバル化と国際観光 ・国境・観光・出稼ぎ労働者
		事前・事後学習	・事前学習：第 5 回講義資料「グローバル化・国境・観光・メディア」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバル社会における国境・観光・メディア関わる問題の例を考え、まとめること（2 時間）
	6	学習の主題	医療におけるグローバル化の進展
		授業内容	・患者・専門家の移動 ・医療ツーリズム
		事前・事後学習	・事前学習：第 6 回講義資料「医療におけるグローバル化の進展」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：グローバルの視点から医療問題を説明してみること（2 時間）
	7	学習の主題	医療・社会保障・子育て支援・高齢者介護の国際比較
		授業内容	・国際比較からみる医療・社会保障の問題 ・国際比較からみる子育て支援・高齢者介護の問題
		事前・事後学習	・事前学習：第 7 回講義資料「医療・社会保障・子育て支援・高齢者介護の国際比較」を確認し、学習範囲を把握しておくこと（2 時間） ・事後学習：社会福祉の国際比較の特徴を整理し、まとめること（2 時間）
	8	学習の主題	全体のまとめ・補足
		授業内容	・全体のまとめ ・期末試験の概要
		事前・事後学習	・事前学習：第 8 回講義資料「全体のまとめ」を確認し、これまでの学習内容を整理すること（2 時間） ・事後学習：8 回分の講義資料を確認し、期末レポートのテーマを考えること（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	社会貢献と活動 Volunteer and Social Responsibility			担当教員	神内　秀之介		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	◎	○	○				
授業目的	『地域共生社会』という新しい地域福祉の概念が地域包括ケアシステムの構築のその先に謳われている。地域 共生社会が目指すのは、対象者ごとの保険・医療・福祉サービスを「縦割り」から「丸ごと」へ、支援者と被支援者という二律対抗軸からの脱却へと転換していくことにある。 医療・保健・福祉の枠組が変更される中で、ボランティアの意義を踏まえ、多種多様なボランティア活動が地域にどう関わって、どう地域を変え、支えているのかについて学ぶ。 特に本学に関連する保険、医療、栄養、福祉などの領域で、地域でのボランティア活動の具体例を通して、当事者や地域ニーズを知り、地域住民・事業所・専門職等との連携などについて学ぶ。 また、専門職としてのボランティアを考える際の「プロボノ」などの新しい概念についても専門職となった将来を見据え理解を深め自身の受け止め方について考察する。						
到達目標	1. ボランティア活動の意義を正しく理解するとともに、ボランティア活動を通して当事者のニーズを把握できること。 2. 当事者のニーズに対して、専門職のあり方やネットワークの構成などの要件について学び、ボランティアの役割・あり方・限界などについて理解できること。 3. 現代社会のボランティアの多様性を理解し、これからの社会に求められているボランティア像を自分なりに描くことができること。						
テキスト	内容に沿った資料を随時配布する。						
参考書	1. 柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論〜「広がり」から「深まり」へ〜」（みらい）2010 2. 佐谷恭・中谷健一・藤木穣「つながりの仕事術「コワーキング」を始めよう」（洋泉社）2012 3. 岩見太市著「地域家族の時代」（筒井書房）2012						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	50	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 講義の際のレポートや発表、グループワークでの役割遂行など授業態度を点数化し、50%を上限として評価します。並びに定期試験も 50%を上限とし、授業態度・試験の得点を合わせて総合的に評価します。				
	レポート	30					
	小テスト						
	提出物						
	その他	20					
履修上の留意事項	グループワーク（演習）、ゲストスピーカーを多用します。また、ボランティア実践を予定しています。 各授業の前後に 30 分の予習、30 分の復習を要する。						
実務経験を活かした教育内容							
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	ボランティアとは？				
		授業内容	オリエンテーション 自分のボランティア経験を発表 ボランティアに対する自分なりの理解				
		事前・事後学習	ボランティア経験を振り返ること　（事前・事後各 30 分程度）				
	2	学習の主題	ボランティア活動の沿革				
		授業内容	諸外国でのボランティア活動の歴史と我が国でのボランティア活動の歩みを学ぶ。				
		事前・事後学習	北海道で活動しているボランティア団体で 20 年以上続いている団体をひとつ挙げること				
	3	学習の主題	ボランティア活動の内容				
		授業内容	ボランティア活動の内容を、領域別、対象別、方法別に検討する。				
		事前・事後学習	自分がしてみたいボランティア活動を考えること				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	社会福祉協議会とボランティア
		授業内容	社協の幅広いボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	社協の仕事を HP で確認すること
	5	学習の主題	医療・高齢・障碍福祉とボランティア
		授業内容	医療・高齢者福祉や障碍者福祉の分野でのボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	医療・高齢者福祉や障碍者福祉で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げること
	6	学習の主題	児童福祉とボランティア
		授業内容	児童分野でのボランティア活動について学ぶ。
		事前・事後学習	児童分野で実際に行われているボランティア活動をひとつ挙げること
	7	学習の主題	NPO・NGO とボランティア
		授業内容	NPO や NGO のボランティア活動、国際ボランティアなどについて学ぶ。
		事前・事後学習	ボランティアを主体的な活動としている NPO 団体を 2 つ挙げること
	8	学習の主題	企業・労働組合とボランティア
		授業内容	企業の CSR、労働組合のボランティアの取組、様々な組織の社会貢献活動について学ぶ。
		事前・事後学習	企業の CSR レポートをひとつは HP で確認すること
	9	学習の主題	環境・災害ボランティア
		授業内容	環境ボランティア、災害ボランティアについて学ぶ。
		事前・事後学習	環境ボランティア、災害ボランティアに取り組む団体をそれぞれひとつ挙げること
	10	学習の主題	ボランティア実習
		授業内容	１日ボランティア体験をする。
		事前・事後学習	実習先の情報を HP で調べること
	11	学習の主題	ボランティア体験を振り返る
		授業内容	ボランティア体験から得られた知見を発表し振り返る。
		事前・事後学習	ボランティア体験をまとめておくこと
	12	学習の主題	ボランティアのコーディネート
		授業内容	ボランティアをコーディネートする技術について学ぶ。
		事前・事後学習	『ボラナビ』を読んでおくこと
	13	学習の主題	ボランティア組織の運営
		授業内容	ボランティア組織の立ち上げ、運営、資金、ＰＲなどについて学ぶ。
		事前・事後学習	助成金情報を調べること
	14	学習の主題	現代社会とボランティア
		授業内容	現代社会におけるボランティアのあり方をディスカッションする。
		事前・事後学習	現代社会で支援が必要な人について考察すること
	15	学習の主題	私たちのボランティア論
		授業内容	自分たちが理想的と考えるボランティアのあり方をまとめ、プレゼンテーションする（具体的なボランティア提供を前提として）。
		事前・事後学習	ボランティアのための事業について企画すること

2022 年度以降入学生対象

授業科目	薬理学 Pharmacology			担当教員	町田　拓自		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	薬物治療においては、医師・薬剤師・看護師の三者の連携が重要である。看護師は患者と接する機会が最も多く、薬物治療を受けている患者の回復に果たす役割は大きい。本科目では、薬物に対する生体側の応答及び治療効果、有害作用の機序を学習し、その上で様々な疾患に対する治療薬についての基礎的知識の習得を目指す。						
到達目標	1. 医療における薬物治療とは何かについて理解する。 2. 薬の作用形式、体内動態について理解する。 3. 薬効に影響する因子、薬物の有害作用について理解する。 4. 臓器別、疾患別に使用される薬物を列挙できるようにする。 5. 各薬物の薬理学的性質、副作用を説明できるようにする。						
テキスト	吉岡光弘、泉 剛、井関 健 著「系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進③　薬理学」（医学書院）						
参考書	井上智子、窪田哲朗 編「系統看護学講座 別巻 臨床薬理学」（医学書院） 荻田喜代一、首藤誠　編「看護学テキスト　薬理学」（南江堂）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標の到達状況を下記の視点から評価し、60 点以上を合格とする。 定期試験：80% レポート：20%　全講義内に計 4 回、レポート課題を提示する。そのレポート内容により評価する。（各 5%、合計 20%）
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	薬理学を習得するには、事前に形態機能学、病態学等を学んでおく必要がある。 1 年次に習得したこれらの関 連科目を事前に復習しておくこと。各授業の前に 2 時間の予習、後に 2 時間の復習を要する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	総論 1 ：薬物治療の目指すもの
		授業内容	・薬を用いて病気を治療する意義について理解する。 ・治療に用いる薬物に求められる基本的性質を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P4～P23）を読んでおく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P13、P23）を解いておく（2 時間）。
	2	学習の主題	総論 2 ：薬はどのように作用するのか
		授業内容	・薬理作用の基本形式について理解する。 ・薬の治療域と作用点について理解する。 ・薬の投与経路について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P23～P40）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P40）を解いておく（2 時間）。
	3	学習の主題	総論 3 ：薬はどのように体内をめぐっていくのか 薬効に影響する因子
		授業内容	・薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）を理解する。 ・生物学的半減期と薬物血中濃度の意義について理解する。 ・年齢、遺伝により薬効が影響を受けることを理解する。 ・薬物相互作用を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P40～P54）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P44、P54）を解いておく（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	総論４：薬物の有害作用はなぜおこるのか、薬の管理と新薬の誕生
		授業内容	・過量投与による有害作用について理解する。 ・薬物使用の有益性と有害性について理解する。 ・ある臓器に特有の有害作用をおこす薬について理解する。 ・管理に注意を要する医薬品について理解する。 ・新薬の開発の流れを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P54～P61）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P61）を解いておく（2 時間）。
	5	学習の主題	各論１：抗感染症薬
		授業内容	・感染症治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗菌薬の作用機序、副作用について理解する。 ・特殊な感染症の治療薬について理解する。 ・感染症の治療における問題点を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P66～P93）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P93）を解いておく（2 時間）。
	6	学習の主題	各論２：抗がん薬、免疫治療薬
		授業内容	・がん治療に関する基礎事項を理解する。 ・各抗がん薬の作用機序、副作用について理解する。 ・免疫反応のしくみについて理解する。 ・免疫抑制薬、増強薬について理解する。 ・予防接種薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P96～P120）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P108、P120）を解いておく（2 時間）。
	7	学習の主題	各論３：抗アレルギー薬・抗炎症薬
		授業内容	・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬について理解する。 ・炎症のしくみと抗炎症薬について理解する。 ・関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬について理解する。 ・片頭痛治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P122～P136）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P136）を解いておく（2 時間）。
	8	学習の主題	各論４：末梢での神経活動に作用する薬物
		授業内容	・自律神経系について理解する。 ・交感神経作用薬について理解する。 ・副交感神経作用薬について理解する。 ・筋弛緩薬、局所麻酔薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P136～P156）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P155）を解いておく（2 時間）。
	9	学習の主題	各論５：中枢神経系に作用する薬物 - 1
		授業内容	・全身麻酔薬について理解する。 ・催眠薬、抗不安薬について理解する。 ・統合失調症治療薬について理解する。 ・抗うつ薬について理解する。 ・パーキンソン症候群治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P158～P177）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P188）を解いておく（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	10	学習の主題	各論 6：中枢神経系に作用する薬物 - 2、 心臓・血管系に作用する薬物 - 1
		授業内容	・抗てんかん薬について理解する。 ・麻薬性鎮痛薬について理解する。 ・高血圧治療薬について理解する。 ・狭心症治療薬について理解する。 ・うっ血性心不全治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P177～P200）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P188、P277）を解いておく（2 時間）。
	11	学習の主題	各論 7：心臓・血管系に作用する薬物 - 2
		授業内容	・抗不整脈薬について理解する。 ・利尿薬について理解する。 ・脂質異常症治療薬について理解する。 ・血液に作用する薬物について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P201～P228）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P277、P278）を解いておく（2 時間）。
	12	学習の主題	各論 8：呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
		授業内容	・呼吸器系に作用する薬物について理解する。 ・消化器系に作用する薬物について理解する。 ・生殖器系に作用する薬物について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P230～P248）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P248、P249）を解いておく（2 時間）。
	13	学習の主題	各論 9：物質代謝に作用する薬物
		授業内容	・ホルモンおよびホルモン拮抗薬について理解する。 ・治療薬としてのビタミンについて理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P250～P264）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P264）を解いておく（2 時間）。
	14	学習の主題	各論 10：皮膚科用薬　・眼科用薬　・救急の際に使用される薬物
		授業内容	・皮膚に使用する薬物の特徴を理解する。 ・眼科用薬について理解する。 ・救急蘇生時に用いられる薬物について理解する。 ・救急・急変時の症候に対して用いられる薬物について理解する。 ・急性中毒に対する治療薬について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P266～P287）を予習しておく。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P276、P286）を解いておく。
	15	学習の主題	各論 11：消毒薬　・輸液剤および輸血製剤
		授業内容	・消毒薬とは何かを理解する。 ・輸液とは何かを理解する。 ・おもな輸液剤を理解する。 ・輸血とは何かを理解する。 ・主な輸血製剤を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：該当範囲についてテキスト（P298～P316）を予習しておく（2 時間）。 事後学習：該当範囲について整理し、ノートにまとめる。またテキスト掲載の問題（P302、P316）を解いておく（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	臨床心理学 Clinical Psychology			担当教員	松岡　紘史		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○	◎	○			
授業目的	臨床心理学は，さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し，問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが，近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では，臨床心理学の基本的な考え方を概説するとともに，行動理論による問題の理解と解決方法を解説しながら，最新の臨床心理学の進歩について学ぶ。						
到達目標	行動理論の観点から問題にアプローチする方法を学習するとともに，医療現場で実際の患者さんに行動理論の考え方がどのように応用されているかを理解することを通して，自らの身近な問題や看護実践においても行動理論の考え方を応用できるようになることを目標とする。						
テキスト	指定しない。毎回プリントを配布する。						
参考書	坂野雄二ら「ベーシック臨床心理学」（有斐閣） 鈴木伸一ら「実践家のための認知行動療法テクニックガイド」（北大路書房） 松岡紘史・安彦善裕「歯科医師・歯科衛生士のための認知行動療法―チェアサイドで困ったときに」（医歯薬出版）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	講義中に授業内容に応じた知識理解を確かめる小テストを合計 8 回実施する。試験では講義内容の知識理解とともに，臨床心理学の知識を実際の問題に結びつけることができるかを評価する。
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	講義で学んだ内容がどのように実践できるかを考えながら受講すること。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者（公認心理師）の立場から，医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら，臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	臨床心理学とは
		授業内容	臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに，どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（3 時間）。
	2	学習の主題	アセスメント
		授業内容	臨床心理学で用いられる種々のアセスメント方法について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（3 時間）。
	3	学習の主題	臨床心理学の諸理論
		授業内容	臨床心理学を代表する，精神力動的理論，人間性心理学について学び，それぞれの理論的立場の異同について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（3 時間）。
	4	学習の主題	行動理論：学習理論
		授業内容	行動理論の基盤となる学習心理学の基礎理論とその臨床応用について理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（3 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	行動理論：機能分析
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきている行動理論のアプローチの中で，問題行動の理解の仕方の１つである機能分析を理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（4 時間）。
	6	学習の主題	行動理論：行動のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきている行動理論のアプローチの中で，行動のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（4 時間）。
	7	学習の主題	行動理論：認知のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきている行動理論のアプローチの中で，認知のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（4 時間）。
	8	学習の主題	行動理論：気分・感情のコントロール
		授業内容	臨床心理学の実践で不可欠となってきている行動理論のアプローチの中で，気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。
		事前・事後学習	配布されたプリントを中心に復習を行い，講義で取り上げられる概念等を深く理解する（5 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	疾病治療論 I Disease Therapeutics			担当教員	千葉　仁志、小林　清一		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	臨床上重要な内科系疾患について、系統別に病態、診断法、治療法について学修する。						
到達目標	1. 疾患が生じる原因と病態についてしっかり理解する。 2. 疾患の主な診断法について理解する。 3. 疾患を治療するにあたって採りうる方法と注意点について理解する。						
テキスト	浅野嘉延、吉山直樹 編集「看護のための臨床病態学　改訂 4 版」(南山堂)、 毎回の授業で配布するレジュメ						
参考書	「系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2].[3].[4].[5].[6].[7].[8].[9].[11].[13].[14]」(医学書院)						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	定期試験：千葉 88%、小林 12%の割合で評価する。試験では、重要な疾患について病態・診断・治療に関する基本的知識が確実に身についているかという観点から評価する。試験形式は多肢選択式である。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	疾患を理解するには、解剖学と生理学の基礎的知識が必要となるので、テキストの「解剖と生理」の欄や、1 年次に学修した形態機能学 I・II のレジュメ・テキストに立ち返って、今までの知識を復習し、更に「症候」「検査」の項目を読んでから、講義に臨むこと。理解できない点は、講義後に教室やオフィスで教員に質問して解決すること。レジュメやテキストの情報量が多いので、十分な時間をかけて学習し（予習・復習に各 2 時間以上)、さらに反復学習することが大切である。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、理解を助けます。

学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (千葉)	学習の主題	科目ガイダンス / 呼吸器疾患と治療（1）
		授業内容	呼吸器疾患の分類と呼吸器感染症 かぜ症候群とインフルエンザ、肺炎
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	2 (千葉)	学習の主題	呼吸器疾患と治療（2）
		授業内容	肉芽腫性病変と肺血栓・塞栓症、腫瘍 肺結核、サルコイドーシス、静脈血栓塞栓症、肺癌
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	3 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療（1）
		授業内容	心臓の疾患と治療 先天性心疾患、心臓弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、不整脈、心不全
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	4 (千葉)	学習の主題	循環器疾患と治療（2）
		授業内容	血管の疾患と治療 高血圧症、動脈硬化症、大動脈解離、大動脈瘤、大動脈炎症候群、末梢動静脈疾患
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (千葉)	学習の主題	消化器疾患と治療（1）
		授業内容	食道、胃・十二指腸の疾患と治療 胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア、食道アカラシア、食道静脈瘤、マロリー・ワイス症候群、食道癌、急性・慢性胃炎、胃アニサキス症、消化性潰瘍、胃癌
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	6 (千葉)	学習の主題	消化器疾患と治療（2）
		授業内容	大腸・肛門の疾患と治療 薬剤性大腸炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、虚血性大腸炎、大腸ポリープ、大腸癌、過敏性腸症候群、虫垂炎、腸閉塞、痔核
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	7 (千葉)	学習の主題	肝臓・胆嚢・胆管・膵臓の疾患と治療
		授業内容	急性ウイルス性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、門脈圧亢進症、アルコール性肝障害、脂肪肝、肝癌、胆石症、胆嚢ポリープ、急性・慢性膵炎、膵癌
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	8 (千葉)	学習の主題	代謝性疾患と治療
		授業内容	糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝疾患と治療 糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群、痛風、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症・過剰症
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	9 (千葉)	学習の主題	内分泌（1）
		業内容	視床下部・下垂体疾患・甲状腺疾患と治療 視床下部・下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、尿崩症、バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	10 (千葉)	学習の主題	内分泌（2）
		授業内容	副甲状腺疾患・副腎疾患と治療 副甲状腺機能亢進症・低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	11 (千葉)	学習の主題	腎・泌尿器
		授業内容	腎・泌尿器疾患と治療 急性糸球体腎炎、IgA 腎症、糖尿病腎症、ネフローゼ症候群、腎不全、腎盂腎炎、腎癌、尿路結石症、急性膀胱炎、前立腺肥大症、前立腺癌
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	12 (小林)	学習の主題	脳・神経・筋
		授業内容	脳・神経疾患、筋疾患と治療 脳血管障害、神経変性疾患、脱髄性疾患、末梢神経疾患、重症筋無力症、筋疾患
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	13 (千葉)	学習の主題	血液
		授業内容	赤血球疾患、出血性疾患と治療 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少症、凝固因子異常、播種性血管内凝固症候群
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14 (千葉)	学習の主題	眼・耳鼻咽喉・皮膚
		授業内容	眼・耳鼻咽喉・皮膚の疾患と治療 結膜炎、緑内障、白内障、糖尿病性網膜症、網膜色素変性症、鼻出血、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、中耳炎、メニエール病、扁桃炎、咽頭炎、舌癌、咽頭癌・喉頭癌、熱傷、褥瘡、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。
	15 (小林)	学習の主題	膠原病・アレルギー
		授業内容	膠原病、アレルギー性疾患と治療 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、アレルギー疾患
		事前・事後学習	テキストの該当部分を必ず予習（2 時間以上）し、配付レジュメやテキストで重要事項を復習（2 時間以上）すること。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	疾病治療論 II Pathophysiology and Surgical Treatment			担当教員	深井　原		
対象年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	外科系疾患の理解に必要な解剖学、生理学、生化学を概説し、疫学、外科的診断学、手術手技、治癒過程を広く学ぶ。また、講義を通じて個別の外科治療の臨床経験を疑似体験し、外科領域の疾病治療を学ぶ。						
到達目標	創傷治癒、外科手技、麻酔学など外科治療の基礎と消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、救急医療、移植医療などの概要を理解することを目指す。						
テキスト	講義時に適宜プリントを配布します。						
参考書	系統看護学講座　臨床外科看護各論（医学書院）、同・総論						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	2/3 以上の出席がない場合、定期試験の受験資格はありません。 外科系疾患に関するレポート課題を出します。定期試験とレポ-トを併せて、目標の到達状況を評価します。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	講義開始前に各自形態機能学、病態学、疾病治療論 I の該当する疾患を復習すること。重要事項は適宜講義中に示しますので、授業は欠席しないようにしてください。
実務経験を活かした教育内容	外科医として、また、臨床上の未解決な問題の答を探索する研究者として、地域医療、救急、高度医療の経験を講義に織り交ぜながら、外科系の疾患の病態と治療について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	外科治療の歴史、外科的診断法、創傷治癒の原理を理解する
		授業内容	外科の歴史と手術、外科的診断学とは、創傷治癒とこれを阻害する因子、手術手技の基本、外傷の分類とその治療について
		事前・事後学習	形態機能学を復習すること（4 時間）
	2	学習の主題	麻酔学：局所麻酔と全身麻酔、術中モニターを理解する
		授業内容	手術に必要な局所麻酔、全身麻酔について、麻酔の 5 大要素、具体的な麻酔法を供覧する
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	3	学習の主題	滅菌法、減菌法について学ぶ。基本的外科処置とくに縫合法、ドレナージ、デブリードマン等を理解する。
		授業内容	消毒の歴史と外科手術の進歩、滅菌法の種類と適応について 縫合法、ドレナージとは、デブリードマンの原理について
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	4	学習の主題	消化管手術を理解する
		授業内容	消化器の形態機能と疾病：上部消化管の疾患と外科治療 食道癌、胃癌の手術の実際と術後合併症
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること 疾病治療学 I の該当箇所を復習すること（消化管の疾患）（4 時間）
	5	学習の主題	消化管手術を理解する
		授業内容	大腸の手術 直腸癌と直腸温存術式、人工肛門増設、虫垂炎の手術について
		事前・事後学習	疾病治療学 I の該当箇所を復習すること（消化管の疾患）（4 時間）
	6	学習の主題	肝・胆・膵の外科治療を理解する
		授業内容	胆石症の手術：腹腔鏡手術について 肝臓癌の治療と肝切除 膵臓の疾患と外科治療
		事前・事後学習	形態機能学の肝・胆・膵を復習すること（4 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	7	学習の主題	呼吸器の外科治療を理解する
		授業内容	肺癌の手術：肺癌の手術適応、開胸手術、胸腔鏡手術 ブラ縫縮術について
		事前・事後学習	肺癌の診断、治療を予習すること（4 時間）
	8	学習の主題	乳腺の外科治療、内分泌外科を理解する
		授業内容	乳癌の外科治療：進行度と手術術式の選択 甲状腺外科
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること
	9	学習の主題	脳神経外科領域の治療を理解する
		授業内容	脳神経外科領域の代表的疾患、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、脳の外傷、脳腫瘍について
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	10	学習の主題	心臓血管外科領域の治療を理解する
		授業内容	先天性心疾患と後天性心疾患の外科治療、開心術の実際 虚血性心疾患と大動脈疾患の治療 末梢血管：動脈閉塞、静脈瘤の治療
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	11	学習の主題	整形外科の治療内容を理解する
		授業内容	骨折の分類と治療原則 脊椎疾患：椎間板ヘルニア、辷り症、脊柱管狭窄症 骨腫瘍とその治療
		事前・事後学習	形態機能学の骨、筋肉を復習すること（4 時間）
	12	学習の主題	小児外科の疾患と治療を理解する
		授業内容	ヘルニア、先天性消化管疾患、腸重積症、小児腫瘍の治療 小児外科疾患の特殊性と術後管理
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	13	学習の主題	泌尿器手術の実際を理解する
		授業内容	腎臓手術、前立腺、膀胱腫瘍の治療 腎臓移植の実際、血液透析とシャント
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	14	学習の主題	臓器移植と人工臓器を理解する
		授業内容	心臓移植手術、腎臓移植手術の実際、移植医療の問題と展望 人工臓器の進歩
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）
	15	学習の主題	救急医療と外科治療を理解する
		授業内容	心肺蘇生法と AED 急性腹症の治療、ショックの分類 死の三徴候と脳死判定 トリアージと災害医療
		事前・事後学習	講義中に提示される重要ポイントを復習すること（4 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	社会福祉論 Social welfare Theory			担当教員	吉田　竜平		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			
授業目的	少子高齢化の進行や人口減少の段階にある日本では、多くの社会問題が存在している。例えば、高齢者介護、子育て支援、貧困や経済的格差の拡大、社会的孤立・無縁の広まり等である。これらは社会において「一部の特殊な人々」が直面する例外的なものではなく、ライフコースの中で誰もが抱える可能性のある社会的リスクである。そのような「社会生活あるいは人生において個人では解決することが難しい生活問題」への支援や対応策を考え、全ての人々が幸福に暮らすことができるようにすることを志向するのが社会福祉（学）である。 本科目では、看護にとって必要と思われる社会福祉の基礎的内容について取り上げ、その理念・機能・対象と支援方法および関連する社会福祉・社会保障制度の概要について学ぶことを目的とする。						
到達目標	①社会福祉の基本概念・理念・機能について理解する。 ②社会福祉における対象と支援方法、課題について理解する。 ③社会保障制度の概要について理解する。 ④社会福祉の専門職について理解する。						
テキスト	なし						
参考書	必要に応じて紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	①提出物（30 点）（リアクション・ペーパー、課題） ・目的：授業内容を確認するとともに自身の考えを記述することで理解を深める。 ・内容：授業で学んだ事、それについて履修学生自身がどのように考察をしたのかを記載する。 ②定期試験（70 点） 到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 以上、①②の内容を総合して評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	・新聞やニュース等での社会保障・社会福祉に関連する報道に関心を持つこと。 ・自分自身、家族、友人、知人等の生活（暮らし）と社会福祉のつながりに注目して講義を受けること。 ・私語等、講義の妨げとなる行為には厳しく対処する。 ・毎回レジュメを配布する。 ・展開内容が一部変更になる場合がある。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	社会福祉の基礎概念①
		授業内容	社会福祉という考え方、ライフステージにおける福祉問題、社会福祉の専門職
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	2	学習の主題	社会福祉の基礎概念②
		授業内容	社会福祉援助の価値、援助原理、対象とニーズ、ノーマライゼーション
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	3	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉①
		授業内容	高齢化、介護問題、家族・地域の変化
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	4	学習の主題	少子高齢化の動向と社会福祉②
		授業内容	少子化、子育て支援、ワークライフバランス、ジェンダー、非正規雇用
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5	学習の主題	社会福祉の援助と方法
		授業内容	ソーシャルワークの理論・方法・価値・倫理、エンパワメント、ストレングス，ケアマネジメント
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	6	学習の主題	社会保障制度の概要
		授業内容	社会保障の目的と機能、社会保険方式と公費負担方式、日本の社会保障制度の体系、ナショナルミニマム
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	7	学習の主題	貧困と社会福祉
		授業内容	貧困概念、貧困率、子どもの貧困、生活保護
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	8	学習の主題	年金保険制度
		授業内容	公的年金制度の概要・近年の制度改正・課題
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	9	学習の主題	医療保険制度①
		授業内容	医療保険制度の概要、健康保険、国民健康保険、診療報酬制度
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	10	学習の主題	医療保険制度②
		授業内容	近年の医療制度改革の動向と課題
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	11	学習の主題	介護保険制度①
		授業内容	介護保険制度の概要
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	12	学習の主題	介護保険制度②
		授業内容	近年の制度改革の動向と課題、地域包括ケア
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	13	学習の主題	障害者福祉
		授業内容	障害概念、基本理念、関係法律、障害者総合支援法、障害者の権利条約、リハビリテーション
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	14	学習の主題	子ども家庭福祉
		授業内容	子ども家庭福祉の理念とサービス、児童養護施設、子育て、子どもの権利、子ども虐待、家族支援
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める
	15	学習の主題	地域福祉
		授業内容	地域福祉の理念と支援、地域共生社会、コミュニティケア、地域福祉活動、まちづくり
		事前・事後学習	授業レジュメの重要項目を確認。事前学習 2 時間、事後学習 2 時間を求める

2022 年度以降入学生対象

授業科目	生命倫理 Bioethics	担当教員	森口　眞衣
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			◎	○			

授業目的	現代の生命倫理に関する一般的問題について、自身の日常的な経験と倫理的判断の関係を理解することにより、基本的な視点や方法を身につける。また、人や生命についての概念の曖昧さを実感し、立場によって異なる見解を受け入れ尊重できる姿勢を養う必要性はどこにあるのか、倫理的議論が展開された歴史的背景を理解することにより、倫理原則と基礎理論、判断の基準、生命の尊厳についての理解を深める。
到達目標	我々が日常生活で無意識に直面している倫理的問題に対し、自分が適切だと考える判断を下すことができ、さらにその判断の理由を述べることができるようになる。また、ひとりの人間として自分だけでなく他者の立場も尊重すること、価値観に基づく見解や判断を提示することの重要性を理解できるようになる。
テキスト	特に指定しない。スライドと配布資料を用いて展開する。
参考書	必要があればそのつど紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40	毎回の講義終了時、授業内容と関連する日常経験や仮想事例を用いた思考実験によるアンケートレポート形式の復習課題（30%）、および授業内容に関するリアクションコメント（30%）の提出を課す。試験では課題内容を踏まえ設問要求に応えた自身の意見を展開できているかという観点で評価する。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	倫理的判断の提示には自分の考えを適切な言葉で述べることが重要になる。授業中の課題では文章を書く機会 を多く設定しているので、日常生活においても自分の意見を適切な文章で述べられるよう意識すること。 各授業の前後に 1〜2 時間の予習・1〜2 時間の復習を要する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	日常と倫理的判断の関係
		授業内容	倫理的判断は人々の立場や主張の方向性と密接な関係があることを踏まえ、多様性を尊重するという目的に沿う生命倫理での使いどころを理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	2	学習の主題	倫理的判断に必要な具体的原則
		授業内容	日常生活や臨床現場で求められる倫理的判断の根拠や着眼点となる倫理原則について、その必要性と内容を学んだうえで、実際の適用の難しさを考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	3	学習の主題	命の判断：それは「人」ですか？
		授業内容	判断主体となる自己の曖昧さを、医学や科学技術の進歩によって新たに出現した様々な「人」を決める判断基準を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	4	学習の主題	命の判断：いまは「健康」ですか？
		授業内容	人が「老いる」とはどういうことか、「健康」と「病気」はどう違うのか、人間の身体におきる様々な変化の境界について考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	5	学習の主題	命の判断：これも「殺害」ですか？
		授業内容	科学的医学の発展に伴う「生命」概念の問題を、生殖医療の背景となる歴史的・社会的な側面での変遷を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	命の判断：どれが「食物」ですか？
		授業内容	人が生きるうえで「よいもの」を目指した努力の結果「悪いもの」が作り出されてしまうのはなぜなのか、善悪の価値づけについて考える。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	7	学習の主題	命の判断：どちらが「大切」ですか？
		授業内容	社会では「人の命を守る」ことを目標としながら実際には逆のことが起きてしまう矛盾について、歴史的・理論的変遷の決着点を通して理解する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出
	8	学習の主題	他者の価値観尊重とは
		授業内容	これまでの考察の結果をふりかえり、自分の判断と他者の判断の相違点や新たな気づきの分析を通して、医療人として多様な価値観の理解が患者理解に有益となる可能性を考察する。
		事前・事後学習	講義内容の振り返り、復習課題とリアクションコメントの提出

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護技術論 II Fundamentals of Nursing Skill II	担当教員	小島　悦子、首藤　英里香、本吉　明美、 園田　典子、柏倉　大作、横山　桂子
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		

授業目的	看護を実践するための科学的な方法である看護過程について、概念と意義、そのプロセスの基本について学ぶ。また、対象者の生活と健康を全人的にアセスメントするためのヘルスアセスメントの基本的な技術について、形態機能学の知識を活用しながら演習を通して学ぶ。さらに、紙上事例を用いた看護過程の展開において、クリティカルシンキングを活用しながら支援の必要性を根拠に基づき判断し、個別性に合わせた計画を立案し、実施し、評価する一連の方法と看護記録について学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、看護実践に必要な判断能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高めることをねらいとする。
到達目標	1. 看護過程の意義と構成要素を説明できる。 2. 看護過程とヘルスアセスメントの関係について説明できる。 3. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みについて説明できる。 4. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みを用いて対象者の情報を収集し、アセスメントできる。 5. 紙上事例をもとに看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、実施、評価）を展開できる。 6. 看護記録の目的と記録様式について説明できる。 7. 患者情報の取り扱いについて説明できる。
テキスト	1. 深井喜代子 編「基礎看護学②基礎看護技術 I」（メヂカルフレンド社） 2. 深井喜代子 編「基礎看護学③基礎看護技術 II」（メヂカルフレンド社） 3. 高橋照子 編「看護学原論」（南光堂）
参考書	1. 道又元裕編「臨床で実際に役立つ疾患別看護過程」（総合医学者） 2. 高木永子監修「看護過程に沿った対症看護」（学研） 3. 日本看護協会編「看護記録および診療情報の取り扱いに関する指針」（ 日本看護協会出版会 ） 4. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（医学書院） 5. 日野原重明編「フィジカルアセスメント」（医学書院） 6. 堺章「目でみるからだのメカニズム」（医学書院） 7. 医療情報科学研究所編「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」（メディックメディア） 8. 大久保暢子編「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。 提出物は、「ヘルスアセスメント」は演習後の記録物について到達目標 4. の達成度で評価する（20%）。 「看護過程」は到達目標 5. 紙上事例をもとに看護過程を展開できるの達成度を評価する(30%)。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	1. 学習の主題ごとにテキストによる予習を行い、講義に臨んでください。 2. 「フィジカルアセスメント」の演習は、指定のテキストや資料を予習して臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （小島）	学習の主題	看護過程の概念と構成要素、看護過程とヘルスアセスメントの関係
		授業内容	1. 看護過程の意義と構成要素 2. 看護過程、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの関係 3. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みに基づくアセスメント 4. アセスメントの種類と方法を理解する
		事前・事後学習	事前学習：①事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにする ②テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントの I・II を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントの目的と方法、健康知覚-健康管理パターンのアセスメント
		授業内容	1. ヘルスアセスメントの目的、留意点、共通技術 2. 健康歴聴取の目的と方法 3. 一般状態の観察の目的と方法 4. 健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメント
		事前・事後学習	事前学習：テキスト 1 の第 1 編看護過程と看護記録の第 2 章看護過程の構成要素のⅠを読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習
	3 (全担当教員)	学習の主題	健康知覚 - 健康管理パターンのアセスメントの実際（演習）
		授業内容	1. 一般状態とバイタルサインズを観察する 2. 健康歴を聴取する 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：健康知覚-健康管理パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	4 (柏倉)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント（1）
		授業内容	栄養 - 代謝パターンのアセスメント（ 口腔・咽頭、外皮・リンパ系 ）の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習： テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	5 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント（1）の実際（演習）
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント（ 口腔・咽頭、外皮・リンパ系 ）を行う 2. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：栄養-代謝パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	6 (横山)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント（2)、排泄パターンのアセスメント
		授業内容	1. 栄養 - 代謝パターンのアセスメント（ 腹部 ）の方法 2. 排泄パターンのアセスメントの目的と方法
		事前・事後学習	事前学習： テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	7 (全担当教員)	学習の主題	栄養 - 代謝パターンのアセスメント（2)、排泄パターンのアセスメントの実際（演習）
		授業内容	1. 腹部のアセスメントを行う 2. 腎臓・膀胱のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：栄養-代謝パターン、排泄パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	8 (園田)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント（1）
		授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント（ 肺・胸郭、心・血管系 ）の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習： テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのⅢ系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	9 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメントの実際 (1)（演習）
		授業内容	1. 肺・胸郭のアセスメントを行う 2. 心・血管系のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：活動-運動パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	10 (首藤)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2)
		授業内容	1. 活動 - 運動パターンのアセスメント（ 筋・骨格系、神経系：運動機能・反射 ）の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習： テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのIII系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	11 (全担当教員)	学習の主題	活動 - 運動パターンのアセスメント (2) の実際（演習）
		授業内容	1. 筋・骨格系のアセスメントを行う 2. 運動機能のアセスメントを行う 3. 感覚機能のアセスメントの実施 4. 反射のアセスメントの実施 5. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：活動-運動パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	12 (本吉)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメント
		授業内容	1. 認知 - 知覚パターンのアセスメント（ 高次脳機能・感覚機能・眼・耳・鼻 ）の目的と方法
		事前・事後学習	事前学習： テキスト 1 の第 2 編看護の共通基本技術の第 1 章ヘルスアセスメントのIII系統的なフィジカルアセスメントの実際の該当箇所を読み理解する(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	13 (全担当教員)	学習の主題	認知 - 知覚パターンのアセスメントの実際（演習）
		授業内容	1. 高次脳機能・感覚機能のアセスメントを行う 2. 眼・耳・鼻のアセスメントを行う 3. 収集した情報を整理し、対象者に渡す
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：認知-知覚パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	14 (本吉)	学習の主題	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターンのアセスメント
		授業内容	自己知覚 - 自己概念パターン、役割 - 関係パターン、セクシュアリティ - 生殖パターン、コーピング - ストレス耐性パターン、価値 - 信念パターンのアセスメントの目的と方法
		事前・事後学習	事前学習：ゴードンの 11 の機能的健康パターンのうち上記 5 パターンのアセスメントに必要な情報とアセスメントの視点を確認(2 時間) 事後学習：自己知覚-自己概念パターン～価値-信念パターンのアセスメントのまとめと復習(2 時間)
	15 (小島)	学習の主題	ヘルスアセスメントのまとめ
		授業内容	1. ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みを用いたアセスメントのまとめ
		事前・事後学習	事前学習：ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメントに必要な情報とアセスメントの視点の確認(2 時間) 事後学習：ゴードンの 11 の機能的健康パターンの枠組みに基づく分析・解釈・判断の視点の復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	16・17 (首藤)	学習の主題	看護過程（1)（講義・演習）
		授業内容	1. 紙上事例の紹介 2. ゴードンの機能的健康パターンに基づく各パターンの分析・解釈・判断 3. 紙上事例のアセスメントを行う
		事前・事後学習	ゴードンの機能的健康パターンに整理された情報を確認し、必要な情報を追加する。分析の視点に基づき、事例のアセスメントを行う(事前・事後各 2 時間)
	18 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（2)（演習）
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う
		事前・事後学習	分析の視点に基づき紙上事例のアセスメントを行う(事前・事後各 2 時間)
	19 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（3)（演習）
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う
		事前・事後学習	分析の視点に基づき紙上事例のアセスメントを行う(事前・事後各 2 時間)
	20 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（4)（演習）
		授業内容	紙上事例のアセスメントを行う
		事前・事後学習	事前学習：各パターンのアセスメント結果をもとに強みと適切に機能していない事柄を抽出する(2 時間) 事後学習：ゴードンの 11 の機能的健康パターンのアセスメントを完成させる(2 時間)
	21 (首藤)	学習の主題	看護過程（5)（講義・演習）
		授業内容	1. 関連図と全体像について 2. 関連図と全体像を記載する
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを読む(2 時間) 事後学習：関連図、全体像を記載する(2 時間)
	22 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（6)（演習）
		授業内容	紙上事例の関連図・全体像を考える
		事前・事後学習	関連図、全体像を記載する(事前・事後各 2 時間)
	23 (首藤)	学習の主題	看護過程（7)（講義・演習）
		授業内容	1. 看護問題の明確化とリストアップ 2. 優先順位の決定 3. 計画立案：目標と評価日の設定、具体策の立案
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを読む(2 時間) 事後学習：関連図、全体像の見直し、看護問題リストの作成、優先順位の決定、計画立案(2 時間)
	24 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（8)（演習）
		授業内容	1. 紙上事例の看護問題リスト、優先順位の決定、計画立案の見直し
		事前・事後学習	看護問題リストの作成、優先順位の決定、計画立案の見直し(事前・事後各 2 時間)
	25 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（9)（演習）
		授業内容	紙上事例の看護過程の全プロセスを再考する
		事前・事後学習	看護過程の全プロセスの再考(事前・事後各 2 時間)
	26 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（10)（演習）
		授業内容	紙上事例の看護過程の全プロセスを再考する
		事前・事後学習	看護過程の全プロセスの再考(事前・事後各 2 時間)
	27 (首藤)	学習の主題	看護過程（11)（講義・演習）
		授業内容	1. 実施、評価 2. 紙上事例の看護過程の全プロセスを再考する
		事前・事後学習	事前学習：看護過程の実施、評価に関するテキストを読む(2 時間) 事後学習：看護過程の全プロセスの再考(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	28 (首藤)	学習の主題	看護過程（12）（講義・演習）
		授業内容	1. 看護記録とは 2. 看護記録の法的位置づけ 3. 記録様式と記載時の留意点 4. 紙上事例の看護過程の全プロセスを再考する
		事前・事後学習	事前学習：看護記録に関するテキストを読む(2 時間) 事後学習：看護過程の全プロセスの再考(2 時間)
	29 (全担当教員)	学習の主題	看護過程（13）（演習）
		授業内容	看護過程学習成果発表会
		事前・事後学習	看護過程の全プロセスの再考と、発表・提出の準備(事前・事後各 2 時間)
	30 (首藤)	学習の主題	看護過程（14）
		授業内容	看護過程のまとめ
		事前・事後学習	看護過程の全プロセスの再考と提出の準備(事前・事後各 2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護技術論III Fundamentals of Nursing Skill III	担当教員	小島　悦子、首藤　英里香、柏倉　大作、 本吉　明美、園田　典子、横山　桂子
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		

授業目的	検査や治療を受ける対象者を看護する上で必要となる基本的な看護技術を学び、検査や治療を受ける過程における看護師の役割と責任を理解し、看護の専門性について考える。感染予防技術、検査に伴う看護技術、吸引、与薬の技術について、既習の知識を統合し、根拠に基づき、対象者の安全・安楽を考えた看護技術について学ぶ。講義・演習において学生間で主体的かつ能動的に学び合うことを通して、正確な知識と確実な技術を修得する必要性を理解するとともに、倫理的態度や内省力を高めることをねらいとする。
到達目標	1. 診療に伴う技術における看護者の役割を説明できる。 2. 診療に伴う看護技術の目的と適応を説明できる。 3. 対象者の安全・安楽・自立につながる支援を考えることができる。 4. 身体侵襲を伴う看護技術を根拠に基づき安全・安楽に実施できる。 5. 薬物療法を受ける対象者の支援について説明できる。
テキスト	1. 高橋照子編「看護学原論」(南江堂) 2. 深井喜代子編「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 3. 深井喜代子編「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)
参考書	1. 竹尾恵子監修「看護技術プラクティス」(学研) 2. 川島みどり監修「看護技術スタンダードマニュアル」(メヂカルフレンド社) 3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院) 4. 本庄恵子 他「写真でわかる臨床看護技術①」(インターメディカ) 5. 吉田みつ子 他「写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス」(インターメディカ) 6. 古川祐子 他「写真でわかる看護のための感染防止アドバンス」(インターメディカ)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	試験では、到達目標の達成度を評価する(60%)。小テストでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習記録の事前・事後学習の取り組み状況と授業態度を含めて評価する(20%)。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	1. 演習の主題ごとに教科書や専門基礎科目の教科書による予習を行ってください。 2. 演習前に、テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとに、方法や留意点などを復習し、各技術のシミュレーションをしましょう。 3. 演習後は、グループや個人で演習の振り返りを行いましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を用いながら看護技術を理解できるように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （小島）	学習の主題	ガイダンス、診療のための看護技術
		授業内容	1. 診療に伴う技術の概要 2. 診療に伴う技術における看護師の役割と法的責任 3. 検査や治療における看護者の役割 4. 主な生体検査と検体検査 【課題】検査に必要な看護について調べる
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキストを読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習、主な検査における看護者の役割ついて調べ、まとめる(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (柏倉)	学習の主題	感染予防の技術（1）
		授業内容	1. 検査・診断・治療場面における感染管理の重要性 2. 無菌法の概念 3. 無菌操作 【小テスト】感染予防に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	3 (全担当教員)	学習の主題	感染予防の技術（2）（演習）
		授業内容	無菌操作、滅菌手袋の装着に関する看護技術を実施する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	4 (柏倉)	学習の主題	排泄に関する看護技術（1）
		授業内容	導尿の適応の判断、根拠に基づいた導尿の方法 【小テスト】導尿に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	5 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護技術（2）（演習）
		授業内容	排尿困難のある患者に対し一時的導尿を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	6 (小島)	学習の主題	口腔内・鼻腔内吸引に関する看護技術（3）
		授業内容	口腔内・鼻腔内吸引の適応、根拠に基づく口腔内・鼻腔内吸引の方法 【小テスト】口腔内・鼻腔内吸引に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	7 (全担当教員)	学習の主題	口腔内・鼻腔内吸引に関する看護技術（4）（演習）
		授業内容	喀痰喀出が困難な患者に対し口腔内・鼻腔内吸引を実施し、評価する
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	8 (小島)	学習の主題	検査に伴う看護技術（1）
		授業内容	1. 血液検査の種類と検体の取扱い 2. 採血の看護技術の根拠・留意点、注射器の取扱い 【小テスト】採血に必要な知識について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	9 (全担当教員)	学習の主題	検査に伴う看護技術（2）（演習）
		授業内容	採血を実施し、評価する（ けっかんくんを使用 ）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	10 (首藤)	学習の主題	与薬の技術（1）
		授業内容	1. 与薬における看護師の役割 2. 薬物に関する法律 3. 与薬方法とその特徴、薬物整体反応 【小テスト】与薬について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	11 (首藤)	学習の主題	与薬の技術 (2)
		授業内容	1. 注射法の種類とその特徴 2. 皮下注射、筋肉内注射、皮内注射の技術の根拠・留意点 3. 誤薬、感染防止の方法 【小テスト】与薬(注射法)について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	12 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術 (3)（演習）
		授業内容	皮下注射、筋肉内注射を実施し、評価する（ モデル人形を使用 ）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)
	13 (小島)	学習の主題	与薬の技術 (4)
		授業内容	1. 静脈内注射、点滴静脈内注射の特徴 2. 静脈内注射、点滴静脈内注射の技術の根拠・留意点 3. 輸血療法の適応・種類、輸血の技術の根拠・留意点 【小テスト】静脈内注射、輸血療法について
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題・内容に関するテキスト・資料を読む(2 時間) 事後学習：学習の主題・内容に関する復習(2 時間)
	14 (全担当教員)	学習の主題	事前学習：テキスト・資料を読んでおく
		授業内容	点滴静脈内注射の技術を実施し、評価する（ けっかんくんを使用 ）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料、テキストをもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う(2 時間) 事後学習：演習で学んだことを所定の用紙に整理する。
	15 (全担当教員)	学習の主題	与薬の技術 (6) (演習)
		授業内容	紙上事例をもとに与薬における支援を考える
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題を所定用紙にまとめる(2 時間) 事後学習：学んだことを所定の用紙に整理する(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	健康教育論 Health Education			担当教員	近藤　明代		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎	○		
授業目的	健康教育の基本となる理論と活動方法について学び、個人・集団を対象とした健康教育の企画・実施・評価に必要な知識を修得し、看護職の役割を理解する。						
到達目標	1. 保健医療の場における健康教育の目的と役割を理解する。 2. 健康教育に用いられる諸理論を理解する。 3. 健康教育の主な対象である成人の学びの特徴を理解する。 4. 健康教育が行われる場を理解する。 5. 健康教育の方法と媒体の特徴を理解する。 6. 個人・集団に対する健康教育の計画策定の知識を理解する。						
テキスト	講義の時に資料を配布する。						
参考書	1. 特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構編著 「新しい健康教育」（保健同人社） 2. 宮坂忠夫，川田智恵子，吉田亨編著「最新保健学講座＜別巻 1＞健康教育論」（メヂカルフレンド社） 3. 中村裕美子他「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」（医学書院） 4. Karen Glanz 他編，曽根智史他訳「健康行動と健康教育」（医学書院） 5. 宗像恒次「最新行動科学からみた健康と病気」（メヂカルフレンド社） 6. 大西和子，櫻井しのぶ編「成人看護学 ヘルスプロモーション」（ヌーヴェル・ヒロカワ） 7. 日本健康教育学会編「健康教育ヘルスプロモーションの展開」（保健同人社）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	試験（90%）は、到達目標の到達度を評価する。 講義内で小テスト（10%）を実施し、行動変容の諸理論の理解度を評価する。 上記の各評価の総合で本科目の評価とする。
	レポート		
	小テスト	10	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	常にヘルスプロモーションの理念を基本にして学習を進めてください。 グループ学習では積極的に意見交換を行い、学びを深めてください。
実務経験を活かした教育内容	保健師としての実務経験を持つ教員が、実際に健康教育を実施してきた中での事例や体験を紹介しながら、健康教育の展開に必要な知識・技術を理解しやすいように授業を実施します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	健康教育の特徴
		授業内容	1. 健康教育の考え方（定義、目的） 2. ヘルスプロモーションと健康教育 3. 成人の学びの特徴と成人期の健康教育の特徴 4. 健康教育が実施される場
		事前・事後学習	事前学習：ヘルスプロモーションについて復習する（2 時間）。
	2	学習の主題	健康行動と行動変容
		授業内容	1. 生活行動とその行動に影響する要因 2. 健康行動と行動変容
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を参考に自分自身の生活・健康行動について振り返る（2 時間）。
	3	学習の主題	健康行動・行動変容を理解するための理論（1）
		授業内容	1. 保健信念モデル 2. 変化ステージ理論
		事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4	学習の主題	健康行動・行動変容を理解するための理論（2）
		授業内容	1. エンパワメント理論 2. 社会的認知理論
		事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する（2 時間）。
	5	学習の主題	健康教育の方法とその特徴（1）
		授業内容	1. 健康教育の方法と技術 2. 教育教材の種類
		事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する（2 時間）。
	6	学習の主題	健康教育の方法とその特徴（2）
		授業内容	1. 健康教育の展開 2. ヘルスプロモーションとプリシード・プロシードモデル 3. プリシード・プロシードモデルを活用しての健康教育の展開
		事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する（2 時間）。
	7	学習の主題	健康教育の企画・実施・評価（1）
		授業内容	1. 健康教育の企画・準備に必要な知識と方法
		事前・事後学習	事後学習：参考文献で理論について復習する（2 時間）。
	8	学習の主題	健康教育の企画・実施・評価（2）
		授業内容	・健康教育の評価（評価の目的、評価の種類）
		事前・事後学習	事後学習：モデルをもとに健康教育に求められる要素について考える（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	家族看護学 Family Nursing			担当教員	針金　佳代子		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	地域包括ケアシステムにおける患者（療養者）とその家族を 1 単位としてとらえ、家族が望む自立した生活を主体的に営むために機能する家族看護の基本的な考え方と支援方法および技術を理解する。						
到達目標	1．看護の対象として、地域包括ケアシステムおける家族について説明できる。 2．地域で生活する家族の健康について説明できる。 3．家族を理解するための諸理論を理解できる。 4．家族のセルフケア機能の向上を目指す家族看護過程について理解できる。 5．家族が自ら望む生活を主体的に送るための、看護者の役割や基本姿勢を説明できる。						
テキスト	山崎あけみ、原礼子編集「家族看護学　改訂第 3 版」（南江堂）						
参考書	鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子「家族看護学 - 理論と実践 第 5 版」（日本看護協会出版会） 「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標達成状況を筆記試験と提出物により総合的に評価します。 ① 課題レポート(20 点)：家族看護理論を活用し、講義中に提示する教材事例への看護過程に関する理解度を評価します。 ② 定期試験（80 点）：講義内容の到達度を評価します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	人間は家族の中で誕生し育てられ、社会に巣立っていく存在です。今後、家族から独立しようとしているみなさんは、日頃、家族についてえる機会はありますか。家族の一員である自分について改めてみつめ、家族がどのような歴史を経て今日に至ったのか、自分はどのように家族から影響を受けてきたのか、そしてどのように生きていくのかについて考えてみてください。今、わが国の家族は多様化し、単身者も増加しています。そのような社会にあって、家族を看護することはどのような意味をもつのかを考え続けてください。そのために、現代に生きる多様な家族の現状を、専門書以外の新聞記事やテレビ、映画、漫画や絵本なども活用して理解を深め、これから病院や地域で出会うさまざまな家族に関心を持ち、看護を実践していってください。
実務経験を活かした教育内容	本科目は、保健所や市町村、NPO 活動などで、すべての発達期そして健康レベルの異なる多様な家族を看護した教員が担当します。各専門看護科目の基礎になる位置づけにあるため、各専門領域の学習と連動していくように、理論を踏まえて教材化した事例を用いて授業を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （針金）	学習の主題	看護の対象である地域包括ケアシステムにおける家族の特徴
		授業内容	1．「家族」の定義 2．　わが国の家族の動向～これまで・現在・そしてこれから 3．地域包括ケアシステムの中にある家族の生活
		事前・事後学習	事前学習：現在の自分の家族の生活について、見直す。その生活と地域がどのように関係しているのかを考える。地域包括ケアシステムについて復習しておく(2 時間)。 事後学習：講義内容を復習し、看護の対象としての現代の家族とその生活について多様な方法を用いて調べ、ノートにまとめる(2 時間)。
	2 （針金）	学習の主題	家族看護が目指す「健康な家族」とは
		授業内容	1．健康な家族とは 2．家族の健康の概念としてのセルフケア機能 3．家族看護の目的と目標 4．家族看護の歴史 5．地域における家族の生活（生活構造理論）
		事前・事後学習	事前学習：自分が生まれてから家族がどのように地域で生活してきたのか、必要時家族から情報を得て考える（2 時間)。 事後学習：自分の家族の健康について家族のセルフケア機能から判断し、ノートに整理する。自分の家族の生活について理論を活用して考える(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (針金)	学習の主題	家族を理解するための諸理論（1）
		授業内容	1．家族の構造（役割、コミュニケーション、愛着関係、価値観、リーダーシップ） 2．家族の機能（フリードマンの家族機能） 家族が主体的に課題に向き合い解決していく意思決定のプロセス
		事前・事後学習	事前学習：自分の家族内での役割や家族の関係性について考える（2 時間）。 事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族がこれまでどのような役割をどう調整しながら生活をしてきたのか、その時の家族の関係や家族として大切にしてきたことは何か、何かを決めるとき、どのように意思決定してきたのかを考える（2 時間）。
	4 (針金)	学習の主題	家族を理解するための諸理論（2）
		授業内容	1．家族のライフサイクルと発達課題（家族発達理論） システムとしての家族（家族システム理論）
		事前・事後学習	事前学習：現在の自分の家族が向き合っている課題は何かを考える。自分の周囲に、あるさまざまなシルテムを探してみる（2 時間）。 事後学習：学習した理論を活用し、自分の家族のこれまでの発達のプロセスを振り返り、これからの家族について考える。家族をシステムの 3 要素から見直す（2 時間）。
	5 (針金)	学習の主題	家族を理解するための諸理論（3）
		授業内容	1．家族の危機（発達的危機と状況的危機） 2．家族がストレスを抱えた時の対応と適応（家族ストレス対処理論） 教育期の家族の事例検討
		事前・事後学習	事前学習：自分の家族がこれまでさまざまな課題をどのように乗り越えてきたのかを振り返る（2 時間）。 事後学習：既習の家族理論、教材の家族事例からの学びを活用し、自分の家族がどのような時にストレスを抱え、どのように対応してきたのかを分析してみる（2 時間）。
	6 (針金)	学習の主題	家族看護過程（1）
		授業内容	1．国内外の代表的な家族アセスメント理論・モデル 2．家族看護過程 3．家族のセルフケア機能の情報収集・アセスメントと健康課題
		事前・事後学習	事前学習：これまで学習してきた看護過程について、また家族のセルフケア機能について復習する。(2 時間)。 事後学習：授業中学習した家族事例の情報を整理しアセスメントをする。健康課題を考える（2 時間）。
	7 (針金)	学習の主題	家族看護過程（2）
		授業内容	1．家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護計画 2．家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の方法・技術 家族がセルフケア機能の向上を目指すための家族看護の評価
		事前・事後学習	事前学習：授業中学習した家族事例の、健康課題に対する看護計画について考える（2 時間）。 事後学習：授業中学習した家族事例への一連の家族看護過程から、家族看護の目的・機能を再考する。これからの時代や社会における家族看護の意味や意義について考える（2 時間）。
	8 (針金)	学習の主題	これからの時代に生きる家族への看護者の役割と基本姿勢
		授業内容	1．現代家族が向き合うさまざまな健康課題 2．家族とのパートナーシップの形成 3．家族とのパートナーシップの形成するための技術 4．家族とパートナーシップを形成するための看護職の役割と基本姿勢
		事前・事後学習	事前学習：基礎看護実習で出会った患者とその家族に対して、どのような家族看護ができたのかを、家族看護過程に沿って考える（2 時間）。 事後学習：今後、家族看護を実践していくための、看護者としての自分の課題について考えてみる（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護倫理 Nursing Ethics	担当教員	大日向　輝美、園田　典子
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		

授業目的	看護は、看護職者と対象者の関係性を契機とする実践であり、人間らしさを追求する倫理的要請に依拠します。しかし、人間社会で行われる活動であるが故にその内部には双方の人間らしさを脅かす様々な要因が存在し、看護本来の目的実現を妨げています。このような状況においてよりよい看護を実現するためには、物ごとを多面的に見つめて何がなぜ看護のありように影響を及ぼしているのかを捉え、本来の目的実現に向けた方途を探らなければなりません。本科目では、よりよい看護を実現するための思考と態度を学ぶことをとおして、看護職者に求められる役割・責任を認識するとともに看護実践の倫理に関する理解を深めます。
到達目標	1. 人間にとっての倫理、看護職者にとっての倫理について自分なりに説明できる。 2. 看護倫理にかかわる基本的な概念を説明できる。 3.「看護とは何か」「看護職者とは何をするものか」という問いに対し、倫理的観点からの回答を表明できる。 4. 紙上事例を用いてよりよい看護を実現するための思考過程をたどり、以下の目標を達成できる。 1）対象者の人間らしさを阻んでいるもの、その状況を作り出している要因について説明できる。 2）制約のある状況下における看護のあり方を検討し、短期的・中長期的な改善・解決策を提案できる。 3）紙上事例での学習を振り返り、自己の思考過程を明示的にたどる。 5. 看護実践の倫理と看護職者に求められる役割・責任について自分なりの考えを表明できる。
テキスト	F・ナイチンゲール（湯槇ます他訳）「看護覚え書」第 7 版（現代社） 日本看護協会編「看護者の倫理的責務（最新版）」（日本看護協会出版会）
参考書	1. 小西恵美子編「看護倫理―良い看護・よい看護師への道しるべ」第 2 版（南江堂） 2. S・T・フライ他（片田範子他訳）「看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド」第 3 版（日本看護協会出版会） 3. 服部健司他「医療倫理学の ABC」第 4 版（メヂカルフレンド社） 4. D・F・チャンブリス（浅野祐子訳）「ケアの向こう側―看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾」（日本看護協会出版会）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		提出物：毎時の授業での取組みと事前・事後の学習は全てワークシートに記載し、提出します。評価基準等は 1 回目の授業で説明します。 レポート：看護実践の倫理にかかわるテーマを設定します。詳細は 8 回目の授業で説明します。
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物	80	
	その他		

履修上の留意事項	・個人ワーク中心ですが、授業は学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な関与を求めます。 ・本科目では「考える」ことを重視します。これまで深く考えたことがなかった事象に対し、立ち止まって考え意味づける取組みを求めます。物事を多角的に見る視点を養うために必要な姿勢だからです。考えることを厭わず、考えることに楽しみを見出し、考えることで自らの成長を促す契機にしてほしいと願います。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （大日向） （園田）	学習の主題	ガイダンス、倫理とは何か
		授業内容	1. 本科目の目的・内容、方法、履修上の留意事項 2. 倫理とは 3. 倫理的思考 4. 倫理と道徳 5. 倫理と価値
		事前・事後学習	事前（0.5 時間）：シラバス内容の確認 事後（1 時間）：示された課題への取組み、学習内容の要約と感想の記述

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (大日向) (園田)	学習の主題	看護倫理とは何か_1
		授業内容	1. 看護倫理とは何か 2. 看護職者の倫理的責任 3. F・ナイチンゲールと看護職者の倫理
		事前・事後学習	事前（1 時間）：提示された課題への取組み 事後（1 時間）：示された課題への取組み、学習内容の要約と感想の記述
	3 (大日向) (園田)	学習の主題	看護倫理とは何か_2
		授業内容	1. 医療・看護の本質 2. 看護倫理の重要概念 2. 専門職を特徴づける態度 4. 看護職の倫理綱領
		事前・事後学習	事前（1 時間）：提示された課題への取組み 事後（1 時間）：提示された課題への取組み、学習内容の要約と感想の記述
	4 (大日向) (園田)	学習の主題	看護倫理とは何か_3、事例検討_1
		授業内容	1. 専門職倫理の原則 2. 導入事例（ポアと抑制）への取組み
		事前・事後学習	事前（1 時間）：提示された課題への取組み 事後（0.5 時間）：示された課題への取組み、感想の記述
	5 (大日向) (園田)	学習の主題	事例検討_2
		授業内容	1. 紙上事例（抑制と看護）_場面 1 への取組み
		事前・事後学習	事前（1 時間）：提示された課題への取組み 事後（0.5 時間）：示された課題への取組み、感想の記述
	6 (大日向) (園田)	学習の主題	事例検討_3
		授業内容	1. 紙上事例（抑制と看護）_場面 1 への取組み 2. 紙上事例（抑制と看護）_場面 2 への取組み
		事前・事後学習	事前（2 時間）：提示された課題への取組み 事後（0.5 時間）：示された課題への取組み、感想の記述
	7 (大日向) (園田)	学習の主題	事例検討_4
		授業内容	1. 紙上事例（抑制と看護）_場面 2 への取組み
		事前・事後学習	事前（2 時間）：提示された課題への取組み 事後（0.5 時間）：示された課題への取組み、感想の記述
	8 (大日向) (園田)	学習の主題	まとめ
		授業内容	1. 紙上事例に内在する問題、思考過程の振り返り 2. 倫理的な看護の実現に向けて
		事前・事後学習	事後（2 時間）：提示された課題への取組み、感想の記述

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護理論 Nursing Theories			担当教員	木津　由美子、本吉　明美		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	○	◎		
授業目的	本科目では、看護理論の意義と歴史的発展、理論としての構成要素、看護の諸理論に共通する下位概念と関係性について理解するとともに、看護現象における理論と技術及び看護過程の関係について理解する。さらに、主たる看護理論を分析的に学習することで、看護実践の基盤となる理論的根拠についての理解を深める。						
到達目標	1. 看護実践における看護理論の位置づけと意義について理解する。 2. 看護理論の歴史的変遷と分類の特徴を理解する。 3. 看護理論の定義、理論構築の要素について理解する。 4. 看護理論における共通概念および諸理論の基礎を理解する。 5. 事例や自己の看護体験をもとに、看護理論を実践的に活用する。						
テキスト	関係資料を授業開始時に配付する。						
参考書	1. J.B. ジョージ、南裕子他訳「看護理論集 第 3 版」（日本看護協会出版会） 2. A.M. トメイ他、都留伸子監訳「看護理論家とその業績」（医学書院） 3. 金子道子編「看護論と看護過程の展開」（照林社） 4. 筒井真優美編「看護理論」（南江堂） 5. F. ナイチンゲール、湯槇ます訳「看護覚え書」（現代社） 看護理論に関する文献は、随時紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標 1〜4 の総合評価として到達目標 5 について授業中の個人学習記録の提出物を定期試験相当とし、学習到達状況を評価する。 授業中の個人学習時間の欠席、記録物などの持参に不備があった場合は減点対象とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	・講義進行のために事前資料を必ず読み、所定用紙に整理しておくこと。 ・受講態度は「学習活動の手引き」の「受講の心構え」に従うこと。逸脱行為と判断した場合は最終評定から減点する。 ・第 5 回目以降は、事例や実習での体験をもとに看護理論を活用する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、理論の意義・目的や各理論家の説明時には臨床経験に基づく場面を例示することで、わかりやすく授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （木津）	学習の主題	看護実践における理論の位置づけと意義
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点 1. 看護理論を学ぶ意義と必要性 1）看護職の発展と看護理論 2）看護実践と理論発生の関係
		事前・事後学習	講義をもとに、「看護理論を学ぶ各自の目的」を A5 版用紙（250 字）にまとめる。（1 時間）
	2 （木津） （本吉）	学習の主題	看護理論の構築と基礎となる概念
		授業内容	1. 看護理論を学ぶ意義と必要性（続き） 1）看護理論の歴史的概観と分類・特徴 2）看護における実践と理論・研究の環状的性質 2. 看護理論の構築と基礎となる概念 1）看護理論の定義と理論構築の要素 2）看護の諸理論に共通する概念 3. 所定用紙「自分の考える看護とは」をこれまでの講義・演習・実習をもとにまとめる。
		事前・事後学習	事後学習：「自己の考える看護とは」を完成させておく。（1 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (木津) (本吉)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（1）
		授業内容	1. 所定の「自分の考える看護とは」から共通概念を抽出し、各概念について、グループ学習する。(グループ学習) 2. グループ学習の成果を含めて「看護とは何か」をまとめる。(個別学習)
		事前・事後学習	事後学習：授業内容 2 について所定用紙①を完成させ提出する。(1 時間)
	4 (木津) (本吉)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（2）
		授業内容	1. ナイチンゲールの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程
		事前・事後学習	事前学習：ナイチンゲール「看護覚え書」を読んでおく。(2 時間)
	5 (木津) (本吉)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（3）
		授業内容	1. ヘンダーソンの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにヘンダーソンの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事前学習：ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を読んでおく。(1 時間) 事後学習：授業内容 2 について所定用紙②を完成させる。(1 時間)
	6 (木津) (本吉)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（4）
		授業内容	1. オレムの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境、看護過程 2. 事例をもとにオレムの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事後学習：授業内容 2 について所定用紙③を完成させる。(1 時間)
	7 (木津) (本吉)	学習の主題	主たる看護理論の分類と特徴（5）
		授業内容	1. オーランドの提唱する看護の理論的特徴 理論家の背景、看護の目的・定義、看護と人間・健康・環境 2. 実習での体験をもとに、オーランドの看護理論を実践的に活用する。
		事前・事後学習	事後学習：授業内容 2 について所定用紙④を完成させる。(1 時間)
	8 (木津) (本吉)	学習の主題	看護実践において看護理論を活用する意義（まとめ）
		授業内容	1. 各看護理論の特徴の振り返り 2. 看護実践において看護理論を活用する意義
		事前・事後学習	所定用紙①の修正と②～④を完成させ、所定用紙①～④まですべてを提出する。(1 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護基礎実習 II Clinical Practicum of Fundamental Nursing II			担当教員	小島　悦子、首藤　英里香、本吉　明美、 園田　典子、柏倉　大作、横山　桂子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	病院に入院している対象者と援助的関係の構築を目指して関わり、生活者である対象者を全人的に理解し、対象者の個別のニーズに合わせた支援を計画し、実施し、評価する看護のプロセスを学ぶ。対象者への看護実践を通して、看護学生としての責任を自覚するとともに、看護実践を振り返ることにより内省力を高め、看護に対する自己の考えを深めることをねらいとする。						
実習目標	1. 対象者と援助的関係を目指して関わり、対象者を全人的に理解することができる。 2. 看護過程を適用して対象者の日常生活において必要な支援を明らかにし、実施し、評価できる。 3. 看護者に必要な基本的な態度を身につける。 4. 実習体験をもとに看護観を表現し、今後の自己課題を明確にできる。						
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。				
履修上の留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 既修の看護技術、形態機能病態学について、計画的に復習をしましょう。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。						
実習方法	1. 実習オリエンテーション（学内） 2. 実習期間(予定)：2023 年 11 月 27 日（月）～12 月 8 日（金） 3. 実習時間：9：00～16：00 4. 実習初日に病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを受ける。 5. 対象者を受け持ち、関係を築きながら対象者を全人的に理解する。 6. 実習指導者や担当教員の指導を受けながら、対象者の看護上の問題を解決するために必要な支援を考え、実施し、評価する。 7. 毎日の看護実践を振り返り、実習記録を整理する。 8. 病棟実習最終日に学生カンファレンスを行い、学びを共有する。 9. 実習最終日にグループワークと学内報告会を行い、学びを共有する。 10. 実習体験をもとに看護観と今後の自己課題をレポートに整理する。						
実習施設	KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、札幌南一条病院、札幌山の上病院、手稲渓仁会病院、斗南病院、北海道内科リウマチ科病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	地域看護実習 Community Health Nursing Practicum			担当教員	針金　佳代子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	住み慣れた地域で生活するさまざまな発達段階・健康レベルそして生活環境にいる人々が、地域の多様な社会資源やサービスを利用しながらどのように自分らしい生活を目指して生活しているのか、さらにこれからもその生活を継続していこうとしているのかを学び、その生活を支える地域包括ケアシステムの構築そして推進していくためには、看護職にはどのような役割があるのかを考える。						
実習目標	1)　地域で生活する人々がどのように生き、また今何を大切に生きているのか、さらに今後健康な生活を継続しQOL を維持していくために、どのような希望や要望があるのかを理解できる。 2)　地域で生活する人々の生活や地域の自然や歴史、文化などの環境が、健康にどのように影響を与えているかを説明できる。 3)　地域に生活する人々が自ら望む健康な生活を継続していくために、どのような社会資源やサービスを必要としているかを理解できる。 4)　地域に生活する人々が健康な生活を維持・向上していくために、地域包括ケアシステムの形成そして推進を担う看護者の役割について考えることができる。						
実習内容	具体的な実習内容については、実習要領を用いて実習オリエンテーションで説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験		・実習時間の 3 分の 2 以上の出席が評価対象をなる。 ・テーマ「地域の人々の健康な生活を支える地域包括ケアにおける看護職の役割」に関するレポートにより目標到達状況を評価する。				
	レポート	100					
	小テスト						
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	人間は生きるためには何が大切になるのかを、考え続けてください。地域で生活している方々から学ぶという態度を忘れずに、真摯に謙虚に実習に臨んでください。これまでのさまざまな既習内容を復習しておくこと。						
実務経験を活かした教育内容	地域で看護活動をしてきた教員などが、実務経験を踏まえながら具体的に実習指導を行います。						
実習方法	・2 週間で 2 か所の保健医療福祉の機関において、グループ単位で実習する。 ・実習施設を利用している人々から、社会資源を活用しながら地域で生活することについてどのように受け止めているか、今後どのような生活をしていきたいと考えているか、看護職にどのような期待があるかなどをインタビューする。 ・学内において実習施設の理解、グループとしての実習課題の明確化、インタビューの練習を行う。実習中および実習最終日にはグループ討議などを行い目標の達成を目指す。						
実習施設	介護老人保健施設：豊生会ひまわり、もえれパークサイド、あつべつ、コミュニティ白石 介護老人福祉施設：ひかりの 地域密着型介護老人福祉施設：白ゆり南あいの里 デイサービス：豊生会　パワフルひまわり、きらら伏古、エルバサ、夢のみずうみ村　てんやわんや、夢のみずうみ村てんやわんや本町、夢のみずうみ村　てんやわんや夢 グループホーム：豊生会：すぎの子、すぎの子の家、すぎの子の家族、夢 小規模多機能型居宅介護事業所：さくらの森、菜の花、エルムの森、かたくりの花、すずらんの花、すみれの花、木蓮 地域包括支援センター：厚別区第 1 地域包括支援センター、白石区第 1 地域包括支援センター、白石区第 3 地域包括支援センター 介護予防センター：介護予防センター　栄・丘珠、介護予防センター　東苗穂、介護予防センター栄町、介護予防センター北光、介護予防センター伏古本町 子育て支援センター：札幌市内 9 区の保育・子育て支援センター デイケア：こころのリカバリー総合支援センター、ここリカ・プロダクション 地域精神医療：幹クリニック						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護活動論 I Adult Nursing I	担当教員	佐藤　郁恵、小野　善昭、加藤　剛寿、 伊藤　円
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	1.慢性疾患によりセルフケアが必要となる対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら慢性疾患とともに生活していく対象を支えるための看護活動を理解する。 2.健康状態の急激な変化によって、生体がその変化に対応するためにさまざまな反応を起こしている急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を理解し、諸理論を活用しながら生命の維持・回復に必要な看護活動を理解する。 3. 手術を受ける対象を周手術期の視点で包括的に理解し、侵襲を最小限にとどめ回復を促進する看護活動を理解する。
到達目標	1-1. 慢性疾患をもつ対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。 1-2. 慢性疾患をもつ意味や対象が抱える問題と背景について概要を説明できる。 1-3. 慢性疾患をとともに生活する対象のセルフケアを支える援助について説明できる。 2-1. 急性期にある対象の身体的、心理的、社会的反応を説明できる。 2-2. 急激な健康レベルの変化にある対象の生命の維持、回復の促進に必要な看護活動の考え方を説明できる。 3-1. 術前・中・後を通した対象の健康課題と看護の役割について説明できる。 3-2. 手術侵襲が及ぼす生体反応について理解し、術後合併症予防のための援助について説明できる。
テキスト	1. 鈴木久美、他編「成人看護学　慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第 3 版」（南江堂） 2. 矢永勝彦、他編「系統看護学講座別巻　臨床外科看護総論臨床外科看護総論 第 11 版」（医学書院） 3. 北島政樹、他編「系統看護学講座別巻　臨床外科看護各論臨床外科看護各論 第 9 版」（医学書院） 4. 野崎真奈美、他編「看護学テキストＮｉＣＥ　成人看護技術 - 成人看護学 第 3 版」（南江堂）
参考書	1. 鈴木志津枝、他編「慢性期看護論 第 3 版」（ヌーヴェルヒロカワ） 2. 奥宮暁子編「生活調整を必要とする人の看護Ⅰ, Ⅱ」（中央法規出版） 3. 梅田恵、他編「緩和ケア　改訂第 2 版」（南江堂） 4. 安酸史子「糖尿病のセルフマネジメント教育 第 3 版」（メディカ出版） 5. 道又元裕、他編「クリティカルケア看護学」（医学書院） 6. 池松裕子、他編「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 7. 雄西智恵美、他編「周手術期看護論 第 3 版」（ヌーヴェルヒロカワ）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。 担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	既習の知識を活用しつつ、疾患や健康レベルに応じた看護を具体的に考えていきます。成人期の対象の持つ多側面な健康上の課題について、事例を基に進めて行きます。そのため、基本的な人体の構造、病態、治療は理解しているものとして進めて行きますので各自で予習・復習を主体的に行い、看護実践のための知識を蓄えられるように学んでください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜3 時間の時間を要します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。また、緩和ケアや急性期看護では専門的な資格をもつゲストスピーカーを招き、臨床実践について講義を行ってもらいます。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（佐藤）	学習の主題	慢性疾患をもつ対象の特徴と理解
		授業内容	1. ガイダンス 2. 成人期にある対象が病いを得ることの意味 3. 慢性疾患を抱えた対象の心理、社会的特徴 4. 治療や検査がもたらす二次的な影響 事例提示：がんを患った成人期にある患者
		事前・事後学習	事後学習：講義内容を整理する。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	2（佐藤）	学習の主題	がんを患った人の看護
		授業内容	1. がんの集学的治療と成り行き 2. 化学療法を受ける患者のセルフケアを支える看護 3. 放射線療法を受ける患者のセルフケアを支える看護
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	3（伊藤）	学習の主題	終末期のある人の看護
		授業内容	1. 終末期に起こる主な症状 2. 終末期における症状マネジメント 3. 終末期における看護
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	4（伊藤）	学習の主題	緩和ケアが必要な人への看護
		授業内容	1. 緩和ケアの特徴 2. 緩和ケアを必要とする患者および家族の特徴 3. 緩和ケアの実際 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：緩和ケアが必要な患者への看護について予習する 事後学習：講義内容について整理する
	5（伊藤）	学習の主題	慢性的に呼吸機能に障害のある人の看護
		授業内容	1. 慢性閉塞性肺疾患と成り行き 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	6（加藤）	学習の主題	慢性的に循環機能に障害のある人の看護
		授業内容	1. 様々な疾患と心不全 2. 疾患が与える日常生活・社会生活への影響 3. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	7（加藤）	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 1
		授業内容	1. 糖尿病と診断された人の心理的影響 2. 生活の再調整とライフサイクルに与える影響
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	8（加藤）	学習の主題	内分泌・代謝障害のある人の看護 2
		授業内容	1. 生活の再調整のために身につける知識・技術と教育的関わり 2. シックデイ 3. 低血糖ならびに高血糖への対処
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：事例の看護についてまとめる
	9（小野）	学習の主題	手術療法と周術期看護の基本
		授業内容	1. 手術療法の変遷と今日の課題 2. 周手術期におけるチーム医療と看護師の役割 3. 手術を受ける患者の心理状態 4. 手術侵襲と生体反応
		事前・事後学習	事前学習：生体反応、炎症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (小野)	学習の主題	術前の看護
		授業内容	1. 意思決定への支援 2. 手術に向けた準備 3. 手術当日の看護 事例提示：胃切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
	11 (小野)	学習の主題	術中の看護
		授業内容	1. 手術室の安全管理 2. 環境の管理 3. 安全な手術体位、ME 機器の取り扱い 4. 直接・間接介助の看護師の役割と連携 5. 麻酔法と麻酔時の看護 事例提示：肺切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の手術内容、麻酔方法、手術体位について予習する 事後学習：講義ノートのまとめ、事例の展開、課題の提出
	12 (小野)	学習の主題	術後の看護 1
		授業内容	1. 術後合併症および看護 2. 術後の観察とアセスメント 3. 早期離床の意義とそれを促す援助 4. 合併症の予防、苦痛の緩和のための観察、アセスメントおよび看護 事例提示：大腸切除術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：創傷管理、ドレナージ、術後合併症について予習する 事後学習：講義ノートの整理、事例の展開、課題提出
	13 (小野)	学習の主題	術後の看護 2
		授業内容	1. 術後回復期から退院に向けた準備のための看護 2. 術後機能障害とセルフケア能力獲得のための援助 3. 手術による喪失体験 事例提示：人工肛門造設術を受ける患者
		事前・事後学習	事前学習：事例の病態生理、治療について予習する 事後学習：講義ノートの整理、課題の提出
	14 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 1
		授業内容	1. 急激な健康レベルの変化と急性期看護の考え方 2. 生命維持のための看護活動 3. クリティカルケアにおける日常生活援助 4. クリティカルケアにおける早期リハビリテーション ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：集中治療中の看護について予習する 事後学習：講義内容の整理
	15 (小野)	学習の主題	急性期にある対象の理解と看護活動 2
		授業内容	1. クリティカルな状態にある患者とその家族の特徴 2. クリティカルな状態にある患者の家族への看護 3. 意思決定支援 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：集中治療中の患者と家族への支援について予習する 事後学習：講義内容の整理

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護活動論 II Adult Nursing II	担当教員	小野　善昭、加藤　剛寿、伊藤　円、 池野　航平、今泉　里絵、佐藤　郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	1. 慢性疾患とともに生活する患者・家族を支えるために必要な援助技術を習得する。 2. 急性期ならびに周手術期にある患者・家族を看護するために必要な援助技術を習得する。 3. 救命処置（BLS）の知識・技術を習得する。 これらの内容は、臨地実習をはじめとする臨床での看護活動に実践できるよう修得することを目指す。
到達目標	1-1 事例を通し、慢性疾患を抱える患者・家族のセルフマネジメントならびにセルフモニタリングについて考え、日常生活を支えるための看護技術を実施できる。 1-2 生活者の視点で考え、患者・家族のセルフケアを高める教育的関わりについて説明できる。 1-3 がん疾患で化学療法を受ける患者を支えるために必要な知識や技術が説明できる。 2-1 事例を通し、急性期にある患者の心身の回復を促進する援助技術を実施できる。 2-2 周手術期にある患者の一連の体験を理解し、術前・術中・術後の各期に応じた援助技術を根拠に基づいて考え、説明できる。 2-3 術後合併症予防のための術前からの介入、早期発見、回復の促進のための援助技術を考え、実施できる。 3-1 心肺停止時の緊急時対応の原則を理解し、効果的な BLS が実施できる。
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学　成人看護技術　改訂第 3 版」（南江堂） 2. 鈴木久美、他：「成人看護学　慢性期看護 第 3 版」（南江堂） 3. 矢永勝彦他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」（医学書院） 4. 北島政樹他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」（医学書院）
参考書	1. 稲葉佳江他編「看護ヘルスアセスメント」（メヂカルフレンド社） 2. 雄西智恵美他編「周手術期看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 下正宗編「エビデンスに基づく検査データ活用マニュアル　改訂第 3 版」（学研メディカル秀潤社） 4. 阿曽洋子編「基礎看護技術　第 7 版」（ 医学書院 ） 5. 深井喜代子編「基礎看護技術 II」（ メヂカルフレンド社 ） 6. 日本糖尿病学会編「糖尿病治療の手びき」（南江堂） 7. 山内豊明「フィジカルアセスメントガイドブック」（ 医学書院 ）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標への到達状況を提出物、定期試験（筆記試験）により評価する。担当者別の評価割合は初回講義で知らせる。また、提出物の評価基準はルーブリックなど課題ごとに提示する。なお、定期試験を受験しなかった学生は評価の対象にしない。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	健康レベルに応じた援助技術を習得するため、慢性期・周手術期・急性期のオムニバスで授業は進められる。これまでの学習を活用し主体的に予習に臨むとともに、実践可能なレベルに到達するよう援助技術の習得に意欲的に取り組むこと。また特に、実習室使用日やクラス分けについては掲示板等で連絡するため見落としがないように各自で注意する。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途提示するが、概ね予習・復習それぞれに 1〜3 時間の時間を要する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義、演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。特にがん化学療法については認定看護師として活躍されている方をゲストスピーカーとして招き、実践状況を踏まえて授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （小野） （加藤）	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助 1
		授業内容	1. 講義ガイダンス 2. セルフモニタリング 3. 血糖自己測定（SMBG） 4. インスリン自己注射 5. 演習ガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：事例に基づき病態生理を復習する 事後学習：血糖自己測定の指導のパンフレットを作成する

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	糖尿病を持つ患者のセルフマネジメントを支える援助 2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	血糖自己測定の患者教育（シミュレーション） ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	3 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助 2 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. 日常生活の中の困難 2. 呼吸器疾患とセルフマネジメント 3. 呼吸を整える援助 1）呼吸練習（口すぼめ呼吸、腹式呼吸） 2）呼吸困難に対する安楽な体位 3）酸素吸入療法と酸素飽和度 4. 演習ガイダンス ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習の学びをふまえて、次回演習の準備をする
	4 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性閉塞性肺疾患を持つ患者の援助 3 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	慢性の呼吸器疾患を持つ事例患者への看護実践（シミュレーション） ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する
	5 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり 1
		授業内容	1. 事例患者のセルフケアエージェンシーとセルフケアデマンドの明確化 2. 事例患者が生活を再調整する上での目標の明確化 3. 目標を達成するための指導案の作成 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：主題に沿って予習する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
	6 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	慢性疾患を抱えて生活する患者への教育的関わり 2
		授業内容	事例患者に対する指導案の発表 1）指導案に基づいたロールプレイ 2）ディスカッション ※ロールプレイは 3 教室に分かれて行う
		事前・事後学習	事前学習：主題に沿ってロールプレイの準備をグループで行い、指導案を提出する。
	7 (伊藤)	学習の主題	がん化学療法を受ける患者の援助 1
		授業内容	1. がん薬物療法と使用される薬剤の特性 2. 薬物療法に伴う有害事象とそれに対するケア ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：がん化学療法に関してテキストの指定された箇所を用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	8 (伊藤)	学習の主題	がん化学療法を受ける患者の援助 2
		授業内容	1. 化学療法認定看護師の役割 2. 化学療法認定看護師の行う看護の実際 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：前回講義内容を確認する 事後学習：講義の内容を整理する
	9 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 1
		授業内容	全身麻酔で手術を受ける事例患者のアセスメントの共有と整理・修正 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループ内で発表・共有した内容を指定用紙にまとめ、提出する

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 2
		授業内容	1. 呼吸器合併症（無気肺・肺炎)、深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症、消化器系合併症（術後腸閉塞)、手術部位感染（SSI)、等の看護計画の立案 2. 発表資料（指定用紙）の作成 ※グループワーク
		事前・事後学習	事前学習：提示された課題について各自学習し、指定の用紙に整理する 事後学習：グループで資料を作成し、発表に向けて練習する
	11 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 3
		授業内容	事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1）手術後合併症の要因 2）術前・術後の看護 3）ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
		事前・事後学習	事前学習：各グループの発表資料を読み、学びを整理する
	12 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者への援助技術 4、5
		授業内容	1. 事例患者の手術後合併症に関する看護計画の発表 1）手術後合併症の要因 2）術前・術後の看護 3）ディスカッション ※グループ発表は 2 クラスに分けて同時に行う 2. 手術直後の看護 1）手術直後の患者の状態と必要な看護（観察の要点など） 2）演習ガイダンス ※ 11 回目、12 回目の演習は「2 コマ連続」で行う
		事前・事後学習	事後学習：発表会で共有した内容を整理し、演習に備えて予習する
	13 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 6 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	手術直後の患者の観察 1）手術直後の患者のバイタルサインズの測定 2）創傷部位・ドレナージ等、全身状態の観察 3）測定・観察した内容の記録 ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日に渡って実施する
		事前・事後学習	事前学習：呼吸・循環に関するフィジカルアセスメントの復習、演習に備えて予習する
	14 (小野) (全担当教員)	学習の主題	周手術期にある患者の援助技術 7 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. 輸液管理（点滴内容の確認ならびに滴下数の計算と設定） 2. DVT 予防（弾性ストッキング、間欠的空気圧迫法） 3. 創傷管理（創傷処置ならびにドレーン挿入部の処置） ※13 回目と 14 回目の演習は「2 コマ連続」で、半数ずつ 2 日にわたって実施する
		事前・事後学習	事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。
	15 (小野) (全担当教員)	学習の主題	一次救命処置（BLS）の実際 【基礎・成人看護実習室】
		授業内容	1. AED を用いた一次救命処置 2. 人工呼吸とバックバルブマスクを用いた換気方法 ※半数ずつ 2 クラス展開で実施する
		事前・事後学習	事前学習：演習に備えて予習する。 事後学習：演習を振り返り、学びと課題について指定用紙にまとめ、提出する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	高齢者看護学概論 II Introduction to Gerontological Nursing II	担当教員	服部　ユカリ、中田　真依
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

授業目的	後期高齢者医療制度、介護保険制度、認知症に関する施策などの高齢者に対する社会保障制度ならびに高齢者を支える様々な職種とその連携について講義を通して学ぶ。また、高齢者に多い疾患を理解し、介護を必要とする高齢者およびその家族に対する支援や、高齢者看護における理論やエンドオブライフ・ケアの観点から高齢者の尊厳の保持、事前指示、リビングウィルについて基本的な知識を学ぶ。さらに高齢者虐待や身体拘束等の高齢者看護における倫理的課題や、災害時における高齢者への看護についても学ぶ。
到達目標	1. 高齢者に多い疾患や老年症候群の概要と看護について説明できる。 2. 高齢者に関わる社会保障制度について理解し、保健医療福祉リームの在り方について説明できる。 3. 高齢者を介護する家族の問題や支援の在り方について説明できる。 4. 高齢者看護における理論を学修し、エンドオブライフ・ケアについて説明できる。 5. 高齢者看護における倫理的課題や災害時におこりやすい課題について説明できる。
テキスト	1 年次後期の高齢者看護学概論 I と同じテキストを用いる 北川公子編「系統看護学講座　専門分野 II　老年看護学」(医学書院)
参考書	授業の際、使用した文献は適時提示・紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	目標の到達状況を筆記試験 90%、レポート 10%、合計 100%にて評価する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	高齢者看護学概論 I を復習して授業に臨むこと。また、予習・復習を行い、高齢者看護活動論 I・II、高齢者看護実習につながるようノートを作成するなど工夫しながら学修を進めること。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス 老年症候群、フレイル
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等の説明 ・老年疾患、老年症候群、ポリファーマシー、廃用症候群 ・ロコモティブシンドローム、サルコペニア、フレイル
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論 I を復習し、事前にシラバスを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	2	学習の主題	社会保障制度①
		授業内容	・社会保障制度 ・後期高齢者医療制度 ・認知症施策
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	3	学習の主題	社会保障制度②
		授業内容	・介護保険制度と介護サービス
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	社会保障制度③
		授業内容	・介護老人保健施設の看護の実際 ・保健医療福祉チームの在り方
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	5	学習の主題	高齢者と災害
		授業内容	・災害時に起こりやすい高齢者の課題
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	6	学習の主題	介護する家族への支援 高齢者看護の倫理的課題
		授業内容	・介護家族の支援（レスパイトケア） ・高齢者虐待 ・身体拘束
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	7	学習の主題	高齢者看護における理論・概念
		授業内容	・サクセスフルエイジング ・ストレングスモデル ・エンパワメント ・コンフォート理論
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	8	学習の主題	エンドオブライフ・ケア
		授業内容	・高齢者の終末期とエンドオブライフ・ケア ・尊厳の保持、事前指示、リビングウィル
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題】授業内容に関するレポート作成

2022 年度以降入学生対象

授業科目	高齢者看護活動論 I Gerontological Nursing I	担当教員	中田　真依
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

授業目的	高齢者看護学概論 I・II での学修を基に、老年期にある対象を生活者として全人的に理解し、健康課題を明らかにしたうえで個別性に応じた看護実践ができるよう、高齢者看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。高齢者に特有な加齢に伴う諸機能の病態生理学的変化、高齢者に多い疾病や症状を理解し、多様な健康課題および治療経過にある高齢者への基本的看護について生活機能の視点から学ぶ。保健医療福祉チームの一員として多職種連携を理解し、高齢者および高齢者を支える家族への支援方法について学ぶ。また、高齢者への尊厳や意思決定など倫理的観点を理解し、看護専門職としての感性を涵養する。
到達目標	1. 加齢に伴う諸機能の変化や高齢者に多い疾患・症状を理解し、必要な看護について説明できる。 2. 高齢者の多様な健康状態および治療経過を理解し、必要な看護について説明できる。 3. 老年症候群や高齢者の生活機能におけるアセスメントの視点を理解し、必要な看護について説明できる。 4. 加齢に伴う諸機能の変化や援助を要する高齢者を体験し、看護の在り方について考察できる。 5. 多職種連携として IPW を理解し、高齢者や高齢者を支える家族を含めた看護について説明できる。 6. 高齢者への倫理的課題を理解し、高齢者の尊厳や意思決定を支える看護について説明できる。
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学」(医学書院) 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」(医学書院)
参考書	1. 正木治恵・真田弘美編「老年看護学概論」(南江堂) 2. 佐々木英忠編「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護 病態・疾患論」(医学書院) 3. 泉キヨ子編「根拠がわかる 老年看護技術」(メヂカルフレンド社) 4. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」(東京大学出版会) 5. 水谷信子監修「最新老年看護学 第 3 版」(日本看護協会出版会)　その他、講義内に提示する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	目標の到達状況を、筆記試験 70%、レポート 10%、および提出物（ノート作成）20%の合計 100%によって評価する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	1. 予習・復習を行い、3年次の高齢者看護活動論 II、高齢者看護実習につながるようノートを作成すること。 また、定期的に講義内容に関連する国試過去問ミニテストを実施する。 2. 演習は 2〜3クラスに分かれて実施する。事前に配布する演習要項や関連する講義資料にもとづき予習し、必要な準備をして臨むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（中田）	学習の主題	ガイダンス 高齢者に多い疾患・症状と看護および老年症候群と生活機能への看護
		授業内容	・本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 高齢者の入院環境や様々な治療による影響と看護について理解する ・地域で生活する高齢者の入院〜退院支援、IPW
		事前・事後学習	事前学習：高齢者看護学概論 I・II の講義内容を復習して臨む（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題提示①】脳卒中のノート作成

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	2（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［1］
		授業内容	パーキンソン病の病態・症状と看護、在宅復帰に向けた IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	3（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［2］
		授業内容	脳卒中の病態・症状（高次脳機能障害、構音障害他）と看護、在宅復帰に向けた IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	4（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［3］
		授業内容	認知症① ・認知症の病態と種類、症状、評価指標 ・認知症看護の基本原則
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	5（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［4］
		授業内容	認知症②GS：認知症看護認定看護師 ・認知症高齢者とのコミュニケーション ・認知症高齢者への看護実践
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題提示②】認知症のノート作成
	6（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［5］
		授業内容	高齢者のうつの特徴と看護、高齢者の在宅復帰に向けた薬物療法の支援
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	7（中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護［6］
		授業内容	高齢者のせん妄の原因・症状と看護、家族支援、IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	8（中田）	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［1］
		授業内容	加齢に伴う摂食嚥下機能の変化と誤嚥性肺炎予防（口腔ケアを含む）、IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	9（中田）	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［1］
		授業内容	高齢者の栄養アセスメントと飲水・食事援助（経口、胃瘻）、IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	10（中田）	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［2］
		授業内容	高齢者の浮腫・脱水予防、在宅復帰に向けた IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	11（中田）	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［3］
		授業内容	高齢者に多い排泄障害とコンチネンスケア、排泄パターンの把握とアセスメント、IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 【課題提示③】排泄体験とレポート
	12（中田）	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［4］
		授業内容	高齢者の転倒・骨折予防と看護、在宅復帰に向けた IPW
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (中田)	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［5］
		授業内容	高齢者に多い睡眠障害、日中の活動性をあげるための支援
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	14 (中田)	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［6］
		授業内容	高齢者の褥瘡予防、在宅復帰に向けた IPW 【演習ガイダンス】
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 演習に向けて演習要項を熟読する
	15 (中田)	学習の主題	老年症候群と生活機能への看護［7］
		授業内容	【演習】高齢者疑似体験、活動論 I のまとめ
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習し、高齢者看護活動論 II に向けて準備する（2 時間） 【課題提示④】：演習終了後レポートの作成 【春休み課題】：活動論 II の課題提示

2022 年度以降入学生対象

授業科目	小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing	担当教員	河崎　和子、松木　由理
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

授業目的	本科目では、家族・社会のなかで生活する小児の成長・発達、発達課題、生育環境、権利擁護を概観し、健全な成長・発達と基本的生活習慣、健康増進のための看護における小児看護の役割を理解する。また、小児の健康諸課題を解決するために、小児とその家族との人間関係成立・発展の方法、成長・発達過程を促進する方法、生活過程を支援する方法について理解する。さらに小児を取り巻く保健医療福祉メンバーや教育関係者、教育機関や福祉関係機関等との連携・協働のあり方について理解する。
到達目標	1. 小児保健医療の歴史的変遷と小児看護の理念および役割を理解する。 2. 小児看護を支える法的根拠および小児医療における子どもの権利について理解する。 3. 成長・発達の概念と発達課題および小児各期の発達的特徴とその評価方法を理解する。 4. 現代社会における子どもと家族の健康問題について環境との相互作用から理解する。 5. 子どもと家族の健康の維持・増進に向けた支援方法を理解する。
テキスト	1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 I 改訂第 4 版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 II 改訂第 4 版」(南江堂)
参考書	1. 舟島なをみ「看護のための人間発達学　第 4 版」(医学書院) 2. 服部祥子「生涯人間発達論」(医学書院) 3. 中野光編「子どもの権利条約」(岩波ジュニア新書) 4. 日本子ども家庭総合研究所「日本子ども資料年鑑」(KTC 中央出版)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	目標の到達状況を下記の視点から評価し、①②③の合計が 60 点以上を合格とする。 ① 提出物：学習シート　第 2・3・4・5・10・14 回の講義時の課題を次の講義時に提出する。各 5 点（30 点） ② 定期試験 (60 点)：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 ③ 講義終了後、指定の期日に提出。「子どもの成長・発達ノート」(10 点)
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	小児保健医療の変遷やわが国で行われている施策を把握し、子どもの権利を尊重した現代に必要な子どもへの看護について考えてみましょう。また、子どもと家族に関心をもち、広い視野から考え積極的な姿勢で学びを深めてください。小児看護活動論 I につながる基盤となる科目です。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （河崎）	学習の主題	小児保健医療の歴史的変遷と小児看護の役割
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキストと参考書について説明する。 1． 小児看護の対象と目的・役割について理解する。 2． 我が国における小児医療および小児看護の歴史について理解する。 3．子どもとは
		事前・事後学習	事前学習：小児とはどのような存在かを考え、自分なりの小児看護師の役割について考えてくる（30 分)。 事後学習：講義内容を復習し、自らの考える小児看護師の役割について自己のノートに整理しておく（30 分)。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (河崎)	学習の主題	小児看護における理論
		授業内容	1. ボウルビィの愛着理論 2. ピアジェの認知発達理論 3. エリクソンの自我発達理論
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（45 分）。 小児看護における理論の特徴から学び得たことを学習シートにまとめる。講義終了時に提出する。 事後学習：理論について復習する（30 分）。
	3 (河崎)	学習の主題	小児看護・医療における倫理
		授業内容	1． 小児医療における生命倫理について理解する。 2． 子どもの権利条約について理解する。 3． 小児医療における子どもへの倫理的配慮について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：子どもが病院を受診した際、子どもの権利が脅かされやすい場面について考えてくる（60 分）。 講義後、事前に挙げた場面の際に、看護師としてどう対応すべきか自分の考えを学習シートにまとめる。講義時に提出する。 事後学習：倫理的視点から子どものかかわり方について復習する（60 分）。
	4 (河崎)	学習の主題	子どもの健康な生活を支える法・制度
		授業内容	1． 子どもに関する保健統計について理解する。 2． 子どもの保健・福祉に関する政策と法・制度について理解する。 3． 子どもの健康増進のための社会資源の活用について理解する。 4． 子どもの教育と制度について理解する。 5． 学校保健の施策を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（60 分）。講義終了後、学習シートに記載し提出する。 事後学習：小児保健の法と制度について自分なりにまとめノートに整理する（60 分）。
	5 (河崎)	学習の主題	予防接種の意義と予防接種法
		授業内容	1． 予防接種の意義について理解する。 2． 定期予防接種について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：自分の母子手帳にある予防接種を確認してくる。 講義の際に、母子手帳を持参する。テキストの予防接種について読んでくる（60 分）講義終了時、学習シートを提出する。 事後学習：主要な予防接種と接種時期について復習し、ノートにまとめる（60 分）。
	6 (河崎)	学習の主題	子どもの成長・発達の基礎知識
		授業内容	1． 子どもの成長・発達について理解する。 2． 形態・機能的成長・発達について理解する。 3． 心理・社会的成長・発達について理解する。 4． 成長・発達の評価について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる。『子どもの成長・発達ノート』について、自分なりのノート作成の準備をする（45 分）。 事後学習：講義で学習した内容について復習し、ノートに整理する（30 分）。
	7 (河崎)	学習の主題	新生児～乳児期の特徴と支援
		授業内容	1．新生児期の特徴と支援について理解する。 2．乳児期の特徴と支援について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：新生児期・乳児期の特徴についてノートに整理してくる（60 分）。 事後学習：講義で学習した内容について復習し、ノートに要点をまとめる（60 分）。
	8 (河崎)	学習の主題	幼児期の特徴と支援
		授業内容	1．幼児期の特徴等支援について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、幼児期の特徴についてノートに整理してくる（45 分）。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめて、理解を深める（30 分）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	9 (河崎)	学習の主題	学童期の特徴と支援
		授業内容	1．学童期の特徴と支援について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、学童期の特徴についてノートに整理してくる（45分)。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめて、理解を深める（30 分)。
	10 (河崎)	学習の主題	思春期の特徴と支援
		授業内容	1． 思春期の特徴について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読み、思春期の特徴についてノートに整理してくる（45分)。講義終了後、これまでに学習した各期の子どもの成長・発達の学習シートを記載し、提出する。 事後学習：各自の『子どもの成長・発達ノート』に自分なりに特徴の要点をまとめて、理解を深める（30 分)。
	11 (河崎)	学習の主題	健康問題を抱える子どもと家族への支援①
		授業内容	1．身体障害のある子どもと家族への支援について理解する。 2．発達障害のある子どもと家族への支援について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（30 分)。 事後学習：講義内容をもとに身体障害および発達障害のある子どもについて復習し、理解を深める（45 分）
	12 (河崎)	学習の主題	健康問題を抱える子どもと家族への支援②
		授業内容	1．心の問題を抱える子どもと家族への支援について理解する。 2．虐待を受けた子どもと家族への支援について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（30 分)。 事後学習：虐待を受けた子どもへの看護についてノートにまとめる（60 分)。
	13 (松木)	学習の主題	小児医療の場と看護の特徴と実際
		授業内容	小児の在宅看護の役割と機能を以下の視点から理解する。 ・在宅ケア移行の条件 ・在宅ケアによる家族への影響 ・小児の在宅ケアの看護 ・重症心身障害児をもつ小児と家族の現状と看護
		事前・事後学習	講義時に提示します。
	14 (河崎)	学習の主題	小児の事故防止と安全教育
		授業内容	・小児の事故の特徴・要因を知り、事故防止と安全教育について理解する。 1．小児の死亡原因・小児の発達段階と事故要因 2．事故防止と安全教育
		事前・事後学習	事前学習：日常生活のなかで子どもに起こりやすい事故と対策について考えてくる（30 分)。講義終了後、学習シートを記載し、提出する。 事後学習：講義内容を復習し、発達段階に応じた対策についてノートにまとめる（60 分）
	15 (河崎)	学習の主題	災害を受けた子どもと家族の看護/　小児看護概論のまとめ
		授業内容	1． 災害時の子どもおよび家族の看護について 2． 東日本大震災における相談対応の実際
		事前・事後学習	講義時に自己の『小児の成長・発達』ノートを持参してください。 事前学習：災害を受けた子ども及び家族の看護についてテキストを読んでくる（30 分)。 事後学習：今までの講義内容を復習し、『小児の成長・発達』ノートが実践で活用できるように整理する（60 分)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	母性看護学概論 Introduction to Maternal Nursing			担当教員	齋藤　早香枝		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	女性のライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における身体・心理・社会的な健康状態の特徴と健康課題およびその看護について理解し、母性看護におけるヘルスプロモーションについて学ぶ。また、母性看護と生命倫理、母性看護の歴史的変遷について理解する。さらに、母性保健の変遷と動向を、性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブヘルス・ライツ）の視点からグローバルに学び、現代の母子を取り巻く社会情勢や環境、政策、制度、法律を理解し母性看護の課題や役割を考える。						
到達目標	1. 母性看護の概念、リプロダクティブヘルス・ライツ、母性看護におけるヘルスプロモーションについて理解する。 2. 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について理解する。 3. 人間の性と生殖について理解する。 4. 女性のライフサイクル各期における対象の特徴と課題について理解する。 5. 母性看護の歴史的変遷や母性看護の現況について理解する。 6. 母性看護に関する法律および母子保健施策について理解する。 7. 母性意識の発達、母親役割過程、家族関係、子育てについて理解する。						
テキスト	1. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学概論」（医学書院） 2. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」（医学書院）						
参考書							

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	到達目標の達成度を定期試験 90%、レポート 10%で評価します。 詳細はガイダンスで示します。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	積極的な授業への関与を期待します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、母性看護の対象者の特性と支援について理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論
		授業内容	母性とは何かを幅広く考え、母性看護学における母性のとらえ方について理解を深める。 ・親になることと母性　・母性をめぐる定義
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み科目のねらい、到達目標を理解する（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	2	学習の主題	母性看護に関連する概念と理論
		授業内容	母性看護の理念について理解する ・リプロダクティブヘルス / ライツの概念を理解する。 ・母性看護におけるヘルスプモーション
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	3	学習の主題	セクシュアリティの特徴、発達
		授業内容	セクシュアリティの定義・発達・課題について考えることができる。 ・セクシュアリティとは ・ライフステージにおけるセクシュアリティの特徴、発達課題
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4	学習の主題	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化
		授業内容	女性のライフサイクルにおける形態の変化・機能の発達を理解する。 ・生殖器の形態・機能　・性周期におけるホルモンと生殖機能の変化
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：性周期におけるホルモンについて復習する（1.5 時間）
	5	学習の主題	母性看護における倫理
		授業内容	母性看護における倫理的問題について考えることができる。 ・生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題 ・女性の権利と胎児の権利
		事前・事後学習	事前学習：これまで学修した倫理の基本原則を復習する（1 時間） 事後学習：母性看護における倫理的問題について自己の考えをまとめる（2 時間）。
	6	学習の主題	母性看護の歴史的変遷と近年の動向 母子保健統計
		授業内容	母性看護の発展を歴史的変遷から捉えることが出来る。母性看護の動向を母子保健統計から捉えることができる。 ・母性看護の起源　・近代産科学の歴史と助産の発展 ・戦後の母子保健の基盤整備　・母子保健統計
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	7	学習の主題	母子保健施策
		授業内容	母性看護に関する組織と法律について理解する。 ・母性看護に関するおもな法律　・母子保健に関連する施策 ・母性看護の対象を取り巻く環境
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	8	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護①
		授業内容	思春期女性の身体的、心理・社会的特徴と課題を理解する。 ・思春期女性の身体的、心理・社会的特徴　・思春期の健康問題と看護 ・性教育
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	9	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護②
		授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・妊娠、出産、分娩　・家族計画
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	10	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護③
		授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・親になる過程　・愛着と母子関係
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	11	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護④
		授業内容	成熟期女性の健康と課題を理解する ・女性特有疾患と看護　・不妊症
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	12	学習の主題	ライフサイクルにおける女性の健康と看護⑤
		授業内容	更年期・老年期女性の健康と課題を理解する ・更年期・老年期女性の身体的、心理・社会的特徴 ・更年期障害と看護 ・尿失禁と看護
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア①
		授業内容	性感染症とその予防について理解する ・性感染症 ・性感染症の予防
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	14	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア②
		授業内容	周産期の死に対するケアを理解する
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間）
	15	学習の主題	リプロダクティブヘルスケア③
		授業内容	DV 被害と被害を受けた女性に対する看護について理解する。 ・ドメスティックバイオレンス
		事前・事後学習	事前学習：教科書を読んでくる（30 分） 事後学習：授業の復習をする（1 時間)}

2022 年度以降入学生対象

授業科目	母性看護活動論 I Maternal and Newborn Care Nursing I	担当教員	齋藤　早香枝、野崎　由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理的変化と適応、および母親と家族の心理的変化について理解し、母子とその家族に対する看護に必要とされる基本的知識とヘルスアセスメントの視点を理解する。また、健康管理のためのセルフケアへの看護を学ぶとともに、社会資源の活用方法についても学習する。
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期にある対象者の身体的、心理・社会的特性と看護について理解する。 2. 胎児・新生児の発育・発達の特性と看護について理解する。 3. 対象者のヘルスアセスメントの視点を理解する。 4. 母子の健康の保持・増進のための看護、セルフケアへの看護を理解する。 5. 母子とその家族が活用できる社会資源について理解する。 6. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の異常とその看護を理解する。
テキスト	森 恵美著者代表「系統看護学講座 母性看護学各論」(医学書院)
参考書	1. 前原澄子編「看護観察のキーポイントシリーズ 母性 I 」(中央法規) 2. 前原澄子編「看護観察のキーポイントシリーズ 母性 II 」(中央法規) 3. 新藤幸恵、和田サヨ子「母性の心理社会的側面と看護ケア」(医学書院)

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	目標への到達状況を試験、提出物により総合的に評価する。 ・試験：筆記試験（90 点）：知識の目標到達度を評価する。 ・提出物（10 点）：ワークブックでの学修状況、理解の程度から目標到達度を評価する。 定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としません。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	10	
	その他		

履修上の留意事項	4 年次の母性看護実習で必要な基本的知識を学びます。ワークブックの予習・復習を通じて学びを深めてください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実際の看護場面の事例を講義に織り交ぜながら、妊産褥婦と新生児の看護を理解しやすいように授業を行います

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （齋藤）	学習の主題	妊婦の身体的変化と看護
		授業内容	妊娠の成立と妊婦の生理的変化を理解する。 1. 妊娠成立の機序が説明できる。 2. 母体の生理的変化について説明できる。 ・生殖器における変化　・妊娠による全身的変化
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読んでおくこと（15 分） 事後学習：ワークブックの指定ヵ所の学修　（1 時間）
	2 （齋藤）	学習の主題	妊婦の心理・社会的変化と看護、胎児の発達・成長と看護
		授業内容	妊娠期の心理・社会的変化について理解する。 1. 身体的・社会的変化にともなう心理を説明できる。 2. 妊娠経過にともなう不安や葛藤を説明できる。 3. 親になることへの準備とアセスメントを説明できる。 胎児の発育とその生理について理解する。 1. 胎児の発育を説明できる。 2. 胎児の生理を説明できる。 3. 胎盤と羊水の生理を説明できる。 4. 胎児への薬物・放射線の影響を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (齋藤)	学習の主題	妊婦の健康診査と日常生活の援助
		授業内容	妊娠の経過に応じた健康診査と日常生活の援助について理解する。 1. 妊婦の妊娠週数に応じた健康診査方法を説明できる。 2. 妊婦と胎児のアセスメントの視点を説明できる。 3. 妊婦の日常生活におけるセルフケア能力を高める援助の要点を説明できる。 4. 分娩準備に対する援助について説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	4 (齋藤)	学習の主題	ハイリスク妊娠とその看護
		授業内容	ハイリスク妊娠とその看護を理解する。 ・妊娠期の感染症、・妊娠悪阻、・妊娠高血圧症候群、・血液型不適合妊娠、 ・多胎、・早産・切迫早産、・妊娠性貧血、・妊娠糖尿病
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	5 (齋藤)	学習の主題	正常分娩の経過
		授業内容	正常分娩の経過とアセスメントの視点を理解する。 1. 分娩に関する用語の定義が説明できる。 2. 分娩のメカニズムと分娩の経過について説明できる。 3. 産婦と胎児の健康状態のアセスメントについて説明できる。 4. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントの視点を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	6 (齋藤)	学習の主題	分娩時の看護
		授業内容	正常分娩の看護を理解する。 1. 分娩を促進する日常生活の援助について説明できる。 2. 産痛のメカニズムと緩和方法について説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	7 (齋藤)	学習の主題	分娩の異常と看護
		授業内容	分娩期の異常と看護について理解する。 1. 分娩期における正常からの逸脱の予測・逸脱徴候の早期発見とその対応を以下の点について説明できる。 ・分娩 3 要素の異常と看護　　・破水時の看護 ・異常出血の看護　　・帝王切開の看護
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	8 (齋藤)	学習の主題	褥婦の観察とケアに必要な看護①
		授業内容	産褥の退行性変化と進行性変化について理解する。 1. 産褥期の退行性変化を説明できる。 2. 授乳期の進行性変化を説明できる。 3. 産褥期の生理的変化を促進する援助について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	9 (齋藤)	学習の主題	褥婦の観察とケアに必要な看護②
		授業内容	褥婦の産褥経過に応じた日常生活への援助を理解する。 1. 褥婦の健康診査の必要性と診査内容を説明できる。 2. 褥婦の日常生活援助の要点を説明できる。 3. 母乳栄養確立および育児技術取得への援助を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	10 (齋藤)	学習の主題	褥婦の心理・社会的変化と育児支援と社会制度
		授業内容	産褥期の心理・社会的変化への看護について理解する。 1. 褥婦の心理過程を説明できる。 2. 褥婦とその家族の社会的変化について説明できる。 褥婦とその家族に応じたソーシャルサポートの活用について説明できる。 1. 育児支援と社会制度について理解する。 2. 退院に向けた援助の要点を説明できる。 母子に適応される法的保護・諸制度・社会資源について説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	11 (齋藤)	学習の主題	産褥期のハイリスクと看護
		授業内容	産褥期に発生しやすい異常とその看護について理解する。 1. 産褥期に起こりやすい異常と看護の要点を説明できる。 ・子宮復古不全、乳腺炎、精神障害
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	12 (野崎)	学習の主題	新生児の生理的変化と看護
		授業内容	新生児の生理的変化について理解する。 1. 新生児に関する用語の定義・分類について説明できる。 2. 新生児の出生直後の生理的変化の要点が説明できる。 3. 新生児の適応過程における生理的変化が説明できる
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	13 (野崎)	学習の主題	新生児の観察とケアに必要な看護
		授業内容	新生児の日常生活の援助を理解する。 1. 新生児の健康診査の要点が説明できる。 2. 新生児看護の原則を説明できる。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの指定か所の学修（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	14 (野崎)	学習の主題	新生児期の異常と看護
		授業内容	新生児期の異常とその看護について説明できる。 ・新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児・早産児、高ビリルビン血症、 ビタミンＫ欠乏性出血症
		事前・事後学習	事前学習：学修内容で不明な点を明らかにする（1 時間） 事後学習：ワークブックの修正・復習（1 時間）
	15 (齋藤)	学習の主題	講義のまとめ
		授業内容	帝王切開術を受ける対象者への看護を理解する。 妊娠・分娩・産褥期の健康課題をアセスメントする視点と方法を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：ワークブックの修正・復習（1 時間） 事後学習：これまでの講義内容を復習し、ワークブックを実践で活用できるように整理する（1 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Nursing			担当教員	吉野　淳一、原田　由香		
対象学科・年次・学期	看護学科・２年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	２単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	精神看護の概念や精神障がい者問題の社会的背景に対する理解を深めるとともに、人の成長発達の過程や社会状 況の中で生じる危機およびその対応について学ぶ。 現在の精神保健医療福祉および精神看護の動向、歴史的変遷、精神保健福祉法などの精神医療に関する法律、精神看護における倫理的問題と人権保障について学び、精神看護および精神保健の現状と課題について総合的な理解を深める。						
到達目標	1. 精神看護学の考え方について理解できる。 2. 精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状について理解することができる。 3. 精神看護学の関連理論および E.H. エリクソンの発達理論の特徴について理解できる。 4. 各ライフステージにおける精神的健康上の課題について社会的状況と関連付けながら理解することができる。 5. 精神科領域で用いられる看護モデルについて理解することができる。 6. 精神看護領域における人権擁護と倫理について理解できる。 7. 精神を病むということがどのようなことかについて理解を深める。						
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア」（南江堂）2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア」（南江堂）2022						
参考書	＊随時紹介						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	60	試験：期末試験を実施し、学習到達度を評価する（60%） 提出物：講義時間内に授業内容に関したワークシートを３回課す（40%）				
	レポート						
	小テスト						
	提出物	40					
	その他						
履修上の留意事項	・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。 ・事前学習はテキストの該当ページに沿った予習（約 2 時間）を、事後学習は配布資料にて復習（約 2 時間）すること。						
実務経験を活かした教育内容	・臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神的健康上の課題について理解しやすいように授業を行います。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1（原田）	学習の主題	・ガイダンス：本科目の目的・目標・評価方法について ・こころ（精神）の健康とは				
		授業内容	・こころ（精神）の健康とは ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神障がいとは				
		事前・事後学習	・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。 ・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。				
	2（原田）	学習の主題	精神保健医療福祉の歴史的変遷と現状				
		授業内容	・世界における精神医療の歴史的変遷 ・日本における精神医療の歴史的変遷				
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。				
	3（吉野）	学習の主題	精神科リハビリテーションとリカバリー概念				
		授業内容	・対象喪失という概念とストレングスモデル ・リカバリー				
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。				
	4（吉野）	学習の主題	こころの機能と発達				
		授業内容	Ｊ．フロイトのいうこころの構造と発達理論、防衛機制				
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。				

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (原田)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健①
		授業内容	・エリクソンの心理社会的発達理論 ・ライフサイクルから見た精神看護 ・乳幼児期における精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	6 (原田)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健②
		授業内容	・学童期、思春期・青年期における精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	7 (原田)	学習の主題	ライフサイクルと精神保健③
		授業内容	・成人期、老年期における精神の健康
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	8 (原田)	学習の主題	精神看護に用いる理論とモデル
		授業内容	・患者 - 看護師関係 ・セルフケア理論 ・プロセスレコードについて
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	9 (原田)	学習の主題	家庭・学校における精神保健
		授業内容	・家族と精神保健 ・学校と精神保健
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	10 (原田)	学習の主題	リエゾン精神看護
		授業内容	・リエゾン精神看護とは ・一般病床における精神科的問題と看護 ・看護師のメンタルヘルス ・ゲストスピーカー（CNS）より実務経験に関連した講義を展開してもらう。
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	11 (原田)	学習の主題	災害精神医学
		授業内容	・災害精神医学とは ・ストレスとメンタルヘルス ・災害と関連する主な疾患
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	12 (原田)	学習の主題	精神保健医療福祉に関連した法制度とその活用
		授業内容	・精神保健福祉の概要 ・精神保健福祉に関連した法律
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	13 (原田)	学習の主題	人権を守るために－精神看護における基本的人権と倫理的問題
		授業内容	・人権とは ・医療者が行うべき倫理的配慮 ・精神科医療現場で注意すべきこと ・原則と倫理綱領 ・守秘義務と個人情報の保護 ・患者の権利と人間の尊厳
		事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
	14 (原田)	学習の主題	精神を病むということ①
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」 視聴
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。
	15 (原田)	学習の主題	精神を病むということ②
		授業内容	映画「A Beautiful Mind」 視聴
		事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	リハビリテーション看護論 I Rehabilitation Nursing I	担当教員	小野　善昭、河崎　和子、原田　由香
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					◎	○	

授業目的	リハビリテーションの概念や意味について学び、リハビリテーション看護の基礎的知識・技術・態度について学習する。ここでは、リハビリテーションを必要としている人および家族への看護の特徴、法律、倫理的な課題およびリハビリテーションにおける看護職の役割を理解する。
到達目標	1. リハビリテーションの意味を理解する 2. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 3. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題について理解する 4. リハビリテーションを必要としている人の特徴を理解する 5. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 6. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する
テキスト	1. 酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護　改訂第 3 版」(南江堂)
参考書	1. 中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論　第 3 版」(ヌーヴェルヒロカワ) 2. 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　第 6 版」(医学書院) 3. 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤　リハビリテーション看護」(メディカ出版) 4. 落合芙美子 監修「新体系看護学全書　別巻　リハビリテーション看護　第 2 版」(メヂカルフレンド社) 5. 池淵恵美「こころの回復を支える精神障害リハビリテーション　第 1 版」(医学書院)

評価方法・基準	評価方法	評価方法（%）	評価方法
	試験	70	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人の生活に関するレポートなど 2 つの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜3 時間ほどの時間を要します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の概念や意味について理解しやすいように授業を行います。また、様々な領域で行われているリハビリテーション看護について実践などを踏まえて授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小野）	学習の主題	リハビリテーションの意味と看護の役割
		授業内容	1. ガイダンス 2. リハビリテーションとは 3. 国際生活機能分類（ICF）の考え方 4. リハビリテーション医療システムと看護の役割
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する。 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。
	2（小野）	学習の主題	リハビリテーション看護の展開に必要な概念と理論
		授業内容	1. QOL 2. 自立と自律 3. 動機と主体性 4. 社会的不利
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (小野)	学習の主題	1. リハビリテーションにおける法律と倫理的諸問題 2. 生活機能障害のある人とその家族の理解 1
		授業内容	1-1 リハビリテーションに関する法律や障害者を支える制度 1-2 看護実践に関連する道徳的概念とリハビリテーション看護 1-3 リハビリテーション看護における倫理的葛藤 2-1 身体的・心理的特徴 2-2 生活上の特徴 2-3 家族の特徴
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念や制度などについて、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。
	4 (小野)	学習の主題	生活機能障害のある人とその家族の理解 2
		授業内容	障がいのある人の生活を理解するためのフィールドワーク
		事前・事後学習	事前学習：事前に提示された課題を確認する。 事後学習：提示された課題に取り組む。
	5 (小野)	学習の主題	回復過程とリハビリテーション看護
		授業内容	1. 急性、回復期、生活期の各ステージにおける対象者の特徴 2. 各ステージにおけるリハビリテーションの目的と看護援助のポイント 3. フレイルとサルコペニア
		事前・事後学習	事前学習：必要な概念と理論について、テキストの指定された箇所を用いて学習する。 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する。
	6 (河崎)	学習の主題	小児のリハビリテーション
		授業内容	1. リハビリテーションを必要とする児の特徴 2. 小児科領域におけるリハビリテーション 3. 小児へのリハビリテーション看護
		事前・事後学習	事前学習：子どもの成長発達過程におけるリハビリテーションと生活支援について学習する。講義前までにテキストの該当箇所を読んで講義に臨む。 事後学習：講義時に指示された課題を講義終了後期日までに提出する。
	7 (原田)	学習の主題	精神障がいのある人のリハビリテーション
		授業内容	1. 精神障がいのある人の特徴 2. 精神科領域におけるリハビリテーション 3. 精神障がいのある人のリハビリテーション看護
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読む。 事後学習：講義で使用した資料内容について各自復習する。
	8 (小野)	学習の主題	生活機能障害のある人とその家族の理解 3、まとめ
		授業内容	1. フィールドワーク結果の発表と共有 2. まとめ
		事前・事後学習	事前学習：これまでの講義資料を確認する。第 4 回の課題を整理する。 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

2022 年度以降入学生対象

授業科目	スポーツと看護 Sports and Nursing	担当教員	中田　真依、槌本　浩司、今北　雄太、 三上　剛人
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎

授業目的	看護における健康の保持増進、病気の予防、健康回復への支援方法の一つとして、健康づくりのためのスポーツや運動の心身への影響、体力づくりと健康習慣、年代別および病気と健康運動習慣、スポーツや運動の実践者に対する傷害予防と応急処置法等の基礎を学び、看護実践への活用について理解する。また、健康づくりのスポーツや運動の実践者に対する看護の役割と多職種との連携について理解する。
到達目標	1）スポーツを含む運動実践者に対する看護の役割と多職種との連携のあり方を理解し、説明できる。 2）運動と生体機能の関連について理解し、説明できる。 3）スポーツや運動を習慣とする健康づくりの効用について理解し、実践できる。 4）スポーツや運動実践者の年代別に栄養生活上の留意点について理解し、説明できる。 5）病気をもつスポーツや運動の実践者に対する看護上の留意点について理解し、説明できる。 6）スポーツや運動の実践時での傷害に対する応急処置法について理解し、部分的に実践できる。
テキスト	なし
参考書	講義内に提示する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	目標の到達状況を、筆記試験 60%、提出物 20%、レポート 20%の合計 100%によって評価する。
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	1 年次の「スポーツ理論」を履修した者は、復習したうえで学修を進める。各回、講義資料に基づき復習する時間を確保し、講義や演習に必要な準備をして臨むこと。演習は履修人数によってクラス分けする可能性がある。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者（看護師、管理栄養士、健康運動指導士、救急救命士、スポーツ指導者）の立場から、健康づくりや運動、スポーツ時の応急処置、ウォーキング・バスケットなどの実践を織り交ぜ、スポーツと看護について理解しやすいよう授業・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （中田）	学習の主題	ガイダンス 健康運動と看護の役割および多職種との連携
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 健康運動と看護の役割を学修する ・健康づくりと運動 ・看護における健康運動の位置づけ ・介護予防・生活習慣予防と運動習慣 スポーツ看護における多職種との連携を学修する
		事前・事後学習	事前学習：事前にシラバスを読んでおく（1〜2 時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1〜2 時間）
	2 （今北）	学習の主題	健康づくりと運動習慣
		授業内容	健康づくりと運動習慣について学修する ・体力測定と評価 ・メディカル・チェック ・有酸素運動 ・筋力トレーニング法 ・ストレッチ運動
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を調べて予習する（1〜2 時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1〜2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
	3 (槌本)	学習の主題	生体機能と運動
		授業内容	生体機能と運動について学修する ・運動器系・神経系と運動 ・呼吸器系・循環器系と運動
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を調べて予習する（1〜2 時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1〜2 時間）
	4 (槌本)	学習の主題	健康運動と年代別栄養生活
		授業内容	健康運動と年代別栄養生活について学修する ・エネルギー産出と消費の関係 ・発達期にある子どもの留意点 ・若い女性の留意点 ・高齢者の留意点
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を調べて予習する（1〜2 時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1〜2 時間）
	5 (中田)	学習の主題	病気と運動、演習ガイダンス
		授業内容	病気と運動の関連について学修する ・基礎疾患をもったスポーツ運動実践者への看護 演習ガイダンス（第 6・7 回）
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を調べて予習する（1〜2 時間） 事後学習：資料を基に授業内容を復習する（1〜2 時間）
	6 (三上)	学習の主題	スポーツ実践者への応急処置（一部演習）
		授業内容	スポーツ実践者への応急処置について、一部演習方式で学修する ・熱中症 ・骨・関節の外傷・障害 ・切創・挫創・擦過傷 ・頭部外傷・強打 ・テーピング法
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を予習し、配布された演習要項を読んでおく（1〜2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（1〜2 時間） 【課題①】演習終了後課題作成
	7 (中田他)	学習の主題	基礎的な健康運動と体力づくり：ウォーキング・バスケットの効用と実際（演習） GS：スポーツ関係者（レバンガ北海道）
		授業内容	ウォーキング・バスケットの効用と実際について、演習を通して学修する （人数によっては 2〜3 クラス展開する）
		事前・事後学習	事前学習：事前に演習要項を読んでおく、服装はジャージを準備する（1〜2 時間） 事後学習：演習内容を復習する（1〜2 時間） 【課題②】演習終了後レポート作成
	8 (中田)	学習の主題	まとめ
		授業内容	スポーツに関わる看護の役割について、総括的に学修する ・健康スポーツナースの出現と看護の意義 ・スポーツ界で活躍する看護の将来展望
		事前・事後学習	事前学習：事前に授業内容を調べて予習する（1〜2 時間） 事後学習：講義内容全般を復習する（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	地域連携ケア論 II Theory of Community-based Care II	担当教員	針金　佳代子、槌本　浩司、千葉　昌樹、 小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	

授業目的	「地域連携ケア論 I ～IV」では、1～4 年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、2 年次の本科目では、 地域連携ケア論 I で学んだ内容をもとに、住み慣れた地域で人々が自分らしく生活し続けるためには、どの様な社会資源が整うと良いのか考え、地域で生活する人々の生活および健康上の課題を解決するために、地域にはどのような社会資源があるのか、どのような支援やサービス、システムがあるのかを理解する。その中で、人々の生活を支える専門職の専門性と役割について理解を深める。
到達目標	・「地域で生活するということ」とそれに影響する要因、地域住民の抱える生活・健康上の課題について、地域連携ケア論 I での学びを振り返る。 ・地域に存在する社会資源、サービス、システムについて理解する。 ・地域で活動する保健医療福祉分野の専門職の役割、専門性、業務内容を理解する。 ・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・地域でその人らしく生活するためにどのような社会資源が必要なのか考察する。
テキスト	開講時に提示する
参考書	開講時に提示する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（60%）する。 詳細は授業の中で説明する。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	地域連携ケア論 I と一体の科目として学習する。各授業前・後に、予習・復習を 1～2 時間必要とする。
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開する

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	授業ガイダンス
		授業内容	ガイダンス。「地域連携ケア論 I 」の振り返り。　健康とは、地域で暮らす生活者の生活と健康との関連、地域の健康課題とはなにか、地域に存在する社会資源とサービスについて
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。
	2（小川）	学習の主題	地域包括ケアシステムとは
		授業内容	「地域包括ケアシステム」について理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	3（千葉）	学習の主題	保健医療福祉における専門職の役割
		授業内容	保健医療福祉における各種の専門職とその役割について理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	4（槌本）	学習の主題	地域における生活者を支える専門職からの講話　I
		授業内容	専門職者からの見た地域と生活者と健康課題について I
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (小川)	学習の主題	地域における生活者を支える専門職からの講話　II
		授業内容	地域包括支援センターの機能と役割について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	6 (槌本)	学習の主題	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてⅠ
		授業内容	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その１）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7 (千葉)	学習の主題	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割についてII
		授業内容	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その２）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8 (針金)	学習の主題	地域における生活者を支える専門職の専門性と役割について　III
		授業内容	地域における生活者を支える専門職の専門性と地域包括ケアの中における役割について気づきの共有（その３）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護学概論 Introduction to Public Health Nursing			担当教員	近藤　明代		
対象学科・年次・学期	看護学科・2 年次・後期			選択・必修	選択（公衆衛生看護学履修生必修）		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎		○	
授業目的	公衆衛生看護の概要と社会的機能、活動目的・理念、対象や展開方法の特性を理解する						
到達目標	1. 公衆衛生看護が社会で生活する人々（集団）の健康の保持・増進と安寧を目指す活動であることを理解する。 2. 公衆衛生看護が遵守する倫理を理解する。 3. 公衆衛生看護の役割を発揮するために求められる知識と技術を理解する。 4. 公衆衛生看護活動の対象を理解する。 5. 公衆衛生看護活動の方法の特性を理解する。 6. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論や概念を理解する。 7. 公衆衛生看護活動の場の多様性を理解する。						
テキスト	1. 標美奈子著者代表「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」（医学書院） 2. 医療情報科学研究所編集「公衆衛生がみえる」（メディックメディア）						
参考書	1. 大国美智子「保健婦の歴史」（医学書院） 2. リリアン・ウォルド「ヘンリー・ストリートの家」（日本看護協会出版会） 3. 木下安子「近代日本看護史」（メヂカルフレンド社） その他授業に必要な文献は、その都度配布する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	80	公衆衛生看護の歴史と現在の公衆衛生看護活動から捉えた公衆衛生看護活動の特徴に関するレポート（20 点）と定期試験（筆記試験）（80 点）の結果をもとに、目標達成状況を判断します。				
	レポート	20					
	小テスト						
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	・毎回シラバスに記載されている「学習の主題」「授業内容」を念頭に置きながら授業内容を理解する。 ・授業中または授業終了後に生じた疑問の解決は先延ばしせずに、その場あるいは授業終了後に担当教員に質問してください。						
実務経験を活かした教育内容	保健師として公衆衛生看護活動を実施してきた実務経験者の立場から、実際の活動事例も紹介しながら本科目の目標である公衆衛生看護学の基本となる考え方を伝えます。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	公衆衛生看護の概念/定義、社会的機能/役割，活動の場				
		授業内容	本科目の目的・目標、授業内容と、評価方法、履修上の留意点について説明。 公衆衛生看護の定義、社会的機能、役割。				
		事前・事後学習	事後学習：教科書、授業で使用したプリントをもとに、学習内容を復習する（2 時間）。				
	2	学習の主題	公衆衛生看護の歴史からの学び（1）				
		授業内容	・公衆衛生看護の発生と発展過程から、社会変化に伴う公衆衛生看護が担う役割と活動の変化を捉える。				
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。（1 時間） 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2 時間）。				
	3	学習の主題	公衆衛生看護の歴史からの学び（2）				
		授業内容	・公衆衛生看護の歴史から公衆衛生看護の対象の特性（個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織、地域の制度や仕組みを構築する社会や組織）を捉える。				
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。（1 時間） 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2 時間）。				

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4	学習の主題	公衆衛生看護の歴史からの学び（3）
		授業内容	・公衆衛生看護の歴史から公衆衛生看護における支援方法の特性を捉える。 ・公衆衛生看護が展開される場の多様性を明確にする。
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。(1 時間) 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2 時間)。
	5	学習の主題	公衆衛生看護の歴史から捉える基盤となる概念、責務、倫理
		授業内容	・公衆衛生看護の歴史から、公衆衛生看護の責務と理論を捉える。 ・公衆衛生看護の歴史から捉える活動の基盤となる概念
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。(1 時間) 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2 時間)。
	6	学習の主題	現代の公衆衛生看護活動から捉える公衆衛生看護の特性（1）
		授業内容	・現代の公衆衛生看護活動の紹介（1） ・ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ ・地域の健康課題への介入方法 ・地域ケアシステムの構築とまちづくり
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。(1 時間) 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする（2 時間)。
	7	学習の主題	現代の公衆衛生看護活動から捉える公衆衛生看護の特性（2）
		授業内容	・現代の公衆衛生看護活動の紹介（2） ・公衆衛生看護活動の基盤となる概念 　パートナーシップ、コミュニティ・エンパワメント、ソーシャルキャピタル
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。(1 時間) 事後学習：教科書、配布資料を読み、学習内容を復習し疑問点を明確にする。（2 時間)。
	8	学習の主題	公衆衛生看護活動の特性から保健師に求められる能力
		授業内容	・本科目の学びから公衆衛生看護活動の特性と保健師の役割をまとめる ・公衆衛生看護活動の目標を達成するために、保健師に求められる実践能力
		事前・事後学習	事前学習：事前に配付された資料に目を通す。(1 時間) 事後学習：いくつかの活動例から捉えた公衆衛生間の特徴をまとめる（3 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	臨床栄養学 Clinical Nutrition	担当教員	岡本　智子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○	◎			

授業目的	疾患・病態別の栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。また個々の患者の病態、病状、摂取能力にあわせた個別の栄養管理をするために患者の QOL を損なわない栄養補給方法や具体的な食事・栄養のサポート、また患者が実施可能な食事療法について理解する。
到達目標	1．栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器系疾患、循環器疾患、呼吸器系疾患、血液系疾患、摂食障害関連疾患について理解し、栄養管理の知識と技術を修得している。 2．患者の実施可能な食事療法の提案ができるようになる。
テキスト	Visual　栄養学テキストシリーズ　臨床栄養学　「総論」と「各論」　中山書店（初版第 2 刷）
参考書	なし

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標の到達状況を試験 80%、課題レポート 15%、小テスト 5%により評価する
	レポート	15	
	小テスト	5	
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに 2 時間の予習・復習を要する。
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス（授業内容　進め方、事前事後学習の仕方など）
		授業内容	疾患・病態別及び栄養管理の概念と流れを学ぶ
		事前・事後学習	シラバス、教科書を確認して授業の準備をする（2 時間）。授業の内容をまとめ、復習する（2 時間）
	2	学習の主題	栄養障害と栄養評価（低栄養）
		授業内容	栄養障害とは何か　栄養スクリーニングとアセスメントについて
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	3	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（1）
		授業内容	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント　消化器疾患（口腔内・食道・胃・十二指腸クローン病、潰瘍性大腸炎、便性のコントロール等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	4	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（2）
		授業内容	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント　（慢性肝炎・脂肪肝・肝硬変・胆嚢炎・慢性膵炎等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する 2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	5	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（3）
		授業内容	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント（肥満と肥満症・糖尿病等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する 2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	6	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（4）
		授業内容	循環器疾患の栄養ケア・マネジメント（高血圧・虚血性心疾患・心不全・慢性腎不全・糖尿病腎症等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する 2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	7	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（5）
		授業内容	呼吸器疾患の栄養ケア・マネジメント（慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する 2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	8	学習の主題	疾患・病態別栄養管理（6）
		授業内容	血液疾患・摂食障害関連の栄養ケア・マネジメント（貧血・その他の貧血、神経性やせ症・過食症等）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する 2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	疫学 Epidemiology			担当教員	濱岡　直裕、福士　勝		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期			選択・必修	選択		
授業形態	講義			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
		○		○	◎		○
授業目的	疫学は、人間集団における疾病および健康現象の発生状況を把握し、それらに影響を及ぼしている要因や条件を総括的に探る学問である。この基本的考え方や方法を理解し、健康問題について論理的な思考で原因を追究する手法を身につけ、疫学の考え方が保健対策や公衆衛生看護活動の基礎となっていることを理解する。						
到達目標	1. 疫学の概念・考え方、および疫学における各種の指標について理解する。 2. 疫学の研究方法について、特徴と意義、および各方法の差異を理解する。 3. スクリーニングについて、特性と意義を理解する。 4. 保健対策・公衆衛生看護活動において疫学の考え方が実践されていることを理解する。						
テキスト	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門（第 3 版）」（医歯薬出版）						
参考書	適宜紹介する						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）などにより目標の到達状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	20	
	提出物		
	その他	10	

履修上の留意事項	・授業に集中し、復習により知識を身につけ、問題演習を通じて知識をアウトプットする能力を養うこと。 ・配付資料のみでなく、テキストを 3 回読み込んで、体系的に復習を行うこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（濱岡）	学習の主題	疫学の考え方
		授業内容	・疫学の概念を理解する。 ・疫学における「因果関係」とは何かを理解する。
		事前・事後学習	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく。 配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1 時間程度）。
	2（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（1）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 比、率、割合。有病率と罹患率と累積罹患割合。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1 時間程度）。
	3（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（2）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 相対危険と寄与危険。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1 時間程度）。
	4（濱岡）	学習の主題	疫学で用いられる指標（3）
		授業内容	・頻度の測定と、頻度の比較の違いを理解する。 死亡率、年齢調整死亡率、致命率。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1 時間程度）。
	5（濱岡）	学習の主題	疫学指標について小まとめ
		授業内容	・小まとめ ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1 時間程度）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 (濱岡)	学習の主題	確認テスト
		授業内容	・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	7 (濱岡)	学習の主題	記述疫学、分析疫学（1）
		授業内容	・記述疫学の目的と特色を理解する。 ・生態学的研究、横断研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	8 (濱岡)	学習の主題	分析疫学（2)、介入研究
		授業内容	・コホート研究、症例対照研究の目的と特色を理解する。 ・介入研究の目的と特色を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	9 (濱岡)	学習の主題	真実と誤差、バイアス、交絡
		授業内容	・調査研究の結果に含まれる真実と誤差について理解する。 ・バイアス、交絡因子、信頼性と妥当性について理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	10 (濱岡)	学習の主題	疫学調査と EBM・EBN
		授業内容	・疫学調査について理解する。 ・EBM・EBN について理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	11 (濱岡)	学習の主題	疫学研究方法について小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	12 (福士)	学習の主題	スクリーニングの概要
		授業内容	・スクリーニングの意義・方法を理解する。 ・スクリーニングの実施上の原則、感度と特異度を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	13 (福士)	学習の主題	スクリーニングの実際
		授業内容	・スクリーニングの実際を理解する。 ・マススクリーニング試験の現状と課題を理解する。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	14 (濱岡)	学習の主題	スクリーニングについて小まとめ・確認テスト
		授業内容	・問題演習 ・小テスト ・解答解説を通じて理解を深める。
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。
	15 (濱岡)	学習の主題	総まとめ
		授業内容	・実際の研究例から、疫学研究の意義を理解する。 ・問題演習
		事前・事後学習	配付資料で復習し、関連する国家試験問題を解く（1時間程度)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	保健医療福祉行政論 Health & Welfare Administration	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	選択（公衆衛生看護学履修生必修）
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP 5	DP6
				○	○	◎	○

授業目的	保健医療福祉サービスの基本的要素である保健医療福祉行政及び財政の理念と仕組みについて学ぶ。また、社会状況に応じた保健医療福祉政策の変遷を学び、政策化に必要な行政の仕組み、法規の知識を理解することで、保健医療福祉における看護職の役割と連携を考えることができる。さらに、人間の健康と生命を保持・増進する社会システムの基盤をなす医療の提供体制を理解するため、医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題について学ぶ。
到達目標	1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みについて理解する。 2. 保健医療福祉の財政とその仕組みについて理解する。 3. 社会状況に応じた保健医療福祉行政施策の変遷からその重要性を理解する。 4. 保健医療福祉行政政策についての基本的知識を理解する。 5. 衛生行政のしくみと関連法規を理解する。 6. 衛生行政における看護職の役割と連携について理解する。 7. 医療行政の側面からみた医療提供体制の現状と課題を理解する。
テキスト	1. 藤内修二「標準保健師講座　別巻 1　保健医療福祉行政論」（医学書院） 2. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2023/2024」（厚生労働統計協会） 3. 医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる」（メディックメディア）
参考書	1. 安武繁「研修医・コメディカルスタッフのための保健所研修ノート」（医歯薬出版株式会社） 2. 立花良之「母親のメンタルヘルスサポートハンドブック 気づいて・つないで・支える多職種地域連携」（医歯薬出版株式会社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	到達目標の達成状況を定期試験（筆記試験）（90 点）と、衛生行政における看護職の役割についての学びのレポート（10 点）で評価します。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・衛生法規については 1 年次の「関係法規」、社会保障制度における年金・医療・介護保険については 2 年次の「社会福祉論」で履修済みなので、復習に努め保健医療福祉行政についての理解を深めてください。 ・講義は教科書、配布プリントをもとに進めます。該当部分に目を通して授業に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域保健活動体験を講義に織り交ぜながら、保健医療福祉行政を学ぶ重要性を理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（近藤）	学習の主題	保健医療福祉行政の概要
		授業内容	1. 厚生行政と保健医療福祉行政　2. 保健医療福祉行政の仕組み 3. 地方自治と地方分権　4. 個人情報と個人情報保護
		事前・事後学習	事前学習：1 と 2 については「関係法規」の復習に努め、さらに 3 と 4 については該当箇所を読み疑問点を明らかにする（1 時間）。 事後学習：教科書と配付資料をもとに学びを整理する（2 時間）。
	2（近藤）	学習の主題	保健医療福祉行政の財政
		授業内容	1. 国と地方公共団体の財政の仕組み ・財政の意義と機能　・国家財政　・地方財政 2. 予算の機能と原則 ・財政民主主義　・国の予算の手続き　・地方公共団体の予算の手続き
		事前・事後学習	事前学習：財政は行政施策にとって関係法規を同じく基盤となる要素だが、難しい部分も多いので、事前に該当箇所を読み、疑問点を明らかにする（2 時間）。 事後学習：教科書と配付資料をもとに学びを整理する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (小川)	学習の主題	社会状況に応じた保健医療福祉行政施策の変遷①
		授業内容	・健康日本 21 と健康増進法 ・日本の歯科保健対策 ・少子高齢化対策
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する。1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする（2 時間)。
	4 (安藤)	学習の主題	社会状況に応じた保健医療福祉行政施策の変遷②
		授業内容	・障がい者の保健医療福祉施策 ・新しい感染症対策と健康危機管理
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する（1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする（2 時間)。
	5 (小川)	学習の主題	保健医療福祉行政政策の基本的知識
		授業内容	・保健医療福祉計画策定のプロセス ・策定プロセスと住民参加
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する（1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする（2 時間)。
	6 (小川)	学習の主題	保健医療福祉行政における看護職の役割
		授業内容	・行政における保健師の役割と活動 ・衛生行政における課題と看護職の連携・協働（事例紹介）
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する（1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする（2 時間)。
	7 (安藤)	学習の主題	医療提供体制の現状と課題①
		授業内容	・医療提供体制の概要 ・医療行政と 2025 年問題 ・医療計画と地域医療構想 ・救急医療
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する（1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、疑問点を明らかにする（2 時間)。
	8 (安藤)	学習の主題	医療提供体制の現状と課題②
		授業内容	・在宅医療、地域連携クリティカルパス、訪問看護 ・へき地医療 ・医療安全対策
		事前・事後学習	事前学習：配付したプリントで予習する（1 時間)。 事後学習：授業内容を各自のノートに整理し、衛生行政における看護職の役割についての学びについてのレポートを作成する（3 時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	保健統計学 I Health Statistics I			担当教員	志渡　晃一、米田　龍大		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数／時間数	1 単位		
学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP 5	DP6
		○		◎	○		○
授業目的	人口統計と保健・医療統計について学習し、人口構造や動向と社会・医療とのつながりを理解する。						
到達目標	保健・医療・福祉にかかわる統計調査の基礎を学び、健康や疾病の関する統計を取る意味を理解する。						
テキスト	1．大木秀一「基本からわかる看護統計学入門　第 2 版」（医歯薬出版株式会社） 2．厚生労働統計協会「国民衛生の動向　2023/2024 年度版」						
参考書	1．鈴木庄亮「シンプル衛生公衆衛生学 2024」（南江堂）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	目標の到達状況を定期試験により評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・授業に集中し、復習により知識を身につけること。 ・配付資料のみでなく、テキストを 3 回読み込んで、体系的に復習を行うこと。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（志渡）	学習の主題	保健統計学の全体像
		授業内容	保健統計学の目的、人を対象とした統計学と集団における健康事象
		事前・事後学習	テキストの目次を読み、事前に科目の全体像を把握しておく（1.5 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	2（志渡）	学習の主題	保健統計調査
		授業内容	国民の疾病予防や健康増進を図るための統計的分析の重要性
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	3（米田）	学習の主題	人口統計①
		授業内容	人口静態：国政調査、人口ピラミッド、年齢 3 区分と健康指標
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	4（米田）	学習の主題	人口統計②
		授業内容	人口動態：出生、死亡、死産、婚姻、離婚、再生産率
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	5（志渡）	学習の主題	人口統計③
		授業内容	生命表、平均余命、平均寿命、健康寿命、年齢調整死亡率、SMR
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	6（米田）	学習の主題	保健統計①
		授業内容	統計法と保健統計調査、国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査　等
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 (米田)	学習の主題	保健統計②
		授業内容	学校保健統計、感染症発生動向調査　等
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	8 (志渡)	学習の主題	保健統計③
		授業内容	食中毒統計、国民健康・栄養調査　等
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護活動論III Adult Nursing III	担当教員	加藤　剛寿、伊藤　円、小野　善昭、 池野　航平、今泉　里絵、佐藤　郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	成人期にある対象の紙上事例をもとに、看護過程の一連の流れを理解し展開する。また、この科目の学びを成人看護実習Ⅰ・Ⅱ、外来看護実習で活用できるようになることを目指し、患者・家族の対象理解を深めるための思考過程を整え、看護問題を解決するための看護実践能力の基盤を培う。なお、看護実践能力については透析看護、気管内吸引、体位ドレナージ、止血法の理解も深める。
到達目標	1. 対象理解に必要な情報がわかる。 2. 意図的な情報収集とその方法がわかり説明できる。 3. 得られた情報とその人にとっての意味を考え、個別的な看護計画に繋げることができる。 4. アセスメント同士のつながりを考えて描画し、対象を全体的に捉え、他者に説明することができる。 5. 看護問題を解決するための、具体的で根拠のある看護計画を立案することができる。 6. 看護実践によってもたらされる状態を期待される結果として具体的に表現できる。 7. 事例シミュレーションで成人看護実習に必要な基盤となる知識・技術・態度を身につけることができる。 8. 気管内吸引、体位ドレナージ、止血法を理解し実践できる。 9. 透析を必要とする人の看護を理解することができる。
テキスト	1. 野崎真奈美他編「成人看護学　成人看護技術」(南江堂) 2. 矢永勝彦他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論」(医学書院) 3. 北島政樹他編「系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論」(医学書院) 4. 鈴木久美他編「成人看護学　慢性期看護」(南江堂)
参考書	科目の中で適宜紹介する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標に沿って、提出物で総合的に評価する。提出物は期限、提出方法を遵守する。提出期限に遅れたものは評価の対象としない。提出物の配点は、アセスメント 40%、関連図 20%、看護計画 20%、シミュレーション 20%。詳細はガイダンス時に説明する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	成人看護実習ⅠおよびⅡ、外来看護実習の先修要件の科目です。この科目は、成人看護学の視点で紙上事例のアセスメントに取り組み、看護過程についての理解を深めるとともに、実習前の準備状況を整えるための内容になっています。看護過程に対する理解を深められるように、それぞれが主体的に取り組み、学習してください。また、シミュレーション演習では臨床場面を想定して行いますので、基礎的な看護実践能力を修得できるよう練習と振り返りを行ってください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜3 時間の時間を要します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを演習に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （加藤） （全担当教員）	学習の主題	成人期にある患者・家族の看護過程の展開：アセスメント①
		授業内容	1. ガイダンス（科目の目的、方法、評価、成人看護実習との関連） 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. アセスメント
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護過程が展開できるよう病態ならびに治療を予習する。 事後学習：アセスメントの見直し、修正
	2 （加藤） （全担当教員）	学習の主題	看護過程の展開：アセスメント②
		授業内容	1. アセスメントの振り返り 2. 情報の整理、不足している情報の明確化、意図的な情報収集・方法 3. 関連図の書き方
		事前・事後学習	事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。 事後学習：アセスメントの修正、関連図の作成

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：アセスメントのまとめ③、関連図①
		授業内容	1. 全体像の共有、他者への説明 2. 関連図の描画の視点
		事前・事後学習	事前学習：アセスメントを修正し、他者に説明できるようにしておく。また、関連図を作成しておく。 事後学習：アセスメントの提出
	4 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：関連図②
		授業内容	1. 関連図の共有、他者への説明 2. 看護問題の明確化
		事前・事後学習	事前学習：関連図を修正しておく。 事後学習：関連図の提出
	5 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案①
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 目標、期待される結果と看護の関連を共有、他者への説明
		事前・事後学習	事前学習：具体的な看護に結びつくよう参考書を選定、持参する。 事後学習：看護計画の見直し、修正
	6 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：看護計画の立案②
		授業内容	1. 具体的かつ根拠のある看護計画の立案 2. 次回シミュレーションのガイダンス
		事前・事後学習	事前学習：看護計画を振り返り、修正しておく。 事後学習：看護計画の提出
	7 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション観察・報告 1
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
	8 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション観察・報告 2
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※7回、8回は2コマ連続で行う。(2クラス展開)
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入、提出
	9 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	呼吸を整える援助 1
		授業内容	1. 一時的吸引の方法とその適応 2. 気管内吸引の実際
		事前・事後学習	事前学習：気管内吸引を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
	10 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	呼吸を整える援助 2
		授業内容	1. 体位ドレナージの目的とその適応 2. 体位ドレナージの方法とドレナージされる肺区域 3. 体位ドレナージの実際
		事前・事後学習	事前学習：体位ドレナージを実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
	11 (加藤)	学習の主題	慢性腎臓病を抱えて生活する人の透析看護
		授業内容	1. 血液透析を必要とする人の特徴 2. 血液浄化の実際 3. 血液透析を必要とする人の看護 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事後学習：講義の内容を振り返る。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	12 (小野) (全担当教員)	学習の主題	診療・処置時の看護技術：救急処置における止血法
		授業内容	1. 出血の種類と出血をきたす病態 2. 一次的止血法（直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯法など） 3. 一次的止血法の実際
		事前・事後学習	事前学習：止血法を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：演習の内容を振り返る
	13 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション生活援助 1
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※13 回、14 回は 2 コマ連続で行う。（2 クラス展開）
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入
	14 (伊藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程の展開：シミュレーション生活援助 2
		授業内容	事例に沿ったシミュレーションを体験し、それぞれの役割を通じて看護実践を振り返り、成人看護実習に必要な看護実践能力の基礎を身につける。 ※13 回、14 回は 2 コマ連続で行う。（2 クラス展開）
		事前・事後学習	事前学習：事例の看護を実践するために必要な看護技術の予習 事後学習：シミュレーションの振り返り用紙の記入
	15 (加藤) (全担当教員)	学習の主題	看護過程：評価、修正
		授業内容	看護過程の振り返り、まとめ、成人看護実習Ⅰ・Ⅱに向けた準備
		事前・事後学習	事前学習：初回授業から行なってきた看護過程における自身の課題、疑問点を整理しておく。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	外来看護実習 Outpatient Section Nursing Practicum			担当教員	小野　善昭、佐藤　郁恵、加藤　剛寿、 伊藤　円、池野　航平、今泉　里絵		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	外来を受診する患者が、疾患や障がいを抱えながら在宅で生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響を理解し、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、在宅での継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、外来看護の役割を学ぶ。						
実習目標	1. 外来通院している対象の概要や、施設の機能と役割、並びに外来の特徴、多職種連携や看護提供体制について理解できる。 2. 退院支援室、外来化学療法室、透析室、外来診察室等で実践している看護について理解できる。 3. 外来診察室等での対象との関わりを通して、対象者が疾患や障がいを抱えながら生活することの意味、疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響が理解できる。 4. 外来診察室等での看護実践を通して、在宅での継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、外来看護の役割を考えることができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。						
実習内容	外来診察室等での対象との関わりや退院支援室、外来化学療法室、透析室、外来診察室等での看護実践の見学を通して、疾患や障がいを抱えながら在宅で生活する対象を理解していきます。 詳細は実習要項を参照のこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価方法・評価基準				
	実習要項に記載	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙評価基準（ルーブリック表など）を使用する。				
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われる場合もあります。 いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
実務経験を活かした教育内容	臨床での勤務経験や実習指導の経験を踏まえて、外来を受診する患者が、疾患を抱えながら在宅で生活することの意味や疾患そのものや治療が与える心身ならびに生活の営みへの影響について理解しやすいように指導を行います。						
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。						
実習施設	札幌東徳洲会病院、北光記念病院、札幌医科大学附属病院、札幌渓仁会リハビリテーション病院、札幌北楡病院、札幌麻生脳神経外科病院、石橋胃腸病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護実習 I Adult Nursing : Practicum I			担当教員	小野　善昭、佐藤　郁恵、加藤　剛寿、 伊藤　円、池野　航平、今泉　里絵		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	急性期にある患者・家族を多側面からアセスメントし、患者・家族の健康段階に応じた知識・技術・態度を養う。特に、身体侵襲が患者に及ぼす影響について理解を深めるとともに、心身の侵襲を最小限にし、回復のための看護過程を展開する。						
実習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を理解できる。 2. 急性期（急性疾患、周手術期、慢性疾患の急性増悪等）における患者の健康上の課題をとらえ、看護過程を展開することができる。 3. 患者・家族を生活者の視点でとらえ、回復促進のための援助ができる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。						
実習内容	急性期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は実習要項を参照のこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。				
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。 いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
実務経験を活かした教育内容	急性期領域での勤務経験や実習指導の経験をふまえて、急性期にある対象の看護過程についてここの学生が理解しやすいように指導を行います。						
実習方法	詳細は実習要項を参照のこと。						
実習施設	札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、札幌医科大学附属病院、手稲渓仁会病院、札幌北楡病院、札幌麻生脳神経外科病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	成人看護実習 II Adult Nursing : Practicum II			担当教員	佐藤　郁恵、伊藤　円、加藤　剛寿、 池野　航平、今泉　里絵、小野　善昭		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	成人期にある患者・家族が、疾患を抱えながら生活することの意味を捉え、疾患そのものや治療が与える、心身ならびに生活の営みへの影響を理解するとともに、そのセルフケアを支えるための基礎的な看護実践力を修得する。また、継続的な療養生活に向けた社会資源の活用、地域の保健医療福祉チームとの連携、看護の役割を学ぶ。						
実習目標	1. 身体的・心理的・社会的側面から患者・家族のおかれた状況を統合的に理解できる。 2. 慢性的に経過する疾患を抱える患者・家族の看護上の問題を明らかにし、看護過程を展開できる。 3. 看護実践における人間関係形成の重要性を認識し、相互に成長することの意味を深め、援助的人間関係を形成できる。 4. 保健医療チームの一員として看護職の役割を理解するとともに、その責任を果たすことができる。 5. 看護学生としての責任を自覚し、倫理的行動をとることができる。 6. 看護専門職を目指す学生として、常に実習を振り返り自己成長を目指すことができる。						
実習内容	原則として、慢性期・回復期にある患者を受け持ち、看護過程を展開する。 詳細は、実習要項を参照のこと。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	実習要項に記載の評価表に基づき総合的に評価する。 評価基準は別紙ルーブリック表を使用する。				
履修上の留意事項	これまでの知識の積み上げが重要になってきます。実習に臨む前に事前学習を十分に行ってきてください。 また、実習前オリエンテーションは学内で行われるもの以外に、実習施設で行われるものもあります。いずれも実習に臨むための大切なオリエンテーションですので必ず出席してください。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、成人期にある対象の看護について理解しやすいように実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項を参照のこと。						
実習施設	北海道がんセンター、西成病院、愛育病院、北光記念病院、石橋胃腸病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	高齢者看護活動論 II Gerontological Nursing II			担当教員	中田　真依		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	高齢者看護活動論 I を基に、高齢者看護に関する基礎的な看護実践能力を修得し、臨地実習で活用できることを目指す。老年期にある対象を全人的に捉え、認知症ケアやエンドオブライフ・ケアの在り方を理解し、更なる看護実践能力を発展的に学ぶ。また、紙上事例を用いた看護過程を展開し、老年期にある対象を全人的に捉え目標を志向しながら看護を展開する方法を理解し、家族を含めた保健医療福祉チームの連携や倫理的観点について演習を通して学ぶ。						
到達目標	1. 老年期にある対象への認知症ケアに関する応用的知識や技術を理解し、実践できる 2. 老年期にある対象に対する生活援助を、エンドオブライフ・ケアの視点で理解し、説明できる。 倫理的な視点を踏まえた看護を理解し、演習を通して実践できる 3. パーソンセンタードケア取り入れた高齢者への生活援助技術（排泄）を安全・安楽に実施できる。 4. 紙上事例をもとに老年期にある対象への看護過程を展開できる。 1）事例の健康状態を捉え生活機能の視点でアセスメントできる。 2）アセスメントを統合し、関連図の作成を経て全体像と援助の方向性を示すことができる。 3）対象の強みを活かし、個別性に応じた看護目標や看護計画を立案できる。 4）個別指導や講義内容を通して自らの看護過程を振り返り、修正できる。 5）看護計画をグループで作成し、模擬実践および評価ができる 5. 講義・演習全般において、家族含めた多職種連携や倫理的観点で理解し、説明できる						
テキスト	1. 北川公子編「系統看護学講座 専門分野 II 老年看護学」（医学書院） 2. 山田律子編「生活機能からみた老年看護過程」（医学書院）						
参考書	1. 江川隆子「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」（ヌーベルヒロカワ） 2. 大川弥生著「生活機能とは何か -ICF：国際生活機能分類の理解と活用 -」（東京大学出版会）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	30	目標の到達状況を、事前課題および看護過程課題、試験から総合的に評価する。 試験 30 点 演習レポート 10 点 提出物 60 点（春休み課題 10 点＋看護過程課題 50 点）
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	60	
	その他		

履修上の留意事項	高齢者看護学概論 I・II、高齢者看護活動論 I を復習し、必要な準備を整えて臨むこと（個人パソコン、電子媒体、関連資料等）。提出物が遅れた場合は原則評価に影響する。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における事例などを織り交ぜ、高齢者看護について理解しやすいよう講義・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （中田）	学習の主題	ガイダンス 生活機能への看護と倫理［1］
		授業内容	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項と評価方法・基準、テキスト等を説明する 【春休みの課題】回収 講義：高齢者の清潔・更衣・整容に関する尊厳を保つ看護
		事前・事後学習	事前学習：活動論 I の復習やシラバスを熟読し、講義の準備をする（2 時間） 【春休みの課題】：活動論 I で提示された課題を進める 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	2 （中田）	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護の応用［1］
		授業内容	認知症③ ・認知症高齢者の体験する世界と倫理的課題 ・地域で生活する認知症高齢者と家族への支援、IPW
		事前・事後学習	事前学習：活動論 I で作成した認知症ノートやテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護の応用［2］
		授業内容	認知症④ ・認知症ケア：パーソンセンタードケア、ユマニチュード、タクティールケアなどのミニ演習（グループセッション） 【演習ガイダンス】
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間） 演習に向けて演習要項を熟読する
	4 (中田)	学習の主題	高齢者に多い疾患・症状と看護の応用［3］
		授業内容	【演習】 パーソンセンタードケアを取り入れた高齢者の排泄援助（オムツ交換）
		事前・事後学習	事前学習：事前に演習要項や講義資料・テキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：演習内容を復習する　課題を作成する（2 時間） 【課題提示】：演習後レポート
	5 (中田)	学習の主題	生活機能への看護と倫理［2］
		授業内容	高齢者への看護における倫理実践とエンドオブライフ・ケア
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習する（2 時間）
	6 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程①
		授業内容	【看護過程演習】ガイダンス① 紙上事例を用いた看護過程演習の説明
		事前・事後学習	事前学習：事前にテキストを読んでおく（2 時間） 事後学習：講義内容を復習し、紙上事例を進める（2 時間以上） 【課題提示】：紙上事例を用いた看護過程
	7 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程②
		授業内容	看護過程の講義① 看護過程とアセスメント
		事前・事後学習	事前学習：課題を進める　（2 時間以上） 事後学習：講義内容を復習し、課題を進める（2 時間以上）
	8 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程③
		授業内容	看護過程の講義② 関連図、全体像と援助の方向性、看護計画、評価
		事前・事後学習	事前学習：課題を進める（2 時間以上） 事後学習：講義内容を復習し、課題を進める（2 時間以上）
	9 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程④
		授業内容	アセスメント～全体像と援助の方向性までの課題返却・フィードバック（2～3クラス展開）
		事前・事後学習	事前学習：自分が作成した課題を読んでおく（2 時間） 事後学習：フィードバック内容を復習し、課題を修正する（2 時間）
	10 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑤
		授業内容	看護計画の課題返却・フィードバック（質問対応） 【看護過程演習】ガイダンス② グループワークと模擬実践の説明
		事前・事後学習	事前学習：自分が作成した課題を読んでおく（2 時間） 事後学習：フィードバック内容を復習し、課題を修正する（2 時間）
	11 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑥
		授業内容	グループワーク 看護計画の共有、模擬実践準備
		事前・事後学習	事前学習：自分が作成した課題を読んでおく（2 時間） 事後学習：グループワークを振り返り、模擬実践の準備をする（2 時間）
	12 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑦
		授業内容	看護計画の実践（グループ）、評価①
		事前・事後学習	事前学習：グループで作成した看護計画を読み、技術練習をする（2 時間） 事後学習：模擬実践を振り返る（2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑧
		授業内容	看護計画の実践（グループ）、評価②
		事前・事後学習	事前学習：グループで作成した看護計画を読み、技術練習をする（2 時間） 事後学習：模擬実践を振り返る（2 時間）
	14 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑨
		授業内容	看護過程課題のフィードバック①
		事前・事後学習	事前学習：自ら作成した課題全般を読み返す（2 時間） 事後学習：課題と講義内容を併せ復習する（2 時間）
	15 (中田)	学習の主題	老年期にある対象の看護過程⑩
		授業内容	看護過程課題のフィードバック② 活動論Ⅱのまとめ
		事前・事後学習	事前学習：自ら作成した課題全般を読み返す（2 時間） 事後学習：課題全般と講義内容を併せ復習する 高齢者看護実習に向けて準備を進める（2 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	高齢者看護実習 Gerontological Nursing Practicum			担当教員	中田　真依		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	3 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	本実習の過程を通して、老年期にある対象を全人的に理解し、対象や家族が望む目標を志向しながら健康課題や生活機能に応じた看護をエンドオブライフ・ケアの視点で実践する基礎的知識・技術・態度を養う。また、老年期にある対象を取り巻く環境や家族関係を踏まえ、保健医療福祉チームにおける専門職連携の在り方を理解し、看護師の役割を果たすための能力を養う。さらに、看護専門職を志す学生として主体的に学習し、倫理的側面からの学びを経て高齢者看護学の実践に繋がる感性を養う。						
実習目標	1．老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・発達的側面、および価値・信念を捉え全人的に理解し、対象や家族が望む援助の方向性について余生を踏まえて説明できる。 2．老年期にある対象に必要な看護計画を立案し、保健医療福祉チームの一員として目標を志向した看護援助を実施・評価できる。 3．看護学生として責任を自覚し、老年期にある対象の倫理的課題を思考できる。						
実習内容	病院実習 3 週間（3 単位）の実習である。本実習内容の詳細は、実習要項に沿ってオリエンテーション時に説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	目標到達度を実習の評価基準において評価する。 ※実習要項参照				
履修上の留意事項	高齢者看護学の講義内容を復習し、講義資料や作成した課題（脳卒中、認知症、事前課題）を準備して実習に臨むこと。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、老年期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	実習方法の詳細は実習要項を参照すること。主な内容として、老年期にある対象を原則 1 名受け持ち、看護過程を展開する。						
実習施設	医療法人愛全会 愛全病院 IMS(イムス)グループ医療法人社団明生会　イムス札幌内科リハビリテーション病院 社会医療法人医翔会 札幌白石記念病院 医療法人渓仁会 札幌西円山病院 医療法人北祐会 北祐会神経内科病院 医療法人社団豊生会　東苗穂病院 医療法人清仁会　北海道内科リウマチ科病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	小児看護活動論 I Pediatric Nursing I	担当教員	河崎　和子、佐々木　めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

授業目的	小児の主要な健康障害について理解し、その診断・治療過程にある小児への援助方法について講義をとおして学ぶ。また、演習では健康障害を持つ小児を抱える家族との関係形成の方法や援助方法についても学ぶ。　学習方法としては、ロールプレイおよびモデル人形や医療機器を用いた模擬演習によりイメージ化を図り、援助技術を修得する。
到達目標	1. 健康問題や健康障害および入院が、小児とその家族に及ぼす影響について理解する。 2. 様々な健康レベルにある小児とその家族への支援方法について理解する。 3. 小児の看護技術の特徴を理解し基本的な看護技術が実施できる。 4. 事例を通して、対象である小児とその家族の健康状態をアセスメントし、援助の必要性の高い看護問題について看護計画が立案できる。 5. 事例を通して、立案した看護計画を実践するための看護技術を実施できる。
テキスト	1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 I 改訂第 4 版」（南江堂） 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 II 改訂第 4 版」（南江堂）
参考書	1. 茎津智子編「発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程」（医歯薬出版） 2. 山元恵子監修「写真でわかる小児看護技術　改訂第 2 版」（インターメディカ） 3. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」（医学書院） 4. 添田啓子他「看護実践のための根拠がわかる小児看護技術」（メヂカルフレンド社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	目標の到達状況を下記の視点から総合的に評価し、60 点以上を合格とする。 定期試験（100 点）：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	演習は、実際場面を想定して行います。オリエンテーション内容を理解し、事前・事後学習をしっかり行い演習に臨みましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（河崎）	学習の主題	ガイダンス/ 子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術（講義とワーク）
		授業内容	【ガイダンス】 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト類の活用方法の説明 ・子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について理解する。 ①　発達段階別の小児の特徴理解とコミュニケーション技術 ②　病院における小児とのコミュニケーション技術 ③　遊びの援助技術 ・事例を用いて対応方法を検討してワークシートに記載する。講義終了後、ワークシートを提出する。
		事前・事後学習	事前学習：概論で学習した小児各期の成長・発達の特徴を復習し、講義に臨む（30 分）。 事後学習：子どもとのコミュニケーション技術と遊びの援助技術について復習する（45 分）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (河崎)	学習の主題	子どもに特徴的な症状と看護①
		授業内容	1．いつもと違う 2．痛みを表現している子どもと家族への看護 3．発熱
		事前・事後学習	事前学習：子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる（60 分） 事後学習：講義内容を復習して、要点をまとめる（60 分）。
	3 (河崎)	学習の主題	子どもに特徴的な症状と看護②
		授業内容	1．脱水 2．嘔吐 3．下痢
		事前・事後学習	事前学習：子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる（60 分） 事後学習：講義内容を復習して、要点をまとめる（60 分）。
	4 (河崎)	学習の主題	子どもに特徴的な症状と看護③
		授業内容	1．呼吸困難 2．けいれん
		事前・事後学習	事前学習：子どもに特徴的な症状について学習してくる自分なりにノートに整理してくる（60 分） 事後学習：講義内容を復習して、要点をまとめる（60 分）。
	5 (河崎)	学習の主題	手術を受ける子どもと家族の看護とプレパレーション
		授業内容	1．手術を受ける子どもと家族の看護 2．インフォームド・アセント 3．プレパレーション ※DVD 視聴
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読んでくる（30 分）。 事後学習：講義終了後、プレパレーションの意義・目的・方法について復習する（30 分）。
	6 (河崎)	学習の主題	病気・障害のある子どもと家族への看護
		授業内容	1．病気・障害のある子どもと家族の特徴 2．病気。障害のある子どもと家族への看護 ※DVD 視聴
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読んでくる（30 分）。 講義終了後、病気・障害のある子どもと家族への看護について自らの考えを学習シートにまとめ提出する。 事後学習：講義終了後、病気・障害のある子どもと家族への看護について復習する（30 分）。
	7 (河崎)	学習の主題	状況別にみる子どもと家族の看護
		授業内容	1．活動制限が必要な子どもと家族の看護 2．隔離が必要な子どもと家族の看護
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当箇所を読んでくる（30 分）。 事後学習：活動制限や隔離が必要な子どもと家族の看護について復習する（45 分）。
	8 (河崎)	学習の主題	事例でみる子どもと家族の看護①
		授業内容	肺炎のある子どもと家族の看護
		事前・事後学習	事前学習：肺炎の看護について学習してくる（60 分）。 事後学習：肺炎のある子どもと家族の看護について復習する（45 分）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	9 (河崎)	学習の主題	事例でみる子どもと家族の看護②
		授業内容	気管支喘息のある子どもの家族と看護/アレルギーのある子どもの看護 アレルギーエデュケーターの香川先生をゲストスピーカーとして講話いただきます。
		事前・事後学習	事前学習：気管支喘息の看護について学習してくる（60 分）。 事後学習：気管支喘息のある子どもと家族の看護について復習する（45 分）。
	10 (河崎)	学習の主題	事例でみる子どもと家族の看護③
		授業内容	ネフローゼ症候群のある子どもの家族と看護
		事前・事後学習	事前学習：ネフローゼ症候群の看護について学習してくる（60 分）。 事後学習：ネフローゼ症候群の看護について復習する（45 分）。
	11 (佐々木・ 河崎)	学習の主題	事例でみる子どもと家族の看護④
		授業内容	急性リンパ性白血病のある子どもと家族の看護
		事前・事後学習	事前学習：急性リンパ性白血病の看護について学習してくる（60 分）。 事後学習：急性リンパ性白血病の看護について復習する（45 分）。
	12 (河崎)	学習の主題	事例でみる子どもと家族の看護⑤
		授業内容	脳性麻痺のある子どもと家族の看護
		事前・事後学習	事前学習：脳性麻痺のある子どもの看護について学習してくる（60 分）。 事後学習：脳性麻痺のある子どもの看護について復習する（45 分）。
	13 (河崎)	学習の主題	ターミナル期の小児とその家族への看護
		授業内容	ターミナル期にある小児と家族への看護について理解する。 ・小児の死の概念発達 ・QOL と苦痛の緩和 ・インフォームドコンセントと告知 小児専門看護師三上先生をゲストスピーカーとして講話いただきます。
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（30 分）。 事後学習：講義内容を復習する（45 分）。
	14 (佐々木・ 河崎)	学習の主題	慢性疾患をもつ小児と家族への看護
		授業内容	慢性疾患をもつ小児と家族への看護について理解する。 ・小児看護におけるヘルスプロモーション ・セルフケア支援と患児教育 ・移行期の患者と支援
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（30 分）。 事後学習：講義内容を復習する（45 分）。
	15 (河崎)	学習の主題	小児における看護過程
		授業内容	1．小児看護の視点 2．ゴードンの枠組みを用いたアセスメントツール 3．事例の提示（事例紹介）
		事前・事後学習	事前学習：今まで学習した内容を復習してくる（60 分）。 事後学習：小児の看護過程について復習する。事例の看護展開を実施してみる（120 分）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	小児看護活動論 II Pediatric Nursing II			担当教員	河崎　和子、佐々木　めぐみ		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	これまでの学内での学習内容を臨地実習で活用できることを目的とし、小児およびその家族の看護をしていくうえで必要な知識・技術・態度を修得するために看護事例を使い、小児の健康上の課題をアセスメントし、看護計画立案をして、その計画に沿った実施、評価について演習をとおして学習する。また、保健医療福祉チームとの連携のあり方についても学習する。特に、教育機関や小児に関わる福祉機関等との連携・協働について学ぶ。						
到達目標	1. 学内演習においては、事例の小児と家族の健康状態を既習のアセスメントツールを用いてアセスメントできる。 2. 2 をもとに事例の小児と家族の全体像を把握し、看護問題を明確化できる。 3. 3 で明らかになった看護問題を解決するため具体的かつ科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。 4. 4 の看護計画立案では安全性、安楽性、成長・発達を考慮したケアの内容が考えられる。 5. 看護問題が解決、改善されたかを判断する看護評価の視点が考えられる。						
テキスト	1. 二宮啓子他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 I 改訂第 4 版」(南江堂) 2. 今野美紀他「看護学テキスト NiCE 小児看護学 II 改訂第 4 版」(南江堂)						
参考書	1. 石黒彩子編「発達段階からみた小児看護過程」(医学書院) 2. 新看護観察のキーポイントシリーズ「小児 I 」(中央法規) 3. 及川郁子・田代弘子編集「病気の子どもへのプレパレーション」(中央法規) 4. 山本恵子監修「写真でわかる小児看護技術　改訂 2 版」(インターメディカ)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験		目標への到達状況をレポート、提出物により総合的に評価する。 1．レポートは保育園演習の学びをレポートする（50 点)。 2．提出物は、事例に関する看護過程展開に関する一式（30 点）・発表（10 点）および、事例展開から学び得たことと自己の課題について A4　2 枚程度 (10 点）から総合的に評価する。				
	レポート	50					
	小テスト						
	提出物	50					
	その他						
履修上の留意事項	本科目は、小児看護実習に臨むうえで総括的な意味をもつ科目であるため、各自、小児看護学概論、小児看護活動論 I を十分に復習して授業に取り組むこと。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を組み込み、理解しやすい授業を行います。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1（河崎）	学習の主題	ガイダンス/小児看護におけるアセスメント技術				
		授業内容	【ガイダンス】本科目の学習目的･目標および学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項とテキスト参考図書について説明する。 1．ガイダンス 2．小児看護におけるアセスメント技術 1）健康歴の聴取 ※DVD 視聴				
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（45 分） 事後学習：講義後、学習した内容について復習する（60 分）				

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	2（河崎）	学習の主題	小児における看護過程①（グループワーク）
		授業内容	紙上事例について、看護展開をする ①情報整理、アセスメントを実施する ②看護課題の明確化をする
		事前・事後学習	事前学習：紙上事例についてアセスメントをしてくる（120 分） 事後学習：グループで意見交換したことをもとにアセスメントを修正し、看護課題の明確化をする（60 分）
	3（河崎）	学習の主題	小児における看護過程②（グループワーク）
		授業内容	紙上事例について、看護展開をする ①明確になった看護課題について、グループメンバーで共有し、看護計画を立案する ②グループメンバーで検討し、関連図を作成する
		事前・事後学習	事前学習：紙上事例について看護計画を立ててくる（120 分） 事後学習：グループで意見交換したことをもとに看護計画を修正し、グループでまとめて提出する（120 分）
	4（河崎）	学習の主題	小児における看護過程③
		授業内容	看護の実施・評価について
		事前・事後学習	事前学習：講義資料及びテキストを読み、看護の実施・評価について学習してくる（60 分）。 事後学習：看護計画に実施・評価を記載してみる（60 分）。 実施評価について、個別に指定の期日に看護計画を提出する。
	5（佐々木・河崎）	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術①～観察（講義）
		授業内容	①小児の健康状態の観察に必要な 5 つの基本技術 ②バイタルサインズの診方　※DVD 視聴
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（45 分）。 事後学習：学習した内容を復習する（60 分）。
	6（佐々木・河崎）	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術②／小児の検査・処置に伴う看護技術①（講義）
		授業内容	① 身体計測と計測値の評価　② 採血、採尿、導尿 ⑤ 抑制と吸引　※DVD 視聴
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（45 分）。 事後学習：学習した内容を復習する（60 分）。
	7（佐々木・河崎）	学習の主題	小児の治療に伴う看護技術（講義）
		授業内容	③ 与薬　④ 吸入　⑥ 輸液管理・点滴の固定交換
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（45 分）。 事後学習：学習した内容を復習する（60 分）。
	8・9（佐々木・河崎）	学習の主題	小児の状態把握のための看護技術③～バイタルサイン測定（演習）
		授業内容	模擬人形を用いて小児の状態把握のための看護技術を行う。 ① バイタルサイン測定 ② 身体計測 ③ 採尿 ※ 2 クラス展開
		事前・事後学習	事前学習：指定した教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく（60 分）。 事後学習：指定の用紙に必要事項及び振り返りを記載し、提出する（45 分）。
	10・11（佐々木・河崎）	学習の主題	小児の処置・治療に伴う看護技術②（演習）
		授業内容	模擬人形を用いて小児の処置・治療に伴う看護技術を行う。 ① 経口与薬　② 吸入　③ 吸引　④ 点滴の固定交換 ※ 2 クラス展開
		事前・事後学習	事前学習：指定した教材等により看護技術の目的、方法、留意点を確認しておく（60 分）。 事後学習：指定の用紙に必要事項及び振り返りを記載し、提出する（45 分）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	12 (河崎)	学習の主題	新生児の救急救命処置技術（講義）
		授業内容	新生児蘇生法について １．新生児蘇生法とは ２．アルゴリズムについて
		事前・事後学習	事前学習：図書所蔵の小児の救急救命処置技術について DVD を視聴する（60 分） 事後学習：講義内容を復習し、アルゴリズムおよび基本的な手技（人工呼吸・胸骨圧迫）について復習する（60 分）
	13 (河崎)	学習の主題	新生児の救急救命処置技術（演習）
		授業内容	１．人工呼吸 ２．胸骨圧迫 ※人形モデルを使用して模擬実践する
		事前・事後学習	事前学習：アルゴリズムおよび基本的な手技（人工呼吸・胸骨圧迫）について復習する（60 分） 事後学習：演習内容を振り返り、自己評価をする。シートを提出する（60 分）。
	14 (河崎)	学習の主題	小児の救急救命処置技術（講義）
		授業内容	１．一次救命処置 ２．二次救命処置 ※DVD 視聴
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでくる（60 分）。 事後学習：講義内容を復習し、ポイントをノートにまとめる（60 分）。
	15 (河崎)	学習の主題	小児における看護技術
		授業内容	１．小児の看護技術のポイント ２．まとめ（ワークシートを用いて復習する） 自己の理解度を振り返り、課題を明確化する。
		事前・事後学習	事前学習：小児看護活動論 II の講義内容を復習する（120 分） 事後学習：わからなかった点を復習して学習を深める（60 分）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	母性看護活動論 II Maternal and Newborn Care Nursing II	担当教員	齋藤　早香枝、野崎　由希子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	母子および家族の看護を行う上で必要な知識・技術・態度を修得するために、看護事例を用いてウェルネスの視点での看護過程の展開を行う。既習の知識を整理・統合しながら、紙上事例の健康上の課題をアセスメントし、健康課題に対する看護計画の立案および実施、評価について学修する。また、地域社会における子育て支援の実際を学修し、事例への活用を考え、地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について学ぶ。
到達目標	1. 事例の妊娠期・分娩期の経過を踏まえ、ウェルネス的視点で褥婦の健康課題を考えることができる。 2. 褥婦の健康課題を解決するために必要な看護ケアとその根拠を理解する。 3. 事例の産褥経過についてアセスメントを行い、個別の看護援助を考えることができる。 4. 早期新生児期にある児が胎外生活に適応する変化の過程をアセスメントすることができる。 5. 子育てを行う家族に対する育児支援と課題について考えることができる。 6. 地域の保健医療福祉チームとの連携・協働について考えることができる。 7. 母性看護に必要な看護援助技術を修得する。
テキスト	1. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学① 母性看護学概論」(医学書院) 2. 森　恵美著者代表「系統看護学講座 専門分野 II 母性看護学② 母性看護学各論」(医学書院)
参考書	講義の中で、随時紹介する。 ＊母性看護学のアセスメントに必要なツールは講義時に配布する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40	目標への到達状況を筆記試験、提出物により総合的に評価する。 1）試験：筆記試験（40 点）では、妊産褥婦、および新生児期の看護を展開する上で必要な基礎的知識と育児支援の諸制度に関する知識を問う。 2）提出物（60 点）：以下の 3 点が対象となる。 ①ウェルネス的視点での看護過程の展開（30 点） ②育児支援の課題と多職種との連携に関するレポート（20 点） ③看護技術演習のレポート（10 点） ・提出物の詳細は講義で説明します。 ・定期試験を受験しなかった場合は評価の対象とはしません。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	60	
	その他		

履修上の留意事項	講義は、母性看護活動論 I の学習内容を踏まえて行われます。個人の課題学習をしっかり行って授業に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から実習場面で遭遇する看護場面の例を講義に組み込み、ウェルネスの視点での看護過程と育児支援について理解しやすい授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（全担当教員）	学習の主題	ガイダンス 産褥期の看護過程　①ウェルネスの視点での看護
		授業内容	1. ウェルネスの視点での看護過程について理解する。 2. 産褥期の事例に対する情報整理、アセスメントの視点を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：母性看護活動論 I の復習（2 時間） 事後学習：指定された課題の実施（2 時間）
	2（全担当教員）	学習の主題	産褥期の看護過程　②退行性変化
		授業内容	1. 産褥期の事例の退行性変化をアセスメントできる。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：指定された課題の実施と提出（2 時間） 事後学習：事例のアセスメントの修正（課題の実施）（2 時間）
	3（全担当教員）	学習の主題	産褥期の看護過程　③退行性変化
		授業内容	1. 褥婦のもつ健康課題を解決するための援助計画を立案できる。 2. 退院後の生活を見通した援助について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：指定された課題の実施と提出（2 時間） 事後学習：事例の看護計画の修正（課題の実施）（2 時間）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4（全担当教員）	学習の主題	産褥期の看護過程　④進行性変化
		授業内容	1. 産褥期の事例の進行性変化をアセスメントできる。 2. 褥婦のもつ健康課題を解決するために必要な看護の要点を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：指定された課題の実施と提出（2 時間） 事後学習：事例のアセスメントの修正（課題の実施）（2 時間）
	5（全担当教員）	学習の主題	産褥期の看護過程　⑤進行性変化
		授業内容	1. 褥婦のもつ健康課題を解決するための援助計画を立案できる。 2. 退院後の生活を見通した援助について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：指定された課題の実施と提出（2 時間） 事後学習：事例の看護計画の修正（課題の実施）（2 時間）
	6（全担当教員）	学習の主題	産褥期の看護過程　⑥
		授業内容	1. 産褥期の看護過程の評価について理解する。 2. 産褥期のマイナートラブルに対する援助を理解する。
		事前・事後学習	事前学習：事例の情報を読んでおく。必要な資料を準備する(2 時間) 事後学習：事例の看護過程の評価を行う。 マイナートラブルに対する援助をまとめる。（課題の実施、提出） （3 時間）
	7（全担当教員）	学習の主題	育児支援①
		授業内容	産褥期、育児期に活用できる社会資源
		事前・事後学習	事前学習：事例の資料を読み理解する（1 時間） 事後学習：事例に活用できる社会資源について調べる（1 時間）
	8（全担当教員）	学習の主題	育児支援②
		授業内容	事例に対する育児支援
		事前・事後学習	事前学習：事例に活用できる社会資源について調べる（1 時間） 事後学習：事例に対しての援助計画を立案する（2 時間）
	9（全担当教員）	学習の主題	育児支援③
		授業内容	育児支援に関する現状と課題
		事前・事後学習	事前学習：テーマに対する事前学習を行う（1 時間） 事後学習：授業の内容を整理する（1 時間）
	10（全担当教員）	学習の主題	育児支援④
		授業内容	育児支援に関する現状と課題
		事前・事後学習	事前学習：テーマに対する事前学習を行う（1 時間） 事後学習：授業の内容を整理する（1 時間）
	11（全担当教員）	学習の主題	妊婦・褥婦・新生児の健康診査
		授業内容	妊婦：尿検査・レオポルド触診法・胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察・授乳法など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定
		事前・事後学習	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。 演習シートによる事前学習を行う。 （11 回、12 回分 2 時間） 事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （11 回、12 回分 2 時間）
	12（全担当教員）	学習の主題	妊婦・褥婦・新生児の健康診査
		授業内容	妊婦：尿検査・レオポルド触診法・胎児心音聴取など 褥婦：子宮復古観察・授乳法など 新生児：全身観察、バイタルサイン測定
		事前・事後学習	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。 演習シートによる事前学習を行う。 （11 回、12 回分 2 時間） 事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （11 回、12 回分 2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助　②
		授業内容	産褥期の看護援助技術 新生児期の看護援助技術（保清）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。 演習シートによる事前学習を行う。 （13 回、14 回分 2 時間） 事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （13 回、14 回分 2 時間）
	14 (全担当教員)	学習の主題	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護援助　②
		授業内容	産褥期の看護援助技術 新生児期の看護援助技術（保清）
		事前・事後学習	事前学習：配布資料をよく読み看護援助の手順を理解する。 演習シートによる事前学習を行う。 （13 回、14 回分 2 時間） 事後学習：演習内容を振り返り、看護技術の修得のために自己学習を行う。 （13 回、14 回分 2 時間）
	15 (齋藤)	学習の主題	まとめ
		授業内容	ウェルネスの視点での看護過程のまとめ 母性看護に使われる看護技術
		事前・事後学習	事前学習：講義全体で不明な点を明らかにしておく（1 時間） 事後学習：学びの整理を行う（1 時間）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	母性看護実習 I Maternal Nursing Practicum I			担当教員	齋藤　早香枝、野崎　由希子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	地域で生活し次世代を育成するという発達課題をもつ人々への包括的な支援を理解し、利用者のニードと実際の支援について学ぶ。多様な価値観をもつ人々が生活する社会で、子育て支援がどのように行われているかを理解し、地域における課題を考える。実際の利用者と接し、家族への支援の在り方と看護職の役割の理解に繋げ、子育て支援における多職種と協働できる基礎的能力を体験を通して学ぶ。						
実習目標	1．子育て支援をうける利用者が抱える課題とニードについて理解することができる。 2．子育て支援の実際を体験し、支援の意義、支援者の役割を考えることができる。 3．次世代を育成する発達課題をもつ対象者への包括的支援の在り方について考察できる。						
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する。				
履修上の留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、母性看護の対象者への支援について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。						
実習施設	吉田学園くりの木保育園、吉田学園さくら保育園、吉田学園やしの木保育園他						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	精神看護活動論 I Psychiatric Nursing I			担当教員	原田　由香、高橋　正樹		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	精神疾患に関する病態 ・ 治療等の基礎的知識ならびに精神疾患のある人とその家族に対する看護について学ぶ。						
到達目標	1. 精神障がいをもって生きるということについて理解できる。 2. 生物学的モデルとしての脳と精神とのつながり、神経細胞と神経伝達物質について理解できる。 3. 主な精神疾患の病態と診断 ・ 治療について理解できる。 4. 精神疾患の代表的な検査と治療法について理解できる。 5. 精神科領域における入院治療と看護の展開について理解できる。 6. 精神障がいをもつ人とその家族に対する看護について理解できる。 7. 地域で暮らす精神障がいをもつ人の生活を支援する方法や制度について理解できる。						
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学 I こころの健康と地域包括ケア」（南江堂）2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学 II 地域・臨床で活かすケア」（南江堂）2022						
参考書	＊随時紹介予定						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60 点以上を合格とする。 試　験：定期試験を実施し、学修到達度で評価する（80%） 提出物：講義時間内に授業内容に関したワークシートを 3 回課す（20%）
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20	
	その他		

履修上の留意事項	事前学習を行ったうえで受講すること。
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある教員が具体例を交えて、理解しやすいように授業をします。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（原田）	学習の主題	ガイダンス、精神を病む人の状態について
		授業内容	・精神看護学の考え方、その対象、役割について ・精神の病む人の現症と精神症状について
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	2（原田・高橋）	学習の主題	精神障がいをもって生きるとは
		授業内容	・精神障がいをもつ人の手記からの学びについてグループ内で意見交換することにより、精神を病む人のつらさや周囲の対応について考える。＜ 2 教室＞
		事前・事後学習	・事前：精神障がいをもつ人の手記を読み、学びや気づきについてまとめる（1 時間）。 ・事後：グループワークと報告会を通しての学びについてまとめる（1 時間）
	3（原田）	学習の主題	脳と精神の繋がり（特別講師：医師）
		授業内容	・脳の構造と精神機能 ・神経伝達物質と精神機能
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4（高橋）	学習の主題	精神科における代表的な検査、身体療法と看護
		授業内容	・精神科における代表的な検査について ・電気けいれん療法など、身体療法を受ける人の看護について
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：グループワークと報告会を通しての学びについてまとめる（1 時間）。
	5（高橋）	学習の主題	薬物療法と看護
		授業内容	・薬物療法とその副作用について ・薬物療法を受ける人の看護
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	6（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方： 統合失調症①
		授業内容	・統合失調症の病態と治療
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	7（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方： 統合失調症②
		授業内容	・統合失調症をもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	8（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方：気分障がい①
		授業内容	・気分障がいの病態と治療について
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	9（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方： 気分障がい②
		授業内容	・気分障がいをもつ人とその家族への支援
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間） ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）
	10（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方： 精神作用物質関連障がい
		授業内容	・物質関連障がい（アルコール使用障がい、精神刺激薬使用障がい、ゲーム障がい）の病態・治療と看護 ・セルフヘルプグループ
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間） ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）
	11（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方：行動症候群（摂食障がい）パーソナリティ障がい、性別違和
		授業内容	・生理的障がいおよび身体要因に関連した行動症候群（摂食障がい）、パーソナリティ障がいの病態・治療 ・性別違和の病態 ・ 治療と看護
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間） ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）
	12（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方：心身症、神経症性障がい、ストレス関連障がい
		授業内容	・心身症の病態・治療と看護 ・神経症性障害の病態・治療と看護 ・ストレス関連障害の病態・治療と看護
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間） ・事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）
	13（原田）	学習の主題	対象を理解するための考え方：心理的発達の障がい（CNS）
		授業内容	・発達障害の病態・治療と看護
		事前・事後学習	・事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間） ・事後：講義に関する学びや気づきについてワークシートにまとめ、期限までに提出する。講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14 (高橋)	学習の主題	地域での自立、統合への支援
		授業内容	・偏見・差別・スティグマ ・精神の健康に関する普及啓発活動 ・多職種によるアウトリーチ（訪問支援）
		事前・事後学習	事前：テキストの該当部分について読んでおく（1 時間）。 事後：講義資料の復習・教科書の再読をする（1 時間）。
	15 (原田)	学習の主題	精神科領域における看護過程、看護診断
		授業内容	精神科領域で看護過程を展開する際の考え方やアセスメント、看護問題の特徴について学ぶ。
		事前・事後学習	事前：ゴードンのアセスメントパターンについて復習しておく（1 時間）。 事後：講義資料の復習をする（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	精神看護活動論 II Psychiatric Nursing II	担当教員	原田　由香、高橋　正樹
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		

授業目的	精神の病いや課題を抱える対象者への看護援助方法を学ぶ。さらに、自己のコミュニケーション能力を培い、これまでの学習内容を精神看護実習で活用できるよう準備する。
到達目標	1. 精神看護領域における看護過程の概要について理解できる。 2. 紙上事例をもとに精神障がいを有する人への看護過程（アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、評価）を展開できる。 3. ロールプレイを通して、精神看護領域における対象者の理解を深めると共にコミュニケーション能力を培う。 4. 精神の健康課題を抱える人の体験談を聞くことにより、精神障がいをもつ人の理解を深める。
テキスト	萱間真美、稲垣中編集「精神看護学 I　こころの健康と地域包括ケア」（南江堂）2022 萱間真美、稲垣中編集「精神看護学 II　地域・臨床で活かすケア」（南江堂）2022
参考書	田中美恵子編「精神看護学―学生 - 患者のストーリーで綴る実習展開　第 2 版」（医歯薬出版）2015 ＊随時紹介予定

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標の達成状況について、下記の内容から評価し、60 点以上を合格とする。 小テスト：講義時間内において授業内容に関するテスト（30%） 提 出 物：看護過程の展開に関する課題（30%） 　　ロールプレイ、体験談に関する 2 回のワークシート（20%） そ の 他：発表、取り組み姿勢（20%）
	レポート		
	小テスト	30	
	提出物	50	
	その他	20	

履修上の留意事項	看護過程の展開は復習を行い、必ず個人ワークを行った上でグループワークに取り組むこと。さらに、発表などで気づいたことは青のボールペンで追加や修正を行うこと。
実務経験を活かした教育内容	臨床における実務経験に基づいた講義を展開し、精神障がいをもつ人への看護援助方法について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（原田）	学習の主題	ガイダンス（目的、目標、評価価）：精神看護実践とは 事例を用いての看護過程の展開：①アセスメントのまとめ
		授業内容	・精神看護実践の目的について理解する。 ・精神領域において重要となる情報やアセスメントについて理解する。
		事前・事後学習	・事前課題：基礎情報・アセスメント・関連図・問題リスト・看護計画を提出する（7 時間） ・事後：講義で気づいた点について追加・修正する（2 時間）
	2（原田・高橋）	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：②関連図・問題リスト作成＜ＧＷ：２教室＞
		授業内容	・グループごとに関連図、問題リスト作成に向けて GW を行う。
		事前・事後学習	・事前学習：事例に関する情報の整理、アセスメントについて見返す（1 時間）。 ・事後学習：グループごとに関連図、問題リストを作成する（3 時間）
	3（原田・高橋）	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：③関連図・問題リスト＜発表：２教室＞
		授業内容	・作成した関連図・問題リストについてグループごとに発表する。 ・関連図、問題リストのまとめ
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに関連図、問題リストを提出する。 ・事後学習：グループごとに事例の看護計画を立案する（3 時間）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 （原田・高橋）	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：④看護計画　＜発表：２教室＞
		授業内容	・グループごとに作成した看護計画で代表的なものを発表し、共有する。 ・看護計画のまとめ
		事前・事後学習	・事前学習：グループごとに作成した事例の看護計画を提出する（3 時間）。 ・事後学習：報告会での学びについて看護計画に追加修正する（1 時間）。
	5 （原田）	学習の主題	事例を用いての看護過程の展開：⑤評価
		授業内容	・個人で記載した SOAP についてグループ間で話し合う。 ・SOAP の書き方に関するまとめ ・看護過程に関する小テスト
		事前・事後学習	・事前学習：個人ワークとして SOAP を記載する（２時間）。 ・事後学習：SOAP に追加修正（青）する（１時間）。
	6 ・ 7 （原田・高橋）	学習の主題	ロールプレイの実施　＜２教室＞
		授業内容	・グループメンバーでロールプレイを実施する。 ・ロールプレイを通して対象者の理解と看護の方向性について意見交換をする（GW）。
		事前・事後学習	・事前学習：ロールプレイの内容について準備する（1 時間）。 ・事後学習：ロールプレイに関する学びについて整理する（2 時間）。
	8 （原田）	学習の主題	精神障がいのある人についての理解を深める。
		授業内容	・ゲストスピーカーの精神障がいをもつ人から体験談を聞き、意見交換する。
		事前・事後学習	・事前学習：精神障がいをもつ人と意見交換できるように質問や意見についてまとめる（1 時間）。 ・事後学習：ワークシートの作成と資料に目を通し、復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	在宅看護学概論 Introduction to Home Nursing for Home Care			担当教員	針金　佳代子		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	病気や障がいを抱えながらも地域で生活することを希望する人々を支える在宅看護の理念、目的、対象と支援方法を理解し、地域包括ケアシステムにおける在宅看護の機能を理解する。						
到達目標	1. 在宅療養者と家族が暮らす地域での生活と健康の関係をする。 2. 在宅看護の理念と目的と特徴について、歴史的変遷を踏まえて理解する。 3. 在宅看護の対象である療養者と家族を理解する。 4. 地域の多様な場で展開される在宅看護の特徴について理解する。 5. 在宅で生活する療養者を支える社会保障制度および法制度を理解する。 6.在宅看護特有の倫理問題を学び、地域包括ケアにおける在宅看護の役割について理解する。						
テキスト	臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア」(メディカ出版						
参考書	秋山正子「系統看護学講座統合分野 在宅看護論」(医学書院) 渡辺裕子「家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　第 5 版」(日本看護協会出版会)						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	① 課題レポート（20 点）:「地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割」に関する考えを記述する。 ② ②定期試験（80 点）:到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	「地域において疾病や障がいを抱えながら在宅で暮らし続けている生活者」という視点から療養者と家族を理解し、その生活や人生を支える看護について既習科目と関連 付けながら考え続けてください。
実務経験を活かした教育内容	地域において多様な健康課題を抱える療養者と家族を対象に看護をした教員が、その経験を活かし教材化した事例を活用しながら授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (針金)	学習の主題	地域の人々の暮らしを支える看護
		授業内容	1．本科目のガイダンス(目的・目標、授業内容、評価方法、履修上の留意点) 2．療養者と家族が生活している地域 3．地域と生活と健康の関係 4．わが国の生活と健康をめぐる動向 5．療養者と家族の生活を理解する ICF の考え方
		事前・事後学習	事前学習：既習内容を踏まえシラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく。（30 分） 事後学習：授業の内容を活かし、自分の住んでいる地域をアセスメントしてみる。地域における生活と自分の健康と生活との関係について整理する。(2 時間)
	2 (針金)	学習の主題	在宅看護の理念と基盤
		授業内容	1． 在宅看護の理念と目的 2． 在宅看護の歴史的変遷 3． 在宅ケア、在宅看護、訪問看護の関係 4． 在宅看護の役割・機能
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1 時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、在宅看護について復習する。(1 時間程度)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (針金)	学習の主題	在宅看護の対象である療養者
		授業内容	1.「生活者」としての療養者 2. 発達段階（ライフサイクル）からみた在宅療養者の特徴 3. 健康レベルからみた在宅療養者の特徴 4. 障害からみた在宅療養者の特徴 5. 療養状態別にみた在宅療養者のアセスメント
		事前・事後学習	事前学習：既習内容を踏まえ、テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1時間) テキスト・参考文献、また既習内容を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、在宅看護の対象である療養者について復習する。(1時間程度)
	4 (針金)	学習の主題	在宅看護の対象としての家族
		授業内容	1. 現在日本の家族の特徴 2. 家族を理解するための諸理論を活用した家族の理解 3. 家族アセスメント 4. 家族を単位とした支援と技術
		事前・事後学習	事前学習：既習内容を復習する。(1時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、授業内で学習した事例を利用し家族を1単位とした支援について復習する。(1時間程度)
	5 (針金)	学習の主題	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護
		授業内容	1. 地域包括ケアシステムづくりのプロセス 2. 地域のアセスメント 3. 全世代型地域包括ケアシステムの背景と機能 4. 医療機関における退院支援と継続看護 5. 医療機関と介護施設との連携
		事前・事後学習	事前学習：テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、地域包括ケアシステムにおける看護の機能について復習する。(1時間程度)
	6 (針金)	学習の主題	地域包括ケアシステムにおける多職種連携とケアマネジメント
		授業内容	1. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携 2. 地域包括ケアシステムにおけるネットワーク 3. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割・機能 4. 在宅看護におけるケアマネジメント 5. 地域包括ケアと地域ケア会議 事後学習：「地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割」についてレポートを提出する（A4用紙1枚　1500字程度）
		事前・事後学習	事前学習：既習内容を踏まえ、テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、地域包括ケアシステムにおける看護の機能について復習する。(1時間程度)
	7 (針金)	学習の主題	在宅療養者と家族を支える社会保障制度
		授業内容	1. 我が国の社会保障制度とその変遷 2. 社会保障制度としての各種法律 3. さまざまな社会資源 4. 社会保障制度の課題
		事前・事後学習	事前学習：既習内容を踏まえ、テキスト・参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。(1時間) 事後学習：授業の内容を振り返り、在宅で生活を継続するための社会保障制度の現状と課題について復習する。(1時間程度)

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8 （針金）	学習の主題	在宅看護と倫理
		授業内容	1．在宅看護特有の倫理問題 2．療養者と家族の意思決定とその支援 3．権利擁護 4．個人情報と保護 5．サービス提供者の権利の保護
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（1時間） 事後学習：授業の内容を振り返り、在宅看護特有の倫理と療養者と家族の権利について既習する。（1時間程度）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	在宅看護論 I Home Care Nursing I			担当教員	針金　佳代子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
授業目的	病気や障がいを抱えても住み慣れた地域や自宅で暮らし続けている療養者と家族の QOL の向上のための在宅療養者に対する看護過程の展開方法を学習する。						
到達目標	1. 地域療養を支える在宅看護の役割と機能を理解する。 2. 在宅看護を展開するための基礎理論ついて理解する。 3. 在宅療養を支える訪問看護ついて理解する。 4. 在宅看護介入時期別の特徴について理解する。 5. 在宅療養を支えるコミュニケーション技術について理解する。 6. 在宅における看護過程の特徴について理解する。						
テキスト	1. 臺有桂他編「地域・在宅看護論　地域療養を支えるケア　」（メディカ出版）						
参考書	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野　在宅看護論」（医学書院） 2. 宇都宮宏子他編「看護がつながる在宅療養移行支援」（日本看護協会出版会）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80	目標の到達状況を下記の視点から評価し 60 点以上を合格とする。 ① 課題レポート（20 点）：講義をふまえて「在宅療養を支えるコミュニケーション技術」に関する考えを記述する。 ② 定期試験（80 点）：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・本科目では、「疾病や障がいを抱え、在宅で暮らし続けている生活者」の視点でこれまでの履修科目と関連付けながら履修する ・レポートは学習の手引きに沿って記述する
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	地域療養を支える在宅看護の役割と機能
		授業内容	1. 生活・人生の自立・自律支援 2. 病状・病態の予測と予防 3. 意思決定支援 4. 家族の介護力への支援 5. 在宅におけるリスクマネジメント 6. 地域包括ケアシステム形成と推進 7. 災害時のリスクマネジメント
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（1 時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（1 時間程度）
	2（針金）	学習の主題	在宅看護を展開するための基礎理論
		授業内容	1. セルフケア理論 2. アドボカシー 3. セルフエフィカシー 4. エンパワメント 5. ストレングス 6. ノーマライゼーション 7. ヘルスプロモーション
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（1 時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（1 時間程度）

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3（未定）	学習の主題	在宅療養を支える訪問看護
		授業内容	1. 地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割・機能 2. 訪問看護の制度 3. 訪問看護の提供方法と種類 4. 訪問看護ステーションの機能
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）
	4（未定）	学習の主題	在宅看護介入時期別の特徴
		授業内容	1. 在宅療養準備期 2. 在宅療養移行期 3. 在宅療養安定期 4. 急性増悪期・終末期（看取り期） 5. 在宅療養終了期
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）
	5（未定）	学習の主題	在宅療養を支えるコミュニケーション技術
		授業内容	1. 訪問とは、その準備と実際 2. 療養者そして家族とのコミュニケーション 3. 他職種とのコミュニケーション 4. ICT によるコミュニケーション 事後学習：「在宅看護におけるコミュニケーション技術」についてレポートを提出する（A4 用紙 1 枚　1500 字程度）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）
	6（未定）	学習の主題	在宅における看護過程の特徴
		授業内容	1. 訪問看護における看護過程の特徴 2. 訪問看護過程の実際 3. 在宅における平常時のリスクマネジメント 4. 在宅看護における災害時のリスクマネジメント
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）
	7（未定）	学習の主題	在宅看護過程の展開方法①
		授業内容	1. 情報収集とアセスメント 2. 療養上の課題 3. 計画立案
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）
	8（未定）	学習の主題	在宅看護過程の展開方法②
		授業内容	1. 実施 2. 評価と記録
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を活用し授業内容に関連する箇所を読んでおく。（１時間程度） 事後学習：授業の内容を振り返り、課題を整理する。（１時間程度）

2022 年度以降入学生対象

授業科目	在宅看護論 II Home Care Nursing II			担当教員	針金　佳代子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎		
授業目的	本科目では、在宅看護論 I で学んだ内容をもとに、在宅療養者の日常生活を「生活行為」として総合的な視点で捉え、在宅看護を展開する知識・態度・技術を学ぶ。						
到達目標	1. 在宅療養者と家族への基本的生活援助技術を理解できる 2. 在宅で行われる医療処置技術について理解できる 3. 在宅療養者とその家族の特性を踏まえた在宅看護の方法・技術について理解できる 4. 在宅療養者と家族の健康状態をアセスメントし、課題を説明できる 5. 在宅看護の計画を評価の視点も含めて立案することができる 6. 在宅療養者とその家族を共に支援する他機関や他職種との連携について考えることができる						
テキスト	1. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①地域療養を支えるケア」（メディカ出版） 2. 臺有桂他編「ナーシング・グラフィカ　在宅看護論②在宅療養を支えるケア」（メディカ出版）						
参考書	1. 秋山正子「系統看護学講座統合分野　在宅看護論」（医学書院） 2. 正野逸子・本田彰子「関連図で理解する　在宅看護過程」（メヂカルフレンド社） 3. 河野あゆみ編「強みと弱みからみた　在宅看護過程」（医学書院）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	目標の到達状況を下記の視点から評価し 60 点以上を合格とする。 ①看護過程演習（30 点）：到達目標で決める提出物によって評価する ②課題レポート（10 点）：ゲストスピーカーの講義を受けた内容に基づき学びを記述する。 ③定期試験（60 点）：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	・在宅看護論 I およびこれまで学んだ看護技術を復習すること ・グループワークに積極的に参加すること ・レポートは学習の手引きに沿って書くこと
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、在宅看護について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （未定）	学習の主題	ガイダンス 対象の特性に応じた看護 ① 要介護高齢の看護
		授業内容	・本科目の学習目的・目標および学習内容と方法・評価方法と基準、履修上の留意事項、テキスト、演習の進め方、課題等を説明する ・糖尿病、高血圧症を抱える要介護高齢者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、履修上の課題を明らかにしておく 事後学習：講義内容を復習する
	2 （針金）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ② 認知症、精神疾患の療養者の看護
		授業内容	認知症、精神疾患の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	3 （未定）	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ③ 脳血管疾患、脳神経疾患の療養者の看護
		授業内容	脳血管疾患、パーキンソン病の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (未定)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ④ 在宅酸素療法を必要とする療養者の看護、小児の療養者の看護
		授業内容	COPD の療養者、小児の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	5 (未定)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑤ 神経難病の療養者の看護
		授業内容	ALS の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	6 (未定)	学習の主題	対象の特性に応じた看護 ⑥ 終末期の療養者の看護
		授業内容	終末期の療養者とその家族の特性と看護を学ぶ
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：講義内容を復習する
	7-8 (未定) 他	学習の主題	医療管理を要する療養者の看護とリハビリテーション①②
		授業内容	在宅療養者を支える実践者（ゲストスピーカー）から講義を受け、在宅看護技術を学ぶ 1. 在宅における皮膚・排泄ケア（褥瘡創傷ケア、人工肛門、人工膀胱、膀胱留置カテーテル） 2. 在宅におけるリハビリテーション
		事前・事後学習	事前学習：テキストを読んでおく 事後学習：「ゲストスピーカーの講義を受けての学び」についてレポートを提出する（それぞれ A4　1 枚 1500 字程度）
	9-12 (針金) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開①②③④
		授業内容	グループワーク（4 名～ 5 名）を実施する 1. 学生個々に取り組んだアセスメントを持ち寄り、グループ内で共有し、全体像と対象理解を共有する 2. 学生個々に作成した看護計画の内容を共有し、訪問時の看護計画を立案する 3. 訪問時の看護計画から一場面を設定したロールプレイを考える
		事前・事後学習	事前学習：個人で考えた看護過程をメンバーに伝えられるように準備しておく 事後学習：演習の内容を深めておく
	13-14 (針金) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑤⑥
		授業内容	訪問時の看護計画を発表し、ロールプレイを実施する 1. 訪問時の看護計画を発表する 2. 訪問時の看護計画に沿ってロールプレイを実施する 3. 発表とロールプレイを振り返る
		事前・事後学習	事前学習：発表準備を行う 事後学習：個人で演習のまとめを行う
	15 (針金) 他	学習の主題	在宅における看護過程の展開⑦ まとめ
		授業内容	1. 在宅における看護過程の展開から学んだことをグループで振り返る 2. 在宅看護論 II のまとめ
		事前・事後学習	事前学習：他のグループの発表をふまえ、自己の学びをまとめる 事後学習：グループワークや発表での学びを活かし、事例に関するアセスメント・関連図・看護計画を追加・修正し、提出する

2022 年度以降入学生対象

授業科目	医療安全論 Patient Safety & Disaster Nursing	担当教員	吉田　祐子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				◎	○		

授業目的	医療・看護における「安全」の基本的な考え方を理解し、リスクに対する感受性と判断力を磨き、看護の質と医療安全の関連について考える。特に、看護専門職としての責務、医療安全の基本的な考え方、医療安全と看護の質、患者の安全対策、感染防止、事故防止等について理解を深める。
到達目標	1. 医療安全を学ぶことの意義を理解する。 2. 医療安全の重要性と医療安全のためのシステムについて理解する。 3. 医療事故に伴う看護職の法的問題について理解する。 4. 医療事故のメカニズムを理解する。 5. 起こりやすい医療事故とその対策について考察することができる。 6. 感染によるリスクと感染防止対策について理解する。
テキスト	山内豊明他編集「医療安全　多職種でつくる患者安全をめざして」（南江堂）
参考書	1. 松下由美子他編集「ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践②　医療安全」（メディカ出版） 2. 川村治子「系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践 2 医療安全」（医学書院） 3. 川村治子「医療安全ワークブック（第 4 版）」（医学書院） 4. 小林美亜編集「医療安全　患者の安全を守る看護の基礎力・臨床力（改訂第 2 版）」（学研メディカル秀潤社） 5. 河野龍太郎「医療におけるヒューマンエラー―なぜ間違える　どう防ぐ―」（医学書院） 6. 坂本史衣「基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防からサーベイランスまで　改訂第 3 版」（南江堂） 7. 満田年宏「ナースのための院内感染対策 CDC ガイドラインを中心に考える基本と実践―」（照林社）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	吉田 60%、（未定）40%より出題する。 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	医療安全論は、既習の授業や臨地実習とも関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が従事した臨床看護に関する実務経験に基づき、現場での事例、医療安全・感染対策の取り組みなどを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（吉田）	学習の主題	ガイダンス、医療安全を学ぶ意義と医療安全の動向
		授業内容	1. 本科目の目的・目標、学習内容と方法、評価方法、テキスト、参考書 2. 医療安全にかかわる基本概念 1）医療安全を学ぶ意義 2）医療安全に関わる動向 3）医療安全に関する用語の定義 3. 医療安全のためのシステムと国や団体の取り組み 4. 医療安全管理と医療（看護）の質の評価
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する（1 時間程度）。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する（1 時間程度）。
	2（吉田）	学習の主題	医療事故における法的責任
		授業内容	1. 医療事故に伴う看護職の法的責任 2. 看護倫理と医療安全
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する（1 時間程度）。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する（1 時間程度）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (吉田)	学習の主題	医療事故のメカニズムと事故防止
		授業内容	1．医療事故発生のメカニズム 1）ヒューマンエラー　2）人間特性　3）環境 2．事故分析と事故対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に講義内容を追加し、整理する（1 時間程度)。
	4 (吉田)	学習の主題	病院組織における医療安全対策
		授業内容	1．病院組織における医療安全対策の実際 1）誤薬　2）医療機器・医療用具のトラブル 2．チーム医療からみる医療事故とその対策
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読する（1 時間程度)。 事後学習：医療安全についてのこれまでの学習のノート整理をする（1 時間程度)。
	5 (吉田)	学習の主題	起こりやすい医療事故の特徴とその対策
		授業内容	1．転倒・転落　2．患者誤認　3．食事・栄養 4．チューブ・カテーテル類のトラブル　5．個人情報の取り扱い
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分について熟読し、起こりやすい事故とその原因について学習する（1 時間程度)。 事後学習：学習主題を復習しノートを整理する（1 時間程度)。
	6 (未定)	学習の主題	感染の基礎知識と感染予防①
		授業内容	1．感染に関する基礎的知識について 1）感染とは 2）医療関連感染について 3）医療関連感染コントロールが難しくなった背景 2．スタンダードプリコーション 3．接触感染予防策 4．飛沫感染予防策 5．職業感染防止
		事前・事後学習	事前学習：感染免疫学で学んだことを復習してくる（1 時間程度)。 事後学習：事前学習のノートに授業内容を追加・修正しながら、理解を深める（1 時間程度)。
	7 (未定)	学習の主題	感染予防②
		授業内容	1．処置・ケア時の感染予防 2．血流感染予防 3．尿路感染予防 4．院内感染肺炎予防 5．手術部位感染予防
		事前・事後学習	事前学習：前回までの復讐をしておく（1 時間程度)。 事後学習：事前学習のノートに授業内容を追加・修正しながら、理解を深める（1 時間程度)。
	8 (未定)	学習の主題	感染に関する法的事項、医療機関の組織的感染防止への取り組み
		授業内容	1．感染症法について 1）歴史的変遷 2）基本理念、基本方針等 3）法律の内容について 2．感染対策チームの役割と機能 3．感染管理認定看護師が行う感染管理の実際
		事前・事後学習	事前学習：感染症法について参考書を参考にしてまとめる。感染管理認定看護師の役割と機能についてこれまでの学習から予習する（1 時間程度)。 事後学習：医療における感染によるリスクとその感染予防策と感染管理における看護師の役割について振り返る（1 時間程度)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護学研究法 Research Methods in Nursing	担当教員	木津　由美子、末光　厚夫、吉田　祐子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○			◎

授業目的	看護学の研究の意義・目的、研究過程の概観、研究方法、研究論文の書き方、発表等に関する基礎知識を習得し、看護課題研究で活用できることを目的とする。研究を進めるにあたって必要とされる文献検索の方法や活用方法、研究論文の読み方、帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザイン、データ収集方法と分析方法について理解するとともに、看護研究における倫理について理解する。また、研究計画書の意義と作成方法について学習する。
到達目標	1. 看護学の研究の意義と目的を理解できる。 2. 文献検索の方法および論文をクリティークする視点が理解できる。 3. 帰納的、演繹的推論や研究課題にマッチした研究デザインと研究の種類について理解できる。 4. 看護研究を進めるにあたって研究者に求められる倫理について理解できる。 5. 量的研究・質的研究の種類と進め方を理解できる。 6. 量的研究で用いられる統計について理解できる。 7. 研究計画書の意義と作成の過程を理解できる。 8. 研究成果のまとめ方および公表する意義について理解できる。
テキスト	1. 桂 敏樹他「かんたん看護研究」（南江堂）
参考書	1. 黒田裕子「黒田裕子の看護研究 step by step」（医学書院） 2. 谷津裕子「Start Up 質的看護研究」（学研メディカル秀潤社） 3. 横川博英（監）藤林和俊「看護研究をはじめるための統計と臨床疫学―研究デザインから検定方法の理解に役立つ」（学研メディカル秀潤社） 4. 李 節子「看護研究こころえ帳 -- 研究の基本からプレゼンテーションまで」（医歯薬出版）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		課題（研究計画書・文献クリティークの成果）などの提出物を 50%、最終レポートを 50%で総合して評価をします。なお定期試験を自己都合による理由で欠席した場合は評価の対象になりません。詳細については初回で説明をします。
	レポート	50	
	小テスト		
	提出物	50	
	その他		

履修上の留意事項	4 年次の「看護課題研究」につながる科目です。基本をしっかり学んでください。 実際に文献を読んだり、文献検索をする方法を演習しますので、その後は自ら図書館で文献検索をしたり、文献を読み、文献収集をする力と文献を読む力をつけていきましょう。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（木津）	学習の主題	ガイダンス 研究とは何か
		授業内容	・本科目の目的、目標、内容、履修展開、評価について理解する。 ・研究とは何か　看護研究の意義と目的、その過程を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（1時間）。 （事後）：テキストと配布資料を用いて看護研究の意義・目的をノートにまとめる（2時間）。
	2（木津）	学習の主題	研究過程の概観、研究デザインと研究方法
		授業内容	・演繹的推論と帰納的推論を理解する。 ・研究デザインに沿った研究方法について理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストの該当ページを読む（1時間）。 （事後）：テキストと配布資料を読み授業内容をノートに整理する（2時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	3（木津）	学習の主題	研究倫理
		授業内容	・研究における倫理的配慮の原則を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストの該当ページを読み、不明な言葉は調べる（2時間）。 （事後）：テキストと配布資料を用いて、看護研究を倫理的に進めるために必要な視点をノートに整理する（2時間）。
	4（木津他）	学習の主題	文献検索と文献検討①
		授業内容	・文献検討の意義を理解する。 ・文献をクリティークする視点を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：文献検索と文献クリティークについてテキストを読む（1時間）。 （事後）：配布資料を読み授業内容をノートに整理する（2時間）。
	5（木津他）	学習の主題	文献検索と文献検討②
		授業内容	・文献検索の方法について理解する。 ・文献を入手する方法を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：興味・関心のある研究テーマを考えてノートに記載する（2時間）。 （事後）：興味・関心のある研究テーマについて検索し、文献を取り寄せる。文献カードを作成する（2時間）。
	6（末光）	学習の主題	研究と統計
		授業内容	・研究に用いられる統計の基本を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：1年次の統計に関する授業の復習をする（1時間）。 （事後）：配布資料を読み直し、授業内容をノートに整理する（2時間）。
	7（木津）	学習の主題	量的研究法①
		授業内容	・量的研究法の種類と方法の概要を理解する。 ・概念枠組みについて理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストを読み、量的研究法の概要を予習する（2時間）。 （事後）：テキストと配布資料を読み授業内容をノートに整理する（2時間）。
	8（木津）	学習の主題	量的研究法②
		授業内容	・質問紙法の手順と実際を理解する。 ・使用する尺度の妥当性と信頼性、標準化について理解する。 ・介入研究の手順と実際を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストを読み、量的研究方法について予習をする（2時間）。 （事後）：配布資料を読み授業内容をノートに整理する（2時間）。
	9（木津）	学習の主題	量的研究法③
		授業内容	・量的研究論文を既習のクリーティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	（事前）：事前に配付される量的研究論文を読んで予習をする（2時間）。 （事後）：量的研究論文のクリティークを行い、指定用紙に記載して提出する（2時間）。
	10（吉田）	学習の主題	質的研究法①
		授業内容	・質的研究とは何かを理解する。 ・質的研究の特徴と種類について理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストを読み、質的研究方法の概要を予習する（2時間）。 （事後）：テキストと配布資料を読み、量的研究と質的研究の違いをノートに整理する（2時間）。
	11（吉田）	学習の主題	質的研究法②
		授業内容	・質的研究におけるデータ収集と分析方法を理解する。
		事前・事後学習	（事前）：テキストを読み、質的研究方法について予習をする（2時間）。 （事後）：配布資料を読み、授業内容をノートに整理する（2時間）。
	12（吉田）	学習の主題	質的研究法③
		授業内容	・質的研究論文を既習のクリティークの視点から読み理解する。
		事前・事後学習	（事前）：事前に配付する質的研究論文を読んで予習をする（2時間）。 （事後）：質的研究論文のクリティークを行い、指定用紙に記載をして提出する（2時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (木津) (吉田)	学習の主題	研究計画書作成①
		授業内容	・研究計画書作成の意義と構成について理解する。
		事前・事後学習	(事前):興味関心のある事柄をノートに記載しておく(2時間)。 (事後):配布資料を読み授業内容をノートに整理する(2時間)。
	14 (木津) (吉田)	学習の主題	研究計画書作成②
		授業内容	・研究計画書の作成過程の実際を理解する。
		事前・事後学習	(事前):自分の研究課題を明確にし、テキストで研究プロセスを確認する(1時間)。 (事後):研究テーマを決定し、指定用紙に研究計画書を作成し提出する(3時間)。
	15 (木津)	学習の主題	研究成果の発表 看護課題研究のテーマについて
		授業内容	・研究成果を発表する方法について理解する。 ・研究論文の構成と論文作成時の留意事項を理解する。 ・自らの研究テーマについて考える。
		事前・事後学習	(事前):4年次で行い看護課題研究のテーマについて、自分の興味関心がある事柄について調べる(2時間)。 (事後):自らの研究テーマを明らかにし、課題シートを作成し提出する(2時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護管理論 Nursing Management			担当教員	吉田　祐子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					○	○	◎
授業目的	看護におけるマネジメントの概念、看護サービスのマネジメントの概念について学び、看護組織を運営していくために必要な考え方を理解する。また、質の高い看護サービスを提供するための看護管理のあり方、多様な看護実践の場における看護マネジメントの実際を学ぶ。						
到達目標	1．看護管理の概念、看護を取り巻く諸制度について理解する。 2．看護サービスのマネジメントの概念について理解する。 3．マネジメントに必要な知識と技術について理解する。 4．多様な看護実践の場における看護マネジメントのあり方について理解する。						
テキスト	上泉和子「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理（第 10 版）」（医学書院）						
参考書	小林美亜編集「看護学テキスト　統合と実践　看護管理」（学研メディカル秀潤社） 手島恵・藤本幸三編集「看護管理学　自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル（改訂第 2 版）」（南江堂）						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	吉田 80%、（未定）20%より出題する。 目標到達状況を定期試験（筆記試験）により評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	看護管理は、既習の授業すべてに関連があります。これまでの学修を振り返り授業に臨んでください。
実務経験を活かした教育内容	本科目担当教員が、看護管理に関する実務経験に基づき、現場での事例などを講義に織り交ぜながら、理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（吉田）	学習の主題	ガイダンス、看護管理の概念
		授業内容	1．ガイダンス 2．看護におけるマネジメントの概念と変遷 1）マネジメントとは 2）マネジメントプロセス 3）マネジメントの変遷
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、これまでに学んだことからこの授業内容についての疑問点を明らかにしておく。テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度）。 事後学習：授業内容をノートに整理する（2 時間程度）。
	2（吉田）	学習の主題	看護を取り巻く諸制度、政策
		授業内容	1．看護職と法制度 2．看護職の教育制度 3．医療制度
		事前・事後学習	事前学習：看護職に関連する法律および医療制度について、これまで学んだ授業科目の内容、テキストの該当部分から整理する（1 時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（2 時間程度）。
	3（吉田）	学習の主題	看護組織論
		授業内容	1．組織構造・理念と組織図 2．看護組織 3．協働と連携（チーム医療）
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度）。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（2 時間程度）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (吉田)	学習の主題	看護サービスのマネジメント①：サービス提供論
		授業内容	1. サービスとは 2. サービスの質 3. サービス提供体制 4. サービスの評価・認証
		事前・事後学習	事前学習:看護サービスのマネジメントについて、テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（2 時間程度)。
	5 (吉田)	学習の主題	看護サービスのマネジメント②：情報・リスク管理
		授業内容	1. 情報マネジメント 2. 安全管理
		事前・事後学習	事前学習：医療安全の講義を復習する。また、テキストの該当部分を読み、情報・リスク管理についてまとめておく（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（2 時間程度)。
	6 (未定)	学習の主題	人的資源活用論①
		授業内容	1. モチベーション 2. ストレスマネジメント 3. 労務管理・ワークライフバランス
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（2 時間程度)。
	7 (吉田)	学習の主題	人的資源活用論②
		授業内容	1. 継続教育 2. 目標管理 3. キャリア開発
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に授業内容を追加整理する（2 時間程度)。
	8 (未定)	学習の主題	リーダーシップ論
		授業内容	1. リーダーシップとメンバーシップ 2. 看護管理者の役割
		事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読み、予習する（1 時間程度)。 事後学習：事前学習に授業内容を追加、整理する（2 時間程度)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	地域連携ケア論III Theory of Community-based Care III	担当教員	針金　佳代子、槌本　浩司、岡本　智子、 小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・3年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	

授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、3年次の本科目では、 地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱでの内容をもとに、他職種・機関との連携・協働の必要性について学修する。　他職種・機関の機能と役割を復習し、それらが連携・協働して活動を展開する必要性と、その様なシステムを構築するまでのプロセス、そのプロセスにおける必要な要素について実際の活動例をもとに学修する。その学修を通して、保健医療チームにおける他職種の理解と共に、保健医療におけるチームアプローチの重要性を理解し、自身がめざす職業の専門性、役割について考察する。また、当事者である生活者が地域の課題解決のプロセスに参画することの必要性についても考察する。
到達目標	・地域の課題を解決する支援について理解する。 ・保健医療福祉チームにおける多職種・機関との連携・協働について理解する。 ・住民の健康な生活を支える各種法律、制度（介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法等）を理解する。 ・地域の健康課題を解決していくために必要なパートナーシップについて理解する。 ・地域で生活する人々が、課題解決のプロセスに主体的に参加する必要性を理解する。
テキスト	開講時に提示する
参考書	開講時に提示する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（60%）する。 詳細は授業の中で説明する。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱと一体の科目として学習すること。 各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	授業ガイダンス
		授業内容	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅱ」の振り返り。生活を支える専門職の専門性と役割とは何か
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。
	2（槌本）	学習の主題	多職種・機関との連携・協働
		授業内容	保健医療福祉チームにおける各保健医療専門職者、多機関の役割、連携、協働の必要性を理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	3（岡本）	学習の主題	多職種・機関との連携・協働に参画している専門職者からの講話
		授業内容	多職種・機関との連携・協働の実際について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (小川)	学習の主題	地域ケアを支える各民生委員・民生児童委員からの講話
		授業内容	民生委員・民生児童委員の役割と多職種・機関との連携・協働の実際について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	5 (槌本)	学習の主題	住民の健康な生活を支える各種法律、制度
		授業内容	介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法などについて理解する
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	6 (小川)	学習の主題	住民参画とパートナーシップ
		授業内容	住民が地域の課題解決のために専門職と協働し、専門職が住民とパートナーシップを築くことの重要性について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7 (岡本)	学習の主題	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて　Ⅰ
		授業内容	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その１）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8 (針金)	学習の主題	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて　Ⅱ
		授業内容	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その２）
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護支援論 I Support Skills for Public Health Nursing	担当教員	安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	公衆衛生看護活動の対象には地域で生活する個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織があり、それらが重層的かつ相互作用的な関係にあることを捉え、それぞれの対象への支援方法の特徴を学ぶ。個人/家族に対する支援では、生活と健康を多角的に把握し、健康課題の明確化、支援計画の立案、健康課題解決のための介入方法（健康相談、家庭訪問、健康教育、健康診査・検診）、評価の一連の方法とその特徴を学ぶ。また、対象理解と支援を検討するための事例検討の意義と実施方法を学ぶ。さらに、個人/家族、地区/小地域の健康課題を解決するための介入方法（組織との協働、健康教育）の一連の方法とその特徴を学ぶ。		
到達目標	1.公衆衛生看護支援の特徴を理解する。 2.個人/家族の生活と健康を多角的に把握し、健康課題の明確化、支援計画の立案、健康課題解決のための介入方法（健康相談、家庭訪問、健康教育）、評価の一連の方法と特徴を理解する。 3.個人/家族の理解と支援を検討するための事例検討会の意義と実施方法を理解する。 4.個人/家族、地区/小地域の健康課題を連動させて捉え、住民が主体的に地区/小地域の健康課題を解決するための一連の介入方法の特徴を理解する。		
テキスト	1 中村裕美子他「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」（医学書院） 2 岸恵美子他「保健学講座 2　公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）		
参考書			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	・定期試験（100 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・講義までに公衆衛生看護学概論、家族看護学、健康教育論のテキスト・資料等をもとに授業内容を確認し予習をしましょう。 ・主体的、積極的に取り組むようにしてください。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしせずに、その都度解決できるような行動を心がけましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動を織り交ぜ、公衆衛生看護の支援方法について理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（安藤）	学習の主題	公衆衛生看護における支援の特徴
		授業内容	公衆衛生看護活動における支援の方法とその特徴（個人/家族、地区/小地域、組織、地域）
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	2（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（健康相談）
		授業内容	1.公衆衛生看護における健康相談の概念、目的、対象 2.公衆衛生看護における健康相談の位置づけ、展開方法、特徴、留意点
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	3（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（健康診査・検診）
		授業内容	公衆衛生看護における健康診査・検診の目的、種類、対象、方法、留意点
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（家庭訪問）
		授業内容	公衆衛生看護における家庭訪問の目的、対象、特徴、位置づけ、留意点
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	5（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（家庭訪問　個人/家族のアセスメント）
		授業内容	個人/家族のアセスメントの目的、考え方、特徴
		事前・事後学習	事前：家族看護学で学んだ内容を復習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	6（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援（家庭訪問　支援計画）
		授業内容	1.継続してアセスメントする意義 2.健康課題に応じた支援方法の選択 3.支援の評価項目・方法・時期
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	7（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（地域におけるフォーマル・インフォーマルな社会資源）
		授業内容	1.地域におけるフォーマル・インフォーマルな社会資源の機能、役割 2.健康課題解決のために活用できる社会資源、人材、機関
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	8（安藤）	学習の主題	個人/家族への支援方法（ケースマネジメント・事例検討会）
		授業内容	1.事例検討会の目的・意義、運営方法 2.個別支援から地域の健康問題を考えるための視点
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	9（小川）	学習の主題	個人/家族への支援方法（集団教育）
		授業内容	1.集団教育の目的、対象、特徴、留意点 2.集団教育の企画・実施・評価
		事前・事後学習	事前：健康教育論で学んだ内容を復習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	10（小川）	学習の主題	個人/家族への支援方法（グループワーク）
		授業内容	1.グループワークの基本的実践原則 2.グループワークの支援媒体
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	11（小川）	学習の主題	個人/家族への支援から地区/小地域への支援の連動
		授業内容	活動事例の紹介・グループワーク
		事前・事後学習	事前：10 回目までの授業内容を復習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	12（小川）	学習の主題	組織活動①
		授業内容	1.組織の目的、構造、発展過程、成員の特性 2.組織の類型 3.組織支援の育成、支援技術
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	13（小川）	学習の主題	組織活動②
		授業内容	1.サポートグループ、課題グループの種類と特徴 2.健康増進のためのグループ支援
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	14（小川）	学習の主題	地区/小地域への支援（健康教育）
		授業内容	1.健康教育の目的、対象、特徴、留意点 2.健康教育の企画・実施・評価・改善
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	15（小川）	学習の主題	地域の住民組織/地域組織への支援と地域づくり
		授業内容	活動事例の紹介・グループワーク
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護対象論 I Objectives for Public Health Nursing I	担当教員	小川　克子、近藤　明代、 （未定）、（未定）
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	親子保健医療福祉活動、成人保健医療福祉活動、高齢者保健医療福祉活動、学校保健活動、産業保健活動における公衆衛生看護活動を法令や制度、社会資源と関連させながら学ぶ。また、それぞれの分野の基本的な活動と共に先駆的な保健医療福祉活動を学び、対象別の公衆衛生看護活動の理解を深める。		
到達目標	1.親子、成人、高齢者における健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度、社会資源と関連させながら理解し、健康への支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。 2.学校保健の場の特性を理解し、個人／家族、学校組織を対象とした公衆衛生看護活動を理解する。 3.産業保健の場の特性を理解し、労働者個人／集団、組織を対象とした公衆衛生看護活動を理解する。		
テキスト	1. 松田正己他「標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 2. 村嶋幸代他編「保健学講座 3　公衆衛生看護活動展開論」（メヂカルフレンド社） 3. 厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2024/2025」（厚生労働統計協会）		
参考書	授業ガイダンスまたは授業時間に随時紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価方法	評価方法
	試験	100	・定期試験（100 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・講義までに関係法規、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学概論を復習しましょう。 ・学習内容が非常に多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解してください。 ・疑問点は先延ばしせずに、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を織り交ぜながら、対象別の公衆衛生看護活動に必要な知識が理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護学体系における本科目の位置づけと、地域で生活する人々の特性に即した公衆衛生看護活動の概要
		授業内容	本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意点、学習評価方法について説明する。 ・対象のライフサイクルや疾病・障害の特性に応じた公衆衛生看護活動 ・場の特性に応じた公衆衛生看護活動
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	2（近藤）	学習の主題	親子保健医療福祉活動①
		授業内容	親子保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	3（近藤）	学習の主題	親子保健医療福祉活動②
		授業内容	妊娠・産褥期の人々への健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	4（近藤）	学習の主題	親子保健医療福祉活動③
		授業内容	新生児・乳幼児期の人々への健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 (近藤)	学習の主題	親子保健医療福祉活動④
		授業内容	支援ニーズの高い健康課題を持つ子どもと親の健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	6 (小川)	学習の主題	成人保健医療福祉活動①
		授業内容	成人保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割 成人期の人々を対象とした健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	7 (小川)	学習の主題	成人保健医療福祉活動②
		授業内容	支援ニーズが高い健康課題を持つ成人期の人々への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	8 (未定)	学習の主題	産業保健活動①
		授業内容	産業保健の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	9 (未定)	学習の主題	産業保健活動②
		授業内容	労働安全衛生管理、主な職業疾病と予防対策
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	10 (未定)	学習の主題	産業保健活動③
		授業内容	所属組織における健康課題と公衆衛生看護活動
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	11 (未定)	学習の主題	学校保健活動①
		授業内容	学校保健の動向
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	12 (未定)	学習の主題	学校保健活動②
		授業内容	学校保健における健康課題への対策
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	13 (未定)	学習の主題	学校保健活動③
		授業内容	学校保健活動
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	14 (小川)	学習の主題	高齢者保健医療福祉活動①
		授業内容	高齢者保健医療福祉対策の動向と公衆衛生看護の役割 高齢期の人々を対象とした健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。
	15 (小川)	学習の主題	高齢者保健医療福祉活動②
		授業内容	支援ニーズが高い健康課題を持つ成人期の人々への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストから予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護対象論 II Objectives for Public Health Nursing II	担当教員	安藤　陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	障がい者（児）保健医療福祉活動、難病保健医療福祉活動、精神保健医療福祉活動、感染症対策、歯科口腔保健活動における公衆衛生看護活動を法令や制度、社会資源と関連させながら学ぶ。また、それぞれの分野の基本的な活動と共に先駆的な保健医療福祉活動を学び、疾病や障がいの特性に応じた公衆衛生看護活動を学ぶ。		
到達目標	1.身体や知的面に障がいをもつ人々、難病をもつ人々、精神疾患をもつ人々の健康課題とその保健医療福祉対策を法令や制度、社会資源と関連させながら理解し、支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。 2.感染症に罹患している人々がもつ健康課題や感染症の罹患予防を目的に行う保健医療福祉対策を法令や制度、社会資源と関連させながら理解し、支援を行う公衆衛生看護活動を理解する。 3.歯科口腔保健における健康課題を理解し、歯科保健対策における公衆衛生看護活動を理解する。		
テキスト	1 松田正己他「標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 2.村嶋幸代他編「保健学講座 3　公衆衛生看護活動展開論」（メヂカルフレンド社） 3.厚生労働統計協会「国民衛生の動向 2024/2025」（厚生労働統計協会）		
参考書			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	・定期試験（100 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・講義までに関係法規、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学概論等の授業で学んだ内容を復習しましょう。 ・学習内容が多いので、毎回の授業内容を整理し、復習を行い、確実に理解するようにしましょう。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしせずに、その都度解決できるような行動を心がけましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動を織り交ぜながら、対象別の公衆衛生看護活動に必要な知識が理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	障がい者（児）保健医療福祉活動
		授業内容	障がい者（児）保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	2	学習の主題	難病保健医療福祉活動①
		授業内容	難病保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	3	学習の主題	難病保健医療福祉活動②
		授業内容	難病をもつ人々の健康への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	4	学習の主題	精神保健医療福祉活動①
		授業内容	精神保健医療福祉活動の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	5	学習の主題	精神保健医療福祉活動②
		授業内容	精神の健康への支援ニーズが高い健康課題をもつ人々への支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	感染症対策①
		授業内容	感染症対策の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	7	学習の主題	感染症対策②
		授業内容	1.感染症に罹患している人々への支援 2.感染症予防に関する支援
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。
	8	学習の主題	歯科口腔保健活動
		授業内容	歯科口腔保健活動の動向と公衆衛生看護の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容についてテキストを読み予習を行う（1 時間）。 事後：配布資料やテキストをもとに授業内容を復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護展開論 Implementing Public Health Nursing	担当教員	小川　克子、安藤　陽子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	地域の人々の健康やＱＯＬの維持向上を目指して行われる公衆衛生看護活動は、地域アセスメントに基づく PDCA サイクルによって進められる。そのため、人々の生活する自治体、地区/小地域の地域アセスメントの視点と方法の基本を学び、健康課題の明確化とその構造化、優先度の考え方、地域保健事業計画（評価計画）、評価までの一連の流れを理解する。また、コミュニティエンパワメントやソーシャルキャピタルを醸成するため、地域の人々や組織の成員と協働して、健康課題を解決・改善するための支援の考え方を学ぶ。		
到達目標	1.地域アセスメントの目的と地域アセスメントに基づく PDCA サイクルを理解する。 2.対象自治体、地区/小地域を把握するための情報とその収集方法を理解する。 3.対象自治体、地区/小地域の健康課題の明確化と構造化から、優先順位・対策の立案・評価の考え方を理解する。 4.対象自治体、地区/小地域の健康課題について組織・関係職種・住民と協働することの重要性を理解する。		
テキスト	1. 松田正己他「標準保健師講座 3　対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 2. 佐伯和子編著「地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド（第 2 版）」（医歯薬出版株式会社）		
参考書	授業ガイダンスまたは授業時間に随時紹介する。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70	・定期試験（70 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・地域アセスメント演習レポート（30 点）
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・講義前までに公衆衛生看学概論を復習しましょう。 ・グループ演習は、公衆衛生看護実習の準備につながるものです、積極的に参加しましょう。 ・疑問点は先延ばしせずに、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動の体験を織り交ぜながら、地域をアセスメントするために必要な知識が理解しやすいように授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小川）	学習の主題	自治体、地域／小地域を対象とする公衆衛生看護過程
		授業内容	1. 公衆衛生看護過程とは 2. 公衆衛生看護過程の理論・モデル・ツール 3. 地域アセスメント（地域診断）の目的 4. 情報収集の方法と分析
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	2（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（1）（地域の概要アセスメント①）
		授業内容	1. 地域アセスメント演習ガイダンス 2. データの収集・加工を行う。
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	3（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（2）（地域の概要アセスメント②）
		授業内容	アセスメント項目を定めて地域の概要をアセスメントする
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	4（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（3）（地域の概要アセスメント③）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、地域の概要アセスメントレポートを完成させる
		事前・事後学習	事前：作成した地域の概要アセスメントの見直し、修正を行う（1 時間）。事後：完成した地域の概要アセスメントの確認を行う（2 時間）。
	5（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（4）（地域の人々の特性アセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めて地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習	事前：地域の人々の特性アセスメントの項目を見直し、各データが示す内容について復習し、各自デー タ収集を行う（2 時間）。 事後：授業中に作成した地域の人々の特性アセスメントの再確認、修正を行う（2 時間）。
	6（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（5）（地域の人々の特性アセスメント②）
		授業内容	地域の人々の特性をアセスメントする
		事前・事後学習	事前：作成した地域の人々の特性アセスメントを見直し、修正を行う（2 時間）。 事後：授業中に作成した地域の人々の特性アセスメントの再確認、修正を行う（2 時間）。
	7（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（6）（地域の人々の特性アセスメント③）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、アセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事前：地域の概要アセスメント及び地域の人々の特性アセスメントを見直す（2 時間）。 事後：作成したアセスメントレポートを見直し、発表練習を行う（2 時間）。
	8（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（7）（発表とグループディスカッション）
		授業内容	発表とディスカッションを行う。演習を通しての学び、疑問点を整理する
		事前・事後学習	事前：発表準備、練習を行う（1 時間）。 事後：発表での意見交換から、アセスメント内容を見直す（2 時間）。
	9（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（8）（サブシステムアセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めてサブシステムをアセスメントする
		事前・事後学習	事前：サブシステムアセスメント項目について、各データが示す内容について復習し、各自データ収集を行う（2 時間）。事後：授業中に作成したサブシステムアセスメントの再確認、修正を行う（ 2 時間）。
	10（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（9）（サブシステムアセスメント②）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、サブシステムのアセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事前：作成したサブシステムアセスメントを見直し、修正を行う（2 時間）。事後：授業中に作成したサブシステムアセスメントの再確認、修正を行う（2 時間）。
	11（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（10）（健康水準アセスメント①）
		授業内容	アセスメント項目を定めて人々の健康水準をアセスメントする
		事前・事後学習	事前：人々の健康水準アセスメントに向けて、各項目のデータが示す内容について復習し、各自データ収集を行う（2 時間）。 事後：授業中に作成した人々の健康水準アセスメントの再確認、修正を行う（ 2 時間）。
	12（全担当教員）	学習の主題	地域アセスメント演習（11）健康康水準アセスメント②）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、健康水準のアセスメントレポートを作成する
		事前・事後学習	事前：作成した地域の人々の特性アセスメント見直し、修正を行う（2 時間）。 事後：授業中に作成した人々の健康水準アセスメントの再確認、修正を行う（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	13 (小川)	学習の主題	健康課題の明確化と構造化・優先順位
		授業内容	1. 人々の健康と生活のアセスメントと健康課題の特定 2. 健康課題の種類、表現の原則、健康課題の構造化 3. 健康課題の優先順位
		事前・事後学習	事前：保健師の活動計画、地域保健情報年報から地域の状況を把握する（2 時間）。 事後：授業で使用したプリントや授業で紹介した文献を参照し、全体を構造化/体系化して捉える（2 時間）。
	14 (全担当教員)	学習の主題	地域アセスメント演習（12）（健康課題の抽出）
		授業内容	グループメンバーのアセスメントから、健康課題を抽出する
		事前・事後学習	事前：実施してきたアセスメントを見直し、健康課題を検討する（1 時間）。 事後：グループで考えた健康課題を整理し、見直す（2 時間）。
	15 (小川)	学習の主題	対策の立案・評価の考え方
		授業内容	健康課題解決の方法（対策立案と評価方法）
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：講義内容をふまえ、検討した健康課題の対策と評価方法について検討する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護管理論 Management of Public Health Nursing	担当教員	安藤　陽子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・3 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	2 単位
授業目的	地域で生活する人々の安全や健康を守るためには、保健師活動および地域や組織で行われる活動のケアの質が問われる。本科目では、保健師活動や地域や組織のケアの質保証とは何かを捉えた上で、そのための公衆衛生看護管理の基本として、公衆衛生看護管理の目的を確認し、その内容（業務管理、情報管理、予算管理、人事管理、人材育成、組織運営管理）を学ぶ。また、地域における健康危機管理の実態と公衆衛生看護管理の視点から、健康危機管理の重要性と内容（災害・感染症）を学ぶ。		
到達目標	1.公衆衛生看護管理の意義・目的・構造・機能について理解する。 2 公衆衛生看護管理の方法について理解する。 3.地域における健康危機管理（災害・感染症）について理解する。		
テキスト	1.標美奈子他　「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」（医学書院） 2.村嶋幸代他　「保健学講座　公衆衛生看護学概論」（メヂカルフレンド社）		
参考書			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90	・定期試験（90 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・レポート（10 点）：健康危機管理（災害）の演習実施後の学びに関するレポートにて評価する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	・授業内容について事前にテキストを確認し予習をしましょう。 ・主体的、積極的に取り組むようにしてください。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしせずに、その都度解決できるような行動を心がけましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動を織り交ぜながら、初任期から管理期における公衆衛生看護管理について授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の概念
		授業内容	1.本科目の目的、目標、学習内容、履修上の留意点、評価 2.公衆衛生看護管理の目的、機能
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	2（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 1 －地域ケアの質保証－
		授業内容	1.地域の社会資源の把握 2.地域の特性を生かした社会資源開発と施策化 3.保健医療福祉計画の策定
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	3 - 4（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 2 －組織運営・管理、業務管理－
		授業内容	1.組織の目的、各部署の役割 2.他部門との連携、情報の共有、協働
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	5 - 6（近藤）	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相 3 －人材育成－
		授業内容	1.保健師教育制度の変遷 2.現任教育の目的と方法 3.人材育成計画
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 - 8 (近藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相４ －人事管理－
		授業内容	1.ジョブローテーション 2.労務管理 3.人事評価
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	9 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相５ －予算管理－
		授業内容	1.保健事業と人材育成の予算編成 2.予算の執行管理、評価
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	10 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相６ －情報管理－
		授業内容	1.健康関連情報の収集 2.情報管理の方法 3.情報公開 4.個人情報の保護
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	11 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相７ －健康危機管理－
		授業内容	1.地域における健康危機管理 2.健康危機管理における保健師の機能・役割
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	12 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相７ －健康危機管理（感染症） －
		授業内容	1.感染症対策の活動理念と変遷 2.感染症対策の法制度・組織・システム 3.保健所、市町村における感染症対策と保健師の役割 4.主な感染症、集団発生及び拡大予防策、集団発生時の調査方法や保健所・都道府県・国の対応
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	13 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相７ －健康危機管理（災害）①－
		授業内容	1.災害の種類、災害発生に備えた広域的な支援制度やシステム 2.フェーズ毎の地域に生じる健康課題・生活課題 3.災害発生時の都道府県及び市町村保健師の役割
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに復習する（2 時間）。
	14-15 (安藤)	学習の主題	公衆衛生看護管理の諸相７ －健康危機管理（災害）②③（演習） －
		授業内容	1.地域による災害発生リスク 2.災害各期における要援護者の健康課題と支援策についてグループで検討する。
		事前・事後学習	事前：災害各期における保健師の支援について復習する（1 時間）。 事後：健康危機管理（災害）の際の保健師活動をレポートにして提出する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	健康政策論 I Health Policy I	担当教員	小川　克子、安藤　陽子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	演習	単位数	1 単位
授業目的	公衆衛生看護展開論で学んだコミュニティの地域アセスメントから健康課題の明確化と構造化、対策の検討、事業計画立案、評価に必要な理論と知識や、保健医療福祉行政論で学習した保健医療福祉行財政の理念及び仕組み、政策提起に必要な知識を踏まえた上で、地域の健康課題の解決や健康の保持増進のための政策形成過程を学ぶ。また、モデル地域を対象として新たな社会資源の開発、地域ケアシステム構築についての演習を行い、政策形成に必要な技術と方法を学ぶ。		
到達目標	1.地域の健康課題や健康の保持増進のための政策形成における基本的知識を習得する。 2.地域に不足している社会資源の開発のための公衆衛生看護活動を理解する。 3.地域ケアシステム形成における基本的知識を学び、構築のためのプロセスと持続可能なシステムづくりのための公衆衛生看護活動を理解する。		
テキスト	1. 標美奈子他「標準保健師講座 1　対象別公衆衛生看護学概論」（医学書院） 2. 中村裕美子他「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」（医学書院） 3. 岸恵美子他編「保健学講座 2　公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）		
参考書	1. 秋吉貴雄他「公共政策学の基礎」（有斐閣）		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	・定期試験（60 点）：到達目標に関する定期試験（筆記試験）によって、目標の達成度を評価する。 ・演習課題の提出（30 点） ・演習実施後の学びに関するレポート（10 点）
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	・講義までに保健医療福祉行政論、公衆衛生看護展開論を復習しましょう。 ・演習は、公衆衛生看護実習や実習後の演習につながるものです、積極的に参加しましょう。 ・疑問点は先延ばしせずに、授業中か授業終了後に担当教員に質問しましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、行政保健師活動の体験を織り交ぜながら、地域の健康課題に対する政策形成過程を理解するために必要な知識が理解しやすいように講義・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（小川）	学習の主題	地域の健康課題に対する政策形成過程の基礎知識
		授業内容	1.政策とは 2.国の政策策定過程 3 地方自治体における政策・施策化・事業化
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	2（小川）	学習の主題	地域の健康課題に対する政策形成過程の実際
		授業内容	地域包括ケアシステムと政策形成過程
		事前・事後学習	事前：前回の授業内容を確認する（1 時間）。 事後：授業中に提示された事例からの学びを整理する（2 時間）。
	3（小川）	学習の主題	社会資源開発における公衆衛生看護活動
		授業内容	1.地域の保健医療福祉資源の開発 2.関係者の確定と調整 3.ネットワークと調整
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に提示した資料とテキストをもとに学習内容を復習する（2 時間）。
	4（小川）	学習の主題	地域ケアシステムの構築と公衆衛生看護活動
		授業内容	1.地域ケアシステムとは 2.地域ケアシステムが発展するプロセス 3.地域ケアシステムの構築に必要な要素 4.地域ケアシステム形成の評価とモニタリング
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5（小川）	学習の主題	地域の健康課題解決のための地域ケアシステム形成の実際
		授業内容	活動事例の紹介とグループワーク
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。
	6（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習①
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：1 回目～5 回目の講義内容を復習する（1 時間）。 事後：グループワークの内容を振り返り、必要な情報収集を行い、次の演習に備える（2 時間）。
	7（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習②
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：課題に対しての個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足・修正を行う（2 時間）。
	8（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習③
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：課題に対しての個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足・修正を行う（2 時間）。
	9（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習④
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：課題に対しての個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足・修正を行う（2 時間）。
	10（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習⑤
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：課題に対しての個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足・修正を行う（2 時間）。
	11（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習⑥
		授業内容	紙上事例を用いて、自治体における政策形成過程を学ぶ。 グループワークを行い、課題に取り組む。
		事前・事後学習	事前：課題に対しての個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：グループワーク内容を振り返り、課題の補足・修正を行う（2 時間）。
	12（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習⑦
		授業内容	課題発表に向けた準備を行う。
		事前・事後学習	事前：グループの発表内容を確認する（1 時間）。 事後：発表練習を行う（2 時間）。
	13・14（全担当教員）	学習の主題	政策形成過程演習⑧・⑨
		授業内容	課題発表
		事前・事後学習	事前：発表練習を行う（2 時間）。 事後：発表の振り返を行い、学びを整理する（2 時間）。
	15（小川）	学習の主題	演習についてのまとめ
		授業内容	発表からの学びを整理し、実習に向けた課題を整理する。
		事前・事後学習	事前：発表からの学びを整理し、講義に持参する（1 時間）。 事後：科目での学びについてレポートを作成する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	健康政策論 II Health Policy II	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	健康政策論 I で学習した政策形成に必要な知識・技術・方法を踏まえ、新たな社会資源の開発や地域ケアシステムの構築などの政策が、実際にどのように形成されているかについて、公衆衛生看護実習 I・II で体験したことを基に考察し、政策形成における保健師の役割を学ぶ。さらに地域住民や関係者と協働して健康課題に対応することの重要性を学ぶ。		
到達目標	1.実習地域で検討した健康課題に対応する対策を検討し、地域ケアシステム構築の必要性を理解する。 2.健康課題に対する事業計画の立案を通して、地域ケアシステム構築のプロセスを理解する。 3.地域ケアシステム構築には、地域住民・関係者の参画が不可欠であることを理解する。 4.地域住民や関係者の参画・協働のプロセスについて理解する。 5.事業計画の立案を通して、地域ケアシステム構築における保健師の役割を理解する。		
テキスト	1.標美奈子他「標準保健師講座 1　公衆衛生看護学概論」(医学書院) 2.中村裕美子他「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」(医学書院) 3.岸恵美子他編「保健学講座 2　公衆衛生看護支援技術」(メヂカルフレンド社)		
参考書	1.秋吉貴雄他「公共政策学の基礎」(有斐閣)		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		・提出物 (90 点)：地域ケアシステム構築のプロセスを踏まえて立案した事業計画の成果を基に評価します。 ・レポート (10 点)：演習終了後に本科目での学びをレポートとして提出してもらいます。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	90	
	その他		

履修上の留意事項	・授業までに健康政策論 I での学びを復習してください。また公衆衛生看護実習 I・II で行った地域アセスメントと地域の健康課題（関連図)、実習地域の基本計画、各種保健計画、事業計画等の見直しをしてください。 ・保健医療福祉関係者のみで健康的な地域をつくることは不可能です。地域に暮らしている住民の力が不可欠であることを忘れず、ヘルスプロモーションの考え方を常に意識して授業に臨んでください。 ・演習は実習での体験を発展させて学びを深める場面です。主体的・積極的に課題に取り組みましょう。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしにせず、その都度解決できるような行動を心がけましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、行政保健師としての体験を織り交ぜながら、地域の健康課題に対する政策形成過程の実際を理解できるように講義・演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	住民のニーズと地域の健康課題の把握
		授業内容	1.ガイダンス　科目の目的、進め方を説明する。 2.実習地域の住民のニーズと健康問題、健康課題を再考する。 3.地域の健康問題の解決、課題達成に向けた目標を検討する。
		事前・事後学習	事前：実習地域の地域アセスメント資料、実習での体験、住民や関係者から得た情報を振り返り、地域の特性を明確にする (2 時間)。 事後：授業内容をもとに、どの様な地域づくりを目指すのかを考える (1 時間)。
	2 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	目標達成に向けたシステムの検討①
		授業内容	1.取り上げた健康課題が基本計画、各種保健計画、事業計画においてどの様に位置づけられているかを体系的に捉える。 2.目標達成のために目指す地域の姿を検討する。 3.既存の社会資源、関係機関、住民組織等を再確認する。
		事前・事後学習	事前：どの様な地域づくりを目指すのか、またその理由も説明できるように準備をする (1 時間)。 事後：検討した対策を体系的に捉える (2 時間)。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	目標達成に向けたシステムの検討②
		授業内容	1.目標達成のための対策を考える。 2.対策を推進するために必要なシステムを考える。 3.目標達成のために必要な社会資源、住民関係者および関係職種等を検討する。
		事前・事後学習	事前:目標達成のために効果的だと考える対策を考え、その理由も説明できる様に準備をする（1 時間)。 事後:メンバーから出された対策の関係性を考え、地域ケアシステムについて復習する（2 時間)。
	4 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	目標達成に向けたシステムの検討③
		授業内容	1.メンバーが考えた対策を体系的に捉え、関連図を作成する。 2.目標達成のための保健事業を検討する。 3.保健事業の計画を立案する。 １）基本計画、各種保健計画における位置づけを確認する。 ２）保健事業の目的・目標、評価基準を検討する。
		事前・事後学習	事前:目標達成のための地域ケアシステムと効果的な対策を考え、その理由について説明できる様に準備をする（2 時間)。 事後：取り上げた保健事業の目的・目標を達成するための内容を考える（2 時間)。
	5 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	保健事業計画の立案①
		授業内容	1.保健事業の目的・目標と実施内容を検討する。 2.保健事業の実施に向けた準備を検討する。
		事前・事後学習	事前:取り上げた保健事業の目的・目標を達成するための内容を考え、実施に向けた準備を考える（1 時間)。 事後：発表に向けた資料を作成する（2 時間)。
	6 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	保健事業計画の立案②
		授業内容	1.地域課題の明確化から保健事業計画の立案までのプロセスと、保健事業計画を紹介する資料を作成する。 2.発表の準備
		事前・事後学習	事前：発表に向けた資料の作成をする（2 時間)。 事後：発表に向けた資料の作成をする（2 時間)。
	7-8 (近藤) (安藤) (小川)	学習の主題	地域ケアシステムと事業計画の発表
		授業内容	1.地域の健康課題に対応した対策と保健事業計画案の発表 2.地域ケアシステム構築のプロセスと必要な要素、保健師の役割についての意見交換
		事前・事後学習	事前：地域ケアシステム構築の検討プロセスについて説明できるように準備をしてください（2 時間)。 事後:到達目標を踏まえて、地域ケアシステム構築についての学びと保健師の役割についてのレポートを作成する（3 時間)。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	保健統計学 II Health Statistics II	担当教員	志渡　晃一、米田　龍大
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	講義	単位数	1 単位
授業目的	統計を用いた調査の意義と方法について学習し，地域の健康状態の分析・課題発見に向けた実践力を身に着ける。		
到達目標	① 健康や疾病にかかわる統計の目的と使い方の理解を深める. ② 統計を用いた調査・研究の基礎を身に着け，広い視点から説明できるようになる。		
テキスト	1. 浅野嘉延「看護学生のための疫学・保健統計学」（南山堂）2018 2. 講義資料を配布する		
参考書	1. 福富和夫，橋本修二「保健統計・疫学」（南山堂）2018		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100	目標の到達状況を定期試験で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	定期試験を受験しなかった場合，評価の対象としません。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（志渡）	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	講義目的，内容の概説
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	2（志渡）	学習の主題	保健統計①
		授業内容	人口統計・指標の振り返り
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	3（志渡）	学習の主題	保健統計②
		授業内容	保健統計・指標の振り返り
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	4（志渡）	学習の主題	調査法概論①
		授業内容	研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ①
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	5（米田龍大）	学習の主題	調査法概論②
		授業内容	精神保健研究事例を通じて調査の基礎を学ぶ②。
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	6（米田龍大）	学習の主題	調査法概論③
		授業内容	統計調査と事例調査，調査の倫理
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 （米田龍大）	学習の主題	各論①
		授業内容	標本抽出の方法，データの種類と尺度
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。
	8 （米田龍大）	学習の主題	各論②
		授業内容	調査票の作成，実査の方法
		事前・事後学習	該当部分のテキストのキーワードを中心に事前学習しておく（2 時間）。 配付資料及びテキストを用いて復習する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	小児看護実習 Pediatric Nursing Practicum	担当教員	河崎　和子、佐々木　めぐみ
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	

ねらい	小児期の健康課題・問題をもつ対象者と家族への看護実践能力を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題認識の 4 つの課題をもとに修得する。小児の成長発達と発達課題を理解し、発達段階に応じた日常生活への援助を学ぶ。病院実習においては健康障害が小児とその家族にもたらす影響を理解し、家族との関係形成を含む看護実践の基礎的能力を修得する。また、小児を取り巻く保健・医療・福祉および教育の連携の重要性を学び、療育医療およびチームにおける看護の役割を学ぶ。
実習目標	1. 受けもった子どもと家族（対象者）とのコミュニケーション・観察を通して子どもの健康状態と生活全般を把握し、看護を必要とする健康課題を解釈できる。 2. 明らかになった優先度の高い看護問題に対して看護計画を立案し、対象者の発達段階を考慮し実践できる。 3. 実践した看護が有効であったかを対象者の反応から評価し計画の修正ができる。 4. 実習生として子どもと家族の安全と人権に配慮し、自覚と責任をもち主体的に取り組むことができる。 5. 子どもと家族への看護を通して、医療チームにおける小児看護の専門性と自分の考えを考察できる。
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いてオリエンテーション時に説明する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	実習要項に記載	100	実習目標到達度を評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。 ＊評価項目および評価基準は実習要項参照

履修上の留意事項	実習病院により対象である小児の健康障害の内容や程度が異なるので、講義・演習の学習内容の復習の他、実習前に提示された事前学習を行い実習に取り組むこと。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、小児期にある対象の看護について理解しやすいよう実習指導を行います。
実習方法	1. 実習は 2 週間とする。 2. 1 週目・2 週目の実習初日は、学内において小児看護技術および基本的な小児看護の知識を復習する。 3. 1 週目・2 週目の実習 2 日目から週の木曜日まで施設実習を行う。 4. 1 週目の金曜日は午後施設にてカンファレンスを実施する。 2 週目の最終日は、学内において午前中は記録整理を行い、午後全体カンファレンスを実施して、グループ内での学びを共有する。 5. 各施設実習初日には、各施設の管理者および病棟管理者、指導者より病院および病棟オリエンテーションを受ける。 6. 対象は健康障害をもつ小児と家族である。 7. 対象は急性期、慢性期、回復期、周手術期と多岐にわたり、発達段階は乳児期から思春期にわたる。 8. 病院実習の最終日にカンファレンスを行い、受けもち患児と家族への看護から学びを共有する。 ＊実習方法の詳細は実習要項をもとにオリエンテーションを実施するので必ず出席すること。 なお、旧カリキュラムの入学生は、前期に上記内容の実習で読み替えを行う。
実習施設	市内・市近郊 8 か所の施設 JCHO 札幌北辰病院、JCHO 北海道病院、市立札幌病院、札幌医科大学附属病院、手稲渓仁会病院 北海道立子ども総合医療・療育センター、稲生会くまさんの手、小樽病院みどりの里

2022 年度以降入学生対象

授業科目	母性看護実習 II Maternal Nursing Practicum II			担当教員	齋藤　早香枝、野崎　由希子		
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	妊娠、分娩期の経過を踏まえ、褥婦と新生児の正常な経過を理解して健康課題を捉え、ウェルネス看護の視点から看護展開を行う。新しい家族関係を理解し、対象者の状態に応じた看護実践の基礎を、看護実践の展開、対人関係の形成、社会資源の活用とチーム連携、倫理的行動と問題意識の 4 つの課題をもとに修得する。母子および家族との援助的関係の形成、生命への畏敬の念をもち倫理的配慮に基づいた行動について学ぶ。退院後の生活を見通した保健指導の必要性、母子を取り巻く地域の保健医療福祉チームとの連携と看護の役割を理解し、多職種と協働できる基礎的能力を体験を通して学ぶ。						
実習目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある母子および家族の特性が理解できる。 2. 母子の健康課題を捉え、ウェルネス看護の視点から看護過程が理解できる。 3. 生命への畏敬の念をもち、倫理的配慮に基づいた行動について考えることができる。 4. 退院後の生活を見通した保健指導の必要性、母性を取り巻く地域の保健医療チームとの連携と看護の役割を理解できる。 5. 医療チームの一員として他者と協働する上で基本となる態度を養う。						
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	目標到達度を評価基準に基づき、実習場での実習内容・態度・実習記録レポートをもとに総合的に評価する。				
履修上の留意事項	母性看護学に関する基礎知識を身につけて実習に臨むこと。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場における経験を織り交ぜながら、母性看護の対象者への支援について理解しやすいよう実習指導を行います。						
実習方法	詳細は、実習要項およびオリエンテーション資料を参照のこと。						
実習施設	旭川医科大学附属病院、倶知安厚生病院、札幌医科大学附属病院、市立札幌病院、JCHO 北海道病院、札幌徳洲会病院、勤医協札幌病院						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	精神看護実習 Psychiatric Nursing : Practicum			担当教員	原田　由香、高橋　正樹		
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	
ねらい	心を病む人とのかかわりを通し、対象者について生活の観点から理解を深め、必要な看護活動および精神医療チームにおける多職種との協働について学ぶ。						
実習目標	1. 受持ちの対象者とのかかわりを通して、精神保健上の健康課題により日常生活や、対人関係に困難を抱えている人について理解を深める。 2. 受持ちの対象者の発達段階や健康状態・生活の状況をアセスメントし、精神の健康が生活におよぼす影響について理解する。 3. 受け持ちの対象者とのコミュニケーションの振り返りを通して得られた気づきを援助技術として活用し患者 - 看護師関係について学ぶ。 4. 受け持ちの対象者を生活者の視点から対象者を取り巻く環境や多職種チームによる協働の意義を学ぶ。						
実習内容	具体的な内容については実習要項にそって実習オリエンテーションにおいて説明する。						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	実習評価表に基づき、実習施設での実習内容、実習態度、実習記録をもとに総合的に評価する。				
履修上の留意事項	これまでの学習を生かし、真摯な姿勢で積極的に取り組むこと。						
実務経験を活かした教育内容	精神科病棟・病院にて実務経験のある担当教員が実習に同行する。						
実習方法	1. 統合失調症または気分障害などの精神疾患を有する人 1 名を受け持ち、対象者ならびに関係性の理解を深め、必要な看護活動を展開する。 2. 病棟でのミニカンファレンス（毎日）、第 1 週目および第 2 週目の学内カンファレンス（各 1 回）において、実習で生じた疑問や問題点について検討したり、グループ間で実習での学びを共有する。 3. 1 グループ学生 2〜4 名を各病院施設に配置して実習する。						
実習施設	岡本病院、旭山病院、さっぽろ香雪病院、五稜会病院、大谷地病院、ここリカプロダクション						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	在宅看護実習 Home Care Nursing：Practicum			担当教員	針金　佳代子、他		
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期			選択・必修	必修		
授業形態	実習			単位数	2 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	◎	○	○
ねらい	在宅における看護活動を通して、地域において疾病や障がいを持ちながら療養している人々とその家族の健康状態と生活状況を理解し、対象の多様性と個別性を尊重し倫理的課題に配慮しつつ予防的な視点をもって展開される在宅看護の特徴を学び、多職種と連携協働をしながら地域包括ケアシステムを推進していくための看護師の役割を学ぶ。						
実習目標	目標１．在宅療養者とその家族の健康と生活を理解し、対象の思いや望む生活を支える看護過程を理解できる。 目標２．地域で生活する在宅療養者・家族を支える在宅看護の特徴を理解できる。 目標３．在宅で療養する人々を支える地域包括ケアシステムを理解し、関連機関や関連職種との連携および社会資源の活用方法について理解できる。 目標４．在宅看護を学ぶ学生として、主体的に学び責任ある態度で実習に臨むことができる。						
実習内容	具体的な内容については実習要項を用いて、実習オリエンテーションで説明する						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	実習要項に記載	100	・実習時間の 3 分の 2 以上の出席が評価対象となる ・実習評価表に基づき、目標到達度を評価する				
履修上の留意事項	事前学習を行い、実習に臨んでください。実習オリエンテーションには必ず出席してください。 看護の対象者は地域で療養しながら生活している人々です。本人と家族がどの様な思いを持ちながら生活されているのかに関心を持ち、その生活を支える看護の役割をしっかり考えてください。実習で受けた説明や体験したことの意味を考えながら学びを深めてください。						
実務経験を活かした教育内容	地域において多様な在宅療養者と家族を看護した実務経験者の立場から、在宅看護について理解しやすいように実習指導を行います。						
実習方法	グループ（学生 2〜3 名）毎に、いずれかの訪問看護ステーションで以下の方法に従って実習を行う 1．実習体制 1）実習は実習施設 8 日間、学内実習 1 日間の計 2 週間で行う。 2．実習内容 1）受け持ち事例について：実習中に 1 事例を受け持ち、看護過程を展開する ・可能な限り、2 回以上の訪問看護を実施する 2）受け持ち事例以外の方への訪問看護や訪問リハビリへの同行、デイケア等への参加し、学びを深める 3）他機関・他職種観の連携活動を学ぶ機会として、可能な限り「サービス調整会議」「退院予定者の退院支援」等への参加する 4）行動調整および学生カンファレンス ・実習は、毎日訪問看護ステーション内で実習指導者と行動調整を行い、実習に臨む ・実習終了時には 1 日の振り返りをする。 ・1 週目の木曜日は学内で中間カンファレンス、最後日には実習施設で最終カンファレンスを行う。 5）学内実習は、指定された課題に沿って学習する						
実習施設	医療法人東札幌病院訪問看護ステーション東札幌、医療法人東札幌病院訪問看護ステーションみずほ 医療法人社団豊生会東苗穂訪問看護ステーション、社会医療法人康和会訪問看護ステーションしらかば、 愛全会訪問看護ステーションみなみ、愛全会訪問看護ステーションまこまない、 愛全会訪問看護ステーションとよひら・ちゅうおう、 医療法人徳洲会札幌ひがし徳洲会訪問看護ステーション、社会福祉法人渓仁会訪問看護ステーションあおば 社会医療法人恵和会訪問看護ステーション水源池すずらん、株式会社はる日訪問看護ステーション晴日 医療法人札幌山の上病院札幌山の上リハ訪問看護ステーション 勤医協きくすい訪問看護ステーション、勤医協つきさむ訪問看護ステーション 勤医協札幌ひがし訪問看護ステーションしのろサブステーション SOMP ケア株式会社 SOMPO ケア札幌発寒訪問看護 温っとほーむ株式会社訪問看護リハビリテーション温っとほむ 株式会社スマイル訪問看護ステーションピンポンハート						

2022 年度以降入学生対象

授業科目	災害看護論 Disaster Nursing	担当教員	針金　佳代子、葛西　陽子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎

授業目的	わが国の災害の歴史や特徴を理解し、災害による地域の人々の生活や健康、そして社会への影響について学び、災害に対する法・制度のしくみを理解する。災害の特徴を踏まえた災害サイクル各期における人々の健康生活へのニーズを理解し、リスクマネジメントにおける看護職の役割と機能について学ぶ。
到達目標	1）災害と災害看護・災害医療に関する基礎的知識を理解する。 2）災害の種類による疾病構造について理解する。 3）災害サイクル各期における特徴を理解する。 4）災害関連機関の役割・支援体制について理解する。 5）災害時の看護活動の実際及び連携と協働について理解する。
テキスト	開講時に提示する。
参考書	開講時に提示する、

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		レポート：授業内容を踏まえて、災害看護に関する自己の考えを記述する。 レポートのテーマおよび評価基準の詳細は、開講時のガイダンスにおいて説明する。
	レポート	100	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	日常的に報道される災害関連の情報を関心をもって収集し、そこに生じている諸現象と人々の生活そして健康との関連について考え続けてください。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、現場での具体的な事例を交えながら分かりやすく授業を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （未定）	学習の主題	災害看護の基礎(1)
		授業内容	災害看護の歩み、定義、法律について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	2 （未定）	学習の主題	災害看護の基礎(2)
		授業内容	災害の種類別疾病構造、災害と感染について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	3 （未定）	学習の主題	災害看護の基礎(3)
		授業内容	トリアージ、DMAT、災害と情報、災害拠点病院について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	4 （未定）	学習の主題	災害急性期・亜急性期の看護
		授業内容	避難所における看護について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	5 （未定）	学習の主題	災害慢性期・復興期の看護
		授業内容	仮説住宅における健康生活支援、こころのケアについて
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	6 （未定）	学習の主題	災害静穏期の看護
		授業内容	病院防災の備え、地域防災の備えについて
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7 (未定)	学習の主題	災害時の看護(1)
		授業内容	災害時における行政・ボランティア・地域の連携協働について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)
	8 (未定)	学習の主題	災害時の看護(2)
		授業内容	DMAT、災害支援看護師の活動の実際について
		事前・事後学習	学習主題の予習(2 時間)、学習の主題の復習(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護課題研究 Nursing Research	担当教員	木津　由美子、吉田　祐子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・通年	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○			◎

授業目的	自己の看護への興味や疑問から自らの課題を設定し解決するために、これまで学習してきた情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの汎用的技能と看護学研究法で学んだ基礎的知識をもとに適切な手法を選択して計画的かつ系統的に探究することで、創造的思考力を養う。また、研究計画書を作成し、討議や発表を通して論理的表現や批判力の向上を図るとともに研究の基礎的知識・技術・態度を養う。
到達目標	1. 自己の探求課題を明確にする。 2. 自己の課題に関連する先行文献を検索し、整理することができる。 3. 文献を要約し、批判的に講読することができる。 4. テーマを探求するための計画書を作成することができる。 5. 研究に係る倫理的配慮のもとに、計画書を実施することができる。 6. 研究計画書を発表することができる。 7. 研究の基本的知識・技術・態度を身につける。
テキスト	なし
参考書	研究の基礎的な方法については、看護学研究法のテキスト・参考文献に同じ。 課題に関連した文献は、担当教員の指導・助言をもとに各自で検索し活用する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		評価については、ガイダンス時に評価表を提示し説明する。 ・研究計画書（60%） ・発表資料（10%） ・研究計画書作成に対する姿勢（15%） ・発表（15%） 以上の評価基準に基づき評価し、60 点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
	その他	100	

履修上の留意事項	グループで 1 年を通して研究計画書の作成を学習します。チームワークを発揮して取り組みましょう。
実務経験を活かした教育内容	各担当教員は、実務経験者の立場から専門分野の特徴を踏まえて、学生が看護課題を探求できるように演習を展開します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （全担当教員）	学習の主題	本科目の目的・目標・学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項などを説明。
		授業内容	ガイダンス後、グループに分かれ各担当教員のもと年間スケジュールを立案する。
		事前・事後学習	（事前）：シラバスを読み、履修上の疑問を明らかにしておく。看護学研究法最終講義時に提出した研究テーマ希望について内容を確認し、ガイダンスに臨む（1 時間）。 （事後）：各ゼミでの進め方を整理し、国試対策・就職試験他多重課題となるため、年間スケジュールを立案しノートにまとめる（2 時間）。
	2〜5 （全担当教員）	学習の主題	研究課題の設定①
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題を設定する。 ・グループ・ディスカッション ・研究課題に関する文献検索 ・研究課題の設定
		事前・事後学習	（事前）：各自、研究課題に関する考えを明確にしてグループワークに臨む（1 時間）。 （事後）：研究課題に関する文献検索については、担当教員の指導のもと行い、必要な文献検索・収集をする（2 時間）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6～10 (全担当教員)	学習の主題	文献検索と整理②
		授業内容	担当教員のもとで、研究課題に関する文献検索、購読し課題を明確化する。 ・研究課題に関連した文献を収集する。 ・収集した文献を系統的に整理する。 ・整理した文献を購読、要約し、研究課題を明確化する。
		事前・事後学習	(事前):ゼミ前の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。 (事後):ゼミ後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。
	11～15 (全担当教員)	学習の主題	文献レビュー③
		授業内容	収集、整理した文献について批判的検討を行う。 ・研究課題に関連した適切な論文を選択する。 ・選択文献を精読し文献カードを作成する。 ・文献の分類、分析、統合により研究課題を概観する。
		事前・事後学習	(事前):ゼミ前の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。 (事後):ゼミ後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。 文献を批判的に検討し、研究課題に関連した研究背景を概観し、それらをグループ間で共有する。
	16～23 (全担当教員)	学習の主題	研究計画書④
		授業内容	研究課題を明らかにするための研究計画書を作成する ・研究課題が明確である。 ・研究動機が明確である。 ・研究目的に即した文献検索・検討から研究背景が適切に述べられている。 ・研究の意義が看護の視点から述べられている。 ・研究目的を明らかにするための研究方法を選択している。 ・研究目的を明らかにするための対象選択である。 ・研究目的を明らかにするためのデータ収集方法である。 ・倫理的配慮が述べられている。 ・役割分担が適切である。 ・参考・引用文献の記載が適確である。 上記の内容を網羅させた研究計画書の作成に取り組む。
		事前・事後学習	(事前):ゼミ前の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。 (事後):ゼミ後の学習課題は、担当教員の指示に従い行う(2時間)。
	24 (木津)	学習の主題	発表オリエンテーション⑤
		授業内容	発表についてオリエンテーションを行い、発表準備をする。 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 ・発表オリエンテーションに参加する。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任を理解する。 ・メンバー間で役割分担を決め発表準備をする。
		事前・事後学習	発表についてオリエンテーションを行い、発表準備をする。 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 ・発表オリエンテーションに参加する。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任を理解する。 ・メンバー間で役割分担を決め発表準備をする。
	25・26 (全担当教員)	学習の主題	発表準備⑥
		授業内容	研究計画書発表準備を行う。 ・発表抄録を作成要領に基づいて作成する。 ・発表内容に即したパワーポイント資料を作成する。 ・発表オリエンテーションに参加する。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割責任を理解する。 ・メンバー間で役割分担を決め発表準備をする。
		事前・事後学習	(事前):スライド作成について作成要領を確認する(1時間)。 (事後):スライドと発表原稿を作成し、グループ間で理解・共有し、発症練習をする(2時間)。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	27～30 （全担当教員）	学習の主題	発表オリエンテーションと発表⑦
		授業内容	発表に対して役割分担の責任を理解し、主体的に参加する。 ・タイムスケジュールに沿って発表を行う。 ・発表者、司会進行係、参加者の役割を担い、学びを共有する。
		事前・事後学習	（事前）グループ間で発表練習を行い発表会に臨むこと（2時間）。 （事後）通年での取り組みについて振り返り、ノートに学びや気づきについて整理する（2時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	クリティカル看護論 Critical Nursing	担当教員	小野　善昭
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎

授業目的	生命の危機状態（重篤・急変状態）にある患者・家族への看護の基本的な知識・技術を理解するために、患者・家族の特徴や倫理的問題の基本概念を理解しつつ、クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解する。特に呼吸管理・循環管理・代謝管理に関する知識と看護援助の実際について学ぶ。また、緊急時対応の原則、リスクマネジメントなど、クリティカルな場において看護師の果たすべき役割について理解する。さらに、クリティカルケアの専門性について講義をとおして学ぶ。
到達目標	1. クリティカルケアに関する基本概念について理解できる 2. クリティカルな状態にある患者の病態とその特徴を理解できる 3. クリティカルな状態にある患者・家族への看護援助について理解できる 4. 呼吸管理、循環管理、代謝管理が必要な患者への看護について理解できる 5. 外傷や臓器移植などクリティカル領域における特徴的な看護について理解できる
テキスト	1. 明石惠子,益田美津美他「新体系看護学全書　経過別成人看護学　1 急性期看護：クリティカルケア」（メヂカルフレンド社）
参考書	1. 道又元裕他「系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学」（医学書院） 2. 佐藤まゆみ,林直子他「成人看護学 急性期看護 II 救急看護・クリティカルケア（改訂第 3 版）」（南江堂） 3. 池松裕子「クリティカルケア看護 I - 患者理解と基本的看護技術」（メヂカルフレンド社） 4. 池松裕子「クリティカルケア看護 II - アセスメントと看護ケア」（メヂカルフレンド社） 5. 池松裕子他「クリティカルケア看護論」（ヌーヴェルヒロカワ） 6. 山勢善江「救急・クリティカルケアにおける看取り（Nursing Mook 49）」（学研） 7. 山勢博彰他「救急・重症患者と家族のための心のケア - 看護師による精神的援助の理論と実践」（メディカ出版） 8. 黒田裕子他「クリティカルケア看護　完全ガイド」（医歯薬出版）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60	目標達成状況を定期試験（60%）、レポート（40%）により総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた危機的状況にある事例に関するレポートなどの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。
	レポート	40	
	小テスト		
	提出物		
	その他		

履修上の留意事項	本科目に関係するこれまでの学習について復習し、事前学習を行って授業に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜2 時間の時間を要します。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、クリティカル看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に CNS として活躍されている方をゲストスピーカーとして招き、実践状況を踏まえて授業を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、基本概念、侵襲に伴う生体反応
		授業内容	1. ガイダンス 2. クリティカルケアの定義 3. クリティカルケア看護の対象と特徴 4. 神経・内分泌系反応 5. サイトカインの作用様式 6. 全身性炎症反応症候群（SIRS）と代謝性抗炎症反応症候群（CARS）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2	学習の主題	呼吸不全患者への看護
		授業内容	1. 呼吸不全と人工呼吸器装着の適応 2. 人工呼吸の主な換気様式 3. 全身への影響・合併症 4. 観察とケア ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	3	学習の主題	循環不全患者への看護
		授業内容	1. 循環状態の安定を図るための援助 2. PCPS：経皮的心肺補助装置 3. IABP：大動脈バルーンパンピング ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	4	学習の主題	鎮痛・鎮静、せん妄予防とケア
		授業内容	1. 痛みの評価とマネジメント 2. 鎮静の評価とマネジメント 3. せん妄の評価とマネジメント 4. せん妄患者および家族へのケア ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	5	学習の主題	外傷患者への看護
		授業内容	1. 外傷患者の特徴と治療 2. 外傷患者の看護ケア ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	6	学習の主題	移植医療、脳死と臓器移植
		授業内容	1. 臓器移植とは 2. 臓器移植の現状 3. 脳死 4. 脳死判定 5. 臓器移植における看護師の役割 ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	7	学習の主題	クリティカルケアにおける終末期医療（ゲストスピーカー）
		授業内容	1. クリティカルケアにおける終末期 2. 倫理問題への対応 3. 意思決定支援 4. 緩和ケア ※（ゲストスピーカー）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする
	8	学習の主題	クリティカルケアと倫理的問題、チーム医療、まとめ
		授業内容	1. 看護倫理の定義と原則 2. 多職種との協働 3. チーム医療の中の看護師の役割 4. まとめ
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、参考文献を読んで疑問点を明らかにする 事後学習：指示された課題をレポートにまとめ、提出する

2022 年度以降入学生対象

授業科目	慢性看護論 Chronic Care Nursing	担当教員	加藤　剛寿、伊藤　円、渡辺　美和、 小島　悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択必修
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎

授業目的	看護者は慢性疾患を持つ患者一人ひとりの多様な価値観や生き方、さまざまな役割を持った一人の生活者であることを理解し、具体的な知識・技術を提供するとともに、セルフマネジメント力を身に付けられるようアプローチしていく必要がある。 本授業では、臨床現場の第一線で活躍する専門看護師からの講義を通して、専門性の高い慢性疾患看護やがん看護を発展的に広い視野で捉えること、また、生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象者の健康問題を捉え、その人の生活習慣を理解し、健康を維持・増進するための看護の実際やソーシャルサポートについて学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 慢性期看護の専門性について考えることができる。 2. 慢性期及び慢性期看護の特徴を概説できる。 3. 慢性疾患を抱える人の病気の経過と看護について考えることができる。 4. 慢性の病気とともに生活している人の身体的・心理社会的・スピリチュアルなニーズを説明できる。 5. 慢性の病気とともに自分らしい生活を送るための行動変容を促す看護について考えることができる。 6. がんサバイバーの全人的苦痛と支援について説明できる。
テキスト	鈴木久美、他編「成人看護学　慢性期看護 - 病気とともに生活する人を支える 第 3 版」（南江堂）
参考書	1. 鈴木志津枝・藤田佐和 編「慢性期看護論　第 3 版」（ヌーヴェルヒロカワ） 2. 安酸史子「糖尿病患者のセルフマネジメント教育 エンパワメントと自己効力 改訂 2 版」（メディカ出版） 3. P・ディヤング 他「解決のための面接技法 第 3 版」「同 4 版」（金剛出版） 4. 河口てる子 編「慢性看護の患者教育」（メディカ出版） 5. 田村恵子編「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」（メヂカルフレンド社） 6. 矢ヶ崎香「サバイバーを支える看護師が行うがんリハビリテーションがん看護実践ガイド」（医学書院） 7. 近藤まゆみ「臨床・がんサバイバーシップ“ 生きぬく力 “を高めるかかわり Series. 看護のエスプリ」（仲村書林）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標到達状況を提出物によって評価する。 加藤・伊藤（各 10%）：提出物の内容は講義時に説明します。 渡辺 美和（40%）：提出物の内容は講義時に説明します。 小島（40%）：提出物の内容は講義時に説明します。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	慢性疾患看護専門看護師の授業は同一日に連続で行われることがあります。評価基準のとおり、評価割合が高いため、特に全出席できるよう体調管理を十分整えていきましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床看護の経験や現場での事例などを講義に織り交ぜながら、それぞれの内容について理解しやすいように授業を行います

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （加藤） （伊藤）	学習の主題	ガイダンス、慢性疾患を抱える人の病気の経過と看護
		授業内容	1. 慢性疾患の経過の特徴 2. 慢性疾患とともに生活している人の特徴 3. 慢性疾患を抱える人の家族の特徴 4. 慢性疾患とともに生活している人への看護
		事前・事後学習	事前学習：該当部分のテキストを読んでおく(2 時間) 事後学習：授業の学びについて所定の用紙に記述・提出、復習(2 時間)

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	2 (加藤)	学習の主題	慢性疾患を抱える人に対する行動変容を促す看護
		授業内容	1. 解決のための面接技法「ソリューション・フォーカストアプローチ」 2. ソリューション・フォーカストアプローチの実践例
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習(2 時間)・事後の課題提出と復習(2 時間)
	3、4、5 (渡辺)	学習の主題	慢性疾患看護専門看護師の役割 慢性疾患看護専門看護師が行う糖尿病を抱えて生活する人の看護
		授業内容	1. 慢性疾患看護専門看護師の役割 2. 慢性疾患看護専門看護師の糖尿病の人への看護の実際 3. キャリア形成
		事前・事後学習	事後学習：学習主題の予習(2 時間)・事後の課題提出と復習(2 時間)
	6 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの理解
		授業内容	1. がんサバイバーシップの考え方 2. がんサバイバーシップの歩むプロセス 3. がんサバイバーの全人的苦痛
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習(2 時間)・課題提出と復習(2 時間)
	7 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援(1)
		授業内容	1. がんサバイバーの全人的苦痛に対する支援 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習(2 時間)・課題提出と復習(2 時間)
	8 (小島)	学習の主題	がんサバイバーの支援(2)
		授業内容	1. がんサバイバーに対する支援の実際 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習主題の予習(2 時間)・課題提出と復習(2 時間)

2022 年度以降入学生対象

授業科目	リハビリテーション看護論Ⅱ Rehabilitation Nursing Ⅱ			担当教員	小野　善昭		
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期			選択・必修	選択必修		
授業形態	講義			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
						○	◎
授業目的	リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護の実際から、リハビリテーション看護の知識・技術・態度について学び、リハビリテーションに関わる各職種の役割および保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。また、在宅でリハビリテーションを必要としている人とその家族に対する支援や健康増進に向けた知識・技術を習得することを通して地域包括ケアシステムについて講義をとおして学ぶ。						
到達目標	1. リハビリテーションにおける看護の役割について理解する 2. リハビリテーションの目的とリハビリテーションに関わる職種の役割について理解し、チーム医療における看護職の役割を理解する 3. リハビリテーションを必要としている人とその家族への看護援助について理解する 4. 在宅でリハビリテーションをしている人とその家族に対する必要な援助について理解する						
テキスト	1. 酒井郁子/金城利雄 編集「リハビリテーション看護　改訂第 3 版」(南江堂)(2 年次購入済み)						
参考書	1. 中西純子/石川ふみよ 編集「リハビリテーション看護論　第 3 版」(ヌーヴェルヒロカワ) 2. 武田宜子/下村晃子 他「系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　第 6 版」(医学書院) 3. 奥宮暁子他 編集「ナーシンググラフィカ成人看護学⑤　リハビリテーション看護」(メディカ出版) 4. 落合芙美子 監修「新体系看護学全書　別巻　リハビリテーション看護　第 2 版」(メヂカルフレンド社)						
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準				
	試験	60	到達目標に照らし、筆記試験と提出物で総合的に評価する。講義中に授業内容に応じた障がいをもつ人への看護及び講義での学びに関するレポートなどの課題を課す。試験では到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。				
	レポート	40					
	小テスト						
	提出物						
	その他						
履修上の留意事項	事前、事後学習を確実に行って講義に参加してください。なお、各授業の予習・復習の詳細は別途お知らせしますが、概ね予習・復習それぞれに 1〜2 時間の時間を要します。						
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床の現状、現場での事例、などを講義に織り交ぜながら、リハビリテーション看護の実践について理解しやすいように授業を行います。特に病院や在宅でのリハビリテーション看護に携わるゲストスピーカー招き、実践を踏まえて授業を行います。						
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容				
	1	学習の主題	呼吸機能や循環機能に障害のある人へのリハビリテーション看護				
		授業内容	1. ガイダンス 2. 呼吸機能や循環機能に障害のある対象者のリハビリテーションの目的 3. 呼吸リハビリテーション・心臓リハビリテーションの実際 4. 呼吸リハビリテーション・心臓リハビリテーションを受けている対象者への看護の実際				
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを熟読し、目標と内容について確認する 呼吸器疾患、循環器疾患および看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する				
	2	学習の主題	摂食嚥下障害のある人へのリハビリテーション看護				
		授業内容	1. 摂食嚥下のメカニズムとその障害 2. 嚥下障害のアセスメント 3. 嚥下障害のある対象者へのリハビリテーション看護 ※ゲストスピーカー				
		事前・事後学習	事前学習：摂食嚥下障害及びその看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する				

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	3	学習の主題	高次脳機能障害・言語機能障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 高次脳機能障害とリハビリテーション 2. 言語機能障害とリハビリテーション ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：各機能障害及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	4	学習の主題	脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 脳神経疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 脳神経疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：脳神経疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	5	学習の主題	障害を有する子どもへのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 障害を有する子どもとリハビリテーション 2. 障害を有する子どもへのリハビリテーション看護の実際 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：障害を有する子どもへのリハビリテーション及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	6	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護1
		授業内容	在宅リハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 1. 生活期リハビリテーションが行われる場とその特徴 2. 在宅でのリハビリテーションの実際 3. 地域リハビリテーション ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	7	学習の主題	在宅リハビリテーションを行っている人へのリハビリテーション看護2
		授業内容	在宅でリハビリテーションを行っている人とその家族に対する必要な援助 ※ゲストスピーカー
		事前・事後学習	事前学習：在宅看護論で学習した内容について復習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する
	8	学習の主題	運動機能障害のある人へのリハビリテーション看護
		授業内容	1. 運動器疾患のある人へのリハビリテーションの目的 2. 運動器疾患のある人へのリハビリテーション看護 3. 運動器疾患でリハビリテーションを受けている人への看護の実際 4. ロボット工学とリハビリテーション 5. まとめ
		事前・事後学習	事前学習：運動器疾患及び看護についてテキストを用いて学習する 事後学習：事前学習の内容に講義の内容を追加し、整理する 指示された課題をレポートにまとめ、提出する

2022 年度以降入学生対象

授業科目	国際看護論 International Nursing	担当教員	大野　夏代、鈴木　幹子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
			○				◎

授業目的	グローバリゼーションの概念やグローバリゼーションが健康に与える影響について学び、世界の健康問題、特に途上国を中心に世界の健康問題の現状と対策を理解し、各国の協調により問題を解決するための仕組みを学ぶ。また、社会文化を背景とする健康・疾病概念、及び保健行動の多様性を知り、看護の普遍性と多様性を理解し、より広い視野から看護の果たすべき役割を考察する。さらに、保健医療の国際協力における看護の役割、諸外国の社会経済や文化・教育に起因する健康課題と看護の現地における活動、災害等への国際支援活動に関する基礎知識から、看護活動を通じての国際共存の考え方を習得する。
到達目標	1. グローバル・ナーシングの概念を理解する。 2. 看護における国際協力、国際交流の現状について理解する。 3. グローバル・ヘルスにおいて看護職である自分自身の果たす役割について考察する。
テキスト	南裕子監修「国際看護学 - グローバル・ナーシングに向けての展開」（中山書店）
参考書	近藤麻里「知って考えて実践する国際看護」（医学書院）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の到達状況を以下のように評価する。 1. 授業内レポートの提出状況、内容から目標 1〜3 の到達状況を評価する。 2. 提出物の提出状況、内容から目標 3 の到達状況を評価する。 大野 80%：レポート 50%、提出物 30% 鈴木 20%：レポート 20%
	レポート	70	
	小テスト		
	提出物	30	
	その他		

履修上の留意事項	授業の順序は、若干変更する可能性があります
実務経験を活かした教育内容	国際的な看護の体験を織り交ぜ、医療人として、また地球市民として、毎日の行動の選択を考える機会となるような授業を実施します。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（大野）	学習の主題	グローバル・ナーシングとは
		授業内容	1. 国際保健からグローバル・ヘルスへという概念を理解する。 2. グローバリゼーションが与える健康への影響を理解する。 3. 持続可能な開発目標（SDGs）とその取組を理解する。 4. 環境と健康の関係を考える。
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 1 章を読んでおくこと（3 時間）。
	2（大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える①
		授業内容	1. 在日外国人の保健医療 2. 在外日本人の保健医療
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 2 章を読んでおくこと（3 時間）。
	3（大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える②
		授業内容	1. 在日外国人が日本で経験する医療文化の違いを理解する。 2. 保健医療現場における外国人対応について考える（グループワーク含む）。
		事前・事後学習	事後学習：「食文化のタブー」について別途指示（授業内レポート A）（4 時間）
	4（大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える③
		授業内容	在日外国人のゲストスピーカーによる日本での患者体験
		事前・事後学習	事後学習：p182 課題②（授業内レポート B）（5 時間）

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5 （大野）	学習の主題	異文化・多文化と看護を一緒に考える④
		授業内容	外国人模擬患者演習
		事前・事後学習	事例の看護計画（5 時間）
	6 （大野）	学習の主題	国際的看護の活動
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 外国人看護師の研修の受け入れ 3. 国際的看護活動の計画（テキスト付録にある課題⑧）
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 6 章を読んでおくこと（3 時間）。
	7 （大野）	学習の主題	国際的な視野を持つ看護師になるというチャレンジ
		授業内容	1. 国際的看護活動で看護専門職に求められる能力について理解する。
		事前・事後学習	事前学習：テキスト第 7 章を読んでおくこと（3 時間）。
	8 （鈴木）	学習の主題	国際的看護の活動（海外における災害医療支援）
		授業内容	1. 国際協力における看護の役割 2. 国際的看護活動の実際
		事前・事後学習	事後学習：講義を受けての学びをレポートにして提出する。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護教育論 Nursing Education	担当教員	大日向　輝美
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
							◎

授業目的	本科目は「看護教育の歴史・現状・課題」をテーマとします。しかし、これらを体系的に叙述することは不可能なので、看護・看護教育のありようを概観し、批判する材料を提供したいと思います。なぜなら、「教育」という営みの本来的な価値は「多くのことを教えるのではなく、多くのことが見えてくることを教える」（須田勝彦）ことにあると考えるからです。「多くのことが見えてくる」というのは、物ごとを多面的かつ批判的に捉え、将来を切り拓いていく力を得ていくことを意味します。本科目では、看護・看護教育の観点から「多くのことが見えてくる」ための材料を提供し、それらをもとに自らの考えを深めてもらいたいと願います。この科目への取り組みによって、大学で看護学を学んだ意味を改めて問い、看護・看護学に向き合う自己のありようを捉え直す契機としてください。
到達目標	1. 教育・看護教育の目的・機能について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 2. 看護の専門職化について、授業内容と関連づけて自己の意見を表明できる。 3. 我が国の看護職養成制度の変遷と特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 4. 我が国の看護職養成課程の特徴、課題について、規定要因と関連づけて説明できる。 5. 大学で看護学を学んだ意味を問い直し、自己のキャリア・アップ、生涯学習のあり方について構想できる。
テキスト	なし
参考書	1. 杉森みどり、舟島なをみ編「看護教育学」第 6 版（医学書院） 2. グレッグ美鈴、池西悦子「看護教育学」（南江堂） その他、適宜授業中に紹介します。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		提出物：毎時の授業、事前・事後学習ではワークシートを用いて思考をまとめ、提出します。評価基準等の詳細は 1 回目の授業で説明します。 レポート：看護教育に関する自分なりの考察を行っているか否か等を評価します。評価基準等の詳細は 8 回目の授業で説明します。
	レポート	30	
	小テスト		
	提出物	70	
	その他		

履修上の留意事項	授業は、学生と教員、学生同士の対話の場なので、積極的な参加を求めます。また、この科目では「考える」ことを重視します。学生生活の最終年にこれまでの学修を改めて意味づけ、看護・看護教育について考えてみたいと希望する学生の履修を歓迎します。なお、授業進行は履修者の取り組みや希望によって変更することがありえます。下記の授業計画は現時点における一応のストーリーと理解してください。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、教育とは何か
		授業内容	・本科目の目的・内容・方法、履修上の留意事項（ガイダンス） ・「教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・教育の概念と概要に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む
	2	学習の主題	看護教育とは何か
		授業内容	・「看護教育とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・看護教育の概念と概要に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む。
	3	学習の主題	看護職は専門職か
		授業内容	・「専門職とは何か」にかかわる問いへの取り組み ・専門職の概念・要件、看護の専門職化等に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4	学習の主題	看護職養成制度の体系と変遷を知る
		授業内容	・教育法制と看護職養成制度の位置づけ、変遷、規定要因等に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む
	5	学習の主題	看護職養成制度の現状と課題を捉える
		授業内容	・看護職をめぐる二重制度（看護師・准看護師）に関する講義 ・准看護師制度にかかわる問いへ取り組み
		事前・事後学習	事前（1 時間）：配付資料を講読し、ワークシートの課題に取り組む 事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む
	6	学習の主題	看護職養成課程の特徴と変遷を知る」
		授業内容	・保健師助産師看護師法と指定規則、指定規則の変遷等に関する講義 ・指定規則の変遷と看護学の発展過程にかかわる問いへの取り組み
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む
	7	学習の主題	看護職養成課程の現状と課題を捉える
		授業内容	・本学の教育課程の特徴と課題にかかわる問いへの取り組み ・看護職養成課程の課題と展望に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：ワークシートの課題に取り組む
	8	学習の主題	看護職としてのキャリア・アップと継続学習に向き合う
		授業内容	・キャリアと継続学習に関する講義
		事前・事後学習	事後（1 時間）：自らのキャリアデザインをワークシートにまとめる、その他ワークシートの課題に取り組む

2022 年度以降入学生対象

授業科目	看護総合実習 Integrative Nursing：Practicum	担当教員	木津　由美子、吉田　祐子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	2 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	○	◎

ねらい	看護実践能力を培うことをねらいとして、4 年間の学習の集大成として既習の学習内容や体験を統合し、複数患者を対象とした看護活動を行い、看護活動を通して今後の自己課題を明確にすることである。このねらいを達成するために、看護チームの一員として、複数の患者・家族への看護を実践するなかで、看護の優先度ならびに必要性を判断し、今後の基盤となる看護実践能力を身につける。また、保健医療福祉チームが患者・家族を中心にどのように連携・協働しているのかの実際を学ぶ。
実習目標	1．対象理解に必要な情報を意図的に収集する。 2．患者－看護師間のケアの概念に基き、援助的人間関係を形成する。 3．看護チームの一員として看護実践のなかで生じる多様な状況を判断し実践する。 4．患者の状況に応じて安全に看護を実践する。 5．保健医療福祉チームにおける看護職者の果たす役割、機能についての実際を理解する。 6．実習の全プロセスを通して責任ある態度で実習する。 7．看護職としての今後の自己課題を明確にする。
実習内容	具体的な内容については、実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明する。

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	実習要項に記載	100	実習評価基準、出席状況、態度に基づき、目標の到達状況を評価する。 詳細は、実習オリエンテーション時に示す。

履修上の留意事項	実習のオリエンテーションは必ず参加すること。その上で、病棟の特性に合わせた事前学習を必ず行っておく。また、これまでの学習内容（講義・演習・実習等）を復習し、複数の対象者を受け持ってタイムリーに看護実践ができるよう準備を整えておく。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 複数患者を受け持ち、看護チームスタッフ / 実習指導者とともに看護を実践する。 2. 看護チームスタッフ / 実習指導者とともに、複数患者のケアの優先度を考え、一日の行動計画を立案・実施する。 3. 必要時、病棟カンファレンスに参加（見学）する。 4. 保健医療福祉チームの一員となって、協働して看護を実践する。 5. 週 1 回、教員および施設の実習指導者の参加のもとでケースカンファレンスを行う。 ※詳細は実習要項を参照のこと。
実習施設	札幌医科大学附属病院、札幌東徳洲会病院、札幌徳洲会病院、北海道大野記念病院、クラーク病院、東札幌病院、イムス札幌消化器中央総合病院、イムス札幌内科リハビリテーション病院、北光記念病院、札幌麻生脳神経外科病院、札幌しらかば台病院、石橋胃腸病院

2022 年度以降入学生対象

授業科目	実践総合演習 Comprehensive Seminar in Nursing Practice			担当教員	木津　由美子、吉田　祐子、全看護教員		
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期			選択・必修	必修		
授業形態	演習			単位数	1 単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
					○		◎
授業目的	本科目では、看護実践に関する既習の知識・技術・態度を統合し、課題を解決するための創造的思考力、看護実践力を養うことを目的とする。さらに、この学習を通して、看護実践能力における自己課題を明確にし、自己成長に必要な対策を自ら立案する能力を養う。						
到達目標	1．看護技術の習得状況を確認し、具体的な行動レベルで準備、実施することができる。 2．対象者の状況に合わせて、根拠に基づき看護技術を選択し、実施することができる。 3．上記の学習過程を通じて自己の課題を整理し、改善・向上のための対策を立てることができる。						
テキスト	なし						
参考書	これまでの専門基礎科目・専門科目で使用したテキスト・参考書 ※その他、学習内容に合わせ、 随時紹介する。						

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		目標の達成状況を提出物により総合的に評価する。 ①看護技術チェックリスト（40%） ②日常生活の援助計画（30%） ③自己課題レポート（30%）
	レポート		
	小テスト		
	提出物	100	
	その他		

履修上の留意事項	これまでの知識・技術・態度を振り返り、看護職者としての人間力を養うために、主体的に行動・学習してください。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1 （木津）	学習の主題	1. ガイダンス 2. 看護技術の総復習①
		授業内容	1. 本科目の目的・目標・授業内容、評価方法、履修上の留意事項の確認、参考文献類の紹介 2. 看護技術の手順書の作成①
		事前・事後学習	（事前）：事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく（30 分）。 （事後）：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（1 時間）。
	2 （木津）	学習の主題	看護技術の総復習②
		授業内容	看護技術の手順書の作成②
		事前・事後学習	（事前）：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分）。 （事後）：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する（30 分）。
	3 （全担当教員）	学習の主題	看護技術の総復習③
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	（事前）：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む（30 分）。 （事後）：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する（30 分）。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習④
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する（30 分)。
	5 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑤
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する（30 分)。
	6 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑥
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：これまで学習してきた看護技術について復習し、自己学習して演習に臨む（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、自己学習する（30 分)。
	7 (木津)	学習の主題	看護技術の総復習⑦
		授業内容	看護技術の手順書の作成③
		事前・事後学習	(事前)：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分)。
	8 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑧
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分)。
	9 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑨
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分)。
	10 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑩
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分)。
	11 (全担当教員)	学習の主題	看護技術の総復習⑪
		授業内容	診療補助技術の復習 ・経管栄養　・一時的導尿　・鼻腔・口腔内吸引　・酸素療法 ・点滴静脈内注射　・輸液ポンプ　・採血
		事前・事後学習	(事前)：手順書作成のために必要な看護技術を復習する（30 分)。 (事後)：自己の看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分)。

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	12 (木津)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践①
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の具体的方法の検討・立案、準備
		事前・事後学習	（事前）：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習する（30 分）。 （事後）：事例に合わせた援助の手順書を作成する（30 分）。
	13 (全担当教員)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	（事前）：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む（30 分）。 （事後）：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分）。
	14 (全担当教員)	学習の主題	対象者に合わせた日常生活援助の実践②
		授業内容	対象者（紙上事例）に合わせた清潔・衣生活の援助計画の援助の実施、評価
		事前・事後学習	（事前）：事例に合わせた援助計画に必要な看護技術を復習し、演習に臨む（30 分）。 （事後）：自己の援助計画、看護技術の不十分な点を明確にし、改善策を自己学習する（30 分）。
	15 (木津)	学習の主題	看護技術の総復習、対象者に合わせた日常生活援助のまとめ
		授業内容	1．看護技術、対象者に合わせた日常生活援助の自己課題の明確化 2．自己課題を改善・向上するための対策の整理 3．レポート作成
		事前・事後学習	（事後）：看護技術の自己の課題と改善・向上のための対策をレポートにまとめる（1 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	栄養サポートチーム論 Theory of Nutrition Support Team	担当教員	岡本　智子、氏家　志乃、看護学科教員
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1 単位

学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	

授業目的	栄養サポートチーム(ＮＳＴ)の活動現場を知り、チーム医療連携における専門職としての基本的な知識、技術、態度を学ぶ。
到達目標	ＮＳＴ活動におけるチーム医療連携の意義を説明できる。 ＮＳＴのケアを必要とする対象者に対して管理栄養士として栄養ケアプロセスに則り、栄養アセスメント、栄養計画立案、評価を行うことができる。また診療録（栄養ケア記録）が書けるようになる。 チームとして機能するために、他職種とのコミニュニケーションの重要性を理解する。 課題にむけて専門職種間で連携するための役割を理解し行動に結び付けることができる。
テキスト	（仮）栄養ケアプロセス　演習書　同文書院
参考書	上原誉志夫外　第 4 版　最新臨床栄養学　栄養治療の基礎と実際　光生館（臨床栄養学Ⅳで使用）

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		到達目標の達成度をレポート、課題内容(提出物)で評価する。 レポート：20%　提出物：70%　その他：授業態度 10%
	レポート	20	
	小テスト		
	提出物	70	
	その他	10	

履修上の留意事項	具体的症例の提示と多職種での検討
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	チーム医療の理解についてⅠ
		授業内容	ガイダンス。チーム医療とは何か。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知る
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。
	2	学習の主題	チーム医療の理解についてⅡ
		授業内容	専門職が共労することの意義を考える。チーム医療に関わる診療報酬について。
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	3	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで困難症例に対する栄養評価と栄養診断、栄養ケア計画を立案し、症例をまとめる。
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめ、課題に取り組む（2 時間）
	4	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	栄養ケアの記録（診療録への記載をまとめる）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	5	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで症例①の栄養管理の一連の流れを発表する。教員よりアドバイスをもらう
		事前・事後学習	前回からの課題を行う（2 時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで困難症例に対する栄養評価と栄養診断、栄養ケア計画を立案し、症例をまとめる。
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめ、課題に取り組む（2 時間）
	7	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	栄養ケアの記録（診療録への記載をまとめる）
		事前・事後学習	事前：テキスト・配布資料により予習する（2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）
	8	学習の主題	症例①に基づく栄養管理を学ぶ
		授業内容	グループで症例①の栄養管理の一連の流れを発表する。教員よりアドバイスをもらう
		事前・事後学習	前回からの課題を行う（2 時間）。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる（2 時間）

授業科目	地域連携ケア論Ⅳ Theory of Community-based Care Ⅳ	担当教員	針金　佳代子、槌本　浩司、岡本　智子、百々瀬　いづみ、小川　克子、他
対象学科・年次・学期	看護学科・4年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位

学科ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	◎	

授業目的	「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに係る他職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。そのうち、4年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲで学んだ内容を活用しながら、提示された事例が、住み慣れた地域社会で自分らしく生活するために、どのような支援やシステムが必要なのかを具体的に考え、解決策を提示する。その過程で、学生自身が目指す専門職の立場から、どのような役割を担うことができるかについて考察を深める。
到達目標	・地域で生活する人々の視点で、事例の生活上、および健康上の課題を明らかにできる。 ・事例の課題解決のために必要な支援や地域ケアシステム・ネットワークについて提言できる。 ・専門職としての多職種連携のあり方を通して、自己の課題を考察できる。
テキスト	開講時に提示する
参考書	開講時に提示する

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。 また、目標の達成状況をレポート（60%）する。 詳細は授業の中で説明する。
	レポート	60	
	小テスト		
	提出物	40	
	その他		

履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲと一体の科目として学習すること。 各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。
実務経験を活かした教育内容	

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（針金）	学習の主題	授業ガイダンス
		授業内容	ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅲ」の振り返り。地域における生活者の健康課題と健康生活を支える専門職の専門性と役割について
		事前・事後学習	授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には、配付資料を確認し、内容を復習すること。
	2（槌本）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅰ
		授業内容	地域における生活者の事例紹介
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	3（岡本）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅱ
		授業内容	地域における生活者の健康課題の発見についてⅠ
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	4（百々瀬）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅲ
		授業内容	地域における生活者の健康課題の発見についてⅡ
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	5（小川）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅳ
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅠ
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

	回数 （担当）	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	6 （槌本）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅴ
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のための支援についてⅡ
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	7 （岡本）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅵ
		授業内容	事例が抱える健康課題解決のために必要な支援やシステムについて
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
	8 （針金）	学習の主題	地域における生活者の支援　Ⅶ
		授業内容	専門職としての多職種連携のあり方と自己の課題について
		事前・事後学習	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護支援論 II Support Skills for Public Health Nursing II	担当教員	安藤　陽子、小川　克子、近藤　明代
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・前期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	演習	単位数	2 単位
授業目的	公衆衛生看護支援論 I で学んだ基本的な支援技術をふまえ、個人/家族に対する家庭訪問の実践過程を学ぶ。また、事例検討会を通して、多問題を持つ複雑な事例の理解を深め、関係機関・職種も含めた課題解決の方法を検討し、関係機関・職種の調整等の役割を学ぶ。これらの実践過程を通して、個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織に対する支援の特徴を理解し、それぞれがもつ力量・特徴を生かした支援の展開を学ぶ。		
到達目標	1.個人/家族の健康課題に対する家庭訪問のプロセス（情報収集、計画立案、実施、評価）及び技術を学ぶ。 2.事例検討会の意義を踏まえ、事例検討会にて対象理解を深める。 3.地区/小地域の健康課題に対する集団の健康教育のプロセス（アセスメント、適切な教材の選択の組み合わせ）及び技術を学ぶ。		
テキスト	1.中村裕美子他「標準保健師講座 2　公衆衛生看護技術」（医学書院） 2.岸恵美子他「保健学講座 2　公衆衛生看護支援技術」（メヂカルフレンド社）		
参考書			

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験		・家庭訪問に関する演習（45 点）：①個人/家族アセスメント、②家庭訪問の計画立案、③個人/家族の主体性を促す関わり、④事例検討会の意義と保健師の役割の視点から評価する。 ・地区/小地域を対象とした集団の健康教育に関する演習（45 点）：①地区/小地域の特性を踏まえた集団のアセスメント、②集団の健康教育事業の立案、③地区/小地域の健康課題に対する支援の実施の視点で評価する。 ・演習実施後の学びに関するレポート（10 点）：家庭訪問、事例検討会、集団の健康教育すべての演習を通して、個人/家族、地区/小地域、住民組織/地域組織に対する支援の特徴についてのレポートを作成する。
	レポート	10	
	小テスト		
	提出物	90	
	その他		

履修上の留意事項	・演習までに、公衆衛生看護支援論 I 、家族看護学の授業で学んだ内容について、演習で活用できるよう自ら学びを深めてください。 ・演習は自らが保健師として実践するための大切な場面です。主体的、積極的に取り組むようにしてください。 ・授業中や授業終了後に生じた疑問は先延ばしせずに、その都度解決できるような行動を心がけましょう。
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健師活動を織り交ぜながら、公衆衛生看護の支援方法について体験を通して学ぶことができるように、できるだけ実践に即した演習を行います。

学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1（安藤）	学習の主題	個別/家族、地区/小地域の健康課題解決のための支援の実際
		授業内容	1.本科目のガイダンス　位置づけ、目的、進め方 2.家庭訪問事例の紹介
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。
	2（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習①
		授業内容	紙上事例を用いて、対象理解のための家族看護アセスメントを行う。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みえを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。
	3（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習②
		授業内容	紙上事例を用いて、対象理解のための家族看護アセスメントを行う。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2 時間）。
	4（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習③
		授業内容	アセスメントを統合し、個人/家族の全体像を整理する。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成した全体像を確認し、修正を行う（2 時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	5（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習④
		授業内容	潜在または顕在する健康課題を明らかにし、優先順位について検討する。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成した健康課題を確認し、修正を行う（2時間）。
	6（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑤
		授業内容	家族を一単位とした対象への支援目標を設定し、具体的な支援計画を立案する。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成した支援計画を確認し、修正を行う（2時間）。
	7（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑥
		授業内容	支援計画に基づいた個人/家族の支援の評価項目・方法・時期を設定する。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成した支援計画を確認し、修正を行う（2時間）。
	8（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑦（ロールプレイ準備）
		授業内容	家庭訪問の展開（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	事前：家庭訪問の流れ、進め方を確認する（1時間）。 事後：発表練習を行う（2時間）。
	9-11（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑧・⑨・⑩
		授業内容	1.保健師役として、実際の家庭訪問を展開する。 2.ロールプレイの体験から家庭訪問支援の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：発表練習を行う（1時間）。 事後：発表の振り返りを行い学びを整理する（2時間）。
	11（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑪
		授業内容	追加情報をもとに、個人/家族が抱える健康課題を再検討し、継続支援の必要性を判断する。
		事前・事後学習	事前：課題に対し個人での取り組みを行う（1時間）。 事後：事例検討会での検討事項を整理する（2時間）。
	12-13（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑫・⑬
		授業内容	事例検討会を実施し、継続支援の方向性、支援内容を明らかにする。
		事前・事後学習	事前：事例検討会での発表準備をする（1時間）。 事後：継続家庭訪問計画を立案する（2時間）。
	14（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑭
		授業内容	事例検討会での検討を踏まえ、継続家庭訪問計画を立案する。
		事前・事後学習	事前：継続家庭訪問計画を立案する（1時間）。 事後：継続家庭訪問計画を確認し、修正する（2時間）。
	15（全担当教員）	学習の主題	家庭訪問演習⑮　まとめ
		授業内容	1.家庭訪問事例について追加情報の提供 2.今後の演習ガイダンス　目的、進め方
		事前・事後学習	事前：授業内容をテキストで予習する（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2時間）。
	16（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習①
		授業内容	地区/小地域の人々の生活と健康のアセスメントを行う。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2時間）。
	17（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習②
		授業内容	地区/小地域の発達段階を踏まえ、地区/小地域のニーズを把握し、健康課題を明らかにする。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1時間）。 事後：授業中に作成したアセスメントを確認し、修正を行う（2時間）。

	回数（担当）	項目	内容
学習の主題・授業内容	18（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習③
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、地区/小地域の健康課題を明らかにする。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成した健康課題を確認し、修正を行う（2 時間）。
	19（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習④
		授業内容	グループメンバーのアセスメントを統合し、地区/小地域の健康課題を明らかにする。
		事前・事後学習	地区/小地域のアセスメントと健康課題の再確認、修正を行う。
	20（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習⑤
		授業内容	健康教育事業計画を立案する。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成した健康教育事業計画を確認し、修正を行う（2 時間）。
	21（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習⑥
		授業内容	地区/小地域への支援目標を設定する。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1 時間）。事後：授業中に作成した支援目標を確認し、修正を行う（2 時間）。
	22（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習⑦
		授業内容	地区/小地域への支援計画を立案し、具体的な集団支援計画（1 回分）を立案する。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成した集団支援計画（1 回分）を確認し、修正を行う（2 時間）。
	23－24（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習⑧・⑨
		授業内容	集団教育で使用する教育教材を作成する。
		事前・事後学習	事前：課題に対しグループで取り組みを行う（1 時間）。 事後：授業中に作成した教育媒体を確認し、修正を行う（2 時間）。
	25（全担当教員）	学習の主題	集団教育演習⑩
		授業内容	集団健康教育の展開（ロールプレイ）の準備を行う。
		事前・事後学習	事前：集団健康教育の流れ、進め方を確認する（1 時間）。 事後：発表練習を行う（2 時間）
	26-28（全担当教員）	学習の主題	健康教育演習⑪・⑫・⑬
		授業内容	1.対象のメンバー役と保健師役、ロールプレイ観察役を設定し交互に演じる。 2.ロールプレイの体験から地区/小地域支援の留意点を学ぶ。
		事前・事後学習	事前：発表練習を行う（1 時間）。 事後：発表の振り返りを行い、学びを整理する（2 時間）。
	29（全担当教員）	学習の主題	健康教育演習⑭
		授業内容	健康教育事業の評価（プロセス、アウトカム、システム評価）を行う。
		事前・事後学習	事前：グループメンバーの評価を統合する（1 時間）。 事後：グループメンバー間で評価を検討し整理する（2 時間）。
	30（全担当教員）	学習の主題	演習についてのまとめ
		授業内容	家庭訪問および集団健康教育の演習を通して、個人/家族への支援から地区/小地域への支援のつながり、さらに地域への支援への発展について学びを整理する。
		事前・事後学習	事前：各演習からの学びを整理し、持参する（1 時間）。 事後：科目での学びについてレポートを作成する（2 時間）。

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅰ Public Health Nursing：Practicum Ⅰ	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	1. 地域社会で生活する個人・家族を公衆衛生看護の対象としてとらえ、家庭訪問の看護過程を通して個人・家族への支援方法・技術を理解できる。 2. 共通の健康課題をもつ人々の集団を公衆衛生看護の対象としてとらえ、健康教育の看護過程を通して集団への支援方法・技術を理解できる。 3. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題解決のために展開される公衆衛生看護活動は、ハイリスク・アプローチやポピュレーション・アプローチ等様々な理論や方法・技術を組み合わせて展開されることを理解できる。 4. 住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		

評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	実習要項に記載	100	目標到達度を実習の評価基準において評価します。 ＊実習要項を参照

履修上の留意事項	・事前に提示された学修内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者及び住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。
実務経験を活かした教育内容	
実習方法	1. 保健師の同行のもと家庭訪問を行う。 2. 集団を対象にして、健康教育の企画・実践・評価の一連のプロセスを体験する。 3. 実習地域（施設）で行われる保健活動に参加し、保健師の支援方法について理解する。 4. 関係機関、関係職種との会議等に参加し、他職種との連携・調整の実際を体験する。 5. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。
実習施設	倶知安保健所、岩内保健所、帯広保健所および 3 保健所管内の市町村

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護実習 II Public Health Nursing：Practicum II	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	2 単位
ねらい	地域社会で生活している人々を、その地域の生活環境・社会環境と関連づけながら理解し、その人々が抱える健康問題・課題を組織的に予防・改善する公衆衛生看護のあり方を理解する。また、公衆衛生看護を展開するために必要な方法・技術の基本を習得する。		
実習目標	1. 地域社会で生活する人々および地域社会を公衆衛生看護の対象として理解し、地域で生活する人々および地域社会の健康課題を明らかにすることができる。 2. 地域社会で生活する人々および地域社会の健康課題を解決するための計画や対策が理解できる。 3. 地域社会で生活する人々に対する公衆衛生看護活動は、保健・医療・福祉など様々な分野の人々との連携と協働および様々な制度や公的・私的資源を活用し、住民主体の展開が重視されていることを理解できる。 4. 健康危機管理における、組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解できる。 5. 住民の健康と生活を護る公衆衛生看護の役割を理解できる。		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法：実習要項に記載 評価割合（%）：100 評価基準：目標到達度を実習の評価基準において評価します。 ＊実習要項を参照		
履修上の留意事項	・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるよう努めること。 ・実習地では実習指導者をはじめとする関係者および住民との交流を大切にし、地域の人々の生活の理解に努める。		
実務経験を活かした教育内容			
実習方法	1. 実習地域のアセスメントを行い、地域の課題を抽出し、実際に取り組まれている健康課題との整合性、解決するための計画や対策を検討する。 2. 実習地域の環境を査定しながら、地域にあった保健活動の方法について検討する。 3. 地域における健康危機管理施策・体制がどのように整備され、予防策が講じられているかを知り、予防活動と保健師の役割について考える。 4. 地域ケアシステムの果たす役割と地域における保健師のコーディネート機能について考える。 5. 公衆衛生看護活動の評価の意義、評価の視点、方法などについて検討する。 6. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。		
実習施設	倶知安保健所、帯広保健所、岩内保健所および 3 保健所管内の市町村		

2022 年度以降入学生対象

授業科目	公衆衛生看護実習Ⅲ Public Health Nursing：Practicum Ⅲ	担当教員	近藤　明代、安藤　陽子、小川　克子
対象学科・年次・学期	看護学科・4 年次・後期	選択・必修	選択 ※保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修可
授業形態	実習	単位数	1 単位
ねらい	産業保健分野における労働者の健康の保持・増進活動がどのような組織体系の中で行われているかを理解し、産業保健における保健師の役割を理解する。		
実習目標	1. 労働者集団における健康課題の特徴を理解できる。 2. 労働者の健康の保持・増進活動が、どのように組織体系の中で行われているかを理解する。 3. 産業医、衛生管理者等との連携、協働の必要性を理解できる。 4. 事業場に所属する保健師の役割を理解できる。 5. 外部労働衛生機関における保健師の役割を理解できる。		
実習内容	具体的内容については実習要項を用い、実習オリエンテーションで説明します。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	実習要項に記載	100	目標到達度を実習の評価基準において評価し、60 点以上を合格とする。 ＊実習要項を参照
履修上の留意事項	・事前に提示された学習内容を予習し、効果的・効率的な実習ができるように努めること。 ・実習施設では実習指導者をはじめとする関係者および働く人々との交流を大切にし、産業に従事する人々の理解に努める。		
実務経験を活かした教育内容			
実習方法	1. 産業保健分野における健康支援活動の実際を見学する。 2. 健康相談、生活習慣予防検診、健康測定、医療機関との連携、健康教室、健康診断・個人情報の管理など実習施設で実際の場面があれば見学する。参加できなかった内容については、学習課題として取り組み、主体的に指導者の説明を受ける。 3. 健康診査の事後措置、事業者・衛生管理者への指導など労働保健管理協会の活動をまとめる。 4. 実習終了後、実習の学びをテーマに沿ってまとめ、レポートを提出する。		
実習施設	北海道労働保健管理協会		

Ⅳ　規　　程
（学則・教務に関する諸規定）

札幌保健医療大学学則

第１章　総則

第１節　目　的

（目　的）

第１条　札幌保健医療大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に則り、専門の学術の理論及び応用を深く研究・教授し、保健医療における有為な人材を養成、社会の発展に貢献することを目的とする。

（自己点検・評価等）

第２条　本学は、その教育研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育研究活動等の状況等について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果について公表する。

２　自己点検・評価に関し必要な事項は別に定める。

３　第１項の自己点検・評価に加え教育研究等の総合的な評価について、学校教育法施行令第 40 条に定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を受ける。

（教育内容等の改善のための組織的改善）

第３条　本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修を行うものとする。

２　前項の教育内容等の改善に関し必要な事項は、別に定める。

（情報公開）

第４条　本学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法により、積極的に情報公開する。

２　前項の情報公開に関し必要な事項は別に定める。

第２節　組　織

（学部及び学科）

第５条　本学に、次の学部及び学科を置く。

保健医療学部　看護学科
栄養学科

２　学科の入学定員及び収容定員は、次の通りとする。

学部名	学科名	入学定員	収容定員
保健医療学部	看護学科	100 名	400 名
	栄養学科	80 名	320 名

３　大学及び学科の教育上の目的

（１）大学

本学の教育理念である「人間力教育」を根幹に、「豊かな感性」、「高潔な精神」、「確かな知力」を培い、「他者との共存」ができる人間力を有し、多様化する保健医療の進展と地域のニーズに対応できる実践力を備えるとともに、将来にわたり保健医療の専門性を追求し続ける保健医療専門職者を育成する。

（２）看護学科

看護学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、看護学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、看護を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する看護専門職者を育成する。

（３）栄養学科
　栄養学科では、本学の教育目的に則り、社会人としての人間力を涵養するとともに、栄養学とこれに関連する保健医療福祉の幅広い知識・技術を体系的に理解し、栄養の管理・指導を実践できる能力、多職種と連携し協働できる能力、さらに将来にわたり成長し続ける基礎的な能力を有する栄養専門職者を育成する。
（図書館）
第６条　本学に、図書館を置く。
２　図書館に関し必要な事項は、別に定める。
第３節　職員組織
（職員）
第７条　本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、及びその他必要な職員を置く。
（事務局）
第８条　本学に、事務局を置く。
２　事務局の事務を統括し職員を指揮監督するため、事務局長を置く。
３　事務局に関し必要な事項は、別に定める。
第４節　評議会及び教授会
（評議会）
第９条　本学に、評議会を置く。
２　評議会の組織等については、別に定める。
３　評議会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（１）大学の管理運営の重要事項に関すること
（２）大学の将来構想に関すること
（３）学則その他重要な規程の制定及び改廃に関すること
（４）教員の人事計画に関すること
（５）教員の採用、退職及び昇任等に関すること
（６）学生の入学に関すること
（７）学生の奨学金に関すること
４　評議会に関し必要な事項は、別に定める。
（教授会）
第 10 条　学部に教授会を置く。
２　教授会の組織等については別に定める。
３　教授会は、次の各号に掲げる事項について、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（１）学生の入学及び卒業に関すること
（２）学位の授与に関すること
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長（以下「学長等」という。）がつかさどる次の各号に掲げる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
（１）教育・研究の基本方針に関すること
（２）教育課程の編成に関すること
（３）学則その他学部運営に関する規程等の制定及び改廃に関すること
（４）学生の指導及び賞罰に関すること
（５）学生の除籍に関すること
（６）学生の奨学金に関すること
（７）入学試験要項に関すること

（８）教員の教育研究業績の審査に関すること
第５節　学年、学期及び休業日
（学年）
第 11 条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。
（学期）
第 12 条　学年を次の２期に分ける。
　　前期　４月１日から９月 30 日まで
　　後期　10 月１日から翌年３月 31 日まで
（休業日）
第 13 条　休業日は、次の通りとする。
（１）日曜日
（２）国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に定める日
（３）本学の創立記念日
（４）夏期休業
（５）冬期休業
（６）春期休業
２　学長は、必要があると認める場合は、前項の休業日を変更し、又は臨時の休業日を定めることができる。
３　学長は、必要があると認める場合は、休業日においても臨時の授業日を設けることができる。
第２章　学部通則
第１節　修業年限及び在学年限
（修業年限）
第 14 条　学部の修業年限は、４年とする。
（最長在学年限）
第 15 条　学生は８年を超えて在学することができない。
第２節　入　学
（入学の時期）
第 16 条　入学の時期は、学年の始めとする。
（入学資格）
第 17 条　本学に入学することの出来る者は、次の各号の一に該当する者とする。
（１）高等学校又は中等教育学校を卒業した者
（２）通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
（３）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（４）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）文部科学大臣の指定した者
（６）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
（７）専修学校の高等課程（修業年限３年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
（８）本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者
（入学の出願）

第 18 条　本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

（入学者の選考）

第 19 条　前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

（入学手続き及び入学許可）

第 20 条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

２　学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

第３節　教育課程及び履修方法等

（教育課程の編成）

第 21 条　本学は、学部・学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

（授業科目）

第 22 条　授業科目は、基礎教育科目、専門基礎科目、専門科目及び教職に関する科目とする。

２　各授業科目を必修科目、選択必修科目、選択科目に分け、各年次に配当する。

（授業の方法）

第 22 条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

２　授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

（履修の要件）

第 23 条　学部・学科における履修の要件については、別表１、別表２、別表３及び別表４のとおりとする。

２　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

（単位計算方法）

第 24 条　授業科目の単位計算方法は、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ次の基準によるものとする。

（１）講義・演習については、15 時間から 30 時間の範囲内で定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）実験・実習及び実技については、45 時間の実験・実習又は実技をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

（単位の授与）

第 25 条　授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

（他大学等における授業科目の履修等）

第 26 条　教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学等との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学等の授業科目を履修させることができる。

２　学長は、前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、60 単位を限度として卒業要件単位として認めることができる。

（大学以外の教育施設等における学修）

第 27 条　教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）
第 28 条　教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修により修得した単位を含む。）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
３　前２項により修得したものとみなし、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて 60 単位を超えないものとする。
（本学以外での履修の許可）
第 29 条　本学学生にして、前２条に定める大学等で授業科目の履修を希望する者は、学長の許可を得なければならない。
（本学以外で履修した科目及び単位の取り扱い）
第 30 条　本学以外で修得した科目及び単位の取り扱いに関する詳細は、別に定める。
（成績）
第 31 条　授業科目の成績評価は、秀（100 点～90 点以上）・優（90 点未満～80 点以上）・良（80 点未満～70 点以上）・可（70 点未満～60 点以上）・不可（60 点未満）の５種をもって表わし、可以上を合格とする。
（その他）
第 32 条　この節に定めるもののほか、授業科目の種類・単位数及び履修方法等については、別に定める。
第４節　休学・転学・留学・退学・除籍・再入学及び復籍
（休学）
第 33 条　疾病その他特別の理由により２カ月以上修学することができない者は、学部長の許可を得て休学することができる。
２　疾病のため修学することが適当でないと認められるものについては、学部長は休学を命ずることができる。
（休学期間）
第 34 条　休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、１年を限度として休学期間の延長を認めることができる。
２　休学期間は、通算して４年を超えることができない。
３　休学期間は、第 15 条の在学期間に参入しない。
４　休学期間中にその理由が消滅した場合は、学部長の許可を得て復学することができる。
（転学）
第 35 条　他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。
（留学）
第 36 条　外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。
２　前項の許可を得て留学した期間は、第 41 条に定める在学期間に含めることができる。
３　第 26 条の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。
（退学）
第 37 条　病気その他やむを得ない理由で退学しようとする者は、保証人連署の上、退学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。
（除籍）
第 38 条　次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

（１）授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
（２）第 15 条に定める在学年限を超えた者
（３）第 34 条第２項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
（４）死亡又は長期間にわたり行方不明の者
（編入学及び再入学）
第 39 条　本学に他大学等から編入学を志願する者又は、やむを得ない理由で本学を退学した者で、その後２年以内に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に入学を許可することがある。
２　前項により、入学を許可された者の既に履修した科目及び単位数の取り扱い並びに修業年限は、学長が決定する。
３　第 46 条に規定する懲戒処分により退学した者は、再入学することはできない。
４　編入学及び再入学に関する規程は別に定める。
（転学科）
第 40 条　所属する学科から他学科へ変更することを志願する者があるときは、その学科に欠員がある場合に限り、選考の上、学長が相当年次に転学科を許可することがある。
２　転学科に関する規程は、別に定める。
（復籍）
第 41 条　第 38 条第１号に該当する事由により除籍された者で、未納の授業料等に相当する金額を納付して復籍を願い出た者に対しては、学長が許可することがある。
２　前項により復籍を許可された者に対し必要な事項は、学長が決定する。
第５節　卒業及び学位等
（卒業）
第 42 条　本学に４年以上在学し、別表１及び別表３に定める授業科目及び単位数を修得した者については、学長が卒業を認定する。
（学位の授与）
第 43 条　前条により卒業を認定された者には、次の学位を授与する。

保健医療学部	看護学科	学士（看護学）
	栄養学科	学士（栄養学）

（免許及び資格の取得）
第 44 条　看護学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、保健師助産師看護師法に基づき、看護師国家試験受験資格を取得する。
２　看護学科の学生で保健師国家試験受験資格を希望する者は、第１項の規定を満たし、かつ別表１に定める保健師に関する科目を履修し、必要な単位を修得しなければならない。
３　栄養学科の学生で第 42 条に定める卒業要件を満たした者は、栄養士法並びに同法施行規則に基づき、栄養士免許証が交付され、また管理栄養士国家試験受験資格を取得する。
４　栄養学科の学生で第３項の規定を満たし、かつ別表４に定める栄養教諭養成課程を履修し、免許状授与に必要な単位数を修得した者は、教育職員免許法並びに同法施行規則の規定に基づき、栄養教諭一種免許状が授与される。
第６節　賞　罰
（表彰）
第 45 条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。
（懲戒）
第 46 条　本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学長が懲戒する。
２　前項の懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。

３　前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。
（１）性行不良で改善の見込みがない者
（２）正当な理由がなくて出席が常でない者
（３）本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第７節　科目等履修生等

（科目等履修生）

第 47 条　本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、各学科等の教育研究に支障がない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として学長が受入を許可することがある。

２　科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第８節　入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費等

（納付金）

第 48 条　入学検定料、入学金及び授業料並びに教職課程履修費及び栄養教育実習費の金額は、別表５及び別表６のとおりとする。

（授業料の納付）

第 49 条　授業料は、年額の二分の一ずつを次の２期に分けて納付することができる。

区　分	納　期
前期（４月から９月まで）	４月中
後期（10 月から翌年３月まで）	10 月中

（復学の場合の授業料）

第 50 条　前期又は後期の中途において、復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料を復学した月に納付しなければならない。

（前期で卒業する場合の授業料）

第 51 条　前期で卒業する者の授業料は年額の二分の一を納付するものとする。

（退学及び停学の場合の授業料）

第 52 条　学期の中途で退学した者、又は停学を命じられた者の該当期分の授業料は徴収する。

（休学の場合の授業料）

第 53 条　前期又は後期の中途で休学を許可され、又は命ぜられた者についての休学期間の授業料は徴収しない。

（納付した授業料等）

第 54 条　納付した入学検定料、入学金、及び授業料は、特別の事情がある場合を除き返戻しない。

第３章　改正及び細則

（改正）

第 55 条　本学則の改正は、教授会及び評議会を経て理事長が行う。

（その他）

第 56 条　学部規程のほか、本学則施行についての細則その他必要な事項は、別に定める。

附　則

この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 26 年 10 月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 30 年 10 月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、2019 年４月１日から施行する。

２　2019 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表 4 の保健医療学部栄養学科教職に関する履修要件は、なお従前の例による。

附　則

１　この学則は、2020 年４月１日から施行する。

２　2021 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表第 3 については、なお従前の例による。

附　則

１　この学則は、2022 年４月１日から施行する。

２　2022 年 3 月 31 日以前に入学した学生の第 23 条第 1 項に規定する別表 1 及び別表 2 については、なお従前の例による。

別表１　保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	必修科目 15 単位及び選択科目 9 単位以上、計 24 単位以上修得	1			講義	
		生物学			1		講義	
		化学			1		講義	
		論理的思考		2			講義	
		情報処理		1			演習	
		統計分析法		1			演習	
		情報リテラシー		1			演習	
		小計（7 科目）		6	2	0		
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）		1			演習	
		英語Ⅱ（会話）		1			演習	
		英語Ⅲ（読解）			1		演習	
		英語Ⅳ（総合）			1		演習	
		表現技法Ⅰ（読解・分析）		1			演習	
		表現技法Ⅱ（討議・発表）		1			演習	
		小計（６科目）		4	2	0		
	人間と社会	心理学		2			講義	
		倫理学		1			講義	
		現代社会論		2			講義	
		生態学			1		講義	
		生活環境論			2		講義	
		教育学			1		講義	
		文学と人間			1		講義	
		スポーツ科学と運動			1		演習	◆
		スポーツ理論			1		講義	◆
		法と人権			2		講義	◆
		地域社会文化論			2		講義	
		国際社会論			1		講義	
		社会貢献と活動			1		演習	
		小計（13 科目）		5	13	0		
	基礎教育　計			15	17	0		
専門基礎科目	個人と健康	形態機能学Ⅰ	必修科目 24 単位及び選択科目 3 単位以上、計 27 単位以上修得	2			講義	
		形態機能学Ⅱ		2			講義	
		感染免疫学		2			講義	
		病態学		2			講義	
		薬理学		2			講義	
		栄養代謝学		2			講義	
		臨床栄養学			1		講義	
		生涯発達論		1			講義	
		臨床心理学		1			講義	
		疾病治療論Ⅰ		2			講義	
		疾病治療論Ⅱ		2			講義	
		小計（11 科目）		18	1	0		
	社会と健康	環境保健論		1			講義	
		社会福祉論		2			講義	
		疫学			2		講義	
		関係法規		1			講義	
		保健医療福祉行政論			1		講義	
		健康政策論Ⅰ			1		演習	※
		健康政策論Ⅱ			1		講義	※
		保健統計学Ⅰ		1			講義	
		保健統計学Ⅱ			1		講義	※
		生命倫理		1			講義	
		特別総合科目			1		演習	
		小計（11 科目）		6	7	0		
	専門基礎科目　計			24	8	0		

別表１　保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
専門科目	看護の基本	看護学概論	必修科目 73 単位及び選択必修科目「クリティカル看護論」「慢性看護論」「リハビリテーション看護論Ⅱ」から 1 単位、選択科目 4 単位以、計 78 単位以上修得	2			講義	
		看護技術総論		1			演習	
		援助関係論		1			演習	
		看護技術論Ⅰ		2			演習	
		看護技術論Ⅱ		2			演習	
		看護技術論Ⅲ		1			演習	
		健康教育論		1			講義	
		家族看護学		1			講義	
		看護倫理		1			講義	
		看護理論		1			講義	
		看護基礎実習Ⅰ		1			実習	
		看護基礎実習Ⅱ		2			実習	
		地域看護学概論		1			講義	
		地域看護実習		2			実習	
		小計（14 科目）		19	0	0		
	人間の発達段階と看護活動	成人看護学概論		1			講義	
		成人看護活動論Ⅰ		2			講義	
		成人看護活動論Ⅱ		1			演習	
		成人看護活動論Ⅲ		1			演習	
		外来看護実習		1			実習	
		成人看護実習Ⅰ		2			実習	
		成人看護実習Ⅱ		2			実習	
		小計（7 科目）		10	0	0		
		高齢者看護学概論Ⅰ		1			講義	
		高齢者看護学概論Ⅱ		1			講義	
		高齢者看護活動論Ⅰ		1			演習	
		高齢者看護活動論Ⅱ		1			演習	
		高齢者看護実習		3			実習	
		小計（5 科目）		7	0	0		
		小児看護学概論		2			講義	
		小児看護活動論Ⅰ		1			演習	
		小児看護活動論Ⅱ		1			演習	
		小児看護実習		2			実習	
		小計（4 科目）		6	0	0		
		母性看護学概論		2			講義	
		母性看護活動論Ⅰ		1			演習	
		母性看護活動論Ⅱ		1			演習	
		母性看護実習Ⅰ		1			実習	
		母性看護実習Ⅱ		1			実習	
		小計（5 科目）		6	0	0		
		精神看護学概論		2			講義	
		精神看護活動論Ⅰ		1			演習	
		精神看護活動論Ⅱ		1			講義	
		精神看護実習		2			実習	
		小計（4 科目）		6	0	0		

別表１　保健医療学部看護学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
専門科目	看護の統合と探求	在宅看護学概論		1			講義	
		在宅看護論Ⅰ		1			講義	
		在宅看護論Ⅱ		1			演習	
		在宅看護実習		2			実習	
		医療安全論		1			講義	
		災害看護論			1		講義	
		看護学研究法		2			講義	
		看護課題研究		2			演習	
		クリティカル看護論			1		講義	
		慢性看護論			1		講義	
		リハビリテーション看護論Ⅰ		1			講義	
		リハビリテーション看護論Ⅱ			1		講義	
		スポーツと看護			1		講義	
		国際看護論			1		講義	
		看護管理論		1			講義	
		看護教育論			1		講義	
		看護総合実習		2			実習	
		実践総合演習		1			演習	
		栄養サポートチーム論			1		講義	
		地域連携ケア論Ⅰ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅱ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅲ		1			講義	
		地域連携ケア論Ⅳ		1			講義	
		小計（23 科目）		19	8	0		
	専門科目　計			73	8	0		
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論			1		講義	
		公衆衛生看護支援論Ⅰ			2		講義	※
		公衆衛生看護支援論Ⅱ			2		演習	※
		公衆衛生看護対象論Ⅰ			2		講義	※
		公衆衛生看護対象論Ⅱ			1		講義	※
		公衆衛生看護展開論			2		講義	※
		公衆衛生看護管理論			2		講義	※
		公衆衛生看護実習Ⅰ			2		実習	※
		公衆衛生看護実習Ⅱ			2		実習	※
		公衆衛生看護実習Ⅲ			1		実習	※
		小計（10 科目）		0	17	0		
合計（120 科目）				112	50	0		

※印は保健師国家試験受験資格取得希望者のみ履修できる科目
◆印は※のほかに養護教諭二種免許取得申請に必要な科目

別表２　保健医療学部栄養学科教育課程

科目区分		授業科目の名称	卒業要件	単位数			授業形態	備考
				必修	選択	自由		
基礎教育科目	学習と思考力	学びの理解	必修科目 16 単位及び選択科目11単位以上、計 27 単位以上履修	1			講義	
		論理的思考		2			講義	
		情報処理		1			演習	
		統計分析法		1			演習	
		情報リテラシー			1		演習	※
		生物学			1		講義	
		基礎化学		2			講義	
		小計（７科目）		7	2	0	－	
	言語と表現力	英語Ⅰ（基礎）		1			演習	
		英語Ⅱ（会話）		1			演習	
		英語Ⅲ（読解）			1		演習	
		英語Ⅳ（総合）			1		演習	
		表現技法Ⅰ（読解・分析）		1			演習	
		表現技法Ⅱ（討議・発表）		1			演習	
		小計（６科目）		4	2	0	－	
	人間と社会	心理学		2			講義	
		倫理学		1			講義	
		生態学			1		講義	
		スポーツ科学と運動			1		演習	※
		スポーツ理論			1		講義	※
		地域社会文化論			2		講義	
		社会貢献と活動			1		演習	
		生活環境論			2		講義	
		現代社会論		2			講義	
		国際社会論			1		講義	
		法と人権			2		講義	※
		教育学			1		講義	
		文学と人間			1		講義	
		小計(13 科目)		5	13	0	－	
	基礎教育科目　計			16	17	0	－	
専門基礎科目	社会・環境と健康	生涯発達論	必修科目 40 単位及び選択科目４単位以上、計 44 単位以上履修		1		講義	
		人間関係論		1			講義	
		生命倫理			1		講義	
		医療概論			2		講義	
		健康管理概論		2			講義	
		公衆衛生学		2			講義	
		公衆衛生学実習		1			実習	
		保健医療福祉行政論Ⅰ		1			講義	
		保健医療福祉行政論Ⅱ			2		講義	
		小計（９科目）		7	6	0	－	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	形態機能学Ⅰ		2			講義	
		形態機能学Ⅱ		2			講義	
		形態機能学実習Ⅰ		1			実習	
		形態機能学実習Ⅱ		1			実習	
		有機化学			2		講義	
		病理学		2			講義	
		微生物学		2			講義	
		微生物学実験		1			実験	
		生化学Ⅰ		2			講義	
		生化学Ⅱ		2			講義	
		生化学実験		1			実験	
		病態診療学Ⅰ		2			講義	
		病態診療学Ⅱ		2			講義	
		小計(13 科目)		20	2	0	－	
	食べ物と健康	食品科学Ⅰ		2			講義	
		食品科学Ⅱ		2			講義	
		食品科学Ⅲ			2		講義	
		食品科学実験Ⅰ		1			実験	
		食品科学実験Ⅱ		1			実験	
		食品機能学			2		講義	

別表２　保健医療学部栄養学科教育課程

専門基礎科目	食べ物と健康	食品衛生学		2			講義	
		食品衛生学実験		1			実験	
		調理学		2			講義	
		調理学実習Ⅰ		1			実習	
		調理学実習Ⅱ		1			実習	
		小計(11科目)		13	4	0	－	
	専門基礎教育科目　計			40	12	0	－	
専門科目	管理栄養士論	管理栄養士論	必修科目45単位及び選択必修科目「給食経営管理論実習Ⅲ」又は「公衆栄養学実習Ⅱ」のうち1単位並びに選択科目6単位以上、計53単位以上履修	1			講義	
		管理栄養士総合演習		1			演習	
		小計(２科目)		2	0	0	－	
	基礎栄養学	基礎栄養学		2			講義	
		基礎栄養学実験		1			実験	
		小計(２科目)		3	0	0	－	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ		2			講義	
		応用栄養学Ⅱ		2			講義	
		応用栄養学Ⅲ		2			講義	
		応用栄養学実習		1			実習	
		免疫と栄養			1		講義	
		スポーツ栄養学			1		講義	
		小計(６科目)		7	2	0	－	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ		2			講義	
		栄養教育論Ⅱ		2			講義	
		栄養教育論Ⅲ		2			講義	
		栄養教育論実習		1			実習	
		栄養カウンセリング演習			1		演習	
		食生活論			2		講義	※
		食育指導論			2		講義	※
		小計(７科目)		7	5	0	－	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅱ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅲ		2			講義	
		臨床栄養学Ⅳ		2			講義	
		臨床栄養学実習Ⅰ		1			実習	
		臨床栄養学実習Ⅱ		1			実習	
		臨床栄養学実習Ⅲ		1			実習	
		小計(７科目)		11	0	0	－	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ		2			講義	
		公衆栄養学Ⅱ		2			講義	
		公衆栄養学実習Ⅰ		1			実習	
		地域栄養活動演習			1		演習	
		国際栄養学			1		講義	
		小計(５科目)		5	2	0	－	
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ		2			講義	
		給食経営管理論Ⅱ		2			講義	
		給食経営管理論実習Ⅰ		1			実習	
		小計(３科目)		5	0	0	－	
	総合演習	総合演習Ⅰ		1			演習	
		総合演習Ⅱ		1			演習	
		小計(２科目)		2	0	0	－	
	統合科目	英語文献講読演習			1		演習	
		卒業研究			2		演習	
		小計(２科目)		0	3	0	－	
	臨地実習	給食経営管理論実習Ⅱ		1			実習	
		給食経営管理論実習Ⅲ			1		実習	
		公衆栄養学実習Ⅱ			1		実習	
		臨床栄養学実習Ⅳ		2			実習	
		臨床栄養学実習Ⅴ			2		実習	
		小計(５科目)		3	4	0	－	
	専門科目　計			45	16	0	－	
合計(100科目)				101	45	0	－	

※印は栄養教諭一種免許状授与に必要な科目

別表３　保健医療学部栄養学科教職に関する科目

授業科目の名称	単位数			授業形態	備考
	必修	選択	自由		
教職概論			2	講義	
教育原理			1	講義	
教育制度論			1	講義	
教育心理学			2	講義	
特別支援教育概論			1	講義	
教育課程論			1	講義	
道徳教育論			1	講義	
特別活動・総合的学習指導論			1	講義	
教育方法論			1	講義	
生徒指導論			1	講義	
教育相談論			2	講義	
栄養教育実習事前・事後指導			1	実習	
栄養教育実習			1	実習	
教職実践演習			2	演習	

別表４　保健医療学部看護学科及び栄養学科入学検定料、入学金及び授業料

①　入学検定料　（単位：円）

試　験　区　分	金　　額
学校推薦型選抜入学・一般選抜入学・総合型選抜入学・編入学	30,000
社会人入学	30,000
大学入試センター利用入学	10,000

②　入学金及び授業料　（単位：円）

項　目	学　　科	金　　額	備　　考
入学金	両学科共通	300,000	入学時のみ
授業料	看護学科	1,500,000	２期分納可
	栄養学科	1,050,000	

別表５　保健医療学部栄養学科教職課程履修費及び栄養教育実習費

（単位：円）

項　　目	金　　額	納入区分	納入時期
教職課程履修費	20,000	１年次以降	前期授業料納入時
栄養教育実習費	10,000	４年次	同　上

札幌保健医療大学保健医療学部履修規程

（趣旨）

第１条　この規程は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第 32 条の規定に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修方法などに関して必要な事項を定めるものとする。

（科目及び単位数）

第２条　保健医療学部（以下「本学部」という。）における科目は、学則第 22 条に規定する「基礎教育科目」、「専門基礎科目」及び「専門科目」とする。それぞれの科目の単位数、必修・選択科目については、学則別表１及び別表３のとおりとする。

（卒業に必要な単位数）

第３条　本学部において卒業に必要な単位数は、次表のとおりとする。

（１）看護学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	15 単位	９単位以上
専門基礎科目	24 単位	３単位以上
専門科目	73 単位	５単位以上 ※選択必修１単位含む
卒業に必要な単位数	112 単位	17 単位以上

（２）栄養学科

科目区分	必修単位	選択単位
基礎教育科目	17 単位	９単位以上
専門基礎科目	40 単位	４単位以上
専門科目	49 単位	７単位以上 ※選択必修１単位含む
卒業に必要な単位数	106 単位	20 単位以上

２　栄養教諭一種免許取得に必要となる学則別表４に掲げる科目の単位数は、卒業に必要な単位数には含まないものとする。

（授業期間）

第４条　毎学年の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め 35 週以上とする。

（授業方法）

第５条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらを併用して行うものとする。

２　授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室等以外の場所で行うことができる。

（履修登録の方法及び登録時期）

第６条　履修する科目は、指定された期間に所定の様式にて履修登録をしなければならない。

２　後期のみの授業科目についても、原則として、学年初めの指定された期間に登録するものとする。
３　前項に関わらず、次の者については、後期の指定された期間に履修登録することができる。
（１）前期に休学し、後期に復学する者
（２）学則第 36 条により留学した者で、後期に本学における履修を再開する者
（３）前期末で卒業を目指した者が、学則第 42 条の規定を満たすことができずに、後期に履修する者
４　履修登録の訂正は、各期確認訂正期間に限り認めるものとする。

（休学及び退学による履修登録の取扱い）

第７条　履修登録後の各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。

（科目の履修制限）

第８条　次に該当する場合、その科目の履修を認めない。
（１）既に単位を修得した科目
（２）授業時間が重複する科目
（３）休学中の場合
（４）在籍する学年より上級学年に配当されている科目
（５）学費未納の場合

（履修登録単位数の上限）

第９条　学則第 23 条第２項の規定に基づく卒業の要件として修得すべき単位数について、１年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を看護学科は 45 単位、栄養学科は 48 単位とする。ただし、編入学をした者については、この限りではない。
２　栄養教諭一種免許取得に必要となる学則別表４に掲げる科目の単位数は、第１項の履修登録単位数の上限、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。
３　再履修する科目の単位数は、第１項の履修登録単位数の上限、看護学科の 45 単位、栄養学科の 48 単位には含まないものとする。

（大学が認める特段の理由による欠席の取扱い）

第 10 条　大学が認める特段の理由による欠席とは、次表の欠席事由に該当し、かつ必要な手続きを行った者について、補講等の配慮を受けることができる欠席のことをいい、欠席を許可する日数は、次表のとおりとする。

欠席事由	提出期限	必要添付書類等	許可日数
災害、公共交通機関の障害	授業の場合は、原則５日以内、試験の場合は、指定された日時までに、欠席届を提出	・被災（罹災）証明書 ・事故証明書 ・遅延証明書	当該日のみ
忌引き		・会葬礼状のはがき等 ・保証人による証明書（要押印）	・配偶者　　７日以内 ・一親等（父母、子） ７日以内 ・二親等(祖父母、兄弟姉妹) ３日以内

感染症等による出席停止（感染症とその出席停止期間は、別に定める。）		・医師の診断書 ・登校許可証明書（感染症用）等	医師の診断書により出席停止を必要とされた期間に限る。
その他教務委員会が認めた事由		欠席事由を証明できる書類等	欠席事由を証明できる書類等から判断できる期間に限る

（天候による休講措置）

第 11 条　天候による非常事態に伴う学生の休講措置の条件については、別に定める。

（先修条件）

第 12 条　履修に必要な条件として、あらかじめ単位を修得しておかなければならない科目を別に定める。

（試験）

第 13 条　履修した科目については、試験を行う。試験の詳細は、札幌保健医療大学試験規程に定める。

２　次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しないため、「失格」の取扱いとする。

（１）授業料その他納付金が未納の者

（２）授業出席時間数が、その授業実施時間数の３分の２未満の者

（成績評語）

第 14 条　単位は、学則第 25 条に基づいて授与され、その成績評語は「秀（S）・優（A）・良（B）・可（C）・不可（D）」の５種をもって表示するものとする。

２　失格科目は「失格（P）」、単位認定科目は「認定（N）」、評定不能科目は「評定不能（W）」と表示するものとする。

（進級要件）

第 15 条　進級要件は、別に定める。

（看護師国家試験受験資格の取得）

第 16 条　看護師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、看護学科の課程を履修し、卒業に必要な単位（129 単位）を取得しなければならない。

（保健師国家試験受験資格の取得）

第 17 条　保健師の国家試験受験資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位数の他に、公衆衛生看護学履修生のみが履修できる全ての授業科目（「健康政策論Ⅰ」「健康政策論Ⅱ」「保健統計学Ⅱ」「公衆衛生看護支援論Ⅰ」「公衆衛生看護支援論Ⅱ」「公衆衛生看護対象論Ⅰ」「公衆衛生看護対象論Ⅱ」「公衆衛生看護展開論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」「公衆衛生看護実習Ⅲ」）を取得すること。なお、専門基礎科目及び専門科目の選択科目のうち、「疫学」「保健医療福祉行政論」「公衆衛生看護学概論」を修得し、合計 148 単位以上を修得しなければならない。

２　保健師国家試験受験資格取得のための履修希望者は、公衆衛生看護学履修生審査会で審査し、教授会にて学長が決定する。履修希望者は、次の各号の基準をすべて満たしていなければ申請することができない。

（１）保健師への興味・関心及び学習意欲が認められること。

（２）２年次までの必修科目の全ての単位を修得していること。

（３）２年次までの専門科目（必修）の全科目成績評価においてＧＰＡが原則として 2.5 以上であること。
（４）学業生活が全般に安定し、成業の見込みがあること。
（養護教諭二種免許の取得）
第 18 条　養護教諭二種免許を取得しようとする者は、保健師国家試験に合格し、保健師免許を取得していなければならない。
２　保健師国家試験受験資格に必要な科目のほかに養護教諭免許取得の申請に必要な科目のすべて（「法と人権」「スポーツ科学と運動」「スポーツ理論」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「情報処理」「情報リテラシー」）を修得していなければならない。
（栄養士の取得）
第 19 条　栄養士の資格を取得しようとする者は、本学が別表１に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。
（管理栄養士国家試験受験資格の取得）
第 20 条　管理栄養士の国家試験受験資格を取得しようとする者は、本学が別表２に定めた所定の科目について、必要な単位を修得しなければならない。
（栄養教諭一種免許状の取得）
第 21 条　栄養教諭一種免許状の取得に関する規程は別に定める。
（食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格の取得）
第 22 条　食品衛生管理者及び食品衛生監視員の任用資格を取得しようとする者は、学則の定める栄養学科の卒業に必要な科目の単位を修得しなければならない。
２　前項に定める単位の中には「有機化学」の２単位を含まなければならない。
（単位認定の時期）
第 23 条　単位認定の時期は各開講学期末とする。したがって、単位認定の時期に在学していない者の単位認定は行わない。
２　各学期途中で休学又は退学した場合は、その開講学期に履修登録したすべての科目を評定不能の取扱いとする。
（卒業の認定）
第 24 条　学則第 42 条の規定に基づき、大学に４年以上在学し、所定の科目を履修し、看護学科においては 129 単位以上、栄養学科においては 126 単位以上を修得した者については、教授会を経て、学長が卒業を認定する。
２　学生の卒業時期は、学期末あるいは学年末とする。
（補則）
第 25 条　この規程に定めるほか、履修に関して必要な事項は、教授会を経て学長が別に定める。
（改廃）
第 26 条　この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。
附　則
この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。
附　則
この規程は、平成 26 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年９月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年 10 月１日から施行する。

附　則

この規程は、2019 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、2019 年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、2020 年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は、2021 年４月１日から施行する。

２　2021 年３月 31 日以前に入学した学生の第３条第１項第２号、第９条第１項、同条第３項、同条第４項、第 19 条、第 20 条及び第 24 条については、なお従前の例による。

附　則

１　この規程は、2022 年４月１日から施行する。

２　2022 年３月 31 日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

札幌保健医療大学保健医療学部履修に関する細則

（趣旨）

第１条　この細則は、札幌保健医療大学学則（以下「学則」という。）第 32 条及び札幌保健医療大学保健医療学部履修規程（以下「履修規程」という。）第 12 条に基づき、授業科目（以下「科目」という。）の履修などに関して必要な事項を定めるものとする。

（先修条件）

第２条　各臨地実習に係る科目についての履修に必要な条件は、次のとおりとする。

（１）看護学科

①　平成 25 年度及び平成 26 年度入学生については、次表のとおりとする。

科　目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	看護基礎実習Ⅱ、３年次前期までに開講している成人看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	
高齢者看護実習	看護基礎実習Ⅱ、３年次前期までに開講している高齢者看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	看護基礎実習Ⅱ、３年次前期までに開講している小児看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	看護基礎実習Ⅱ、３年次前期までに開講している母性看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	４年次前期までに開講している精神看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	４年次前期までに開講している在宅看護論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び４年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅱ	
公衆衛生看護実習Ⅲ	

②　2015（平成 27）年度から 2021 年度入学生については、次表のとおりとする。

科　目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	２年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護基礎実習Ⅰ及び看護学概論、看護技術総論、看護技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、援助関係論の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ	２年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。３年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅱ	

高齢者看護実習	２年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。３年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
小児看護実習	２年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。３年次前期に開講している小児看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習	２年次までに開講している専門基礎科目及び専門科目の必修科目すべての単位を修得していること。３年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
精神看護実習	４年次前期までに開講している精神看護学の科目（精神看護学概論、精神看護活動論Ⅰ、精神看護活動論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
在宅看護実習	３年次の臨地実習すべての単位を修得見込みであること。４年次前期までに開講している在宅看護論の科目（在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱ）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ	精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び４年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護管理論）すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。

③　2022 年度以降の入学生については、次表のとおりとする。

科　目	先修条件
看護基礎実習Ⅱ	2 年次前期までに開講している専門基礎科目の必修科目すべての単位を修得していること。看護技術論Ⅱ・Ⅲの科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
成人看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ	3 年次前期に開講している成人看護活動論Ⅲの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
高齢者看護実習	3 年次前期に開講している高齢者看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
母性看護実習Ⅰ	3 年次前期に開講している母性看護活動論Ⅱの単位を修得、若しくは修得見込みであること。
看護総合実習	成人看護実習、高齢者看護実習、小児看護実習、母性看護実習の科目すべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。
公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ	母性看護実習Ⅱ、小児看護実習、精神看護実習、在宅看護実習、看護総合実習及び 4 年次前期までに開講している公衆衛生看護学の科目（公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護支援論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護対象論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護展開論、公衆衛生看護管理

	論）「保健医療福祉行政論」「疫学」「健康政策論Ⅰ」「保健統計学Ⅱ」のすべての単位を修得、若しくは修得見込みであること。

（2）栄養学科

各臨地実習に係る科目の履修については、次表の先修条件となっている科目の単位を修得していなければならない。

科　目	先修条件（単位を修得していなければならない科目）
給食経営管理論実習Ⅱ	給食経営管理論Ⅰ
	給食経営管理論Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅰ
公衆栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学Ⅰ
	公衆栄養学Ⅱ
	公衆栄養学実習Ⅰ
給食経営管理論実習Ⅲ	給食経営管理論実習Ⅱ
臨床栄養学実習Ⅳ 臨床栄養学実習Ⅴ	臨床栄養学Ⅰ
	臨床栄養学Ⅱ
	臨床栄養学実習Ⅰ
	臨床栄養学Ⅲ
	臨床栄養学実習Ⅱ
	給食経営管理論実習Ⅱ

2　前項の科目以外で履修に必要な条件がある科目は、次のとおりとする。

（1）看護学科の「実践総合演習」の履修は、看護総合実習が不合格又は未履修の場合、履修することができない。

（2）看護学科のうち、2015（平成 27）年度から 2021 年度入学生の「看護総合実習」の履修は、3 年次の領域別実習不合格科目と追実習科目を合算して 7 単位以上になった場合、次年度以降となる。

（3）看護学科のうち、2015（平成 27）年度から 2021 年度入学生において、下表の科目の履修は、先修条件となっている科目を修得していなければならない。

科　目	先修条件（単位を修得していなければならない科目）
成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ	成人看護学概論
成人看護活動論Ⅲ	成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論
高齢者看護活動論Ⅱ	高齢者看護活動論Ⅰ
小児看護活動論Ⅰ	小児看護学概論
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
母性看護活動論Ⅱ	母性看護活動論Ⅰ

精神看護活動論Ⅰ	精神看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護活動論Ⅰ	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護活動論II	
公衆衛生看護管理論	
公衆衛生看護活動論Ⅲ	公衆衛生看護活動論Ⅰ
	公衆衛生看護活動論Ⅱ
	公衆衛生看護管理論
看護課題研究	看護学研究法

（4）看護学科のうち、2022 年度以降の入学生において、下表の科目の履修は、先修条件となっている科目を修得または修得見込でなければならない

科目	先修条件
成人看護活動論Ⅱ	成人看護活動論Ⅰ
高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護学概論Ⅱ
小児看護活動論Ⅱ	小児看護活動論Ⅰ
母性看護活動論Ⅰ	母性看護学概論
精神看護活動論Ⅱ	精神看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護支援論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅱ 公衆衛生看護展開論 公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護支援論Ⅱ	公衆衛生看護支援論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅰ 公衆衛生看護対象論Ⅱ 公衆衛生看護展開論 公衆衛生看護管理論
健康政策論Ⅱ	健康政策論Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅰ 公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ

（追実習）

第３条　臨地実習における追実習とは、「大学が認める特段の理由による欠席」等により、やむを得ず実習を欠席した場合、当該科目を修得するために行う実習をいう。

２　追実習を受けようとする学生は、「授業欠席届」と「欠席理由を明らかにする証明書類」を当該科目の実習終了後５日以内に学務課に提出する。

３　前項の所定の手続きにより教務委員会で認められた場合、各科目１回限り実習することができる。

４　追実習は履修登録した年度の当該科目の開講期間内に追実習期間を設定し実施する。

５　追実習は当該科目の単位認定に必要な日数分すべて行う。
６　単位認定のためには、原則３分の２以上の出席が必要である。
７　評価は、通常の単位認定評価と同様とする。
（再実習）
第４条　臨地実習における再実習とは、不合格（60 点未満）となった実習科目について当該科目を修得するために行う実習をいう。
２　栄養学科の再実習は、履修登録した年度の当該科目の開講期間内に実施する。再実習を受けようとする学生は、別途指定された期日までに必要な手続きを学務課にて行わなければならない。
３　看護学科の再実習は、履修登録した当該年度内に行うことはできない。当該実習科目は、次年度に再度履修登録を行い実習に臨まなければならない。
４　単位認定のためには、原則３分の２以上の出席が必要である。
５　評価の上限は可（６０点）とする。ただし、次年度に再度履修登録した科目の評価は通常の単位認定評価と同様とする。
（進級要件）
第５条　進級要件は、次のとおりとする。
（１）看護学科
①　２年次に進級するためには、１年以上在学し、１年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
②　３年次に進級するためには、２年以上在学し、基礎教育科目の必修科目と選択科目７単位以上、２年次に配当されている専門基礎科目及び専門科目の必修科目のすべてを修得しなければならない。
③　４年次に進級するためには、3 年以上在学し、3 年次に配当されている必修科目のすべてを修得していなければならない。
（２）栄養学科
①　２年次に進級するためには、1 年以上在学し、1 年次に配当されている専門基礎科目および専門科目の必修科目を 20 単位以上修得していなければならない。
②　３年次に進級するためには、２年以上在学し、基礎教育科目の必修科目 17 単位以上、選択科目 6 単位以上、専門基礎科目及び専門科目の必修科目 54 単位以上を修得していなければならない。
③　４年次に進級するためには、３年以上在学し、専門基礎教育科目及び専門科目 77 単位以上を修得していなければならない。ただし、編入学をした者については、この限りではない。
（細則の改廃）
第６条　この細則の改廃は、教授会を経て学長が行う。
附　則
この細則は、平成 29 年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成 29 年 10 月 25 日に一部改正のうえ、平成 29 年４月１日から施行する。
附　則
この細則は、平成 30 年４月１日から施行する。ただし、第５条第１項第２号②に定めた条文の適用は、平成 29 年度入学生からとする。
附　則

この細則は、2019 年４月 1 日から施行する。

附　則

１　この細則は、2021 年４月１日から施行する。

２　2021 年３月 31 日以前に入学した学生の第５条第２号②及び③については、なお従前の例による。

附　則

１　この細則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

２　2022 年 3 月 31 日以前に入学した学生については、なお従前の例による。

札幌保健医療大学試験規程

（趣旨）

第１条　この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部履修規程第 13 条の規定に基づき実施する試験に関し必要な事項を定めるものとする。

（受験資格）

第２条　学生は、各学期に履修登録した授業科目（以下「科目」という。）についてのみ、受験することができる。

２　次の各号の一つに該当する者は、受験資格を有しない。

（１）授業料その他納付金が未納の者

（２）授業出席時間数が、その授業実施時間数の３分の２未満の者

（受験資格の喪失）

第３条　次の各号のいずれかに該当する者は、当該科目の受験資格を失う。

（１）学生証を携帯していない者

（２）試験開始後 20 分を超えて遅刻した者

（３）試験監督者の指示に従わない者

（４）試験において不正行為を行った者

（５）追試験・再試験についての必要な手続きを終了していない者

２　前項第１号の規定にかかわらず、同号に該当する者に対しては、当該科目の試験のみに有効とする仮学生証による受験を認める。仮学生証の交付を受けようとする者は、速やかに学務課において手続きを行うこととする。

（試験の種類）

第４条　試験の種類は、「定期試験」、「追試験」及び「再試験」とする。

２　「定期試験」は、指定された期間の学期末に行う。ただし、科目責任者が必要と認める場合には、適宜行うことができる。なお、手続き及び実施は、科目責任者の責任下で行う。

３　「追試験」は、定期試験を大学が認める特段の理由又は、やむを得ない事由により試験を受験できなかった者で、かつ必要な手続きを行った者に対して行う。追試験は、原則として有料とし、各科目１回限りとする。なお、追試験の受験許可は、教務委員会で審議のうえ、認められる。

４　「再試験」は、定期試験等又は追試験において不合格となり、必要な手続きを行った者に対して行う。再試験は、有料とし、原則として各科目１回限りとする。ただし、定期試験（定期試験に相当する試験を含む）又は、追試験を受験しなかった者は、再試験の手続きを行うことができない。

（試験方法）

第５条　試験は、筆記、口述、レポート、実技等の方法により行う。

（試験時間）

第６条　試験時間は、原則として 60 分とする。

（試験監督）

第７条　試験監督は、複数体制とする。原則として、当該科目の担当教員が試験監督主任となる。

２　試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

（成績評価）

第８条　学則第 31 条に基づき、次のとおり成績評価を行う。成績評価は、秀（100 点～90 点以上・優（90 点未満～80 点以上）・良（80 点未満～70 点以上）・可（70 点未満～60 点以上）・不可（60 点未満）の５種類をもって表わし、可以上を合格とする。

２　追試験の成績評価は、定期試験と同様の取扱いとする。ただし、再試験の場合は成績評価の上限を可（60 点）とする。

（成績通知）

第９条　成績は、各期末に本人・保護者（保証人）等に通知する。

（受験者の義務）

第 10 条　受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

（１）試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。

（２）試験開始後 20 分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。

（３）学生証を机上に提示すること。

（４）解答に先立って、学籍番号及び氏名を記入すること。

（５）試験開始後、30 分経過するまでは、退出を認めない。

（６）配付された答案用紙は、必ず提出すること。

（７）試験場においては、物品の貸借をしないこと。

（不正行為者の取り扱い）

第 11 条　受験中に不正行為をした者及び試験監督者の指示に従わなかった者は、当該学期の履修科目のすべてを不合格とし、かつ学則第 46 条の定めるところにより懲戒を行う。

（改廃）

第 12 条　この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年 10 月１日から施行する。

札幌保健医療大学における成績評価の異議申し立てに関する規程

（目的）
第１条　この規程は、札幌保健医療大学保健医療学部の学生が履修した授業科目に係る成績評価（以下、「評価」という）に対して、異議申し立てを行う場合に必要な事項を定めることを目的とする。
（異議申し立て事由）
第２条　学生は、当該学期に履修した授業科目の評価について疑義のある場合は、具体的理由を付して異議を申し立てることができる。ただし、評価の基準に関する申し立ては認めない。
（評価に関する問い合わせ）
第３条　学生は、評価に対する異議申し立てを行う前に、当該科目の科目責任者に問い合わせを行う。問い合わせの方法は、別紙様式１により学務課を通して行う。
（問い合わせの期限）
第４条　前条に規定する問い合わせは、評価が提示されてから 7 日以内に行う。
（科目責任者の責務）
第５条　第 3 条の規定により問い合わせを受けた科目責任者は、原則 5 日以内に、評価について別紙様式１に必要事項を記入し学務課に提出する。学務課は受領した当該書類を速やかに学生に提示する。
（評価に関する異議申し立て）
第６条　前条に規定する科目責任者からの説明又は回答に対し異議がある場合は、回答を受けてから速やかに別紙様式１により、教務部長に異議申し立てを行う。
２　学生から異議申し立てを受領した場合は、科目責任者に異議申し立て内容の審議を行うことを報告する。
（異議申し立て内容の審議）
第７条　教務部長は、前条に規定する異議申し立てを受けた場合、教務委員会にて評価に関する審議を行う。
２　教務委員会は必要に応じて、科目責任者と当該学生から意見を聞く。
３　教務委員会は評価に関する審議を行い、その結果を教授会に報告する。
（調査結果の通知）
第８条　調査の結果は、異議申し立てを行った学生と科目責任者に次の様式により通知する。
（１）異議申し立てを行った学生　　別紙様式２
（２）科目責任者　　別紙様式３
（改廃）
第９条　この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附則
この規程は 2019 年 4 月 1 日から施行する。

成績評価に関する異議申立書

提　　出　　日	年　　月　　日	
学　部　学　科		
学籍番号・氏名		
学生連絡先	（電話番号）	（メールアドレス）

科　目　名	
科目責任者（科目担当教員）	※科目責任者以外の教員に確認したい場合は、教員名も記載してください
問い合わせ内容	

科目責任者受理日	年　　月　　日
回答	
評価訂正の有無	□　評価の訂正を行う（学務課にて訂正の手続きを取ってください） □　評価の訂正は行わない
科目責任者回答日	年　　月　　日
科目責任者氏名	

上記回答に異議がある場合は、以下記入し、速やかに学務課に提出してください。

上記回答に対して、　異議申立いたします。 提出日　　年　　月　　日 学籍番号　　学生氏名

年　　月　　日

所　　属
　学生氏名　様

札幌保健医療大学
教務部長　〇〇　〇〇

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

〇〇年〇〇月〇〇月付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

１．担当教員名、科目名
　・科目責任者名
　・科目名

２．判断結果・理由
　□　判断結果・成績評価に関する科目担当教員の説明を妥当であると判断します。
　□　成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に成績評価の再考を求め、評価を訂正します。

（理由）

年　　月　　日

所　　属
　教員氏名　様

札幌保健医療大学
教務部長　〇〇　〇〇

成績評価に関する異議申し立てに対する判断結果について（通知）

〇〇年〇〇月〇〇月付けでなされた成績評価に関する異議申し立てについて、下記の通り判断しましたので通知します。

記

１．担当教員名、科目名
　・科目責任者名
　・科目名

２．判断結果・理由
　□　判断結果・成績評価に関する科目責任者の説明を妥当であると判断します。
　□　成績評価に関する貴殿の申し立てを妥当であると判断します。つきましては科目責任者に評価の再考を求め、成績を訂正します。

（理由）

札幌保健医療大学既修得単位認定規程

（目的）

第１条　この規程は、札幌保健医療大学（以下「本学」という。）学則第 28 条の規定に基づき、本学に入学した学生の既修得単位の認定の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

（申請手続）

第２条　本学に入学した学生で既修得単位の認定を希望する学生は、入学時に次の書類を学務課へ提出しなければならない。

（１）既修得単位認定申請書

（２）学業成績証明書（修得単位の単位数、授業時間数、単位修得・成績を証明できるもの）又は単位修得証明書

（３）在学時のシラバス（認定を受けようとする授業科目の内容を確認できるもの）

（４）その他既修得単位認定に必要な書類

（申請の時期）

第３条　申請の時期は、本学に入学した年の４月に限るものとする。

（既修得単位の認定基準等）

第４条　認定を受けようとする授業科目及び単位数は、本学における授業科目及び単位数と同等以上と認められるものでなければならない。

２　既修得単位として認定できる授業科目は、原則として本学の基礎教育科目・専門基礎科目に限るものとし、当該科目の単位数の範囲内で行う。

３　認定できる授業科目は、単位を取得後 10 年以内のものとする。

（認定方法）

第５条　既修得単位の認定は、教授会を経て、学長が決定する。

２　既修得単位の認定の審査は、教務委員会において行なう。その際、必要に応じて授業科目担当教員の意見を求めることができる。

（申請者への通知）

第６条　教務委員長は、既修得単位の認定結果について、既修得単位認定通知書により申請者へ通知する。

（認定申請科目の履修）

第７条　既修得単位の認定を受けようとする学生は、第２条により申請した授業科目の単位が認定されるまでは、その授業科目を履修しなければならない。

２　申請した学生が希望した場合、担当教員が許可すれば認定後も聴講することができる。

（履修科目の登録上限）

第８条　認定した授業科目の単位数は、履修科目の登録上限に算入しない。

（成績の表記）

第９条　認定した授業科目の成績の表記は、「認定」とする。

２　認定した授業科目はＧＰＡ算出の対象科目としない。

（修業年限）

第 10 条　第４条第１項の規定により既修得単位の認定を行った場合においても、修業年限の短縮は、行わない。

（改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、教授会を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 27 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年 10 月１日から施行する。

札幌保健医療大学

〒007-0894 札幌市東区中沼西4条2丁目1番15号
TEL(011)792-3350　FAX(011)792-3358
http://www.sapporo-hokeniryou-u.ac.jp